第4回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査

～サラリーマンシニアを中心として～

平成19年6月

財団法人　年金シニアプラン総合研究機構

ごあいさつ

当機構は、わが国における年金制度と年金資金運用及び年金生活に関する研究の推進を目的とした専門研究機関です。少子高齢化の急速に進むもとで、老後所得保障の柱としての年金制度を守り、育てていくために、そうしたテーマに関する研究を体系的総合的に行っています。

その事業の一つとして、「サラリーマンの生活と生きがい」に関するアンケート調査を実施してまいりました。この調査は、厚生年金基金・企業年金基金の加入者・受給者の方々を対象に、普段の生活の状況や生きがい等についてのお考えを伺い、それが定年退職後の生活にどのように関連するのかを目的としております。またこの調査は、平成 3 年度に第 1 回調査を実施し、その後も 5 年ごとの定期調査と位置づけ、平成 8 年度（第 2 回調査）、平成 13 年度（第 3 回調査）に調査を継続、そして今回、平成 18 年度に第 4 回調査を実施しました。

本報告書では、過去 15 年間・4 時点（第 1 回、2 回、3 回、4 回調査）の調査データに基づき、「生きがい」の 4 時点間の変化を把握することを主要な柱の一つとしております。今回調査により過去 15 年間の継時的な動向把握が可能となりました。

また今回も、より深いデータ分析を目指して、研究会の 4 名の先生方に、定年退職者の社会参加と生きがい、生活満足度および性格と生きがい、定年・引退と生きがい、夫婦関係と生きがい、という 4 つの視点から分析・執筆をお願いしました。

今回の調査により、第 1 回～第 4 回調査のデータ（アンケート調査有効回収件数累計 1 万 1 千件強）が蓄積されることになりました。今後の超高齢社会における様々な問題を研究する際の資料として有効かつ貴重なものと考えられ、各方面でご活用いただければ幸いです。

なお、本調査研究に対して、貴重な助言・指導をいただいた「第 4 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会（別掲）の西村純一座長をはじめとする委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

また、ご多忙中にもかかわらず、今回の調査にご協力いただいた企業年金連合会、地方協議会や厚生年金基金・企業年金基金・規約型 DB ならびにその加入者・受給者の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成 19 年 6 月

財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

「第 4 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会メンバー（敬称略）

座　長 ：	西村 純一	東京家政大学教授
：	佐藤 眞一	明治学院大学教授
：	直井 道子	東京学芸大学教授
：	永瀬 伸子	お茶の水女子大学教授
：	福山 圭一	財団法人 年金シニアプラン総合研究機構専務理事
：	郡司　巧	財団法人 年金シニアプラン総合研究機構審議役

事務局 ： 財団法人 年金シニアプラン総合研究機構
研究主幹　千保 喜久夫
主任研究員　苅谷 達朗
主任研究員　新家 和治

○ 本報告書の執筆分担について

・ 本報告書の第 2 章から第 5 章については、以下のメンバーが執筆した。（敬称略）

第 2 章　西村純一　東京家政大学教授
第 3 章　佐藤眞一　明治学院大学教授
第 4 章　直井道子　東京学芸大学教授
第 5 章　永瀬伸子　お茶の水女子大学教授

・ その他の部分については、研究会の委員のご指導のもと、事務局が作成した。

目　次

ごあいさつ

目次

序章　調査実施概要 1
I. 調査の目的 1
II. 調査の枠組み 3
III. 調査の概要 4
IV. 本アンケート調査の結果と分析（要旨） 6

第１章　アンケート調査の結果報告 21
I. アンケート調査結果について 21

第２章　定年退職者の社会参加と生きがい 77
I. はじめに 77
II. サラリーマンの社会参加の実態 78
III. 社会参加と生活要因との関連 81
IV. 社会参加と内面生活との関連 86
V. まとめ 92

第３章　生活満足度および性格と生きがい 96
I. 生活満足度と生きがい 96
II. 性格と生きがい 107

第４章　定年・引退と生きがい 114
I. 目的　生きがい喪失仮説とぬれ落ち葉仮説 114
II. 就労タイプ別の基本属性 115
III. 定年前後で生きがいの保有率はちがうか　（狭義の生きがい） 117
IV. 仕事にかわる「生きがい」はあるのかー 120
V. 「生きがい」の構成要素と生きがいが得られる場 121
VI. 配偶者の生きがい　ぬれ落ち葉仮説は妥当か 126
VII. 結論　生きがい喪失仮説とぬれ落ち葉仮説の妥当性 129

第５章　サラリーマンの夫婦関係と生きがい..... 131
I. はじめに 131
II. 夫婦の働き方と夫婦関係 131
III. 子どもの独立、子育てへの評価と夫婦関係..... 151
IV. 未婚者と既婚者との生きがいおよび仕事満足の比較.....156
V. まとめ..... 160
VI. 付録　アンケート調査回答者の家族、仕事および居住地域の特徴..... 161

第６章　生きがい保有率の減少と現役・OB の生活と生きがい..... 169
I.「生きがいの保有率」の減少について..... 169
II. 従業員現役の仕事、OB の企業年金と生活 181

調査データ..... 193
I. 調査票..... 193
II. 単純集計結果..... 209
III. 調査票質問項目一覧表..... 233

序章　調査実施概要

Ⅰ. 調査の目的

財団法人年金シニアプラン総合研究機構の「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」は、1991 年の第 1 回に始まり、直近の 2006 年の調査で 4 回目となります。この間、ほぼ同質のサラリーマン集団を対象に、主要な項目を変えずに繰り返し調査を実施して参りました。それによって、20 世紀から 21 世紀にかけての社会環境の変動のなかで、サラリーマンの生活と生きがいに関する意識がどのように変化してきたかを観察できる貴重な資料が得られています。本報告書は直近の第 4 回調査を主としておりますが、過去 3 回の調査との比較を中心に分析しております。そこで、第 4 回調査の位置づけと目的を述べるに当たって、過去 3 回の調査の背景やねらいについて簡単に振り返っておきたいと思います。

第 1 回調査が実施された 1991 年当時は、バブル経済の崩壊が近づいていましたが、人々はまだ右肩上がりの神話に酔いしれておりました。そうした最中にあって、これからは物質的な豊かさだけではなく、精神的な豊かさを大切にしていく必要があるという認識の下、定年移行期のサラリーマンの生活と生きがいの問題に焦点を定めた調査が実施されました。これによって定年移行期のサラリーマンの生活と生きがいに関するデータが初めて示されたわけですが、サラリーマン OB は現役よりも生きがいをもっている人が多く、その結果は当初の予想を覆すものでした。

第 1 回調査から 5 年経った 1996 年、21 世紀に向けてサラリーマンの生活と生きがいについてさらに追加分析する必要性が認識され、第 2 回調査が実施されました。これによって初めてサラリーマンの生活と生きがいに関する 2 時点の比較が行われました。その結果、バブル絶頂期であった 1991 年時点よりもバブル崩壊後の 1996 年時点の方が生きがいを持っているサラリーマンが 12 ポイントも多いということが明らかとなりました。この結果も予想外の結果であり、生きがいへの関心はさらに高まることとなりました。

2001 年の第 3 回調査に当たっては、バブル崩壊からの回復が徐々に進行する中で、21 世紀への展望を切り開く観点から調査が計画されました。生きがいを持っているサラリーマンの割合が注目されましたが、第 2 回調査で増えた分減少し、ほぼ第 1 回調査の水準に戻りました。また、21 世紀へのトレンドを探る観点から、団塊の世代の動向や社会進出著しい女性の動向がとくに分析されました。その結果、団塊の世代については他の世代と異なる傾向はあまり見いだせませんでしたが、サラリーマン男性と異なるサラリーマン女性の傾向が見いだされました。

そして、21 世紀がいよいよ現実のものとなる中、本調査を 21 世紀へと拡張すべく、2006 年、第 4 回調査が実施されました。団塊の世代が大量に定年を迎える 2007 年問題を翌年に控えた 12 月のことでした。本調査は、これまでの経過を踏まえ、4 時点のデータの比較にもとづいて 21 世紀のサラリーマンの生活と生きがいの方向性を探ることを主要な目的としています。21 世紀には高齢人口が 35%に上昇すると予想されていますが、その大多数はサラ

リーマンです。そうした観点から、サラリーマンOBの生活と生きがいの動向を探ることは、21世紀の社会の方向性を探る上でますます重要になってきていると思われます。

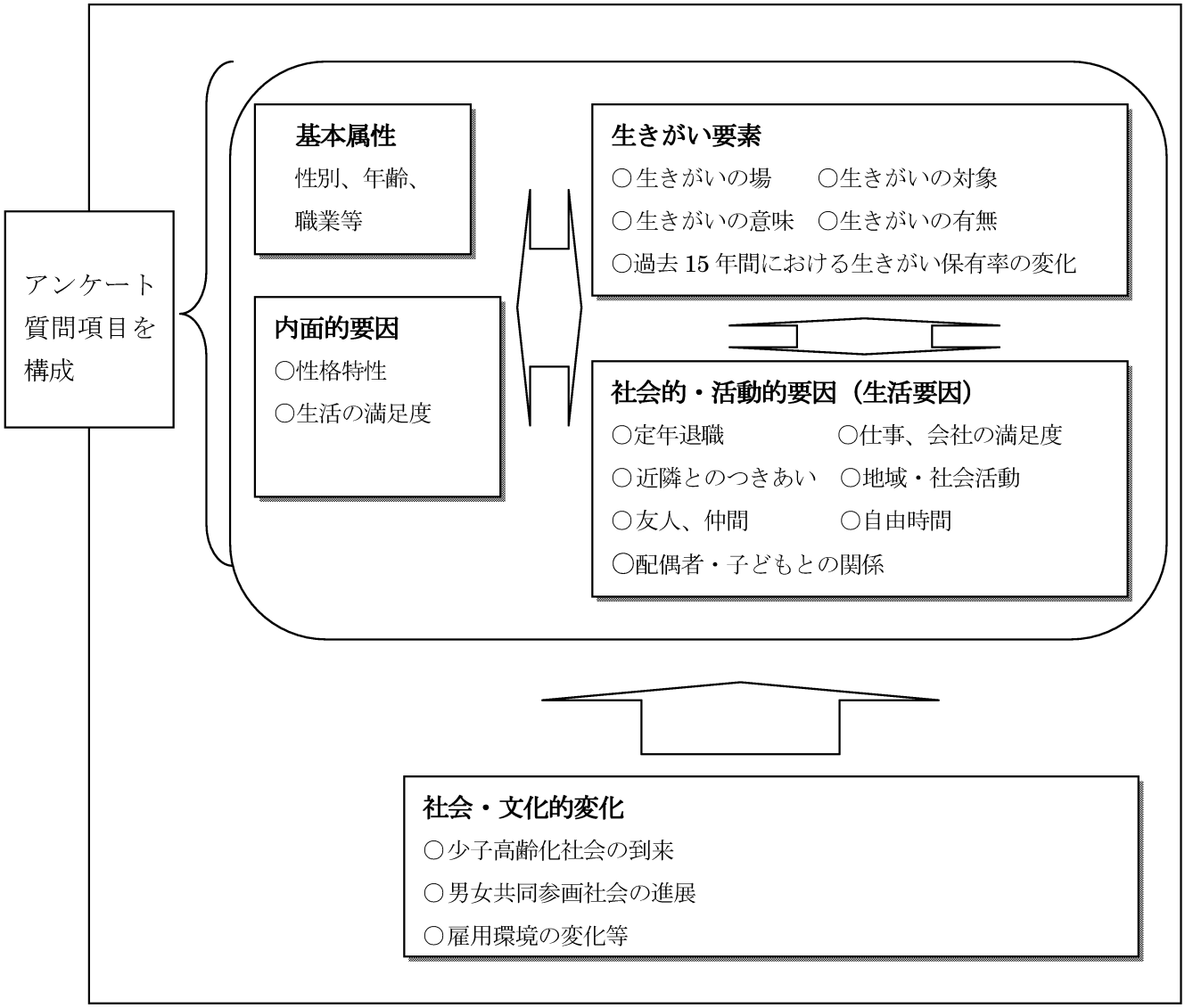
今回の調査報告では、先ずは従来の調査の延長として、サラリーマンの生活と生きがいに関する4時点の比較、現役とOBの比較、サラリーマン男女の比較を軸として、定年退職者の生活と生きがいについて様々な角度から検討するための基礎的資料を提供することを意図しています。また、本報告書では、21世紀の定年退職者の生活と生きがいを考える上から、「定年退職者の社会参加と生きがい」「生きがいと生活満足度や性格」「生きがい喪失仮説と濡れ落ち葉仮説の検証」「夫婦関係と仕事の満足度」などのテーマについてとくに詳細に検討することを目的としています。

本調査の結果が、厚生年金基金を軸とする職域福祉の推進に寄与するのみならず、各企業の人事担当者や中高年者の生涯教育に携わる方々、また高齢社会を研究テーマとする研究機関や研究者に広く活用され、アクティブな高齢社会の実現に向けてのきっかけとなれば幸いです。調査環境の厳しい中、本調査にご協力いただいた企業の厚生年金基金、企業年金基金や規約型DBの関係各位ならびにそれらの加入者・受給者に深甚の謝意を表する次第です。

財団法人　年金シニアプラン総合研究機構
「第4回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会
座　長　　西村　純一

II. 調査の枠組み

当調査の枠組みは以下の通りである。



調査の枠組みについては、「生きがい要素」と「社会的・活動的要因」、および「基本属性・内面的要因」の相互関係を見る構造としている。

これらの外枠として、調査時点間の「社会・文化的変化」を置き、「生きがい要素」、「社会的・活動的要因」、「基本属性・内面的要因」三者との関係を見ることとする。

１．生きがい要素

本調査の中核であり、個人が感じている生きがいの意味とそのような生きがいの有無、生きがいの場、生きがいの対象を何に求めているか、を明らかにする。

２．社会的・活動的要因（生活要因）

仕事、会社との関係、仕事以外の近隣とのつきあい、地域・社会活動、配偶者・子どもと

の関係、友人関係などを聞くことで、どのような生活上（社会関係や日常活動上）の要因が生きがい要素に影響するかを見る。

３．基本属性、内面的要因

また、性別、年齢、職業状態などの「基本属性」、および性格、行動特性、生活の満足度など個人の「内面的要因」が生きがい要素にどのように影響するかを見る。

III. 調査の概要

１．調査対象者と標本数

対象者は全国の企業年金基金、厚生年金基金、規約型 DB の加入者・受給者及びその配偶者。対象者の年齢を以下の 4 層に分け、各層 700 人強、計 2,928 人を対象とした。なお、性別構成は各年齢層とも男性 3：女性 1 の比率とした。

① 35～44 歳　サラリーマンシニア前期
② 45～54 歳　定年準備期
③ 55～64 歳　定年期
④ 65～74 歳　年金生活期

２．標本抽出

各基金の加入者・受給者から層化無作為抽出した。層は以下の 3 層である。

基金：企業の業態や設立形態など、基金の構成を反映させて 93 基金を選定
年齢：基金ごとに、前記対象者の年齢区分 4 層。各層から同数を抽出
性別：基金・年齢層ごとに男女の 2 層。男性 3：女性 1 の比率で抽出

３．調査実施方法　　郵送配布・郵送回収法（無記名）

４．調査実施時期　　平成 18 年 12 月 7 日～平成 19 年 2 月 12 日

５．調査委託先　　社団法人 中央調査社

６．回収結果

【本人調査】　有効回収数　1,992 件、有効回収率 68.0%
【配偶者調査】有効回収数　1,519 件、有効回収率 51.9%

７．本報告書を読むにあたって

（１） 本報告書の構成について

本報告書は大きく分けて、①調査の目的や枠組み・概要、第 1 章～第 6 章の要旨をまとめた「序章」、②アンケート調査結果をまとめた「第 1 章」、③アンケート調査結果を基に分析を行った「第 2 章～第 6 章」の 3 ブロックから構成されている。

（２） 本報告書における用語について

「サラリーマン」「現役」「OB」

本調査においては、男女の企業在職者及びその経験者を「サラリーマン」と呼ぶ。そのうち、現在企業に勤務中の現役の人を「サラリーマン現役」と呼び、定年等の退職経験者を「サラリーマン OB」と呼ぶ。なお、「サラリーマン OB」は、退職後の再就職の有無を問わない。

（３） 本報告書における数値の取り扱い及び図表について

本報告書では、数値を以下のように扱っている。

アンケートへの回答は、単数回答（1 つだけ選択する回答）と複数回答（2 つ以上を選択する回答）とがある。複数回答の場合は、本文中にその旨記載している。

調査結果の数値は、原則としてﾊﾟｰｾﾝﾃｰｼﾞ(%)で表記した。%値の母数は、原則としてその質問項目の該当標本数（回答すべき人の数）である。

%値は小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記してある。したがって、単数回答の合計が必ずしも 100%ではない場合（99.9%または 100.1%など）がある。同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計等では、内訳の%値を単純加算した数値とは 0.1%異なる場合がある。

回答の選択肢の「その他」「無回答」については、煩雑さを避けるために、選択肢の言葉や文章を省略型にする場合や、「その他」「無回答」等の表示を省略する場合がある。

Ⅳ. 本アンケート調査の結果と分析（要旨）

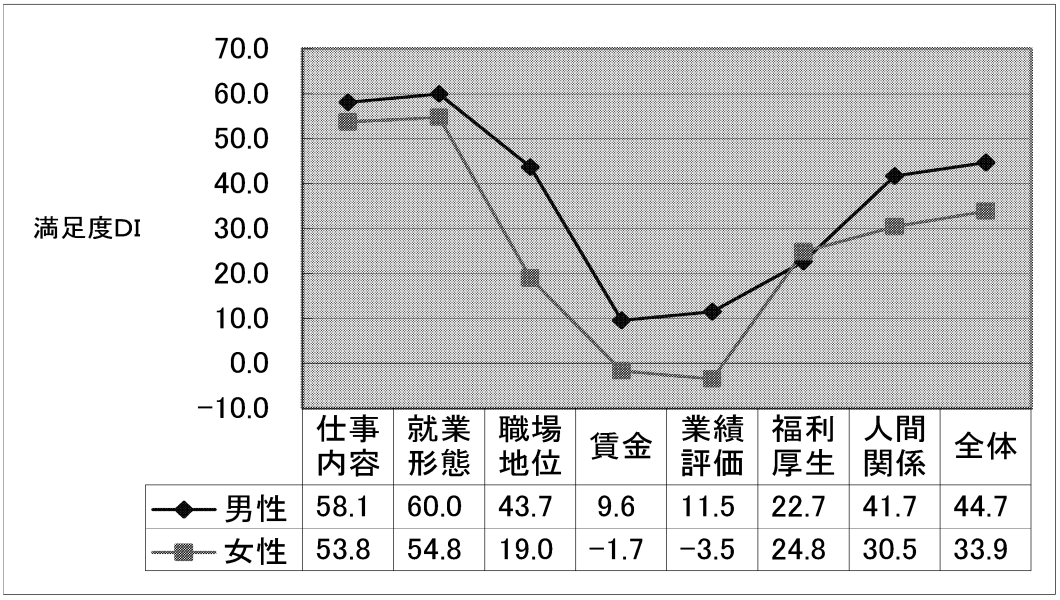
1．本人調査の結果報告（第 1 章）

本人調査について主だった結果は以下のとおりである。

（1） 現在の仕事や職場についての満足度（図表 1）

- 現在の仕事や職場に対する満足度については、すべての項目において「満足度 DI」[1]がプラスとなり、概ね満足
- 項目別にみると、「賃金」「業績評価の公平さ」「福利厚生」の 3 項目について満足度が総じて低い
- 男女別にみると、ほとんどの項目において、女性の満足度が男性の満足度を下回っており、なかでも顕著なことは、「職場での地位の高さ」で、「満足度 DI」の男女差が 24.7 ポイントに達する点。また、「賃金」と「業績評価の公平さ」では女性の「満足度 DI」がマイナス

〔図表 1〕職場や仕事に対する満足度「満足度 DI」（今回調査、項目別／男女別）（%）



	仕事内容	就業形態	職場地位	賃金	業績評価	福利厚生	人間関係	全体
男性	58.1	60.0	43.7	9.6	11.5	22.7	41.7	44.7
女性	53.8	54.8	19.0	−1.7	−3.5	24.8	30.5	33.9

[1]各項目の満足度をより鮮明に比較するため、「とても満足している」と「やや満足している」の合計値を「満足度数」、「やや不満足である」と「とても不満足である」の合計値を「不満足度数」、そして「満足度数」から「不満足度数」を差し引いたものを「満足度 DI」（「満足度数」－「不満足度数」＝「満足度 DI」）とした。

（２） 自由時間の有無（図表 2）

- 今回調査と第3回調査とを比較した場合、自由時間について「十分にある」の回答率が、かなり増加（19.6%→26.5%）
- 特に現役 OB 別にみた場合、現役の増加が非常に大きく、「十分にある」と「まあまあ」の回答率の合計では 21.2 ポイントも増加

〔図表 2〕自由時間の有無（第 1 回～今回調査）（%）

	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査			今回調査		
	全体	全体	全体	現役	OB	全体	現役	OB
十分にある	18.8	22.2	19.6	**6.1**	40.2	26.5	**15.5**	48.5
まあまあ	40.4	47.2	42.8	**41.3**	45.1	48.1	**53.1**	39.0
不十分である	34.5	27.9	33.9	48.5	11.8	19.6	26.6	4.8
まったくない	4.8	1.6	2.3	3.5	0.3	1.8	2.2	1.3
無回答	1.4	1.1	1.4	0.6	2.6	4.0	2.6	6.5

（３） 地域活動やボランティアなどへの参加状況（図表 3）

- 過去 2 回との比較においては、今回調査に大きな変化はみられず
- 現役 OB 別では、予想される通り、OB の「定期的参加」、「ときどき参加」への回答率が現役を上回る

〔図表 3〕地域活動やボランティアなどへの参加状況（%）

	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査			今回調査		
	全体	全体	全体	現役	OB	全体	現役	OB
定期的に参加	12.2	*	12.4	7.6	19.6	11.4	8.7	16.6
ときどき参加	12.6	*	11.7	10.3	13.9	14.4	13.7	16.5
以前に参加	9.9	*	9.8	11.4	7.3	9.5	10.5	7.8
参加していない	62.9	*	56.1	63.1	45.5	58.5	63.3	48.3

（注）第 2 回調査では該当の問なし。

（４） 生活の満足度（図表 4、5）

・ 項目別では、「家族の理解・愛情」や「友人・仲間」の満足度が非常に高い一方で、「近隣との交流」や「社会の役に立つ」の満足度が非常に低い

・ 「満足度 DI」では、「家族の理解・愛情」が 70.2 ポイントと最も高く、一方で「近隣との交流」と「社会の役に立つこと」の 2 項目がマイナス。回答者は就業中の男性が多いことから、「近隣との交流」の低いことは理解されようが、「社会の役立つこと」もマイナスであることは注目される

〔図表 4〕生活の満足度（今回調査、項目別）（%）

	十分満たされている	ま満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答	満足度数	不満足度数	満足度 DI
健康	10.2	53.9	16.3	14.8	1.8	3.0	64.1	16.6	47.5
時間的ゆとり	12.0	43.9	17.5	18.9	4.6	3.1	55.9	23.5	32.4
経済的ゆとり	4.7	43.7	26.4	18.2	4.2	2.8	48.4	22.4	26.0
精神的ゆとり	5.1	42.1	29.1	17.2	3.1	3.5	47.2	20.3	26.9
家族の理解･愛情	20.7	54.4	16.4	3.7	1.2	3.6	75.1	4.9	70.2
友人･仲間	10.2	54.0	24.7	7.3	0.9	3.0	64.2	8.2	56.0
熱中できる趣味	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2	51.4	22.1	29.3
仕事のはりあい	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2	48.1	16.0	32.1
社会的地位	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8	39.6	15.8	23.8
自然とのふれあい	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1	40.7	26.7	14.0
近隣との交流	**2.4**	**25.2**	**31.6**	**26.8**	**11.1**	**3.0**	**27.6**	**37.9**	**-10.3**
社会の役に立つこと	**1.9**	**15.8**	**40.9**	**27.1**	**11.0**	**3.4**	**17.7**	**38.1**	**-20.4**
（単純）平均	8.0	40.3	27.1	16.3	4.8	3.6	48.3	21.0	27.3

・ 生活の満足度全体を第 1 回調査からみると、「十分満たされている」や「まあ満たされている」の回答率が、共に減少傾向

〔図表 5〕生活の満足度（第 1 回～今回調査、全体単純平均）（%）

	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
今回調査	**8.0**	40.3	27.1	16.3	4.8	3.6
第 3 回調査	**9.4**	40.3	25.4	16.9	5.4	2.6
第 2 回調査	**11.1**	44.3	23.4	14.9	4.4	1.9
第 1 回調査	**10.6**	44.5	22.8	16.0	4.2	1.8

（５）「生きがい」の意味（図表 6）

- 全調査時点において、選択率 1 位は「生きる喜びや満足感」で 40%以上の選択率を確保。その他選択率上位の項目には、それほど大きな変化は見られず
- ただし、選択率が中位に位置する「自分自身の向上」や「他人や社会の役にたっていると感じること」はその選択率が減少傾向

〔図表 6〕「生きがい」の意味（第 1 回～第 4 回調査）（%）

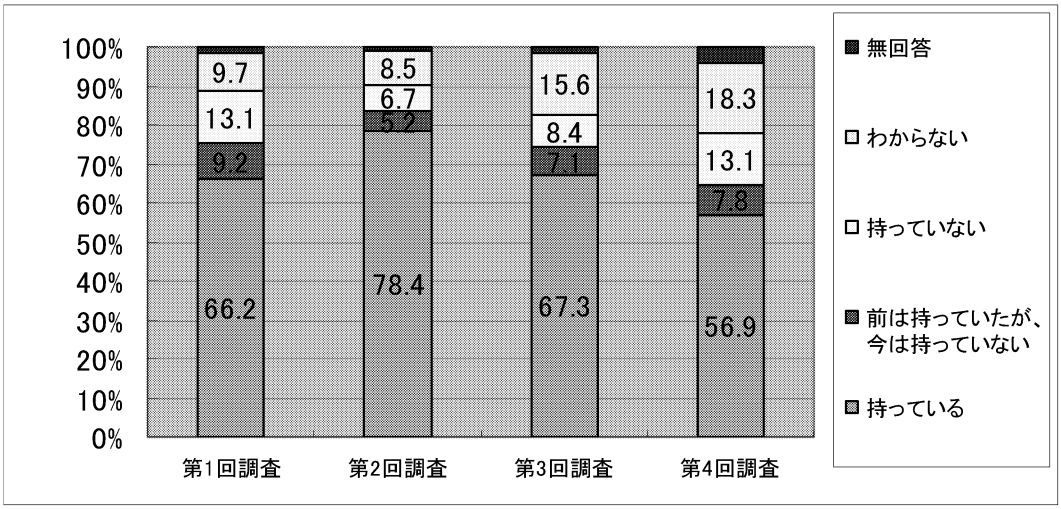
項　目	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
生きる喜びや満足感	1	47.0	1	43.7	1	40.5	1	42.2
生活の活力やはりあい	2	35.2	2	26.2	4	26.1	2	29.8
心の安らぎや気晴らし	4	24.9	3	24.9	3	26.7	3	24.4
自分の可能性の実現	*	*	4	24.7	2	28.2	4	22.1
生きる目標や目的	6	19.6	5	20.4	6	17.5	5	20.7
自分自身の向上	5	22.3	7	15.8	5	18.3	6	14.3
他人や社会の役に立っていると感じること	**3**	**25.5**	**6**	**19.1**	**7**	**17.1**	**7**	**13.7**
生活のリズムやメリハリ	8	7.1	8	9.7	8	10.2	8	10.7
人生観や価値観の形成	7	9.7	9	7.9	9	8.7	9	8.0
無回答	9	1.0	10	1.1	11	0.5	10	2.9
その他	10	0.3	11	0.3	10	0.6	11	1.2

（注）＊は、第 1 回調査では回答になかった項目

（６）「生きがい」の有無（図表 7）

- 注目すべきは、今回調査で「生きがい」を「持っている」と回答した比率が 56.9%と、第 3 回調査比 10.4 ポイント減少、第 2 回調査と比較すると 21.5%ポイント減少
- その一方で、「わからない」と回答した比率が、第 3 回調査から漸増

〔図表 7〕「生きがい」の有無（第 1 回～今回調査、全体）（%）



（７） 「生きがい」の対象（図表 8）

- 今回調査の選択率第１位は、「子ども・孫・親などの家族・家庭」（58.0%）で、第２回調査（46.1%）から 11.9 ポイント増加
- 次は「趣味」（46.9%）で、第３回調査から２位に
- 一方、「仕事」については、第２回調査以降３位という順位に変動はないものの、選択率は 41.4%→39.6%→32.2%と逐次低下、第２回調査からの低下幅は 9.2 ポイント
- 第２回調査で４位の「自然とのふれあい」が、順位・選択率とも下落

〔図表 8〕「生きがい」の対象（第２回～今回調査、全体）（順位、%）

項　目	第２回調査		第３回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
子ども・孫・親などの家族・家庭	2	46.1	1	56.6	1	58.0
趣味	1	48.0	2	47.2	2	46.9
仕事	3	41.4	3	39.6	3	32.2
配偶者・結婚生活	5	21.8	4	24.6	4	26.9
友人など家族以外の人との交流	7	17.6	6	18.1	5	20.8
スポーツ	8	15.4	8	15.6	7	18.2
自分自身の健康づくり	6	20.3	5	18.6	6	18.0
自然とのふれあい	4	22.6	7	18.0	8	16.1
自分自身の内面の充実	9	13.6	9	12.2	9	11.7
社会活動	10	9.0	10	7.6	10	8.7
ひとりで気ままにすごすこと	11	8.9	12	6.7	11	8.0
学習活動	12	6.0	11	7.0	12	3.4
その他	13	0.7	13	0.8	13	1.1
無回答	14	0.2	14	0.1	14	0.0

（注）第２回調査において、この質問の対象者を問８付問で「生きがいを持っている」と回答した人に限定していたため、ここでは「生きがいを持っている」と回答した人のみを集計対象とした（但し、②以降については、アンケート回答者全員を集計対象としている）。

（８） 日頃の配偶者との関係における満足度（図表 9）

- 日頃の配偶者との関係における満足度は、すべての項目で「満足度 DI」がプラスとなり、概ね満足
- 男女別にみると、ほとんどの項目において、女性の満足度が男性の満足度を下回る。特に「もっと家事をして欲しい」では顕著で、「満足度 DI」の男女差は、52.6 ポイントに。
- 一方、「親を大切にしてくれない」と「金銭的にうるさい」では、女性の満足度数が男性を上回っている（すなわち“大切にしてくれる”、“うるさくない”）

〔図表 9〕：日頃の配偶者との関係（今回調査、項目別／男女別）（%、ポイント）

		性別	1. まったくそのとおり	2. まあそのとおり	3. あまりそうでない	4. まったく違う	5. 無回答	6. 非該当	満足度数 (a~f: 1+2 g~j: 3+4)	満足度 DI (a~f: 1+2-3-4 g~j: 3+4-1-2)
a	配偶者は自分のことを応援してくれる	男性	48.3	44.0	5.0	0.5	2.2	－	92.3	86.8
		女性	38.8	46.4	10.4	0.4	4.0	－	85.2	74.4
b	自分は配偶者の良き理解者である	男性	34.1	50.2	12.9	0.8	2.1	－	84.3	70.6
		女性	25.2	53.6	16.0	1.2	4.0	－	78.8	61.6
c	配偶者と価値観・考え方が似ている	男性	13.1	43.4	36.0	5.1	2.5	－	56.5	15.4
		女性	14.8	38.4	34.8	8.4	3.6	－	53.2	10.0
d	よく一緒に出かける	男性	30.5	41.1	23.3	2.9	2.2	－	71.6	45.4
		女性	32.4	35.2	22.4	6.4	3.6	－	67.6	38.8
e	会話がある	男性	31.7	50.8	14.4	0.9	2.1	－	82.5	67.2
		女性	36.0	40.0	16.8	3.6	3.6	－	76.0	55.6
f	配偶者は自分を自由にさせてくれる	男性	33.0	53.4	10.3	0.7	2.6	－	86.4	75.4
		女性	37.6	47.2	8.8	1.2	5.2	－	84.8	74.8
g	配偶者は自分の親を大切にしてくれない	男性	6.6	11.9	22.7	31.3	3.5	23.9	71.0	46.6
		女性	6.0	8.4	24.8	41.6	4.8	14.4	77.6	60.7
h	配偶者は金銭的にうるさい	男性	4.6	17.8	54.3	20.5	2.7	－	74.8	52.4
		女性	2.4	9.2	50.4	34.0	4.0	－	84.4	72.8
i	配偶者は自分によりかかりすぎる	男性	1.7	20.3	58.5	16.9	2.5	－	75.4	53.4
		女性	7.6	22.0	41.2	25.2	4.0	－	66.4	36.8
j	配偶者にもっと家事をして欲しい	男性	2.3	15.3	43.9	35.9	2.6	－	79.8	62.2
		女性	17.2	26.0	38.8	14.0	4.0	－	52.8	9.6

（注）g の「満足度数」「満足度 DI」については「非該当」を除いて再集計した調整後の数値

（９） 定年後の経済基盤として重視するもの（現役層）（図表 10）

- 「公的年金」が引続き群を抜いて首位。これに「企業年金」、「退職金」が続く。なお、選択率の 1～3 位は第 2 回調査以降全く同じ
- 自助努力とも言える「預貯金の取りくずし」「就労による収入」の選択率はやや増加

〔図表 10〕：定年後の経済基盤として重視するもの（第 2 回～今回調査、項目別）（%）

	第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
公的年金	1	77.8	1	72.1	1	76.7
企業年金	2	53.4	2	52.4	2	49.9
退職金	3	38.6	3	41.3	3	45.7
生命保険の保険金や個人年金	5	25.7	6	20.1	6	22.2
預貯金の取りくずし	6	17.5	5	25.6	5	26.9
就労による収入	4	31.3	4	30.3	4	33.6
子ども等からの経済的支援	10	0.7	10	0.9	10	0.7
その他	8	2.4	8	1.9	8	2.3
わからない・考えたことがない	7	3.9	7	3.5	7	2.6
無回答	9	1.3	9	1.2	9	1.1

（１０） 退職後の就業希望（現役層）（図表 11）

- 全体で見ると、「引退したい」が 25.5%、その逆に、何らかの形で「仕事を継続したい」人が、シルバー人材センターまで含めると 66.1%
- 男女別の相対的な選択率をみると、「退職とともに職業生活から引退したい」は女性が男性より高く、「できれば仕事を継続したい」では男性が女性より高かった

〔図表 11〕：退職後の就業希望（今回調査、項目別／男女別）（%）

	全体	男性	女性
退職とともに職業生活から引退したい	25.5	22.3	33.9
できれば仕事を継続したい	35.3	37.9	28.2
定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	7.7	8.7	4.9
退職後は別の企業に再就職したい	7.8	8.5	6.0
退職後は自分で事業や商売を始めたい（自由業を含む）	7.8	9.2	4.3
退職後は家業を手伝いたい	1.2	1.1	1.7
退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	6.3	5.7	8.0
その他	1.6	1.0	3.2
わからない・考えたことがない	5.9	4.7	8.9

（１１） 定年退職へ向けて必要な企業の対応（図表 12）

- 過去 4 回の調査ともに、「企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる」が第 1 位、「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」が第 2 位
- 今回新たに設定した「退職に向けたセミナーの充実」の選択率は 25.6%、第 5 位

〔図表 12〕：定年退職へ向けて必要な企業の対応（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる	1	53.0	1	46.1	1	42.0	1	51.5
定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	2	29.9	2	28.4	2	31.8	2	48.8
希望者には定年年齢を延長させる	4	22.3	4	25.0	3	26.9	3	44.5
退職準備教育や退職相談を充実させる	3	22.5	3	25.7	4	23.4	4	34.0
退職に向けたセミナーの充実	－	－	－	－	－	－	5	25.6
労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	5	20.4	6	15.7	6	14.0	6	25.4
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	6	15.2	5	17.2	5	17.2	7	22.7
社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	7	9.3	7	8.9	7	9.5	8	16.5
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	8	5.6	8	5.8	8	6.5	9	11.6

（１２） 定年退職へ向けて必要な社会的対応（図表 13）

- 今回調査では「定年退職者の能力を活かす場を増やす」が第 1 位、「できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」が第 2 位となり、前回までの調査とは 1 位、2 位が入れ替わった

〔図表 13〕：定年退職へ向けて必要な社会的対応（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
定年退職者の能力を活かす場を増やす	2	47.8	2	43.8	2	47.5	1	59.1
できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	1	50.9	1	52.0	1	49.9	2	57.7
趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	3	24.1	3	26.2	3	24.8	3	37.2
中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	4	18.6	4	20.5	4	20.0	4	28.1
退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	5	17.9	5	13.5	5	15.1	5	23.2
サラリーマン OB が出入りできる交流の場をつくる	6	16.3	6	13.3	6	9.8	6	20.5

２．定年退職者の社会参加と生きがい（第２章）

高齢社会をアクティブな社会としていくためには、定年退職者の仕事への参加だけでなく、ボランティアや社会貢献などの社会参加が社会的に重要である。また、定年退職者個人としても、定年前の仕事や会社のない生活に適応し、内面生活（生きがい等）を充実させていく上で、社会参加は重要な選択肢である。そのような観点から、第２章では、定年退職者の社会参加について分析した。

その結果、次のような結果と示唆が得られた。

（１） 社会活動消極群の６割、条件付きで参加の意志あり

アクティブな地域社会をつくっていくためには、アクティブなサラリーマンの現役やOBを増やしていく必要があるが、社会参加に積極的なサラリーマンは全体のおよそ４分の１にすぎない。男性に比して女性の参加が少なく、女性の社会参加を考えていく必要がある。また、50代男性の社会参加が少なく、50代男性の社会参加についても考えていく必要がある。積極的に参加している活動分野をみていくと、現役、OB、男性、女性を問わない一般的な分野と現役、OB、男性、女性それぞれに合った分野のあることが示唆された。参加動機も現役、OB、男性、女性それぞれにそれなりの理由がうかがわれた。消極的な群についてみると、現役は、男女とも「時間がない」「きっかけがつかめない」「精神的ゆとりがない」が３大理由である。OBは「きっかけがつかめない」「自分に合った活動の場がない」が浮上してくる。女性は現役もOBも「時間がない」が大きい。社会活動消極群の６割強の人が条件付き参加の意志を示しており、条件の整備如何で社会参加が増える可能性がある。

（２） 友人・仲間に関係した自由時間の使い方の増加

およそ４人に３人は自由時間を肯定的にとらえている。OBに比して現役の自由時間は当然少ないが、とくに女性現役は少ない。自由時間の使い方についてみると、「仕事仲間とのプライベート」や「仕事の勉強や残務整理」は大きく減らしている。それに代わって、「仲間と趣味・スポーツ」「行楽・ドライブ」「庭いじり・家事」などが伸びている。同じ趣味・スポーツでもひとりで楽しむものから仲間と共に楽しむものに変わってきている。「個人的な友人・仲間とのつきあい」「パソコン通信・インターネット」は着実に増えており、仲間・友人に関係したものが伸びてきている。

（３） 地域とのつながりの薄い人は社会参加が少ない

離別者や未婚者は地域とのつながりが弱く、社会参加が少ない。世帯構成や居住地域、居住年数、居住形態等の分析結果は地域とのつながりが深いほど社会参加が増えることを示唆しており、地縁の薄い人の社会参加について考えていく必要がある。年収や暮らし向きについてみていくと、一概に経済的に楽な方に社会参加が多いとは言えない。また、概して、学歴の高い方が仕事や社会的地位へのこだわりが強いためか、社会参加は少ない傾向が示された。

（４） 社会参加している人は生活満足度が高く、生きがいをもっている

積極的社会参加しているほど、生活のゆとりの満足度、地域活動・社会貢献の満足度、地

位・仕事の満足度いずれも高くなっていることが示された。なお、これら生活満足度が時代的に低下していることが示された。現役の主要な 3 つの生きがい対象は、「子ども・孫・親などの家族・家庭」「仕事」「趣味」であるが、OB では「趣味」「子ども・孫・親などの家族・家庭」「自分自身の健康づくり」の 3 つになり、「仕事」の地位はかなり低下している。また、時代差についてみていくと、「仕事」は現役においてすら低下し、「子ども・孫・親などの家族・家庭」の地位が高まってきていることがわかる。そうした中にあって、「仕事」に代わり「社会活動」の相対的位置が高まることが期待されるが、OB にしてその地位は依然として低く、しかも、時代的にわずかに減り気味である。ただし、現役も OB も積極的に社会参加している人ほど「生きがいを持っている」傾向が明瞭である。

（５） 社会参加する人は自尊心や社会性が高い

社会参加とパーソナリティの関係をみると、社会参加が積極的な人ほど自尊心や社会性が高いことがわかる。また、まったく社会参加しない人は、マイペース傾向がやや高いことが示唆された。なお、時代差をみたところ、自尊心や社会性は減少傾向があるが、マイペース傾向の時代差はあまりないことが示された。サラリーマンの生きがいがやや内向きになってきていることと決して無関係ではないように思われる。

３．生活満足度および性格と生きがい（第 3 章）

生活満足度および性格の尺度化を行い，生きがいとの関係を検討することを本章の目的とする。生活満足度は単一次元尺度，性格は対人的親和性尺度と行動的積極性尺度の 2 尺度として構成し，それぞれ内的整合性を有することが確認された。

生活満足度については，今回の調査の夫婦ペアデータを用いた分析とこれまで 4 回の調査の比較を行った。

今回の調査で，本人調査が女性の場合，妻は全て有職であるが，本人調査が男性の場合の妻の正規従業員としての有職率は 12.5%に留まり，両者を比較検討することで妻の就業条件の違いの影響が現れると考えられる。本人調査が男性の場合の妻の有職率が低いことが，社会的地位に対する満足度の低さに影響したと思われる。逆に，本人調査が女性の場合は，妻は全て正規雇用の有職者であり，社会的地位に対する満足度に夫婦間での違いはなかったが，近隣との交流に対する満足度の低いことにその影響が現れた。また，夫婦間の満足度得点の相関は 0.425 と中程度であり，特に高いというわけではなかった。

夫と妻の生きがいの有無がそれぞれの生活満足度にどのように影響しているかを検討したところ，本人調査が男性の場合の夫婦および本人調査が女性の場合の夫の満足度には，夫婦それぞれの生きがいの有無が影響していたが，本人調査が女性の場合の妻の生活満足度には，夫の生きがいの有無は影響していなかった。

生きがいの意味の各項目と生活満足度の関係を検討すると，夫では達成感や有用感，いきいきとした日常などが生活満足度を高め，夫も妻も安らぎを求めるといった消極的な生きがい観や逆に目標の追求といった積極的な生きがい観の場合に生活満足度が低くかった。また，

働く女性の特徴として，価値の追求を生きがいと感じる者では生活満足度が高く，喜びや満足を生きがいと位置づける者の生活満足度が低かった。

生きがい対象としては，本人調査が男性か女性かにかかわらず，一貫して生活満足度と正の関係にあったのは趣味だけであり，非常に強力な生きがい対象であることが示唆された。

生活満足度の分散分析結果から，生きがいは「有」が，また，性は「男性」が有意に高く，測定年次では，1996 年以前に比べて 2001 年以降が有意に低かった。

性格は 2 つの下位尺度別に検討した。対人的親和性尺度の得点は，男性よりも女性の方が有意に高く，2001 年はそれ以前に比べて低くなり，2006 年はさらに低下していた。生きがいの有無も影響しており，生きがい有りの方が有意に高かった。

行動的積極性尺度では，逆に男性の方が女性よりも有意に尺度得点が高かった。測定年次の違いでは，2006 年の得点が他の測定時点での結果よりも明らかに低かった。生きがいの有無は，対人的親和性と同様に生きがいの有る者の得点の方が高かった。

４．定年・引退と生きがい（第 4 章）

（１） 目的

「多くの雇用者は定年（または引退）後に生きがいを失う」（生きがい喪失仮説）の真偽と、夫の定年が妻の生きがいを奪うという「ぬれ落ち葉仮説」を多角的に検討する。

（２） 方法

定年前の正規従業者と、定年後の正規従業者、定年後の非正規従業者、無職者の間の生きがいの差異を調べ、この差異を人々の定年前から後への変化として解釈する。

（３） 結果

①生きがいの意味を主観的に限定してから生きがいの有無を問う（狭義の生きがい）と、男女とも定年後の方が生きがい保有率は高く、とくに女性はその差が大きい。13 の選択肢から 3 つまで生きがいの対象を選択する場合にも仕事を生きがいとする比率はどの就労タイプでも 3 割程度で、生きがい喪失仮説は否定される。

②二つの「生きがいの対象」の組みあわせに注目すると「趣味と交流」の比率が定年前から最大だが、定年後にその比率は増し、無職時で最大である。仕事に替わる生きがいを引退時には見つけていると解釈でき、生きがい喪失ではなく、生きがい代替だといえる。

③生きがいに関連する 9 つの意味（広義の生きがい）を並べ、それぞれが得られる場を 2 つまで選択してもらうと、全体に「仕事・会社」の選択率は上記①よりずっと高い。生活のリズム、達成感、有用感、向上できる場などの意味では定年前には 8 割近くが「仕事・会社」に生きがいを見出しており、定年後非正規になるとこれが低下している。生きがいを達成感や有用感の側面から見ると定年時に 1 割から 2 割が「生きがい喪失」する。

④引退後の生きがいが得られる場として「家庭」を選ぶ比率が高いと予想したが、男性では家庭に「安らぎ」だけを感じ、向上感、達成感、有用感などを得る人は 2,3 割にとどまる。4 割前後の人々は近隣、友人、世間などでそのような生きがいを得ていた。1 割から 2 割

はこの様な意味での生きがいがどこでも得られていない。

⑤対象者の無職の妻に限定して、夫の就労パタンと妻の生きがいが関連しているのかを検討したところ、生きがい保有率は夫の引退後の方が高く、生きがいの対象は子・孫と趣味が5割を越えた。生きがいの構成要素別に生きがいを得られる場をみると、家庭の比率が高いが、夫の引退後は低下する。趣味も低下し、友人のみが夫の無職時にやや高くなっている。

夫婦関係を考察しても、無職になった夫がとくに妻の自由を束縛する傾向はないが、依存傾向は増すとみられ、ぬれ落ち葉仮説はおおげさすぎるが、その素地はあるといえる。

⑥以上から、生きがいを狭義にとれば生きがい喪失仮説は否定され、広義にとると検証された。このことから、引退の前後では生きがいといってもその質・内容が変化するということが示唆された。

⑦この分析結果から、今後に向けては、定年または引退時の「生きがいの変質仮説」を提示したい。

5．サラリーマンの夫婦関係と生きがい（第5章）

夫婦関係に注目し、共働き世帯、パート就業世帯、専業主婦世帯の男性、共働き世帯の女性、またその引退期の夫婦の、夫側、およびその妻側からの夫婦関係の10の設問に対する評価について、平均得点を比較し、因子分析を行った。また子育てとの関連、未婚者との対比に注目した。

（1） 夫婦の働き方と夫婦関係

各設問の回答そのものを見れば、配偶者からの支援、配偶者への理解、親のケアへの参加、お金の問題などについて、お互いをサポートしあい、認め合う良好な夫婦関係を見ることができる。

しかし、因子分析で、夫婦の働き方やライフサイクルの中での夫婦関係を見ると、以下のような特徴がわかった。専業主婦世帯では、夫が応援を受けている認識が妻側より高いものの、子育て期にはもっとも葛藤が少ない世帯類型である。一方子どもがいない夫婦共働きの夫婦関係は良好だが、子どもがいると夫婦の葛藤がふえる。もっとも専業主婦世帯も子どもの成長とともに、夫婦関係は低調になっていく。特に、子どもの成長とともにパートで就業する妻が増えるが、パート就業世帯の妻の夫婦関係認識は悪化する。おそらく夫が生活パターンをかえず、妻に仕事と家庭の二重負担が一方的にかかるためではないかと考えられるが、夫はサポートされていると感じるが妻側はさめている状況がもっとも顕著になる。

また定年経験者の夫婦関係を見ると、夫が再就職等や再雇用等によって仕事を続けた場合は、夫は以前に比べて妻のサポートが減少したと感じ、夫が引退し無業となった場合には、妻は夫が十分に家事を手伝わないと感じ、ここでも、働き方の変化に応じた夫婦の分担の再調整の不足により、夫婦関係が低調となる傾向が見られる。

今日、少子化の抑制、「仕事と家庭の両立」の推進のために、保育園の整備や育児休業法等の整備が行われている。しかし女性の正社員での就業継続はほとんど増えていない。なぜ女性が結婚・出産時に離職を選ぶのか、保育園や育児休業の使いにくさの問題などが指摘されるが、日本

的雇用慣行の中で、夫婦が正社員で子どもを持つことの難しさ、葛藤の多さを、今回の共働き夫婦の夫婦関係の変化に関する分析は示している。また安定した専業主婦世帯といえども、子どもの成長と夫婦の役割変化とともに夫婦関係が冷めていくことも示している。

（２） 子どもの独立、子育てへの評価と夫婦関係

今回は、本人調査の成人子どもの就業状況を聞く設問をもうけたが、末子年齢 30-39 歳層で、正社員比率、有配偶率、ともに平均して 7 割弱程度である。子どもが息子か娘は設問にないため（女性の場合は、出産無業もいると考えられるから）、無配偶の子どもに限り集計すると、末子 30-39 歳層、子どもが全員無配偶の場合も、平均の正社員比率は 7 割程度であり、派遣等が 16%、無業が 11%である。また子どもが「良く育った」という夫婦の評価と、成人子どもの正社員比率との間には、末子が 30-39 歳層でみると明確な関係があり、子どもが安定した仕事に就いているかどうかが、親の子どもの育ちへの評価と関連する。なお夫婦関係の良さと子どもが良く育ったという評価とを見ると、どちらが原因でどちらが結果かはわからないものの、一定の正の関係が見られた。

（３） 未婚者と既婚者の生きがい、仕事満足の比較

4 回の調査を比べると、婚姻しない男女が増加している。そこで最後に、有配偶者と未婚者とで、生きがいや仕事満足について比較してみると、この調査でも時代とともに未婚者が増加傾向にはあるものの、第 4 回調査を見ると、有配偶者の方が、「生活の活力や張り合いをもたらすもの」、「生活の目標や目的」に、家庭と仕事と両方を挙げる者が多く、生きがいの座標を複数もてていることがわかる。また「心のやすらぎや気晴らしを得るところ」については、有配偶者は家庭が、未婚女性は家庭もだが、個人的友人が大きい役割を果たしている。なお、未婚女性については、有配偶者よりは全般に少ないものの、（親同居も多いためと考えられるが）「家庭」が生きがいの場として回答される場面も少なくなかった。高齢期に何らかの形で家庭と認識できる関係を持ち続けることが出来るかどうかは生きがいの獲得の上で重要ではないかと思われる。

近年、未婚化が進展しているが、この傾向は、個人の幸せのよりどころの希薄化という負の側面を持っている点は再認識されるべきだろう。また夫婦正社員の子育ては時間や夫婦の分担面で厳しい側面があると見られるが、男性雇用の不安定化とともに、共働きでありかつ子育てをしても夫婦関係が悪化しないような雇用慣行の形成がより重要になっていると見られる。

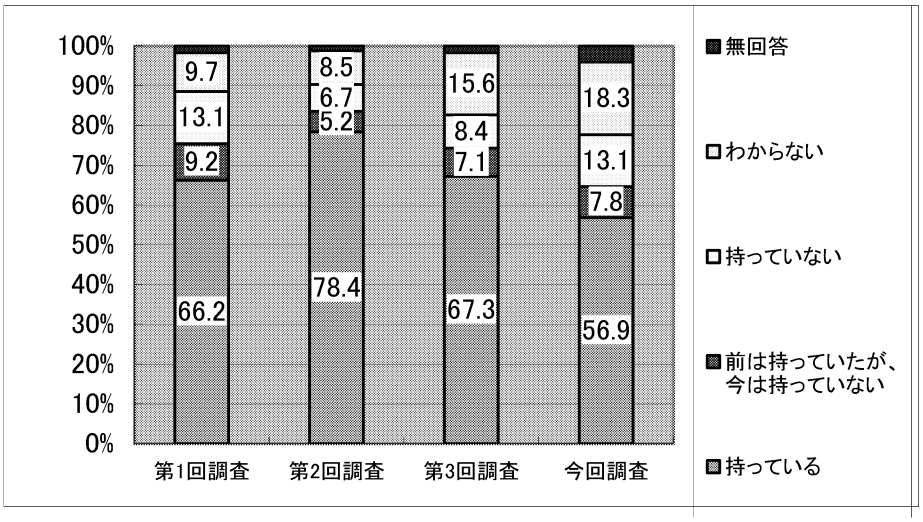
通常、企業は、賃金制度と生産性の関係、評価とやる気の問題などに注目し、雇用制度をつくりあげる。しかし、子育て期、また子ども成長後の夫婦が、相互をサポートしあえるような、夫婦関係を視野に入れた雇用慣行の形成が重要になっていることを分析は示した。

６．「生きがいの保有率」の減少について（第６章Ⅰ）

（１） ポイント

「生きがいの保有率」（＝「生きがい」を「持っている」と回答した割合）が、第 3 回調査の 67.3%から今回調査の 56.9%まで、10.4%ポイントも減少した（図表）。5 年前の前回調査（第３回調査、2001 年）時点に比べると、今回調査時点（2006 年末）における日本の経済情勢は明らかに好転しており、この結果は、一見矛盾しているようにも見える。そこで本考察では、直近 5 年（第３回調査と今回調査）に焦点を当て、「生きがいの保有率」減少の背景について分析した。

〔図表〕「生きがい」の有無（第１回～今回調査、全体）（%）



（２） 基本属性の標本相違に基づく影響について

基本属性の標本相違が「生きがいの保有率」減少に及ぼした影響について、シミュレーションを行った。その結果、標本相違による影響で 3 ポイント程度（「年齢構成割合」で 0.8 ポイント、「就業状況」で 2.2 ポイント）は説明できそうである。

（３） 相関分析を用いた要因確認

「生きがいの保有率」の前回調査比減少幅 10.4 ポイントのうち、標本によるとみられる 3 ポイント程度を除く 7.4 ポイント分については、「性格」のネガティブ化、消極化いわば内向き志向化と「生活の満足度」の減少の 2 つの影響が大きく、そのかなりの部分を占めるものと想定される。

（４） 重回帰分析を用いた要因確認

重回帰分析においても、「生きがいの保有率」への影響度が最も大きい項目は「性格」であり、次に「生活の満足度」であったことが確認された。また、前回調査時点から今回調査にかけては、「性格」のネガティブ化や「生活の満足度」の低下がみられたことから、「生きがいの保有率」減少は、これらの影響の大きさが窺えた。また、「現在の就業状況」や「年齢」といった標本相違による影響が重回帰分析の結果からも確認され、それらの影響度については、上記（２）（３）の分析とほぼ同様の結果になった。

７．従業員現役の仕事、OB の企業年金と生活（第 6 章Ⅱ）

近年の厳しい経済環境を反映してか、勤務時間数の増加した現役がかなり多い。

また、仕事の満足度は、男女とも「仕事の内容」、「就業形態」等で高く、「全体として」としても良好である。しかし、女性に焦点を当てると、「職場での地位の高さ」、「業績評価の公平さ」、「賃金」に対する満足度 DI の低いことが際立っている。女性に男性と同等の処遇機会を提供することについては、周知の古くてかつ新しい課題である。

生きがいの対象としての「仕事」は選択率順位がなお 3 位を維持するものの、選択率そのものは経年下がってきた。ただ一方で、「人生や価値観に影響」、「自分自身の向上」、「可能性の実現、やりとげ感」、「役に立つ、評価を得る」ことなどでは、「仕事・会社」が依然として主たる場である。

生きがいの有無に対しては、生活満足度の中の「仕事のはりあい」が大きな相関度を持っている。最近強調されている「家庭と仕事の両立」を目指すこと等からも、勤務時間、とりわけ残業の軽減や、女性の処遇改善が求められよう。こうした対応がさらに進められれば、現役が家庭に振り向け得る時間が増え「仕事のはりあい」も高まり、ひいては現役の生きがい保有率が向上することも期待されるだろう。

定年退職に向けた準備の観点、また企業年金を受給する人の年収分布や「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」への満足度の状況から、経済的基盤形成への支援策として企業年金の充実等が期待されている。また、定年退職後の継続就労希望割合の高さから、そうした雇用機会の確保も求められている。

〔本項におけるまとめ―企業サイドへの示唆のポイント〕

①勤務時間の軽減

②女性の処遇全般を男性と同等のものへ

③経済的基盤形成への支援（企業年金の充実等）

④定年後における継続雇用機会の一層の確保

第１章　アンケート調査の結果報告

主任研究員　苅谷達朗
主任研究員　新家和治

Ⅰ. アンケート調査結果について

１．調査の概要

（１） 調査の実施要領

この調査は、定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析し、21 世紀におけるサラリーマンの生活と生きがいのあり方を探り、対応方向を検討することを目的に実施している。

アンケート調査票の枠組みは、回答者の属性を基に、就業状況、社会参加、家族関係といった生活の諸側面をみながら、生きがいに関してその意味、有無、対象や得られる場を多角的に捉え、これらと生活の満足度との関連や、さらには定年に向けた準備のあり方等も探ろうとするものである。

①アンケートの実施方法・時期及び回収率

第 1 回調査を 1991 年に開始し、その後 5 年ごと（第 2 回調査：1996 年、第 3 回調査：2001 年）に継続実施、今回の調査（2006 年）が 4 回目となる。なお、このアンケートの対象者は、企業年金連合会（旧厚生年金基金連合会）の会員である企業年金基金や厚生年金基金などの従業員及び受給者（＝本人調査）と、その配偶者（＝配偶者調査）となっている。アンケートの実施時期及び回収率等については、図表 1 の通り。

〔図表 1〕アンケートの実施方法・時期、回収率

	実施方法	実施時期	配布数	有効回収数	有効回収率
今回調査	郵送配布･郵送回収（無記名）	2006 年 12 月 7 日～2007 年 2 月 12 日	2,928	1,992	68.0%
第 3 回調査	同上	2001 年 10 月 17 日～12 月 18 日	4,505	3,189	70.8%
第 2 回調査	同上	1996 年 11 月 6 日～12 月 9 日	4,141	2,909	70.2%
第 1 回調査	同上	1991 年 10 月 20 日～11 月 18 日	4,000	3,051	76.3%

（２） 主要な基本属性（本人調査）

アンケート対象者の主要な基本属性は以下の図表（2～4）の通り。

① 性・年齢

前回調査比、55 歳以上の構成比がやや低下した。

〔図表 2〕【本人調査】性・年齢（%）

	標本数	性別小計		35～44 歳	45～54 歳	55～64 歳	65～74 歳	年齢無回答	性別無回答
今回調査	1,992	男性	74.4	17.0	17.4	21.3	17.2	1.4	0.7
		女性	24.9	6.6	6.6	6.9	4.3	0.5	
第 3 回調査	3,189	男性	74.4	15.1	18.0	20.7	19.7	0.8	1.3
		女性	24.3	5.9	6.3	6.1	5.5	0.5	
第 2 回調査	2,909	男性	78.9	15.8	17.7	22.1	20.8	2.5	2.3
		女性	18.8	4.4	4.7	5.3	4.0	0.4	
第 1 回調査	3,051	男性	80.0	17.7	18.9	23.3	18.7	1.4	1.1
		女性	18.9	5.0	4.7	5.0	4.0	0.2	

② 就業状況・形態（問 1）

前回調査比、正規社員の構成比が 10 ポイントほど上昇した。

〔図表 3〕【本人調査】現在の就業状況・形態について（%）

	標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	無職	その他	無回答
今回調査	1,992	70.6	9.5	1.9	0.1	0.4	15.4	0.7	1.5
第 3 回調査	3,189	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8
第 2 回調査	2,909	63.7	9.4	2.8	0.4	1.0	17.5	1.9	3.3
第 1 回調査	3,051	67.1	9.9	2.6	0.3	0.8	16.6	＊	2.8

（注）＊印は、第 2 回調査で新たに設定した回答肢

③ 職種（問 2）

〔図表 4〕【本人調査】職種（現在就業している人のみ）（%）

	標本数	専門技術職	管理職	事務職	販売職	技能職・技術補助・作業者	サービス職	その他	無回答
今回調査	1,656	5.7	39.6	40.2	2.7	7.4	1.0	2.9	0.7
第 3 回調査	2,353	6.3	39.1	36.9	2.6	9.8	2.3	0.9	1.8
第 2 回調査	2,305	4.3	40.0	32.4	2.1	9.7	1.6	4.6	2.9
第 1 回調査	2,461	4.8	45.8	28.4	2.3	10.0	1.4	3.2	4.1

２．本人調査の概要

（１） 現在の仕事や職場についての満足度（問 3）

本人調査の問３では、現在職業についている人に、現在の仕事や職場に対する満足度を回答してもらった。質問項目は、「仕事の内容」から「全体として」の８項目で、回答は、「とても満足している」から「とても不満である」までの５段階とした。

① 項目別の回答（今回調査）

今回調査において、項目別の回答結果をまとめたものが図表５である。

〔図表 5〕仕事や職場に対する満足度①（今回調査、項目別）（%）

項目	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満足である	とても不満足である	無回答	満足度数	不満足度数	満足度DI
仕事の内容	16.2	49.5	24.6	7.0	1.8	1.0	65.7	8.8	56.9
就業形態	20.8	47.7	20.5	7.5	2.4	1.0	68.5	9.9	58.6
職場での地位の高さ	15.3	35.6	34.5	10.7	2.8	1.1	50.9	13.5	37.4
賃金	9.2	29.5	28.2	24.3	7.5	1.2	38.7	31.8	6.9
業績評価の公平さ	**7.2**	**26.2**	**39.0**	**19.0**	**6.9**	**1.7**	**33.4**	25.9	7.5
福利厚生	9.2	34.8	33.7	16.4	4.2	1.7	44.0	20.6	23.4
職場の人間関係・雰囲気	12.6	42.7	27.1	12.6	4.0	1.1	55.3	16.6	38.7
全体として	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9	55.8	14.0	41.8

現在の仕事や職場については、概ね満足しているとの回答であった。ただし項目別に見ると、「賃金」「業績評価の公平さ」「福利厚生」の３項目の満足度が総じて低かった。ここで、各項目の満足度をより鮮明に比較するため、「とても満足している」と「やや満足している」の合計値を「満足度数」、「やや不満足である」と「とても不満足である」の合計値を「不満足度数」、そして「満足度数」から「不満足度数」を差し引いたものを「満足度 DI」（「満足度数」－「不満足度数」＝「満足度 DI」）として表した。その結果、「賃金」と「業績評価の公平さ」の項目については満足度が非常に低くなっていることが確認できる（「満足度 DI」は、それぞれ 6.9 ポイント、7.5 ポイント）。次に、満足度が低い項目は「福利厚生」であり、「満足度 DI」は、23.4 ポイントとなっている。

② 男女別の比較（今回調査）

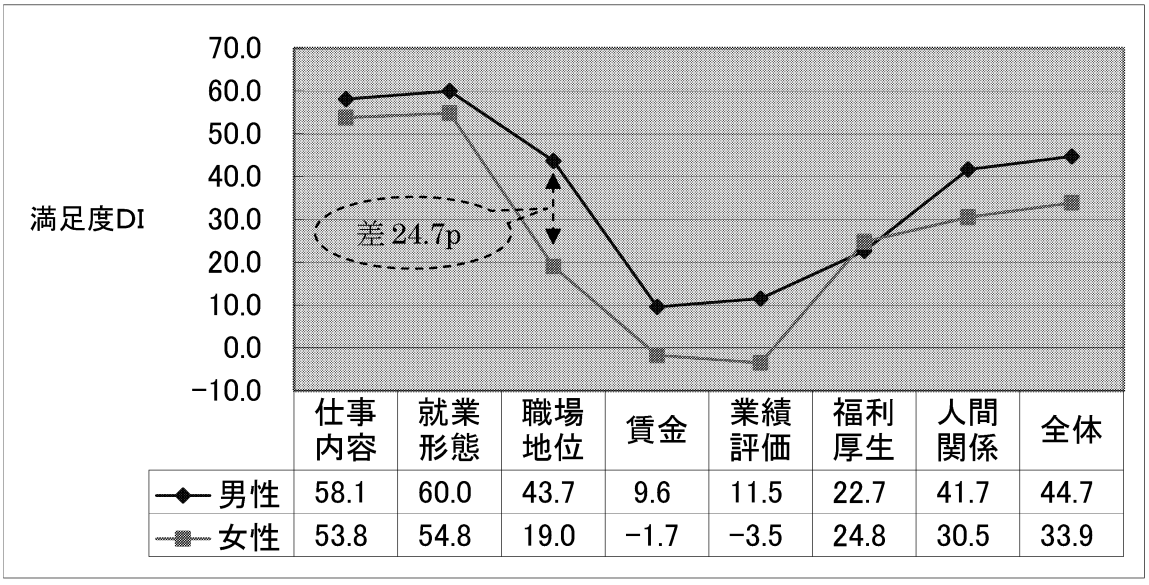
次に、現在の仕事や職場に対する満足度を、項目別／男女別に比較したものが図表 6 で、またその「満足度 DI」をグラフに表したのが図表７である。

この図表６及び７によると、ほとんどの項目において、女性の満足度が男性の満足度を下回っている。

〔図表 6〕仕事や職場に対する満足度②（今回調査、項目別／男女別）

項目	性別	とても満足	やや満足している	どちらともいえない	やや不満足	とても不満足である	無回答	満足度数	不満足度数	満足度 DI
仕事の内容	男性	17.8	49.0	23.7	6.9	1.8	0.8	66.8	8.7	58.1
	女性	11.3	51.6	26.8	7.6	1.5	1.2	62.9	9.1	53.8
就業形態	男性	21.5	47.5	21.0	6.9	2.1	0.9	69.0	9.0	60.0
	女性	18.4	48.9	18.9	9.3	3.2	1.2	67.3	12.5	54.8
職場での地位の高さ	男性	17.7	38.3	30.6	10.2	2.1	1.0	56.0	12.3	43.7
	女性	7.4	27.8	47.2	11.8	4.4	1.5	35.2	16.2	19.0
賃金	男性	10.6	29.8	28.1	24.0	6.8	0.9	40.4	30.8	9.6
	女性	**5.4**	**28.5**	**28.5**	**25.8**	**9.8**	**2.0**	**33.9**	**35.6**	**−1.7**
業績評価の公平さ	男性	8.0	26.5	41.0	16.9	6.1	1.5	34.5	23.0	11.5
	女性	**4.9**	**25.8**	**33.2**	**25.1**	**9.1**	**2.0**	**30.7**	**34.2**	**−3.5**
福利厚生	男性	8.8	34.6	34.4	16.9	3.8	1.5	43.4	20.7	22.7
	女性	10.6	35.4	31.0	15.5	5.7	2.0	46.0	21.2	24.8
職場の人間関係・雰囲気	男性	13.0	43.2	28.3	11.2	3.3	1.0	56.2	14.5	41.7
	女性	11.3	41.8	23.1	16.5	6.1	1.2	53.1	22.6	30.5
全体として	男性	10.6	46.8	29.1	11.2	1.5	0.8	57.4	12.7	44.7
	女性	6.1	45.5	29.7	15.0	2.7	1.0	51.6	17.7	33.9

〔図表 7〕職場や仕事に対する満足度③「満足度 DI」（今回調査、項目別／男女別）（%）



「満足度 DI」で比較した場合、女性の「満足度 DI」が男性の「満足度 DI」を上回っている項目は、「福利厚生」のみであり、その他全ての項目で男性を下回っている。特に顕著なのは、「職場での地位の高さ」で、「満足度 DI」の男女差は、24.7 ポイント（男性：43.7 ポイント、女性：19.0 ポイント）にも達している。また、同様に顕著な点として、「賃金」と「業績評価の公平さ」の 2 項目について女性の「満足度 DI」がマイナスとなっている（＝「不満足度数」が「満足度数」を上回っている）ことが挙げられる。

③ 項目「全体として」の時系列比較（第 2 回～今回調査）

次に仕事や職場に対する満足度を、「全体として」の項目に注目し、3 時点（この調査は第 2 回調査から実施）で比較すると（図表 8）、今回調査は、過去の調査とほぼ同様の結果であった。

〔図表 8〕仕事や職場に対する満足度④（第 2 回～今回調査、項目「全体として」）（%）

	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満足である	とても満足である	無回答
今回調査	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9
第 3 回調査	7.0	44.8	28.1	12.6	2.6	4.7
第 2 回調査	8.2	47.2	26.2	11.1	2.5	2.4

（2） 自由時間の有無（問 4）

次の問 4 では、自由時間の保有状況について、「十分にある」から「まったくない」までの 4 段階で回答してもらった。その結果について、過去 3 時点の調査とあわせ、まとめたものが図表 9 である。

今回調査と第 3 回調査とを比較した場合、自由時間について「十分にある」の回答率が、かなり増加（19.6%→26.5%）した。特に、現役 OB 別[2]に見た場合、現役の増加が非常に大

〔図表 9〕自由時間の有無①（第 1 回～今回調査）（%）

	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査			今回調査		
	全体	全体	全体	現役	OB	全体	現役	OB
十分にある	18.8	22.2	19.6	**6.1**	40.2	26.5	**15.5**	48.5
まあまあ	40.4	47.2	42.8	**41.3**	45.1	48.1	**53.1**	39.0
不十分である	34.5	27.9	33.9	48.5	11.8	19.6	26.6	4.8
まったくない	4.8	1.6	2.3	3.5	0.3	1.8	2.2	1.3
無回答	1.4	1.1	1.4	0.6	2.6	4.0	2.6	6.5

[2] この章において、現役と OB の区分は、本人調査アンケート問 13「あなたは定年を経験しましたか」の質問に対し、「1.まだ定年前」と回答した人を現役、「2.定年前に退職した」および「3.定年退職した」と回答した人を OB としている。

きく、「十分にある」と「まあまあ」の回答率の合計では 21.2 ポイント（(15.5%+53.1%) －(6.1%+41.3%)）も増加している。

（３） 自由時間の使いかた（問 4 付問）

問 4 付問では、自由時間の使い方について、「家庭との団らんや家庭サービス」から「特になにもしない」までの 13 項目から最大 3 つまで選択してもらった。

① 項目別の時系列比較（第 1 回～今回調査）

自由時間の使い方について、過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが図表 10 である。

項目別に見ると「家庭との団らんや家庭サービス」「庭いじりや家事などの家庭内のこと」「テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など」の 3 項目については、いずれの調査時点においても上位 4 位までに位置している。一方、今回調査で 3 位になった「仲間と趣味・スポーツなど」は、第 1 回調査の 8 位（16.7%）から 5 位→4 位→3 位（29.3%）と上昇傾向にあり、仕事に関係する項目「仕事仲間とのプライベートなつきあい」や「仕事に関する勉強や残務整理」については、減少傾向にある。

〔図表 10〕自由時間の使い方①（%）

項　目	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
家庭との団らんや家庭サービス	2	35.4	2	33.1	3	31.3	**1**	**38.2**
庭いじりや家事などの家庭内のこと	3	33.6	**1**	**38.3**	**1**	**36.0**	2	29.9
仲間と趣味・スポーツなど	8	16.7	5	29.3	4	30.7	3	29.3
テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	**1**	**43.3**	3	32.1	2	32.1	4	29.0
ひとりで趣味・スポーツ・学習など	4	31.6	4	29.6	5	28.5	5	28.3
個人的な友人・仲間とのつきあい	5	21.0	7	26.6	7	26.4	6	27.9
行楽・ﾄﾞﾗｲﾌﾞなど	9	11.7	6	29.2	6	28.0	7	22.9
パソコン通信やインターネットなど	－	＊	12	2.5	8	12.6	8	16.2
仕事仲間とプライベートなつきあい	6	18.7	9	9.9	10	9.8	9	9.0
近隣の人とのつきあいや地域の用事	10	6.6	10	7.0	11	6.2	10	8.9
仕事に関する勉強や残務整理	7	16.9	8	11.2	9	12.2	11	8.6
その他	11	2.4	11	2.9	12	3.4	12	4.7
無回答	13	0.5	13	0.7	14	0.5	13	2.1
特になにもしない	12	1.8	14	0.6	13	0.6	14	0.7

（注）＊は第 1 回調査で回答になかった項目

② 男女比較（今回調査）

次に今回調査において、自由時間の使い方を男女別にまとめたものが図表 11 である。

男性の 1 位、2 位はそれぞれ「家庭との団らんや家庭サービス」、「テレビ・ゴロ寝やパチ

ンコ、酒など」である一方、女性の１位は「個人的な友人・仲間とのつきあい」、２位には「庭いじりや家事などの家庭内のこと」が入っている。

〔図表 11〕自由時間の使い方②（今回調査分、男女別）（%）

項　目	今回調査			
	男性		女性	
	順位	選択率	順位	選択率
家庭との団らんや家庭サービス	**1**	**41.3**	3	28.7
庭いじりや家事などの家庭内のこと	5	25.7	2	42.6
仲間と趣味・スポーツなど	3	30.6	5	25.4
テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	2	31.5	6	21.5
ひとりで趣味・スポーツ・学習など	4	28.3	4	28.0
個人的な友人・仲間とのつきあい	7	21.8	**1**	**47.0**
行楽・ﾄﾞﾗｲﾌﾞなど	6	23.6	7	20.4
パソコン通信やインターネットなど	8	18.7	8	8.0
仕事仲間とプライベートなつきあい	10	9.3	8	8.0
近隣の人とのつきあいや地域の用事	10	9.3	10	7.6
仕事に関する勉強や残務整理	9	9.7	11	5.7
その他	12	4.6	12	4.8
無回答	13	2.2	13	1.7
特になにもしない	14	0.8	14	0.7

（４） 地域活動やボランティアなどへの参加状況（問 5）

問 5 では、地域活動やボランティアに参加しているかどうかについて、「定期的に参加している」から「参加していない」までの４段階で回答してもらった。

① 参加状況についての時系列比較（第１回～今回調査）

〔図表 12〕地域活動やボランティアなどへの参加状況（%）

	第１回調査	第２回調査	第３回調査			今回調査		
	全体	全体	全体	現役	OB	全体	現役	OB
定期的に参加	12.2	*	12.4	7.6	19.6	11.4	8.7	16.6
ときどき参加	12.6	*	11.7	10.3	13.9	14.4	13.7	16.5
以前に参加	9.9	*	9.8	11.4	7.3	9.5	10.5	7.8
参加していない	62.9	*	56.1	63.1	45.5	58.5	63.3	48.3
無回答	2.5	*	10.1	7.6	13.6	6.1	3.7	10.8

参加状況についての回答結果を、過去 2 時点（第 2 回調査では実施せず）の結果をあわせてまとめたものが図表 12 である。

過去 2 回との比較においては、今回調査に大きな変化はみられなかった。一方現役 OB 別では、予想される通り、OB の方が「定期的参加」や「ときどき参加」の回答率が現役を上回っており（合計値で 10～15%程度）、「参加していない」の回答率は、現役を下回っている（15～18%程度）。

② 参加分野の時系列比較（第 1 回～今回調査）

問 5 付問 1 で、地域活動やボランティアなどに参加している人に、どのような分野の活動に参加しているかを 11 項目から選択してもらった。第 1 回調査から今回調査までの 3 時点の結果をまとめたものが、図表 13 である。

まず今回調査を項目別に見ると、「地域の生活環境を守る活動」の選択率が最も高く、続いて「地域のイベントや“村おこし”の活動」や「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」が続いている。

次に第 1 回調査から今回調査までを比較したが、回答傾向にあまり大きな変化は見られなかった。但しその中で、若干変化があった項目として、「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」の選択率が減少（33.9%→29.6%→23.7%）していることが挙げられる。

〔図表 13〕どのような分野の活動か（第 1 回～今回調査）（%）

項　目	第 1 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
地域の生活環境を守る活動	1	42.5	1	37.5	1	42.7
地域のイベントや“村おこし”の活動	3	23.4	3	29.1	2	29.5
趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	2	33.9	2	29.6	3	23.7
児童や青少年活動の世話役としての活動	4	17.0	5	10.8	4	15.3
障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	5	12.7	7	10.4	5	12.6
その他	9	5.3	8	8.2	6	11.7
地域の文化財や伝統を守る活動	7	8.2	9	7.6	7	10.1
自然保護や環境保全の活動	6	12.3	4	12.3	8	9.3
行政の委員・民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	*	*	5	10.8	9	8.0
消費者活動や生活向上のための活動	10	5.0	11	3.3	10	2.3
国際交流に関する活動	8	5.8	10	6.3	11	1.9
無回答	11	2.9	12	1.0	12	0.4

（注）＊は第 1 回調査で回答になかった項目

③ 活動に参加した理由（第 1 回～今回調査）

次に地域活動やボランティアなどに参加している人に、活動に参加した理由を 10 項目から選択してもらった（問 5 付問 2）。第 1 回調査から今回調査までの 3 時点の結果をまとめた

ものが図表 14 である。

第 1 回調査から今回調査までを比較すると、「地域や社会に貢献したい」がいずれも 1 位であり選択率も 50%を超えている。3 時点の選択率の変化に目を向けると、「社会人として当然と思った」や「自分の知識や経験を活かしたい」が減少する一方で、「身近な人に誘われた」が若干増加している。

〔図表 14〕活動に参加した理由（%）

項　目	第 1 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
地域や社会に貢献したい	1	52.7	1	55.5	1	56.5
社会人として当然と思った	2	35.0	4	24.6	2	23.9
身近な人に誘われた	7	18.3	6	15.9	3	22.9
友人や仲間を増やしたい	4	25.4	2	30.8	4	22.1
自分の知識や経験を活かしたい	3	32.5	3	27.9	5	21.7
生活にはりあいを持たせたい	5	22.9	5	20.9	6	21.2
社会への見聞を広げたい	6	19.7	7	15.3	7	14.0
その他	9	2.8	9	5.2	8	9.9
会社の勧めや命令	8	4.6	8	6.1	9	4.9
何となく	11	0.9	11	0.9	10	1.2
無回答	10	1.9	10	1.8	11	0.0

④ 不参加の理由（第 1 回～今回調査）

次に、地域活動やボランティアなどに参加していない人に、参加していない理由を 10 項目から選択してもらった（問 5 付問 3）。第 1 回調査から今回調査までの 3 時点の結果をまとめたものが図表 15 である。

第 1 回調査から今回調査までを比較すると、不参加理由の 1 位、2 位は 3 時点全てにおいてそれぞれ「時間がない」「何から始めるか、きっかけがない」で変わりなかった。その他の項目では、「精神的なゆとりがない」や「興味がない」といった項目の選択率が増加している。

次に今回調査において、現役 OB 別で乖離が大きかった項目としては、「時間がない」「精神的ゆとりがない」の 2 項目で、現役＞＞OB の関係となっており、一方で、「自分にあった活動の場がない」「健康や体力に自信がない」の 2 項目で、現役＜＜OB の関係となっている。

〔図表 15〕活動に参加しない理由（%）

項　目	第 1 回調査		第 3 回調査		今回調査			
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率		
						全体	現役	OB
時間がない	1	44.4	1	53.0	1	41.3	**46.2**	**27.1**
何から始めるか、きっかけがない	2	36.0	2	34.7	2	40.8	41.9	39.8
精神的なゆとりがない	5	16.4	3	18.5	3	23.8	**27.8**	**10.5**
興味がない	4	17.9	5	10.3	4	21.3	22.3	18.4
自分にあった活動の場がない	3	25.8	4	17.3	5	20.2	**16.9**	**29.7**
いっしょにやる仲間がいない	6	12.7	7	9.4	6	12.6	12.2	13.6
健康や体力に自信がない	7	11.6	6	10.0	7	10.7	**7.0**	**20.9**
経済的余裕がない	8	9.6	8	8.2	8	9.7	11.8	4.5
その他	10	3.2	9	5.7	9	3.9	3.1	6.5
無回答	9	4.4	10	3.4	10	3.0	3.0	2.5
家族などの周囲の理解が得られない	11	1.4	11	1.0	11	1.6	1.6	2.0

⑤ 今後の意向（第 1 回～今回調査）

地域活動やボランティアなどに参加していない人にはさらに、今後参加したいと思うかを「積極的に参加したい」から「わからない」までの 4 段階で回答してもらった（問 5 付問 4）。

第 1 回調査から今回調査までを比較した図表 16 によると、わずかとは言え「積極的に参加したい」とポジティブな回答をした人が減少している（7.2%→6.5%→4.4%）一方で、「参加するつもりがない」とネガティブな回答をした人が増加している（11.4%→9.7%→14.2%）。

〔図表 16〕活動に今後参加したいか（%）

項　目	第 1 回調査	第 3 回調査	今回調査
	回答率	回答率	回答率
積極的に参加したい	7.2	6.5	4.4
条件によっては参加してもよい	60.0	60.1	60.8
参加するつもりはない	11.4	9.7	14.2
わからない	19.8	22.1	19.7
無回答	1.5	1.5	0.8

（5） 生活の満足度（問 6）

問 6 は、生活の満足度（充足度）についてである。質問項目は、「健康」から「社会の役に立つこと」の 12 項目で、回答は「十分満たされている」から「まったく欠けている」までの 5 段階とした。

① 項目別の回答（今回調査）

今回調査において、生活の満足度を項目別にまとめたものが図表 17 である。

項目別に見ると、「家族の理解・愛情」や「友人・仲間」の満足度が非常に高い一方で、「近隣との交流」や「社会の役に立つ」の満足度が非常に低い結果となった。ここでも「満足度 DI」によってみると、「家族の理解・愛情」が 70.2 ポイントと最も高く、一方で「近隣との交流」と「社会の役に立つこと」の 2 項目がマイナスとなっている。回答者は就業中の男性が多いことから、「近隣との交流」の低いことは理解されようが、「社会の役立つこと」もマイナスなことは注目されよう。

〔図表 17〕生活の満足度（今回調査、項目別）（%）

	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答	満足度数	不満足度数	満足度 DI
健康	10.2	53.9	16.3	14.8	1.8	3.0	64.1	16.6	47.5
時間的ゆとり	12.0	43.9	17.5	18.9	4.6	3.1	55.9	23.5	32.4
経済的ゆとり	4.7	43.7	26.4	18.2	4.2	2.8	48.4	22.4	26.0
精神的ゆとり	5.1	42.1	29.1	17.2	3.1	3.5	47.2	20.3	26.9
家族の理解・愛情	20.7	54.4	16.4	3.7	1.2	3.6	75.1	4.9	70.2
友人・仲間	10.2	54.0	24.7	7.3	0.9	3.0	64.2	8.2	56.0
熱中できる趣味	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2	51.4	22.1	29.3
仕事のはりあい	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2	48.1	16.0	32.1
社会的地位	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8	39.6	15.8	23.8
自然とのふれあい	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1	40.7	26.7	14.0
近隣との交流	**2.4**	**25.2**	**31.6**	**26.8**	**11.1**	**3.0**	**27.6**	**37.9**	**−10.3**
社会の役に立つこと	**1.9**	**15.8**	**40.9**	**27.1**	**11.0**	**3.4**	**17.7**	**38.1**	**−20.4**
（単純）平均	8.0	40.3	27.1	16.3	4.8	3.6	48.3	21.0	27.3

② 生活満足度全体の時系列比較（第 1 回～今回調査）

次に、生活の満足度全体を過去の調査（3 時点）と比較するために、調査 4 時点の項目単純平均[3]（図表 17 の最下段欄）をそれぞれ算出し、図表 18 にまとめた。

この表からは、「十分満たされている」や「まあ満たされている」の回答率が、第 1 回調査からみると共に減少傾向にあることが窺える。ただし、前回調査比はほぼ横ばいであった。

[3] 単純平均：各調査時点の（全体の）満足度を比較するために、満足度（「十分満たされている」から「まったくかけている」の 5 項目）別に、項目（「健康」から「社会の役に立つこと」までの 12 項目）の回答率の平均値（単純平均値：12 項目を合計し 12 で割った値）を算出した。

〔図表 18〕生活の満足度（第 1 回～今回調査、全体単純平均）（%）

	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
今回調査	8.0	40.3	27.1	16.3	4.8	3.6
第 3 回調査	9.4	40.3	25.4	16.9	5.4	2.6
第 2 回調査	11.1	44.3	23.4	14.9	4.4	1.9
第 1 回調査	10.6	44.5	22.8	16.0	4.2	1.8

③ 項目別「満足度 DI」の時系列比較（第 1 回～今回調査）

次に、項目別生活の満足度を、「満足度 DI」により調査 4 時点で比較してみた。なお、この項目別の回答率については、調査ごとのブレ（標準偏差）が大きいため、第 1 回～第 3 回調査の各「満足度 DI」の単純平均を算出し、その値と今回調査の「満足度 DI」を比較することにした。

〔図表 19〕生活の満足度「満足度 DI」比較（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	第 1～3 回の平均	今回調査	今回－第 1～3 回の平均
健康	61.4	63.1	54.9	59.8	47.5	−12.3
時間的ゆとり	30.7	34.8	15.8	27.1	32.4	5.3
経済的ゆとり	30.6	33.3	25.8	29.9	26.0	−3.9
精神的ゆとり	40.4	42.9	30.2	37.8	26.9	−10.9
家族の理解・愛情	80.7	76.1	74.4	77.1	70.2	−6.9
友人・仲間	62.0	63.3	59.1	61.5	56.0	−5.5
熱中できる趣味	32.7	39.7	34.1	35.5	29.3	−6.2
仕事のはりあい	46.0	42.4	33.3	40.6	32.1	−8.5
社会的地位	24.8	24.3	19.6	22.9	23.8	0.9
自然とのふれあい	23.1	30.4	21.5	25.0	14.0	−11.0
近隣との交流	−2.2	−4.6	−13.2	−6.7	−10.3	−3.6
社会の役に立つこと	−11.0	−12.9	−27.2	−17.0	−20.4	−3.4

この図表 19 により、今回調査を、過去 3 時点の平均値と比較した場合に窺われることは、「満足度 DI」が増加しているのは、「時間的ゆとり」と「社会的地位」のみであり、その他の項目については、全て減少していることである。特に「健康」や「自然とのふれあい」、「精神的ゆとり」、「仕事のはりあい」については、比較的大きく低下していることが確認できる。

④「満足度 DI」の男女別、現役 OB 別比較（第 3 回～今回調査）

次に「満足度 DI」について、変化の大きかった 4 項目（「健康」「精神的ゆとり」「仕事のはりあい」「自然とのふれあい」）に注目し、第 3 回調査と今回調査の 2 時点で男女別、現役 OB 別に比較した（図表 20）。

〔図表 20〕主な項目の「満足度 DI」比較（第 3 回～今回調査、男女別、現役 OB 別）（%）

	全体		男性		女性		現役		OB	
	第 3 回	今回	第 3 回	今回	第 3 回	今回	第 3 回	今回	第 3 回	今回
健康	54.9	47.5	55.9	47.5	53.2	47.4	52.4	45.9	58.9	50.6
精神的ゆとり	30.2	26.9	33.7	28.9	19.9	21.1	11.3	12.8	59.0	55.3
仕事のはりあい	33.3	32.1	36.7	35.5	23.7	21.6	38.9	32.3	24.4	31.6
自然とのふれあい	21.5	14.0	24.4	15.4	13.3	8.4	3.9	-0.4	48.1	41.8

まず男女別の比較では、4 項目全てで男性の「満足度 DI」が女性を上回っている。

次に、現役 OB 別の比較については、「精神的ゆとり」と「自然とのふれあい」2 項目で、現役と OB の乖離が非常に大きく、現役の「満足度 DI」が著しく低い。

（6）「生きがい」の意味（問 8）

問 8 は、「生きがい」の意味を問う設問で、「生きる喜びや満足感」から「その他」までの 10 項目から最大で 2 つまでを選択してもらった。

① 項目別の時系列比較（第 1 回～今回調査）

第 1 回調査から今回調査までの 4 時点の結果をまとめたものが図表 21 である。

図表 21 を見ると、全時点の選択率 1 位は「生きる喜びや満足感」で 40%以上の選択率を確保している。その他上位の選択率にある項目には、それほど大きな変化は見られない。しかしながら、選択率が中位に位置する「自分自身の向上」や「他人や社会の役にたっていると感じること」の項目はその選択率が減少傾向にあり、特に「他人や社会の役にたっていると感じること」については、第 1 回と今回調査を比較すると、選択率は 11.8 ポイント下落、回答順位も 3 位から 7 位に大きく後退している。

〔図表 21〕「生きがい」の意味①（第 1 回～第 4 回調査）（%）

項　目	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
生きる喜びや満足感	1	47.0	1	43.7	1	40.5	1	42.2
生活の活力やはりあい	2	35.2	2	26.2	4	26.1	2	29.8
心の安らぎや気晴らし	4	24.9	3	24.9	3	26.7	3	24.4
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	*	*	4	24.7	2	28.2	4	22.1
生きる目標や目的	6	19.6	5	20.4	6	17.5	5	20.7
自分自身の向上	5	22.3	7	15.8	5	18.3	6	14.3
他人や社会の役に立っていると感じること	**3**	**25.5**	**6**	**19.1**	**7**	**17.1**	**7**	**13.7**
生活のリズムやメリハリ	8	7.1	8	9.7	8	10.2	8	10.7
人生観や価値観の形成	7	9.7	9	7.9	9	8.7	9	8.0
無回答	9	1.0	10	1.1	11	0.5	10	2.9
その他	10	0.3	11	0.3	10	0.6	11	1.2

（注）＊は、第 1 回調査では回答になかった項目

② 男女別、現役 OB 別の比較

次に、今回調査において「生きがい」の意味を男女別、現役 OB 別にまとめたものが図表 22 である。

〔図表 22〕生きがいの意味②（今回調査、男女別、現役 OB 別）

項　目	全体	男女別		現役 OB 別	
		男性	女性	現役	OB
生きる喜びや満足感	42.2	41.0	46.0	42.8	41.2
生活の活力やはりあい	29.8	29.7	30.4	30.2	29.0
心の安らぎや気晴らし	24.4	24.6	24.2	23.6	26.0
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	22.1	22.9	20.2	22.6	21.6
生きる目標や目的	20.7	20.6	21.0	24.0	14.6
自分自身の向上	14.3	12.8	18.8	12.3	17.1
他人や社会の役に立っていると感じること	13.7	14.8	10.1	13.6	14.4
生活のリズムやメリハリ	10.7	10.3	11.7	8.1	16.0
人生観や価値観の形成	8.0	8.7	6.3	8.6	6.8
無回答	2.9	2.8	2.6	2.6	3.0
その他	1.2	1.1	1.0	1.5	0.6

図表 22 の通り、男女別、現役 OB 別では選択率にそれほど大きな相違は見られなかった。因みに 5 ポイント以上の乖離があったのは、男女別では「生きる喜びや満足感」及び「自分

自身の向上」の 2 項目、現役 OB 別では「生きる目標や目的」及び「生活のリズムやメリハリ」の 2 項目となっている。

（7） 「生きがい」の有無（問 8 付問）

問 8 付問は、「生きがい」について、その保有状況を聞いたもので、「持っている」「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」「わからない」の 4 項目から回答してもらった。

① 時系列比較（第 1 回～今回調査）

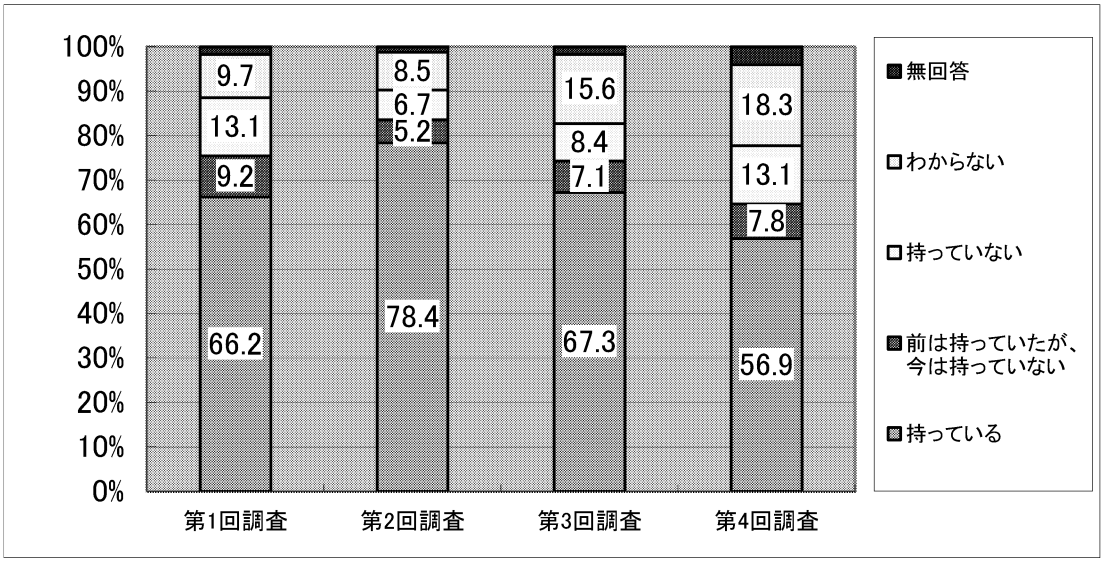
第 1 回調査から今回調査までの 4 時点の結果をまとめたものが図表 23（グラフは図表 24）である。

注目すべきは、今回調査で「生きがい」を「持っている」と回答した比率が 56.9%と、第 3 回調査比 10.4 ポイント減少、第 2 回調査と比較すると 21.5%ポイント減少しており、その一方で、「わからない」と回答した比率が、第 3 回調査から漸増していることである。

〔図表 23〕「生きがい」の有無①（第 1 回～今回調査、全体）（%）

	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	第 4 回調査
持っている	**66.2**	**78.4**	**67.3**	**56.9**
前は持っていたが、今は持っていない	9.2	5.2	7.1	7.8
持っていない	13.1	6.7	8.4	13.1
わからない	9.7	8.5	15.6	18.3
無回答	1.7	1.2	1.7	4.0

〔図表 24〕「生きがい」の有無②（第 1 回～今回調査、全体）（%）



② 項目比較（今回調査、年齢別）

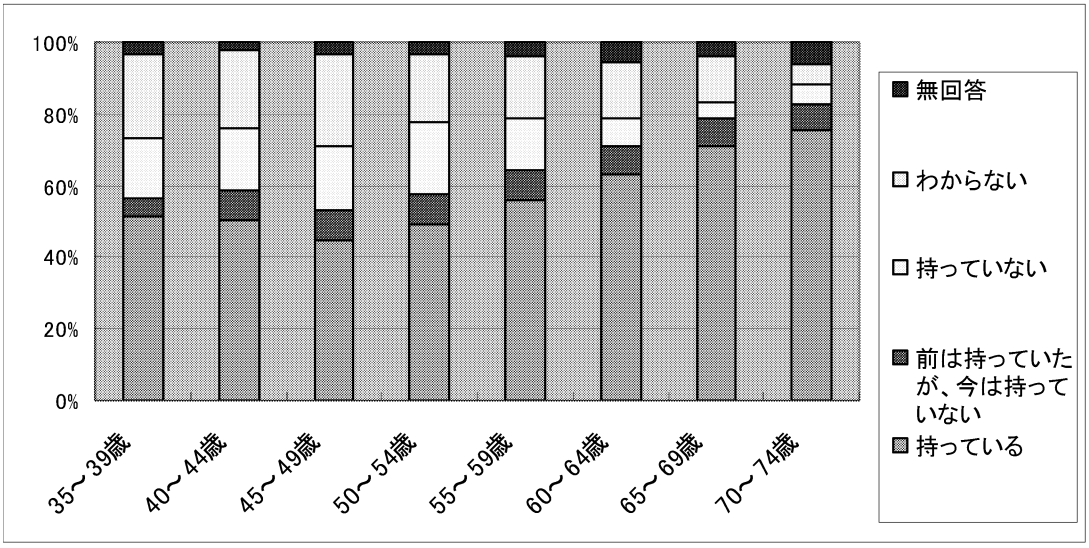
次に「生きがい」の保有状況について年齢層別にまとめたものが図表 25（グラフは図表 26）

である。基本的には、年齢が高くなるに従って、「生きがい」の保有率も高まる傾向にある。また、「わからない」の回答率は、年齢とともに減少していく。なお、この傾向は過去の調査においても同様の結果であった。

〔図表 25〕「生きがい」の有無③（今回調査、年齢層別）（%）

	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳
持っている	**51.2**	**50.2**	**44.4**	**49.4**	**55.7**	**63.3**	**70.9**	**75.5**
前は持っていたが、今は持っていない	5.2	8.7	8.6	8.1	8.4	7.8	8.1	7.0
持っていない	16.7	16.9	18.1	20.4	14.5	7.8	4.2	5.6
わからない	23.8	21.9	25.5	18.7	17.4	15.6	13.0	5.6
無回答	3.2	2.3	3.3	3.4	4.1	5.5	3.9	6.3

〔図表 26〕「生きがい」の有無④（今回調査、年齢層別）（%）



③ 現役 OB 別、男女別比較（今回調査）

次に、「生きがい」の保有状況について、現役 OB 別及び男女別にまとめたものが、図表 27 である。男女別では大きな相違は見られない一方で、現役 OB 別では、先述の年齢層別と同様に OB の方が「生きがい」の保有率は高い。

〔図表 27〕「生きがい」の有無④（今回調査、現役 OB 別及び男女別）（%）

	現役 OB 別		男女別	
	現役	OB	男性	女性
持っている	51.3	67.8	57.3	55.8
前は持っていたが、今は持っていない	8.2	7.8	7.4	9.1
持っていない	16.5	6.8	13.8	11.1
わからない	20.7	13.3	17.9	20.0
無回答	3.3	4.3	3.7	4.0

（８） 「生きがい」の対象（問 9）

問 9 は「生きがい」の対象を問う設問で、「子ども・孫・親などの親族・家庭」から「その他」までの 13 項目から最大で 3 つまで選択してもらった。

① 項目別の比較（第 2 回～今回調査）

図表 28 は、第 2 回～今回調査（第 1 回調査は実施せず）までの 3 時点を比較したものである。

〔図表 28〕「生きがい」の対象①（第 2 回～今回調査、全体）（順位、%）

項　目	第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
子ども・孫・親などの家族・家庭	2	46.1	1	56.6	1	58.0
趣味	1	48.0	2	47.2	2	46.9
仕事	3	41.4	3	39.6	3	32.2
配偶者・結婚生活	5	21.8	4	24.6	4	26.9
友人など家族以外の人との交流	7	17.6	6	18.1	5	20.8
スポーツ	8	15.4	8	15.6	7	18.2
自分自身の健康づくり	6	20.3	5	18.6	6	18.0
自然とのふれあい	4	22.6	7	18.0	8	16.1
自分自身の内面の充実	9	13.6	9	12.2	9	11.7
社会活動	10	9.0	10	7.6	10	8.7
ひとりで気ままにすごすこと	11	8.9	12	6.7	11	8.0
学習活動	12	6.0	11	7.0	12	3.4
その他	13	0.7	13	0.8	13	1.1
無回答	14	0.2	14	0.1	14	0.0

（注）第 2 回調査において、この質問の対象者を問 8 付問で「生きがいを持っている」と回答した人に限定していたため、ここでは「生きがいを持っている」と回答した人のみを集計対象とした（但し、②以降については、アンケート回答者全員を集計対象としている）。

なお、第2回調査において、この質問の対象者を問8付問で「生きがいを持っている」と回答した人に限定していたため、ここでは「生きがいを持っている」と回答した人のみを集計対象とした（但し、②以降については、アンケート回答者全員を集計対象としている）。

図表28の通り、今回調査で最も選択率が高かった項目は、「子ども・孫・親などの家族・家庭」（58.0%）であり、第2回調査（46.1%）から11.9ポイント増加している。次に高かったのは「趣味」（46.9%）であり、過去2時点の調査でも2位以内であった。一方、「仕事」については、第2回調査以降3位という順位に変動はないものの、選択率は41.4%→39.6%→32.2%と逐次低下しており、第2回調査からの低下幅は9.2ポイントとなっている。その他の項目では「自然とのふれあい」が、順位・選択率ともに下げている。

② 現役OB別、男女別の比較（今回調査）

次に現役OB別、男女別にまとめたものが図表29である。

現役OB別、男女別ともに、全体での回答状況と同様に「子ども・孫・親などの家族・家庭」と「趣味」を挙げる比率が高い。その中で、現役OB別に見ると、現役は「仕事」「子ども・孫・親などの家族・家庭」「配偶者・結婚生活」などの項目の、OBは「自分自身の健康づくり」「趣味」「自然とのふれあい」などの項目の、選択率が高くなっている。

一方、男女別では、男性は「仕事」や「配偶者・結婚生活」を選択する傾向が強く、女性は「友人など家族以外の人との交流」を回答する傾向が強い。

〔図表29〕生きがいの対象②（今回調査、現役OB別及び男女別）

項　目	現役OB別		男女別	
	現役	OB	男性	女性
子ども・孫・親などの家族・家庭	57.1	48.3	55.7	48.8
趣味	38.6	48.3	40.4	45.2
仕事	31.2	18.4	29.6	20.0
配偶者・結婚生活	25.9	19.0	**26.5**	**13.5**
友人など家族以外の人との交流	17.3	21.7	**14.9**	**30.6**
自分自身の健康づくり	**10.1**	**28.2**	15.9	17.3
スポーツ	15.3	17.1	18.5	9.1
自然とのふれあい	12.3	21.4	16.0	13.9
自分自身の内面の充実	14.5	10.5	10.6	20.8
ひとりで気ままにすごすこと	12.2	12.8	12.0	13.3
社会活動	4.0	10.3	6.7	4.2
学習活動	2.8	4.0	3.2	2.8
その他	1.2	1.6	1.1	1.4
無回答	3.0	3.2	3.0	3.0

（９） 生きがいの場（問 10）

問 10 は「生きがい」を得られる場についての設問である。回答は「生きがい」の場を、「生活のはりあいや活力」と言った項目（9 項目）ごとに、それぞれ「家庭」から「どこにもない」の 7 項目の中から最大で 2 つまで選択してもらった。ただし、「リズムやメリハリ」の項目については、第 1 回調査では質問項目になっていなかったため、この集計結果からは削除した（従って、図表では質問項目は全部で 8 項目となっている）。

① 項目別の結果（今回調査）

今回調査の結果をまとめたものが、図表 30 である。

「生きがい」の場を、単純平均[4]で比較すると「家庭」の選択率（49.6%）が最も高く、僅差で「仕事」（43.9%）が続く。また、「心の安らぎや気晴らし」、「人生や価値観に影響」等では、「個人的友人」が一定の比率を得た。

〔図表 30〕生きがいの場①（今回調査）（%）

	家庭	仕事	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
生活のはりあいや活力	67.4	44.5	5.9	19.1	6.0	5.0	1.0
心の安らぎや気晴らし	77.6	4.7	5.0	35.9	3.7	11.6	1.1
喜びや満足感	66.0	33.9	5.2	22.5	5.1	9.5	1.7
人生や価値観に影響	36.0	38.5	6.7	29.4	23.5	7.1	2.8
生活の目標や目的	67.7	36.8	4.7	5.8	14.1	7.9	1.6
自分自身の向上	22.0	61.5	9.2	14.2	27.3	6.3	2.8
可能性の実現、やりとげ感	22.0	66.8	8.8	6.2	18.4	9.7	3.8
役に立つ、評価を得る	37.8	64.1	11.7	8.3	11.6	4.8	4.0
（単純平均）	49.6	43.9	7.2	17.7	13.7	7.7	2.4

② 時系列比較（第 1 回～今回調査）

次に、「生きがい」の場を過去の調査結果と比較するために、第 1 回調査から今回調査まで、「生きがい」の場別に単純平均（図表 30 最下段）を算出し、図表 31 にまとめてみた。

本図表によると、「生きがい」の主たる場としては一貫して「家庭」、「仕事」となっている。ただ両者間の位置は、第 2 回調査以降、「家庭」が「仕事」を上回るようになった。

[4]単純平均：各調査時点の比較をするために、生きがいの場（「家庭」から「どこにもない」の 7 項目）別に、項目（「生活のはりあいや活力」から「役に立つ、評価を得る」までの 8 項目）の平均値（単純平均値：8 項目の回答率を合計し 8 で割った値）を算出した。

【図表 31】生きがいの場②（第 1 回～今回調査、項目の単純平均）（%）

	第 1 回調査	第 2 回調査	第 3 回調査	今回調査
家庭	45.7	48.4	50.4	49.6
仕事	50.0	43.0	43.5	43.9
地域・近隣	6.9	7.4	7.2	7.2
個人的友人	15.3	16.3	18.8	17.7
世間・社会	17.8	15.1	14.9	13.7
その他	6.0	6.8	7.8	7.7
どこにもない	2.1	2.1	2.2	2.4

（１０） 日頃の配偶者との関係における満足度（問 11）

問 11 では、現在、配偶者がいる方に、日頃の配偶者との関係に対する満足度を回答してもらった。質問項目は、「配偶者は自分のことを応援してくれる」から「配偶者にもっと家事をして欲しい」の 10 項目で、回答は「まったくそのとおり」から「まったく違う」の 4 段階とした（一部に「非該当」の項目あり）。

① 項目別の回答（今回調査）

今回調査において、項目別の回答結果をまとめたものが、図表 32 である。

ここでも、ポジティブな内容の a～f の 6 項目に対して「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計値を満足度数とし、「あまりそうでない」と「まったく違う」の合計値を当該満足度数から差し引いた数値として満足度 DI を作成した。なお、ネガティブな内容の g～j の 4 項目に対しては、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計を満足度数として、以下同様に算出している。

まず満足度数をみると、「配偶者は自分のことを応援してくれる」が 91.2 ポイントと極めて高く、またその他の項目も概ね高い値となった。全体としてみると、配偶者との関係は良好と考えていることが窺える。ただし、「配偶者と価値観・考え方が似ている」は、満足度数も相対的に低いが、満足度 DI では 14.6 ポイントと際立って低かった。配偶者と価値観まで似ているとは思っていないようである。

〔図表 32〕：日頃の配偶者との関係（今回調査、項目別）（%、ポイント）

		1. まったくそのとおり	2. まあそのとおり	3. あまりそうでない	4. まったく違う	5. 無回答	6. 非該当	満足度数 (a~f :1+2 g~j :3+4)	満足度 DI (a~f :1+2-3-4 g~j :3+4-1-2)
a	配偶者は自分のことを応援してくれる	46.8	44.4	5.8	0.4	2.5	－	91.2	85.0
b	自分は配偶者の良き理解者である	32.7	50.6	13.4	0.8	2.5	－	83.3	69.1
c	配偶者と価値観・考え方が似ている	13.3	42.6	35.7	5.6	2.7	－	55.9	14.6
d	よく一緒に出かける	30.8	40.2	23.1	3.5	2.5	－	71.0	44.4
e	会話がある	32.4	49.1	14.8	1.3	2.4	－	81.5	65.4
f	配偶者は自分を自由にさせてくれる	33.7	52.4	10.1	0.8	3.0	－	86.1	75.2
g	配偶者は自分の親を大切にしてくれない	6.5	11.4	23.1	32.9	3.7	22.3	72.1	49.0
h	配偶者は金銭的にうるさい	4.3	16.5	53.6	22.7	3.0	－	76.3	55.5
i	配偶者は自分によりかかりすぎる	2.7	20.6	55.7	18.2	2.8	－	73.9	50.6
j	配偶者にもっと家事をして欲しい	4.6	17.0	43.0	32.4	2.9	－	75.4	53.8

（注）g の「満足度数」「満足度 DI」については「非該当」を除いて再集計した調整後の数値

② 男女別の回答（今回調査）

次に、日頃の配偶者との関係に対する満足度を、項目別／男女別に比較したものが図表 33 である。

ほとんどの項目において、女性の満足度が男性の満足度を下回っている。なかでも「配偶者にもっと家事をして欲しい」の項目は、その回答の意味は男女で異なるとも思われるものの、その差が特に顕著である。女性においては肯定的な回答が 43.2%にもなり、「満足度 DI」の男女差は 52.6 ポイント（男性：62.2、女性：9.6）にも達している。この数値からは、勤労する女性が家事の分担を期待している様子が窺われる。

一方、「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」と「配偶者は金銭的にうるさい」では、女性の満足度数が男性のそれを上回っており（すなわち“大切にしてくれる”、“うるさくない”であり）興味深い。

〔図表 33〕：日頃の配偶者との関係（今回調査、項目別／男女別）（%、ポイント）

		性別	1. まったくそのとおり	2. まあそのとおり	3. あまりそうでない	4. まったく違う	5. 無回答	6. 非該当	満足度数 (a~f: 1+2 g~j: 3+4)	満足度 DI (a~f: 1+2-3-4 g~j: 3+4-1-2)
a	配偶者は自分のことを応援してくれる	男性	48.3	44.0	5.0	0.5	2.2	-	92.3	86.8
		女性	38.8	46.4	10.4	0.4	4.0	-	85.2	74.4
b	自分は配偶者の良き理解者である	男性	34.1	50.2	12.9	0.8	2.1	-	84.3	70.6
		女性	25.2	53.6	16.0	1.2	4.0	-	78.8	61.6
c	配偶者と価値観・考え方が似ている	男性	13.1	43.4	36.0	5.1	2.5	-	56.5	15.4
		女性	14.8	38.4	34.8	8.4	3.6	-	53.2	10.0
d	よく一緒に出かける	男性	30.5	41.1	23.3	2.9	2.2	-	71.6	45.4
		女性	32.4	35.2	22.4	6.4	3.6	-	67.6	38.8
e	会話がある	男性	31.7	50.8	14.4	0.9	2.1	-	82.5	67.2
		女性	36.0	40.0	16.8	3.6	3.6	-	76.0	55.6
f	配偶者は自分を自由にさせてくれる	男性	33.0	53.4	10.3	0.7	2.6	-	86.4	75.4
		女性	37.6	47.2	8.8	1.2	5.2	-	84.8	74.8
g	配偶者は自分の親を大切にしてくれない	男性	6.6	11.9	22.7	31.3	3.5	23.9	71.0	46.6
		女性	6.0	8.4	24.8	41.6	4.8	14.4	77.6	60.7
h	配偶者は金銭的にうるさい	男性	4.6	17.8	54.3	20.5	2.7	-	74.8	52.4
		女性	2.4	9.2	50.4	34.0	4.0	-	84.4	72.8
i	配偶者は自分によりかかりすぎる	男性	1.7	20.3	58.5	16.9	2.5	-	75.4	53.4
		女性	7.6	22.0	41.2	25.2	4.0	-	66.4	36.8
j	配偶者にもっと家事をして欲しい	男性	2.3	15.3	43.9	35.9	2.6	-	79.8	62.2
		女性	17.2	26.0	38.8	14.0	4.0	-	52.8	9.6

（注）g の「満足度数」「満足度 DI」については「非該当」を除いて再集計した調整後の数値

③ 項目別の時系列比較（第 1 回調査～今回調査）

次に、満足度 DI を過去 3 時点の調査もあわせてみたものが、図表 34 である。

項目変更が実施され、全体の把握は難しいが、図表から分かる通り、各項目の動きはほぼ落ち着いたものである。ただ強いて言えば、「配偶者は自分によりかかりすぎる」の満足度が次第に高まっている（すなわち“よりかかりすぎない”である）一方で、「自分は配偶者の良き理解者である」の満足度 DI が今回調査では下がっている。

〔図表 34〕：日頃の配偶者との関係（満足度 DI、第１回～今回調査、項目別）（ポイント）

		第１回調査	第２回調査	第３回調査	今回調査
a	配偶者は自分のことを応援してくれる	－	－	－	85.0
b	自分は配偶者の良き理解者である	77.4	78.2	77.4	69.1
c	配偶者と価値観・考え方が似ている	－	11.1	11.1	14.6
d	よく一緒に出かける	32.7	44.6	45.8	44.4
e	会話がある	58.6	62.6	60.0	65.4
f	配偶者は自分を自由にさせてくれる	－	－	－	75.2
g	配偶者は自分の親を大切にしてくれない	－	－	－	49.0
h	配偶者は金銭的にうるさい	－	－	－	55.5
i	配偶者は自分によりかかりすぎる	25.3	－	37.3	50.6
j	配偶者にもっと家事をして欲しい	－	－	－	53.8

（注）g の「満足度数」「満足度 DI」については「非該当」を除いて再集計した調整後の数値

（１１） 子どもとの関係における満足度（問 12）

問 12 は、現在、同居の子どもがいる方に、子どもとの関係に対する満足度を問うた。質問項目は、「子育てはうまくいっている、うまくいった」と「子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている」の 2 つで、回答は「まったくそのとおり」から「まったく違う」の 4 段階とした。なお、本問は今回調査で初めて設定した問である。

① 項目別の回答（今回調査）

項目別の回答結果をまとめたものが図表 35 である。満足度、満足度 DI をみると「子育てはうまくいっている、うまくいった」では概ね満足している様子が窺われ、「子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている」でも同様だが、満足度 DI は若干低かった。

〔図表 35〕：お子さまとの関係（今回調査、項目別、「無回答」以外の数値調整後）（%）

	まったくその通り	まあそのとおり	あまりそうではない	まったく違う	満足度数	満足度 DI
子育てはうまくいっている、うまくいった	16.7	67.1	15.1	1.1	83.8	67.6
子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている	21.6	51.6	24.6	2.2	73.2	46.3

② 男女別の回答（今回調査）

次に、子どもとの関係に対する満足度を、項目別／男女別に比較したものが図表 36 である。

これによると、「子育てはうまくいっている、うまくいった」の項目では男女間の差があまり見られないが、「子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている」の項目では女性の満足度が男性を上回った。

〔図表 36〕：お子さまとの関係（今回調査、項目別／男女別、「無回答」以外の数値調整後）（%）

	性別	まったくその通り	まあそのとおり	あまりそうではない	まったく違う	満足度数	満足度 DI
子育てはうまくいっている、うまくいった	男性	16.2	67.6	15.5	0.8	83.7	67.4
	女性	19.2	65.3	13.1	2.4	84.5	69.0
子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている	男性	19.2	52.6	26.1	2.1	71.8	43.7
	女性	32.9	46.7	17.3	3.0	79.7	59.3

（１２） 定年後の経済基盤として重視するもの（現役層）（問 14(1)）

問 14(1)～(4)は、問 13 において「まだ定年前」と回答した方（「現役層」）への設問である。

問 14(1)では、現役層に定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えているかを回答してもらった。質問項目は、「公的年金」から「わからない・考えたことがない」の 9 項目の中から最大で 3 つまで選択してもらった。

① 項目別の時系列比較（第 2 回～今回調査）

回答結果について、過去 2 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 37 である。

〔図表 37〕：定年後の経済基盤として重視するもの（第 2 回～今回調査、項目別）（%）

	第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
公的年金	1	77.8	1	72.1	1	76.7
企業年金	2	53.4	2	52.4	2	49.9
退職金	3	38.6	3	41.3	3	45.7
生命保険の保険金や個人年金	5	25.7	6	20.1	6	22.2
預貯金の取りくずし	6	17.5	5	25.6	5	26.9
就労による収入	4	31.3	4	30.3	4	33.6
子ども等からの経済的支援	10	0.7	10	0.9	10	0.7
その他	8	2.4	8	1.9	8	2.3
わからない・考えたことがない	7	3.9	7	3.5	7	2.6
無回答	9	1.3	9	1.2	9	1.1

項目別に見ると、公的年金が前回から引続き群を抜いて首位に挙がる。これに続く 2 位以下の選択順序も今回と前回とは全く同じ結果となった。そのような中で、わずかな変化ながら、福利厚生面では、「退職金」の選択率が継続的に増加する一方で、「企業年金」の選択率は継続的な減少傾向が窺われる。また、その半面で、自助努力とも言える「預貯金の取りくずし」と「就労による収入」の選択率は、増加している。

② 男女比較（今回調査）

次に、定年後の経済基盤として重視するものを、項目別／男女別に比較したものが図表 38 である。

〔図表 38〕：定年後の経済基盤として重視するもの（今回調査、項目別／男女別）（%）

	男性		女性	
	順位	選択率	順位	選択率
公的年金	1	75.5	1	79.6
企業年金	2	53.6	2	39.9
退職金	3	50.5	5	33.0
生命保険の保険金や個人年金	6	16.7	3	37.1
預貯金の取りくずし	5	23.3	4	36.2
就労による収入	4	39.1	6	19.0
子ども等からの経済的支援	9	0.9	10	0.3
その他	8	2.3	8	2.6
わからない・考えたことがない	7	2.4	7	3.2
無回答	10	0.8	9	2.0

男女の相対的な選択率をみると、「企業年金」、「退職金」、「就労による収入」で男性が高く、一方「生命保険の保険金や個人年金」、「預貯金の取りくずし」では女性が高かった。この傾向には、女性の置かれている雇用条件が象徴的に現れているようにも窺われる。

③ 年齢層別の比較（今回調査）

次に、項目別／年齢層別に比較してまとめたものが図表 39 である。

項目別に見ると、各年齢層ともにやはり公的年金が群を抜いて首位に上がる。また、どちらかといえば、企業年金は比較的高い年齢層（55～64 歳）で、退職金は比較的低い年齢層で期待が高い。

〔図表 39〕：定年後の経済基盤として重視するもの（今回調査、項目別／年齢別）（%）

	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳
公的年金	64.5	71.3	78.9	77.6	87.2	93.8	77.8
企業年金	46.4	52.6	46.1	47.9	58.0	53.1	37.0
退職金	50.4	46.4	46.1	47.5	43.1	28.1	25.9
生命保険の保険金や個人年金	26.2	26.8	24.1	17.4	18.8	21.9	18.5
預貯金の取りくずし	29.8	25.4	25.4	26.9	23.3	34.4	37.0
就労による収入	28.2	34.4	39.9	37.9	33.0	25.0	7.4
子ども等からの経済的支援	0.4	0.5	0.9	0.0	1.0	6.3	0.0
その他	1.2	1.0	2.6	2.7	3.1	0.0	7.4
わからない・考えたことがない	5.2	4.3	1.8	0.9	0.3	3.1	3.7
無回答	0.8	1.0	0.0	1.8	1.4	0.0	7.4

（注）70 歳以上は回答が僅少であったため表には掲載していない

（１３） 定年までの勤務希望（現役層）（問 14(2)）

問 14(2)では、現役層に、今の会社に定年まで勤めたいと思うかを聞いた。

① 項目別の時系列比較

過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 40 である。

過去 4 回の調査ともに、「定年まで勤めたい」の選択率が 8 割程度、逆に「定年前に退職したい」の選択率が 2 割弱で、今回調査の回答傾向に特段の変化はなかった。なお、男女別で見ると、女性の方が男性に比べ「定年前に退職したい」の割合が高くなるものの、やはり過去の調査結果と同じ傾向であった。

〔図表 40〕：定年までの勤務希望（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	定年まで勤めたい	定年前に退職したい	無回答
今回調査	81.4	17.1	1.5
第３回調査	78.4	18.6	3.0
第２回調査	80.0	14.4	5.6
第１回調査	81.0	17.0	2.0

② 定年前に退職したい場合の残りの希望勤務年数（時系列比較）

次に、問 14(2)で「定年前に退職したい」を選択した場合に、あと何年くらいで退職したいかを回答してもらった。これについて、過去 3 時点の調査もあわせて年数別にまとめたのが、図表 41 である。

この表から分かるとおり、過去 3 時点も含めて、「5 年未満」の選択率が 35%前後、「5～

10 年未満」が 25%～30%前後、「10～15 年未満」が 20%前後、「15～20 年未満」が 5%前後、「20 年以上」が数%程度であった。

また、平均年数についても、過去 3 時点と同様の 6 年前後となった。

〔図表 41〕：定年前に退職したい場合の残りの希望勤務年数（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	20 年以上	0 年	無回答	平均(年)
今回調査	37.0	24.7	20.5	5.0	2.3	0.0	10.5	6.1
第３回調査	35.0	26.1	21.8	4.2	1.4	0.0	11.5	6.1
第２回調査	36.7	30.7	17.0	4.9	0.8	1.9	8.0	5.6
第１回調査	31.0	31.0	18.2	4.0	1.0	0.0	14.9	5.8

（１４） 退職後の就業希望（現役層）（問 14(3)）

問 14(3)は、定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思うかという問である。質問項目は、「退職とともに職業生活から引退したい」から「わからない・考えたことがない」の 9 項目とした。なお、本問は今回調査で初めて設定した設問である。

① 男女別の比較（今回調査）

まず、項目別／男女別に比較したものが図表 42 である。

〔図表 42〕：退職後の就業希望（今回調査、項目別／男女別）（%）

	全体	男性	女性
退職とともに職業生活から引退したい	25.5	22.3	33.9
できれば仕事を継続したい	35.3	37.9	28.2
定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	7.7	8.7	4.9
退職後は別の企業に再就職したい	7.8	8.5	6.0
退職後は自分で事業や商売を始めたい（自由業を含む）	7.8	9.2	4.3
退職後は家業を手伝いたい	1.2	1.1	1.7
退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	6.3	5.7	8.0
その他	1.6	1.0	3.2
わからない・考えたことがない	5.9	4.7	8.9
無回答	0.9	0.9	0.9

全体で見ると、「引退したい」が 25.5%、その逆に、何らかの形で「仕事を継続したい」人が、シルバー人材センターまで含めると 66.1%であった。

男女別の相対的な選択率をみると、「退職とともに職業生活から引退したい」は女性が男性より高く、「できれば仕事を継続したい」では男性が女性より高かった。

② 年齢層別の比較（今回調査）

次に、年齢層別にまとめたものが図表 43 である。

各年齢層とも、就労意欲は概ね高い。より仔細にみると、「55～64 歳層」は「定年後も再雇用等で今の会社に勤めたい」への回答率が高く、「35～49 歳層」は「別の企業に再就職」、「自分で事業を始めたい」が高かった。

〔図表 43〕：退職後の就業希望（今回調査、項目別／年齢別）（%）

	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳
退職とともに職業生活から引退したい	28.2	20.1	20.6	22.4	32.3	28.1	40.7
できれば仕事を継続したい	30.6	37.3	32.0	41.1	35.1	40.6	33.3
定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	1.6	6.7	8.8	7.8	13.2	12.5	3.7
退職後は別の企業に再就職したい	11.7	5.7	11.8	7.3	4.2	0.0	0.0
退職後は自分で事業や商売を始めたい（自由業を含む）	10.1	10.0	10.5	8.2	3.1	0.0	0.0
退職後は家業を手伝いたい	0.8	2.9	0.4	0.9	1.4	0.0	3.7
退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	4.0	8.6	6.1	6.4	5.9	18.8	7.4
その他	2.0	1.4	1.8	0.5	2.4	0.0	0.0
わからない・考えたことがない	10.1	5.7	7.9	4.1	2.1	0.0	3.7
無回答	0.8	1.4	0.0	1.4	0.3	0.0	7.4

（注）70 歳以上は回答が僅少であったため表には掲載していない

③ 「できれば仕事を継続したい」を選択した場合の希望期間

問 14(3)では、「できれば仕事を継続したい」を選択した場合の希望勤務期間を回答してもらった。これを、項目別／男女別に比較してまとめたものが図表 44 である。

回答の過半は「元気なうちはいつまでも」であった。さらに、「満額年金受給時まで」が 3 割弱で、年齢で答える場合では 60 歳代後半が多かった。総じて、就労意欲は高い。

〔図表 44〕:「できれば仕事を継続したい」を選択した場合の希望期間（今回調査、項目別／男女別）

（%）

	全体	男性	女性
満額年金受給時まで	28.1	28.8	25.5
元気なうちはいつまでも	65.3	64.4	69.4
（　）歳まで（計）	3.5	3.7	3.1
５０歳未満	0.0	0.0	0.0
５０～５４歳	0.2	0.0	1.0
５５～５９歳	0.0	0.0	0.0
６０～６４歳	0.9	0.9	1.0
６５～６９歳	2.4	2.8	1.0
７０～７４歳	0.0	0.0	0.0
７５歳以上	0.0	0.0	0.0
年齢無回答	0.0	0.0	0.0
無回答	3.1	3.1	2.0

（１５） 過去５年間に経験したライフイベント（現役層）（問 14(4)）

問 14(4)では、現役層に、過去５年間でのライフイベントを問うた。質問項目は、今回調査で初めて設定した「親の介護」と「親との新たな同居」の二つを含め、「子どもや孫の誕生」から「いずれもない」までの 16 項目とした。

① 項目別の時系列比較（第 2 回～今回調査）

回答結果について、過去 2 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 45 である。

過去との比較でみると、今回調査では、各項目とも回答率にあまり大きな変化は見られなかった。今回調査で初めて設定した二つの項目の選択率は「親の介護」は 11.5%、「親との新たな同居」は 2.9%となった。

〔図表 45〕：過去５年間に経験したライフイベント（第 2 回～今回調査、項目別）（%）

	第２回調査	第３回調査	今回調査
子どもや孫の誕生	18.9	17.9	21.0
子どもの成人・就職	22.9	21.4	21.2
子どもや孫との別居	6.1	6.6	7.6
子どもの結婚	12.7	12.5	9.9
自分自身の入院	14.5	12.6	11.6
配偶者の入院	9.8	9.0	8.4
その他の家族の入院	22.4	26.8	28.6
配偶者の死	0.7	0.5	1.1
その他の家族の死	18.6	22.0	22.6
昇進・昇格	30.4	34.3	36.5
出向・転籍	12.5	14.2	11.2
災害等による資産の減少・経済的困難	2.3	1.3	1.3
自宅の購入・建て替え	18.4	19.1	19.0
親の介護	－	－	11.5
親との新たな同居	－	－	2.9
いずれもない	9.8	9.9	11.8
無回答	4.3	4.0	0.6

② 男女別の比較（今回調査）

次に、今回調査における項目別／男女別の比較を図表 46 にまとめた。

男女間では、自分自身および家族のいずれについても、ほぼすべての項目においてかなりの差異が認められた。その中でも、「昇進・昇格」が男性では 43.0%であるのに対し、女性では 18.7%に止まったことが特徴的であった。なお、「子どもや孫の誕生」の項目で男女に差が生じているのは、回答者の未婚率（全体中男性：36.7%、女性：63.3%）が大きく影響していると思われるが、勤労している女性の子どもを持つことの困難さを反映している可能性も考えられる。

〔図表 46〕：過去５年間に経験したライフイベント（今回調査、項目別／男女別）（%）

	全体	男性	女性
子どもや孫の誕生	21.0	23.4	14.7
子どもの成人・就職	21.2	23.9	13.5
子どもや孫との別居	7.6	8.6	4.6
子どもの結婚	9.9	9.8	10.3
自分自身の入院	11.6	12.3	10.1
配偶者の入院	8.4	9.6	5.2
その他の家族の入院	28.6	25.6	37.1
配偶者の死	1.1	0.9	1.7
その他の家族の死	22.6	21.7	25.0
昇進・昇格	36.5	43.0	18.7
出向・転籍	11.2	12.7	7.2
災害等による資産の減少・経済的困難	1.3	1.1	2.0
自宅の購入・建て替え	19.0	20.6	15.2
親の介護	11.5	10.2	14.7
親との新たな同居	2.9	3.1	2.3
いずれもない	11.8	8.7	19.8
無回答	0.6	0.6	0.6

③ 「昇進・昇格」の選択率の男女別の比較（第 2 回～今回調査）

次に、前項で男女差の大きいことが明らかとなった「昇進・昇格」の項目について、過去 2 時点の調査もあわせてまとめたものが図表 47 である。

この図表 47 によると、女性の回答率がわずかながら上向いてきたものの大勢に変わりなく、また男女差もほとんど変化が見られない。

〔図表 47〕：過去５年間に「昇進・昇格」を経験した（第２回～今回調査、男女別）（%）

	全体	男性	女性	男女差
今回調査	36.5	43.0	18.7	24.3
第３回調査	34.3	40.7	15.7	25.0
第２回調査	30.4	36.1	12.8	23.3

（１６） 定年後・退職後の就業の有無・形態（問 15(3)）

問 15(1)～(4)は、問 13 において「定年退職等を経験した人」と回答した方への設問である。

そのうち問 15(3)は、OB の、定年後・退職後の就業の有無と形態についてである。質問項目は、「退職とともに職業生活から引退した」から「その他」までの８項目とした。

その回答結果について、過去３時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 48 である。

今回調査まで、回答傾向に大きな変化は窺われない。回答者の 2～3 割が「退職とともに職業生活から引退した」。しかし、何らかの形で就労を継続した人が約６割である。

〔図表 48〕：定年後・退職後の就業の有無・形態（第１回～今回調査、項目別）（%）

	第１回調査	第２回調査	第３回調査	今回調査
退職とともに職業生活から引退した	22.0	27.8	32.0	26.9
退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた	20.5	17.4	16.5	18.1
退職後は出向先に移籍した	10.5	10.3	12.3	10.9
退職後は別の企業に再就職した	30.5	26.1	23.8	29.3
退職後は自分で事業や商売を始めた（自由業を含む）	3.4	4.0	3.3	2.5
退職後は家業を手伝うようになった	1.8	1.9	1.0	0.3
退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	1.2	2.1	2.5	1.4
その他	3.2	5.7	6.4	8.1
無回答	6.9	4.6	2.1	2.4

（１７） 定年後・退職後の生活問題（問 15(4)）

問 15(4)では、定年後または退職後から今までの生活問題を問うた。質問項目は、「経済的に苦しくなった」から「特に問題はなかった」までの 18 項目とした。

その回答結果について、過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 49 である。

この図表 49 から分かるとおり、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」、「経済的に苦しくなった」と「特に問題はなかった」が、一貫して上位を占める。さらに「今までの人的交流や情報量が減って困った」が続く。

なお、第 1 回調査以降第 3 回調査に至るまで逓増傾向にあった「再就職のことで困った」の選択率が、今回調査では減少した。一方、「特に問題はなかった」の選択率が第 1 回調査以降今回の調査に至るまで一貫して逓減傾向にある。

なお、今回新たに設定した「その他の家族の入院や死」の選択率は 11.7% 、「親との新たな同居」の選択率は 2.1 %であった。

〔図表 49〕：定年後・退職後の生活問題（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第１回調査	第２回調査	第３回調査	今回調査
経済的に苦しくなった	24.0	23.7	30.7	28.8
住宅問題で困った	2.4	2.7	3.2	2.7
自分や配偶者の健康や体力が衰えた	29.1	32.7	32.9	30.4
配偶者や親の介護が必要になった	0.0	9.9	11.1	11.4
配偶者に先立たれた	4.1	3.8	3.5	4.8
その他の家族の入院や死	－	－	－	11.7
再就職のことで困った	7.6	8.2	9.1	5.1
家族との人間関係が悪くなった	2.0	1.6	1.7	2.7
親との新たな同居	－	－	－	2.1
生活のはりや生きがいがなくなった	7.0	7.7	9.6	9.0
所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	10.7	8.2	7.9	8.9
今までの人的交流や情報量が減って困った	16.2	14.2	16.9	19.2
世の中の情報化の進展についていけず困った	－	4.1	6.0	6.5
社会から取り残されてしまった	2.3	1.5	1.9	1.7
時間をもてあました	9.9	9.6	11.6	12.0
地域社会にとけこめなかった	3.6	4.1	4.8	3.3
その他	1.3	1.0	3.1	1.1
特に問題はなかった	33.2	28.4	27.9	25.2
無回答	5.7	6.2	4.5	5.1

（１８） 定年退職へ向けて必要な個人的対応（問 16(1)）

問 16 は、全員への問である。

問 16(1)では、定年退職に向けて、個人としては定年前にどのようなことが必要と思うかを問うている。質問項目は、「健康の維持・増進を心がける」から「特に何も必要ない」までの 10 項目の中から選択してもらった。なお、前回までの調査では最大 2 つまで選択可能としていたところ、今回調査では最大 3 つまで選択可能とした。

① 項目別の時系列比較（第 1 回～今回調査）

回答結果について、過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 50 である。なお、前述のとおり今回調査では選択可能数を変更したため、ここでは選択率の値ではなく順位での比較を行う。

項目別に見ると、上位 3 項目（「健康の維持・増進を心がける」、「貯蓄・住宅など、経済基盤をつくる」、「生涯楽しめる趣味などを持つ」）は第 1 回調査から一貫して同じ順位となった。なお、下位項目では若干の順位変動が見られる。すなわち、「友人や仲間との交流を深める」が比較的大きく順位を上げており（前回 7 位→今回 5 位）、「定年後も活かせる専門的技術を身につける」が逆に大きく順位を下げている（前回 5 位→今回 8 位）。

〔図表 50〕：定年退職へ向けて必要な個人的対応（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
健康の維持・増進を心がける	1	63.2	1	61.9	1	63.1	1	78.4
貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	2	49.8	2	44.6	2	47.7	2	58.1
生涯楽しめる趣味などを持つ	3	32.8	3	30.8	3	29.6	3	46.4
夫婦・家族の関係を大切にする	5	13.4	4	17.1	4	16.4	4	35.8
友人や仲間との交流を深める	7	8.4	7	8.8	7	9.4	5	20.1
会社以外の活動の場をつくっておく	6	10.0	6	10.0	6	11.5	6	19.5
近隣や地域の人との交流を深める	8	6.0	8	5.9	8	5.3	7	13.7
定年後も活かせる専門的技術を身につける	4	13.6	5	11.7	5	12.7	8	11.8
無回答	9	1.5	9	2.5	9	1.9	9	1.2
特に何も必要ない	10	0.5	10	0.5	10	0.2	10	0.6
その他	11	0.2	11	0.1	11	0.2	11	0.3

② 年齢層別の比較（今回調査）

次に、年齢層別の比較をまとめたものが図表 51 である。

項目別に見ると、各年齢層とも「健康の維持・増進を心がける」が圧倒低首位に挙げられている。比較的低い年齢層（35～49 歳）では「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」を重視しており、一方、比較的高い年齢層（60 歳以上）では「友人や仲間との交流を深める」や「近隣や地域の人との交流を深める」を重視している傾向が窺われる。

〔図表 51〕：定年退職へ向けて必要な個人的対応（今回調査、項目別／年齢別）（%）

	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳
健康の維持・増進を心がける	75.8	77.6	82.3	83.4	82.6	78.4	76.5	72.0
貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	77.0	73.5	70.0	62.1	47.2	48.6	45.6	44.1
生涯楽しめる趣味などを持つ	44.8	43.4	44.0	44.3	49.0	49.1	50.5	47.6
夫婦・家族の関係を大切にする	38.9	38.4	35.0	31.5	37.1	37.6	33.0	38.5
友人や仲間との交流を深める	16.3	16.0	14.0	18.3	19.1	23.9	29.8	27.3
会社以外の活動の場をつくっておく	15.5	18.3	20.2	23.8	24.6	21.1	15.4	16.8
近隣や地域の人との交流を深める	8.7	9.6	8.2	12.3	13.3	20.2	20.0	21.7
定年後も活かせる専門的技術を身につける	7.5	12.8	11.1	12.8	11.0	10.6	13.7	16.8
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	1.4	2.1
特に何も必要ない	0.4	0.9	0.8	0.4	0.9	0.9	0.0	0.0
その他	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1

③ 男女別の比較（今回調査）

次に、項目別／男女別に比較したものが図表 52 である。

項目別に見ると、男性、女性ともに、「健康の維持・増進を心がける」が同程度の選択率で首位となっている。また、「夫婦・家族の関係を大切にする」の選択率は男性が女性を大きく上回っている一方で、「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」、「生涯楽しめる趣味などを持つ」、「友人や仲間との交流を深める」の選択率は女性が男性を上回っている。

〔図表 52〕：定年退職へ向けて必要な個人的対応（今回調査、項目別／男女別）（%）

	全体	男性	女性
健康の維持・増進を心がける	78.4	78.7	79.4
貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	58.1	56.9	63.5
生涯楽しめる趣味などを持つ	46.4	44.8	52.6
夫婦・家族の関係を大切にする	35.8	39.9	24.4
友人や仲間との交流を深める	20.1	18.0	26.8
会社以外の活動の場をつくっておく	19.5	19.3	20.8
近隣や地域の人との交流を深める	13.7	14.4	11.9
定年後も活かせる専門的技術を身につける	11.8	13.2	8.1
無回答	1.2	0.4	0.8
特に何も必要ない	0.6	0.7	0.0
その他	0.3	0.3	0.0

（１９） 定年退職へ向けて準備している（していた）こと（問 16(1)付問）

問 16(1)の付問では、定年退職に向けて、実際に準備したり心がけたりしている（していた）ことについて回答してもらった。質問項目は問 16(1)と同じく、「健康の維持・増進を心がける」から「特に何も必要ない」までの 10 項目である。ただし、選択可能数は問 16(1)とは異なり、過去 3 時点の調査と同様無制限とした。

① 項目別の時系列比較（第 1 回～今回調査）

回答結果について、過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 53 である。

図表 53 のとおり、選択率の上位 5 つ（「健康の維持・増進を心がける」、「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」、「生涯楽しめる趣味などを持つ」、「夫婦・家族の関係を大切にする」、「友人や仲間との交流を深める」）は、第 1 回調査から、多少の順位変動を伴うが、すべて同じ項目となった。

〔図表 53〕：定年退職へ向けて準備している（していた）こと（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第１回調査	第２回調査	第３回調査	今回調査
健康の維持・増進を心がける	62.0	67.3	61.7	66.0
貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	53.1	52.8	47.9	51.4
生涯楽しめる趣味などを持つ	42.5	43.5	37.3	39.4
定年後も活かせる専門的技術を身につける	13.5	12.6	11.9	8.8
夫婦・家族の関係を大切にする	30.4	37.9	30.7	40.3
友人や仲間との交流を深める	30.6	33.1	27.4	32.3
近隣や地域の人との交流を深める	16.3	16.7	13.3	16.3
会社以外の活動の場をつくっておく	13.7	15.0	11.5	15.0
その他	0.9	0.8	1.2	1.0
特に何も必要ない	6.0	4.5	5.7	4.5
無回答	4.9	3.0	2.9	2.6

② 男女別の比較（今回調査）

次に、項目別／男女別にまとめたものが図表 54 である。

項目別に見ると、男性、女性ともに、「健康の維持・増進を心がける」の項目が同程度の選択率で首位となっている。男女別の相対的特徴は、定年前に必要と思うことへの回答とほぼ同じである。定年前に必要と思うことに対し、実際に心がけていることをみると、男女とも夫婦、友人、近隣の人など、人的交わりへの回答率が高くなっている。

〔図表 54〕：定年退職へ向けて準備している（していた）こと（今回調査、項目別／男女別）（%）

	全体	男性	女性
健康の維持・増進を心がける	66.0	66.4	66.5
貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	51.4	49.5	58.5
生涯楽しめる趣味などを持つ	39.4	39.5	40.1
定年後も活かせる専門的技術を身につける	8.8	9.3	7.5
夫婦・家族の関係を大切にする	40.3	45.1	26.8
友人や仲間との交流を深める	32.3	30.4	39.1
近隣や地域の人との交流を深める	16.3	16.9	15.1
会社以外の活動の場をつくっておく	15.0	15.3	14.5
その他	1.0	0.9	1.0
特に何も必要ない	4.5	5.0	3.2
無回答	2.6	1.9	2.0

（２０） 定年退職へ向けて必要な企業の対応（問 16(2)）

問 16(2)では、定年退職に向けて、企業としては、どのような条件の整備が必要と思うかを問うた。質問は、「退職準備教育や退職相談を充実させる」から「特に何も必要ない」までの 11 項目である。なお、前回までの調査では最大 2 つまで選択可能としていたところ、今回調査では無制限に選択可能とした。

① 項目別の時系列比較（第 1 回～今回調査）

回答結果について、過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 55 である。なお、前述のとおり今回調査では選択可能数を変更したため、選択率の値ではなく順位での比較を行った。

4 回の調査ともに、「企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる」が第 1 位、

「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」が第２位となった。それ以下の項目も、順位の大きな変動はなかった。なお、今回新たに設定した「退職に向けたセミナーの充実」の選択順位は５位であった。

〔図表 55〕：定年退職へ向けて必要な企業の対応（第１回～今回調査、項目別）（%）

	第１回調査		第２回調査		第３回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる	1	53.0	1	46.1	1	42.0	1	51.5
定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	2	29.9	2	28.4	2	31.8	2	48.8
希望者には定年年齢を延長させる	4	22.3	4	25.0	3	26.9	3	44.5
退職準備教育や退職相談を充実させる	3	22.5	3	25.7	4	23.4	4	34.0
退職に向けたセミナーの充実	－	－	－	－	－	－	5	25.6
労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	5	20.4	6	15.7	6	14.0	6	25.4
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	6	15.2	5	17.2	5	17.2	7	22.7
社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	7	9.3	7	8.9	7	9.5	8	16.5
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	8	5.6	8	5.8	8	6.5	9	11.6
特に何も必要ない	10	1.7	10	2.6	9	4.2	10	4.0
無回答	9	3.9	9	5.1	10	2.8	11	1.7
その他	11	0.4	11	0.4	11	0.9	12	1.0

② 年齢層別の比較（今回調査）

次に、項目別／年齢層別に比較してまとめたものが図表 56 である。

項目別に見ると、比較的低い年齢層では「労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる」を重視しており、一方、比較的高い年齢層では「希望者には定年年齢を延長させる」「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」を重視している傾向が窺われる。

〔図表 56〕：定年退職へ向けて必要な企業の対応（今回調査、項目別／年齢層別）（%）

	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳
退職準備教育や退職相談を充実させる	33.3	36.5	39.1	37.0	32.2	32.6	33.3	32.9
企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる	60.3	55.3	47.7	50.2	42.6	49.1	56.1	60.8
労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	40.5	29.7	27.6	26.8	24.6	17.0	21.4	12.6
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	16.7	21.5	21.0	23.4	21.7	21.1	31.6	25.9
希望者には定年年齢を延長させる	37.3	35.2	43.2	43.0	44.3	55.5	51.6	48.3
定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	41.7	47.0	46.1	51.1	51.0	57.3	52.3	42.7
社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	13.9	16.4	18.1	19.1	18.0	16.1	16.5	15.4
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	8.3	11.4	10.7	14.5	15.7	9.6	11.6	9.8
退職に向けたセミナーの充実	25.0	26.9	27.2	29.8	29.3	24.3	21.4	21.7
その他	1.6	0.9	0.4	0.4	1.2	0.9	0.7	2.1
特に何も必要ない	1.6	5.5	4.1	3.4	4.3	5.0	3.9	4.2
無回答	0.4	0.0	0.4	0.0	1.2	0.0	1.4	5.6

③ 男女別の比較（今回調査）

次に、項目別／男女別に比較してまとめたものが図表 57 である。

「労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる」で、女性の選択率が男性のそれを上回っていることが目立つ。

〔図表 57〕：定年退職へ向けて必要な企業の対応（今回調査、項目別／男女別）（%）

	全体	男性	女性
退職準備教育や退職相談を充実させる	34.0	36.0	29.2
企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる	51.5	54.3	44.8
労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	25.4	24.5	28.6
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	22.7	22.7	23.2
希望者には定年年齢を延長させる	44.5	45.2	43.8
定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	48.8	50.6	44.8
社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	16.5	16.7	16.5
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	11.6	12.3	9.9
退職に向けたセミナーの充実	25.6	26.2	24.4
その他	1.0	0.9	1.2
特に何も必要ない	4.0	4.0	3.8
無回答	1.7	0.7	1.8

（２１） 定年退職へ向けて必要な社会的対応（問 16(3)）

問 16(3)では、定年退職に向けて、社会としては、どのような条件の整備が必要と思うかという設問である。質問項目は、「できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」から「特に何も必要ない」までの 8 つである。なお、前回までの調査においては最大 2 つまで選択可能としていたところ、今回調査では無制限に選択可能とした。

① 項目別の時系列比較（第 1 回～今回調査）

回答結果について、過去 3 時点の調査もあわせてまとめたものが、図表 58 である。なお、前述のとおり今回調査では選択可能数を変更したため、選択率の値ではなく順位での比較を行った。

この表から分かるとおり、今回調査では「定年退職者の能力を活かす場を増やす」が第 1 位、「できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」が第 2 位となり、前回までの調査とは 1 位、2 位の入れ替わった点が特徴的と言える。継続雇用制度の導入進捗が反映しているのかもしれない。その他項目では、過去の調査結果と比較して大きな順位の変動はなかった。

〔図表 58〕：定年退職へ向けて必要な社会的対応（第 1 回～今回調査、項目別）（%）

	第 1 回調査		第 2 回調査		第 3 回調査		今回調査	
	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率	順位	選択率
定年退職者の能力を活かす場を増やす	2	47.8	2	43.8	2	47.5	1	59.1
できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	1	50.9	1	52.0	1	49.9	2	57.7
趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	3	24.1	3	26.2	3	24.8	3	37.2
中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	4	18.6	4	20.5	4	20.0	4	28.1
退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	5	17.9	5	13.5	5	15.1	5	23.2
サラリーマン OB が出入りできる交流の場をつくる	6	16.3	6	13.3	6	9.8	6	20.5
特に何も必要ない	8	1.1	8	2.0	7	3.1	7	3.0
その他	9	0.4	9	0.7	9	1.1	8	2.1
無回答	7	3.8	7	4.9	8	2.4	9	1.8

② 年齢層別の比較（今回調査）

次に、項目別／年齢層別にまとめたものが図表 59 である。

項目別に見ると、比較的高い年齢層が「できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」「サラリーマン OB が出入りできる交流の場をつくる」を重視している傾向が窺われる。その他の項目では、年齢層別で際立った特徴は見受けられない。

〔図表 59〕：定年退職へ向けて必要な社会的対応（今回調査、項目別／年齢層別）（%）

	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳
できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	53.2	52.5	51.9	55.3	58.3	68.3	63.5	61.5
定年退職者の能力を活かす場を増やす	60.3	55.7	53.1	63.8	60.9	63.3	60.4	55.9
サラリーマン OB が出入りできる交流の場をつくる	16.7	14.6	15.6	17.0	16.2	23.9	29.8	39.2
趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	32.5	30.6	34.2	44.3	40.9	38.5	37.5	43.4
中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	20.6	21.5	33.3	31.5	34.8	22.9	29.8	28.7
退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	22.6	30.6	21.0	24.3	21.2	22.5	25.3	21.0
その他	4.8	2.3	4.1	1.3	1.2	0.9	0.4	2.8
特に何も必要ない	2.0	4.6	3.7	1.7	4.1	0.9	2.5	4.2
無回答	1.6	0.5	0.0	1.7	1.2	0.0	1.1	4.2

３．配偶者調査の結果報告

このアンケート調査では、基金の加入者・受給者である本人宛に実施すると共に、その家族関係への考慮から本人の配偶者にもアンケート調査を実施している。但し質問数は、本人調査の三分の一程度となっている。

（１） 主要な基本属性（配偶者調査）

アンケート対象者の主要な基本属性は以下の図表（60、61）の通り。

① 性・年齢

〔図表 60〕【配偶者調査】性・年齢

	標本数	性別小計		34 歳以下	35～44 歳	45～54 歳	55～64 歳	65～74 歳	75 歳以上	年齢無回答	性別無回答
今回調査	1,519	男性	14.7	0.6	3.1	3.8	4.2	2.6	0.5	0.0	0.6
		女性	84.7	4.8	19.4	22.0	26.5	11.4	0.6	0.0	
第 3 回調査	2,525	男性	13.2	0.1	2.1	3.4	3.6	3.2	0.6	0.1	1.9
		女性	85.0	4.0	18.2	23.6	27.2	11.1	0.3	0.5	
第 2 回調査	2,430	男性	9.9	0.2	1.8	3.0	2.3	2.1	0.3	0.2	1.8
		女性	88.3	4.5	17.9	24.4	29.4	10.9	0.2	0.9	
第 1 回調査	2,573	男性	10.5	0.1	2.3	2.9	3.0	1.7	0.2	0.3	0.1
		女性	89.3	3.9	22.4	23.9	27.5	10.1	0.1	1.4	

② 職業状況・形態

〔図表 61〕【配偶者調査】就業状況・形態

	標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	無職	その他	無回答
今回調査	1,519	18.1	23.5	2.8	0.9	0.1	46.9	2.9	4.7
第 3 回調査	2,525	14.2	23.6	4.5	2.3	0.2	40.6	6.8	7.8
第 2 回調査	2,430	15.9	22.3	4.1	3.1	0.5	36.6	9.8	7.7
第 1 回調査	2,573	13.9	21.4	5.1	4.3	0.1	52.6	＊	2.6

（注）＊は第 2 回調査で新たに追加された回答肢

まず、配偶者調査を分析する上で、ポイントとなる基本属性について図表 62 で確認すると、女性の構成割合が 84.7%と非常に高く（男性は 14.7%）、また、就業別では無職層の割合が 46.9%とほぼ半分を占めている。この基本属性の特徴を考慮し、配偶者調査結果については、必要に応じ男女別や無職層の回答率・選択率についても触れながら進めていく。なお、無職層における男女比率は、男性 7.0%、女性 92.7%、性別無回答 0.3%となっている。

〔図表 62〕本人調査、配偶者調査の基本属性（男女の構成割合他）（標本割合は%）

	本人調査				配偶者調査				
	全体	男性	女性	性別無回答	全体	男性	女性	性別無回答	無職
標本数	1,992	1,482	496	14	1,519	224	1,286	9	713
標本割合	100.0	74.4	24.9	0.7	100.0	14.7	84.7	0.6	46.9

（２） 地域活動やボランティアなどへの参加状況（問 2）

問 2 では、地域活動やボランティアなどへの参加状況について、「定期的に参加している」から「参加していない」まで 4 段階で回答してもらった。

今回調査の結果を本人調査結果とともにまとめたものが図表 63 である。まず全体で、本人調査と配偶者調査を比較すると、配偶者の方が、参加状況が良いことが分かる（「定期的に参加」が本人調査を上回っており、また「参加していない」が下回っている）。

また、男女別に本人調査と配偶者調査を比較した場合、配偶者の女性の参加率（「定期に参加」13.9%）が、本人調査の女性の参加率（同 6.7%）を大きく上回っていることが分かる。

〔図表 63〕地域活動やボランティアなどへの参加状況（%）

	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
定期的に参加	11.4	13.0	6.7	14.2	16.5	13.9	16.0
ときどき参加	14.4	15.3	11.9	14.2	8.0	15.2	13.3
以前に参加	9.5	9.8	8.3	12.8	8.5	13.7	11.4
参加していない	58.5	56.1	65.9	55.7	64.3	54.5	56.5
無回答	6.1	5.8	7.3	3.1	2.7	2.7	2.8

（３） どのような分野の活動か

問 2 付問 1 では、地域活動やボランティアなどに参加している人に、どのような分野の活動に参加しているかを「地域の生活環境を守る活動」から「その他」までの 11 項目から選択してもらった（選択はいくつでも可とした）。今回調査の結果を本人調査とともにまとめたものが、図表 64 である。

配偶者調査においても本人調査と同様に、「地域や生活環境を守る活動」の選択率が最も高く（34.1%）、続いて「地域のイベントや“村おこし”の活動」（28.8%）となっている。

本人調査との比較においては、配偶者調査での「児童や青少年活動の世話役としての活動」の選択率が 27.4%（3 位）と本人調査の 15.3%（4 位）を大きく上回り、特に女性や無職層の選択率（それぞれ 28.6%、31.1%）が高くなっていることが特徴として挙げられる。

〔図表 64〕どのような分野の活動か（%）

項　目	本人調査				配偶者調査				
	全体		男性	女性	全体		男性	女性	無職
	順位	選択率	選択率	選択率	順位	選択率	選択率	選択率	選択率
地域の生活環境を守る活動	1	42.7	43.8	39.1	1	34.1	43.6	32.6	31.1
地域のイベントや“村おこし”の活動	2	29.5	29.5	29.3	2	28.8	38.2	27.5	28.2
趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	3	23.7	24.8	18.5	4	22.3	20.0	22.7	28.2
児童や青少年活動の世話役としての活動	4	15.3	14.0	20.7	3	27.4	18.2	28.6	31.1
障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	5	12.6	12.1	15.2	5	16.2	1.8	18.4	18.7
その他	6	11.7	12.1	9.8	6	8.6	10.9	8.3	7.7
地域の文化財や伝統を守る活動	7	10.1	11.0	5.4	9	4.9	9.1	4.3	5.3
自然保護や環境保全の活動	8	9.3	8.8	12.0	8	6.7	7.3	6.7	6.7
行政の委員・民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	9	8.0	7.9	6.5	7	7.9	14.5	7.0	9.1
消費者活動や生活向上のための活動	10	2.3	1.9	4.3	10	4.4	5.5	4.3	4.3
国際交流に関する活動	11	1.9	1.9	2.2	11	1.2	5.5	0.5	0.5
無回答	12	0.4	0.5	0.0	12	0.2	1.8	0.0	0.0

（4） 活動に参加した理由

次に問 2 付問 2 では、地域活動やボランティアなどに参加している人に、活動に参加した理由は何か、「地域や社会に貢献したい」から「その他」まで 10 項目から選択してもらった（選択は 3 つまでとした）。これを本人調査とともにまとめたものが図表 65 である。

配偶者調査においても本人調査と同様に、「地域や社会に貢献したい」の選択率が最も高く（49.0%）となっている。次に、配偶者調査では「友人や仲間を増やしたい」の選択率が高く（32.7%、2 位）、本人調査（22.1%、4 位）を大きく上回っている。この「友人や仲間を増やしたい」を選択する割合は、女性の方が男性よりも大きいことが本人調査・配偶者調査の両方から窺える。

〔図表 65〕活動に参加した理由

項　目	本人調査				配偶者調査				
	全体		男性	女性	全体		男性	女性	無職
	順位	選択率	選択率	選択率	順位	選択率	選択率	選択率	選択率
地域や社会に貢献したい	1	56.5	57.1	52.2	1	49.0	61.8	47.3	47.8
社会人として当然と思った	2	23.9	25.5	16.3	6	17.9	30.9	16.0	15.8
身近な人に誘われた	3	22.9	22.4	26.1	3	27.8	30.9	27.5	28.7
友人や仲間を増やしたい	4	22.1	21.2	26.1	2	32.7	14.5	35.3	36.8
自分の知識や経験を活かしたい	5	21.7	22.6	17.4	4	21.6	20.0	21.7	22.0
生活にはりあいを持たせたい	6	21.2	20.2	25.0	5	20.6	12.7	21.9	29.7
社会への見聞を広げたい	7	14.0	13.1	17.4	7	14.6	12.7	15.0	17.2
その他	8	9.9	9.3	13.0	8	7.0	1.8	7.8	6.7
会社の進めや命令	9	4.9	5.5	2.2	9	2.6	5.5	2.1	0.5
何となく	10	1.2	1.2	1.1	11	0.9	0.0	1.1	1.4
無回答	11	0.0	0.0	0.0	10	1.6	1.8	1.6	1.0

（５） 活動に参加していない理由

問 2 付問 3 では、現在地域活動やボランティアに参加していない人に、その理由を「時間がない」から「その他」まで 10 項目の中から選択してもらった（選択は 3 つまでとした）。今回調査の結果を本人調査とともにまとめたものが図表 66 である。

配偶者調査においても本人調査と同様に、「時間がない」の選択率が最も高い（48.2%）。次に、本人調査との対比でみると、配偶者調査では「健康や体力に自信がない」の選択率が 17.7%と高く順位も 5 位と本人調査（同 10.7%、7 位）を上回っている。特にこの傾向は、女性や無職層に顕著である。

〔図表 66〕活動に参加していない理由（%）

項　目	本人調査				配偶者調査				
	全体		男性	女性	全体		男性	女性	無職
	順位	選択率	選択率	選択率	順位	選択率	選択率	選択率	選択率
時間がない	1	41.3	38.5	48.9	1	48.2	55.2	46.9	28.5
何から始めるか、きっかけがない	2	40.8	41.6	39.4	2	29.1	25.8	29.8	31.6
精神的なゆとりがない	3	23.8	20.4	32.6	3	20.5	20.2	20.5	19.0
興味がない	4	21.3	23.3	16.0	5	17.7	25.2	16.3	18.4
自分にあった活動の場がない	5	20.2	21.9	15.2	4	18.1	17.2	18.2	22.1
いっしょにやる仲間がいない	6	12.6	13.8	9.5	8	7.2	8.0	7.1	7.4
健康や体力に自信がない	7	10.7	8.9	15.2	5	17.7	10.4	18.9	25.6
経済的余裕がない	8	9.7	9.9	9.2	7	8.9	6.1	9.5	7.2
その他	9	3.9	3.8	4.1	9	5.6	1.8	6.3	8.1
無回答	10	3.0	3.0	2.7	10	2.6	1.8	2.7	3.5
家族などの周囲の理解が得られない	11	1.6	1.6	1.6	11	1.2	0.0	1.5	1.4

（６） 今後の意向

問 2 付問 4 では、現在地域活動やボランティアに参加していない人に、今後の意向を「積極的に参加したい」から「わからない」まで 4 項目の中から回答してもらった。今回調査の結果を本人調査とともにまとめたものが図表 67 である。

本人調査と配偶者調査の比較において特徴的なこととしては、配偶者調査での「積極的に参加したい」や「条件によっては参加してもよい」の回答率（それぞれ 2.8%、52.2%）がともに本人調査（4.4%、60.8%）を下回っており、特に男性の回答率が低い（それぞれ 2.5%、49.1%）ことが挙げられる。また、配偶者調査での「わからない」の回答率は 26.7%と本人調査の 19.7%を上回っている。

〔図表 67〕今後の意向（%）

項　目	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
積極的に参加したい	4.4	4.2	4.9	2.8	2.5	2.9	2.7
条件によっては参加してもよい	60.8	62.2	58.4	52.2	49.1	52.8	49.2
参加するつもりはない	14.2	14.9	12.2	16.0	23.3	14.6	18.2
わからない	19.7	17.9	24.2	26.7	22.1	27.6	27.7
無回答	0.8	0.8	0.3	2.3	3.1	2.2	2.3

（7） 生活の満足度

問 3 では、現在の生活の満足度を 12 項目において、「十分満たされている」から「まったく欠けている」まで 5 段階で回答してもらった。今回調査の結果を本人調査とともにまとめたものが図表 68 である。なお、ここでは、本人調査と同様に満足度 DI[5]を利用した。

配偶者調査において満足度 DI が最も高かったものは、本人調査と同様に「家族の理解・愛情」（73.2 ポイント）で、次に「友人・仲間」（63.5 ポイント）が続いている。一方で満足度 DI が低かったのは、「社会の役に立つこと」や「社会的地位」で、ともに満足度 DI がマイナスとなっている・

次に本人調査と配偶者調査を比較すると、「時間的ゆとり」「仕事のはりあい」「社会的地位」「近隣との交流」の 4 項目で、満足度 DI に比較的大きな乖離が見られた。特に「社会的地位」における満足度 DI では、配偶者調査の方が 28.1 ポイントも下回っている。一方、「近隣との交流」における満足度 DI では、配偶者調査の方が 25.2 ポイントも上回っている。

〔図表 68〕満足度 DI 比較①（ポイント）

	本人調査	配偶者調査	乖離
健康	47.5	45.7	1.8
時間的ゆとり	32.4	24.0	8.4
経済的ゆとり	26.0	32.4	−6.4
精神的ゆとり	26.9	31.0	−4.1
家族の理解・愛情	70.2	73.2	−3.0
友人・仲間	56.0	63.5	−7.5
熱中できる趣味	29.3	24.5	4.8
仕事のはりあい	32.1	19.9	12.2
社会的地位	23.8	−4.3	28.1
自然とのふれあい	14.0	13.7	0.3
近隣との交流	−10.3	14.9	−25.2
社会の役に立つこと	−20.4	−16.5	−3.9
平均	27.3	26.8	0.5

次に、本人調査と配偶者調査の満足度 DI の乖離が比較的大きかった上記 4 項目について、男女別に比較したものが、図表 69 である

項目別に見ると、「時間的ゆとり」については、配偶者調査の男性の満足度 DI が 8.9 ポイントと本人調査における男性の満足度 DI（36.3 ポイント）を大きく下回っていることが分かる。これは働く女性を配偶者に持つ男性の特徴と言えるであろう。次に、「仕事のはりあい」については、配偶者調査の女性、とりわけ無職の満足度が低くなっている。「社会的地位」に

5 「健康」や「時間的ゆとり」等の項目ごとに、「十分満たされている」と「まあ満たされている」の回答率の合計から「やや欠けている」と「まったく欠けている」の合計値を差し引き、それを「満足度 DI」と定義した。

ついては、本人調査の男性のみが高く（満足度 DI は 30.6 ポイント）、その他は総じて低くなっている。また、「近隣との交流」については、本人調査の男性・女性及び配偶者調査の男性の満足度 DI がマイナスの値となっており、総じて満足度は低くなっている。

〔図表 69〕満足度 DI 比較②（ポイント）

	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
時間的ゆとり	32.4	36.3	20.7	24.0	8.9	26.6	48.6
仕事のはりあい	32.1	35.5	21.6	19.9	21.8	19.8	-3.2
社会的地位	23.8	30.6	3.8	-4.3	8.0	-6.3	-16.4
近隣との交流	-10.3	-12.0	-5.9	14.9	-13.4	20.0	28.3

（８） 生きがいの意味

配偶者調査の問 4 では、生きがいの意味について、「生活の活力やはりあい」から「その他」まで 10 項目から選択してもらった（選択は 2 つまでとした）。今回調査の結果を本人調査とともにまとめたものが図表 70 である。

配偶者調査においても本人調査と同様に、「生きる喜びや満足感」の選択率が最も高く（42.3%）、続いて「生活の活力やはりあい」「心の安らぎや気晴らし」が続く結果となっている。なかでも女性や無職層の「心の安らぎや気晴らし」の選択率が高い。

〔図表 70〕生きがいの意味（%）

項　目	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
生きる喜びや満足感	42.2	41.0	46.0	42.3	37.1	43.3	41.5
生活の活力やはりあい	29.8	29.7	30.4	31.8	27.2	32.7	34.6
心の安らぎや気晴らし	24.4	24.6	24.2	29.6	22.3	31.0	31.4
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	22.1	22.9	20.2	17.3	23.2	16.4	14.6
生きる目標や目的	20.7	20.6	21.0	22.9	29.0	21.9	19.2
自分自身の向上	14.3	12.8	18.8	15.9	17.9	15.7	16.3
他人や社会の役に立っていると感じること	13.7	14.8	10.1	10.7	12.9	10.4	11.4
生活のリズムやメリハリ	10.7	10.3	11.7	10.9	8.0	11.4	11.2
人生観や価値観の形成	8.0	8.7	6.3	6.3	8.0	6.1	6.2
無回答	2.9	2.8	2.6	1.3	0.9	0.9	1.4
その他	1.2	1.1	1.0	1.0	0.4	1.1	1.4

（９） 生きがいの有無

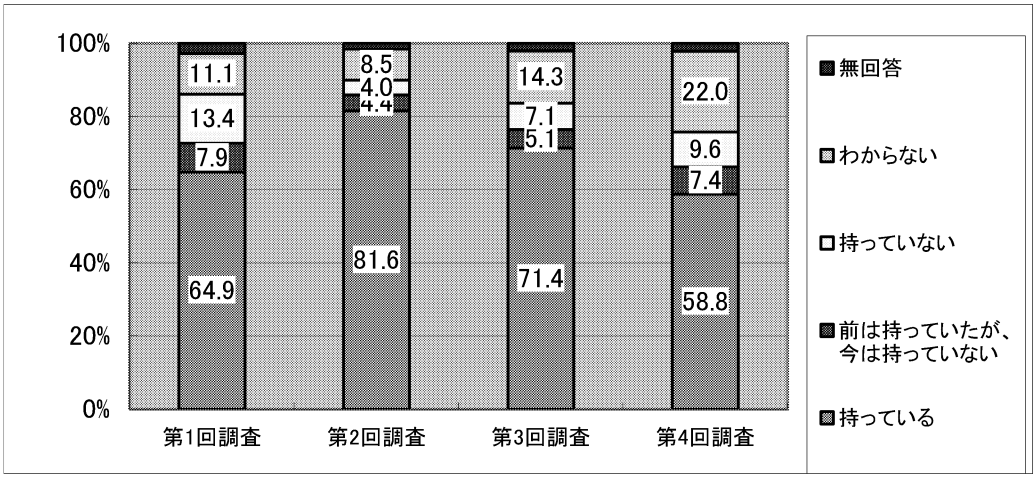
問４付問では、生きがいの保有状況について、「持っている」から「わからない」までの４項目から回答してもらった。その結果を第１回調査から今回調査までをまとめたものが図表71、72である。

時系列比較においては、生きがいを「持っている」と答えた割合（以下「生きがいの保有率」）が第２回調査の81.6%をピークに、第３回（71.4%）、今回（58.8%）と減少を続けている。これは本人調査の結果と同様である。

〔図表71〕 生きがいの保有状況①（第１回調査～今回調査）（%）

	第１回調査	第２回調査	第３回調査	第４回調査
持っている	**64.9**	**81.6**	**71.4**	**58.8**
前は持っていたが、今は持っていない	7.9	4.4	5.1	7.4
持っていない	13.4	4.0	7.1	9.6
わからない	11.1	8.5	14.3	22.0
無回答	2.8	1.6	2.1	2.2

〔図表72〕生きがいの保有状況②（第１回調査～今回調査）（%）



次に、今回調査の結果を、本人調査とともに男女別にまとめたものが図表73である。この図表から、男女別には大きな特徴は見当たらない。

〔図表 73〕生きがいの保有状況③（今回調査）（%）

	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
持っている	56.9	57.3	55.8	58.8	58.5	59.2	60.4
前は持っていたが、今は持っていない	7.8	7.4	9.1	7.4	9.8	6.9	9.0
持っていない	13.1	13.8	11.1	9.6	7.1	10.1	8.3
わからない	18.3	17.9	20.0	22.0	22.8	21.9	20.3
無回答	4.0	3.7	4.0	2.2	1.8	1.9	2.0

（１０） 生きがいの対象

問 5 では、生きがいの対象を「仕事」から「その他」まで 13 の項目から選択してもらった（選択は 3 つまでとした)。今回調査を本人調査とともにまとめたものが図表 74 である。

配偶者調査においても本人調査と同様に、「子ども・孫・親などの家族・家庭」の選択率が最も高く（56.9%)、次に「趣味」(37.9%）が続いている。一方、「仕事」の選択率については 16.9%と、本人調査に比べ 10 ポイント程度低く、その傾向は女性や無職層に顕著に現れている。また、配偶者調査で女性の選択率が高かった項目として「子ども・孫・親などの家族・家庭」や「友人など家族以外の人との交流」が挙げられる。

〔図表 74〕生きがいの対象（%）

項　目	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
子ども・孫・親などの家族・家庭	53.7	55.7	48.8	56.9	39.7	60.3	59.7
趣味	41.6	40.4	45.2	37.9	39.3	37.9	42.1
仕事	27.1	29.6	20.0	16.9	32.6	14.2	1.7
配偶者・結婚生活	23.2	26.5	13.5	28.4	30.8	28.1	28.8
友人など家族以外の人との交流	18.8	14.9	30.6	25.7	10.3	28.5	28.9
自分自身の健康づくり	16.2	15.9	17.3	14.5	14.3	14.6	16.7
スポーツ	16.1	18.5	9.1	9.7	14.7	8.9	9.7
自然とのふれあい	15.6	16.0	13.9	15.1	19.6	14.5	16.0
自分自身の内面の充実	13.2	10.6	20.8	15.5	15.6	15.6	15.1
ひとりで気ままにすごすこと	12.3	12.0	13.3	13.2	17.4	12.6	14.2
社会活動	6.1	6.7	4.2	5.3	6.3	5.1	6.2
学習活動	3.1	3.2	2.8	3.5	3.1	3.6	4.8
無回答	3.2	3.0	3.0	1.2	0.4	0.9	1.1
その他	1.3	1.1	1.4	0.9	0.0	1.0	0.7

（１１） 生きがいの場

問 6 では、生きがいの場について 9 項目ごとに、「家庭」から「どこにもない」の 7 項目から選択してもらった（選択は 2 つまでとした）。今回調査の結果を本人調査とともにまとめたものが図表 75 である。

本人調査と配偶者調査との比較で特徴的なことは、配偶者調査では生きがいの場として「家庭」の選択率が極めて高く、一方本人調査では、「仕事」の選択率が高いことが挙げられる。

〔図表 75〕生きがいの場（%）

	家庭		仕事		地域・近隣		個人的友人		世間・社会		その他		どこにもない	
	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
生活のはりあいや活力	67.4	78.1	44.5	23.5	5.9	8.2	19.1	24.5	6.0	4.7	5.0	5.0	1.0	1.0
生活のリズムやメリハリ	45.6	59.6	60.1	33.4	6.4	11.1	13.2	16.8	9.4	8.6	4.4	5.3	1.7	1.6
心の安らぎや気晴らし	77.6	76.5	4.7	3.2	5.0	5.1	35.9	41.7	3.7	3.2	11.6	11.7	1.1	1.4
喜びや満足感	66.0	75.8	33.9	16.6	5.2	7.2	22.5	23.2	5.1	4.2	9.5	10.0	1.7	1.8
人生や価値観に影響	36.0	53.7	38.5	18.4	6.7	7.5	29.4	33.0	23.5	19.2	7.1	8.8	2.8	2.1
生活の目標や目的	67.7	77.8	36.8	17.0	4.7	7.4	5.8	6.0	14.1	14.0	7.9	9.1	1.6	1.7
自分自身の向上	22.0	38.6	61.5	32.9	9.2	14.4	14.2	16.7	27.3	23.0	6.3	9.1	2.8	3.5
可能性の実現、やりとげ感	22.0	40.9	66.8	36.3	8.8	12.7	6.2	8.1	18.4	14.7	9.7	12.5	3.8	5.6
役に立つ、評価を得る	37.8	58.2	64.1	33.9	11.7	15.1	8.3	11.1	11.6	9.2	4.8	6.9	4.0	4.1
(平均)	49.1	62.1	45.7	23.9	7.1	9.9	17.2	20.1	13.2	11.2	7.4	8.7	2.3	2.5

（１２） 日頃の配偶者との関係における満足度（問 7）

問 7 では、日頃の配偶者との関係に対する満足度を 10 項目において、4 段階で回答してもらった（一部に「非該当」の項目あり）。なお、ここでも、本人調査と同様に「満足度 DI」を利用した。

本人調査と配偶者調査を比較すると、本人／配偶者の関係は全体としてみれば概ね良好と言ってよいだろう。但し、「配偶者は自分のことを応援してくれる」「配偶者は金銭的にうるさい」「配偶者は自分によりかかりすぎる」「配偶者にもっと家事をして欲しい」の 4 項目で、満足度 DI に若干の乖離が見られた。特に「配偶者にもっと家事をして欲しい」の満足度は、本人調査の満足度 DI を大きく下回っていることが分かる。

〔図表 76〕：日頃の配偶者との関係における満足度 DI 比較①（ポイント）

		本人調査	配偶者調査	乖離
A	配偶者は自分のことを応援してくれる	85.0	71.9	13.1
B	自分は配偶者の良き理解者である	69.1	65.9	3.2
c	配偶者と価値観・考え方が似ている	14.6	12.1	2.5
d	よく一緒に出かける	44.4	38.8	5.6
e	会話がある	65.4	59.4	6.0
f	配偶者は自分を自由にさせてくれる	75.2	77.7	-2.5
g	配偶者は自分の親を大切にしてくれない	49.0	42.9	6.2
h	配偶者は金銭的にうるさい	55.5	64.6	-9.1
I	配偶者は自分によりかかりすぎる	50.6	60.0	-9.4
J	配偶者にもっと家事をして欲しい	53.8	18.8	35.0

（注）ポジティブな内容の a～f の 6 項目に対して「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計値を満足度数とし、「あまりそうでない」と「まったく違う」の合計値を当該満足度数から差し引いた数値として満足度 DI を作成した。なお、ネガティブな内容の g～j の 4 項目に対しては、「あまりそうではない」と「まったく違う」の合計を満足度数として算出している。

次に、本人調査と配偶者調査の満足度 DI の乖離が大きかった上記 4 項目について、男女別に比較したものが、図表 77 である。

とりわけ「配偶者にもっと家事をして欲しい」の項目では、女性の満足度は本人調査と配偶者調査双方において男性より相当低い。勤労しているかいないかに関わらず、女性に家事の負担が偏っていることがその背景にあるように窺われる。

〔図表 77〕：日頃の配偶者との関係における満足度 DI 比較①（ポイント）

		本人調査			配偶者調査			
		全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
a	配偶者は自分のことを応援してくれる	85.0	86.8	74.4	71.9	76.8	71.6	71.0
h	配偶者は金銭的にうるさい	55.5	52.4	72.8	64.6	48.7	67.6	68.6
i	配偶者は自分によりかかりすぎる	50.6	53.4	36.8	60.0	70.1	58.7	58.2
j	配偶者にもっと家事をして欲しい	53.8	62.2	9.6	18.8	52.8	13.1	18.1

（１３） お子さまとの関係における満足度（問 8）

問 8 では、日頃の子どもとの関係に対する満足度を 2 項目において、4 段階で回答してもらった。なお、ここでも、本人調査と同様に「満足度 DI」を利用した。

項目別に見ると、「子育てはうまくいっている、うまくいった」では、本人調査と配偶者調査、男性と女性のいずれもあまり差は見られなかったが、「子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている」では大きな違いが出た。本人調査でも女性の満足度 DI は男性を上回ったが、配偶者調査ではその差がさらに大きく広がる結果となった。

〔図表 78〕：お子さまとの関係における満足度 DI 比較（ポイント）

	本人調査			配偶者調査			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	無職
子育てはうまくいっている、うまくいった	67.6	67.4	69.0	64.8	66.4	64.5	64.3
子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている	46.3	43.7	59.3	81.3	32.8	88.4	89.6

(注)「まったくそのとおり」と「まあそのとおり」の合計値を満足度数とし、「あまりそうでない」と「まったく違う」の合計値を当該満足度数から差し引いた数値として満足度 DI を作成した。

（１４） 定年後・退職後の生活設計（問 9(1)）

問 9(1)では、定年後・退職後の生活設計について、ご夫婦で話し合ったことがあるかどうかについて、「よくあった」から「まったくなかった」までの 3 段階で回答してもらった。その結果を第1回調査から今回調査までをまとめたものが図表79である(第2回は未実施)。

この図表からも分かるとおり、徐々に話し合う機会が減少しつつある傾向に窺われる。

〔図表 79〕：定年後・退職後の生活設計についての話し合い（%）

	第１回調査	第３回調査	今回調査
よくあった	22.7	15.6	15.4
たまにあった	50.6	59.0	56.2
まったくなかった	12.2	16.8	19.9
無回答	14.4	8.6	8.5

（１５） 定年後・退職後の生活問題（問 9(2)）

問 9(2)では、定年後または退職後から今までの生活問題を問うた。質問項目は、本人調査と同じく 18 項目とした。

その回答結果について、本人調査もあわせてまとめたものが、図表 80 である。

配偶者調査においても本人調査と同様に、「自分や配偶者の健康や体力が衰えた」、「経済

的に苦しくなった」と「特に問題はなかった」が上位を占める。本人調査と配偶者調査の比較においては、配偶者調査における「配偶者や親の介護が必要になった」の選択率が高く（17.8%、4位）、本人調査（11.4%、7位）を上回っている。「今までの人的交流や情報量が減って困った」と「所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした」ではその逆の傾向が窺われる。

〔図表 80〕：定年後・退職後の生活問題（%）

	本人調査				配偶者調査				
	全体		男性	女性	全体		男性	女性	無職
	順位	選択率	選択率	選択率	順位	選択率	選択率	選択率	選択率
自分や配偶者の健康や体力が衰えた	1	30.4	31.1	29.3	1	42.2	42.9	42.1	45.2
経済的に苦しくなった	2	28.8	28.7	30.9	2	28.8	28.6	28.8	26.5
特に問題はなかった	3	25.2	26.1	22.8	3	22.3	16.1	23.1	22.0
今までの人的交流や情報量が減って困った	4	19.2	22.1	8.1	10	6.5	1.8	7.1	6.5
時間をもてあました	5	12.0	12.5	10.6	6	12.0	19.6	11.1	13.4
その他の家族の入院や死	6	11.7	10.0	19.5	5	12.8	14.3	12.6	12.8
配偶者や親の介護が必要になった	7	11.4	11.0	13.8	4	17.8	5.4	19.3	18.8
生活のはりや生きがいがなくなった	8	9.0	7.6	15.4	8	8.3	10.7	8.0	8.9
所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	9	8.9	10.2	4.1	13	3.7	1.8	4.0	4.5
世の中の情報化の進展についていけず困った	10	6.5	6.6	6.5	9	7.7	5.4	8.0	7.7
無回答	11	5.1	3.6	6.5	7	8.9	12.5	8.4	8.9
再就職のことで困った	12	5.1	5.6	3.3	12	3.9	3.6	4.0	3.3
配偶者に先立たれた	13	4.8	3.6	9.8	19	0.0	0.0	0.0	0.0
地域社会にとけこめなかった	14	3.3	3.8	1.6	11	4.7	8.9	4.2	5.1
住宅問題で困った	15	2.7	2.6	3.3	14	3.4	0.0	3.8	3.0
家族との人間関係が悪くなった	16	2.7	2.8	2.4	15	2.6	0.0	2.9	2.4
親との新たな同居	17	2.1	2.4	0.8	16	2.4	0.0	2.7	2.4
社会から取り残されてしまった	18	1.7	1.2	4.1	17	1.8	3.6	1.6	2.4
その他	19	1.1	1.2	0.8	18	1.0	0.0	1.1	0.6

第２章　　定年退職者の社会参加と生きがい

東京家政大学教授　西村 純一

Ⅰ. はじめに

定年退職を経験したサラリーマンにとっては、定年前の仕事や会社の存在しない生活にいかに適応していけるかが課題である。そのような観点からみると、定年退職者にとっては、定年前の仕事に代わる日々のなんらかの活動が必要であるが、社会参加は一つの有力な選択肢であり、その意義について十分に検討してみる必要があろう。

第 3 回（2001 年）の「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の結果によれば、生きがい獲得の場としての「仕事・会社」や「家庭」の地位は定年退職により低下し、それに代わって、「地域・近隣」「世間・社会」「個人的友人」などが増えてくることが示されている。これは、「地域・近隣」「世間・社会」が「仕事・会社」に代わって社会貢献、自己実現、自分自身の向上、あるいは人生観・価値観形成の場として伸びてくるためとみられている。また、こうした傾向は男性に強く、女性はむしろ「個人的友人」を選択する傾向が強いといわれる。

しかし、同調査結果によれば、定年退職後の生きがい獲得の場として「地域・近隣」「世間・社会」が選択される割合が伸びてくるものの、その割合は「家庭」や「個人的友人」、「仕事」などに比べるとかなり少ない。なぜ、定年退職者は社会参加に対して消極的なのであろうか。積極的に社会参加している人と消極的な人とでは、どこがどう違うのか。潜在的には社会参加したいという人は少なくないとみられるが、どのような条件が整えば社会参加が増えてくるのか。社会参加する人はどのようなパーソナリティの持ち主なのか。社会参加する人の生活満足度や生きがいは高いのであろうか。アクティブな高齢社会を形成していく観点からは、定年退職者の積極的な社会参加が必要であり、定年退職者が参加しやすい条件を探ることが、いま重要になってきている。

そこで、本章では、現役と OB、男性と女性をそれぞれ比較しながら、サラリーマンの社会活動への参加の実態を明らかにする。また、自由時間、結婚状態・世帯構成、居住状態・居住年数・居住形態、年収・暮らし向きなどの生活上の条件がサラリーマンの社会的活動にどのように関連しているか、検討する。さらに、生きがい、生活満足度、パーソナリティなどの内面生活の要因が積極的な社会参加とどのように関係しているかを明らかにする。以上を通じて、本章では、定年退職者の社会参加の実態や積極的な社会参加の条件を探ることを意図している。

なお、本章では、調査票の質問にもとづいて、それが団体活動であるか、個人活動であるかにはかかわりなく、地域活動やボランティアへの参加、あるいはなにか社会に役立つ活動への参加を社会参加と規定している。

II. サラリーマンの社会参加の実態

1．社会活動に積極的に参加しているサラリーマンの割合

社会活動に「定期的に参加している」と「時々参加している」を合併して社会活動積極群、「以前参加したことがある」と「参加していない」及び無回答を合併して社会活動消極群と呼ぶことにすると、第1回調査（1991年）、第3回調査（2001年）、第4回調査（2006年）、3時点とも社会活動積極群と社会活動消極群の割合はおよそ1対3でほとんど変わっていない。なお、第2回調査（1996年）は社会参加について調査していない。そこで、3時点のデータを一緒にして、年代別・性別・現役／OB別に社会活動積極群の割合をみたのが図表1である。数が少ないので、現役の60代後半以上、OBの50代前半以下は除いた。なお、OBには、定年退職したサラリーマンのほかに、定年前に退職したサラリーマンも含まれている。

社会活動積極群の割合は、50代前半までは男性現役が女性現役を上回っているが、年代と共に男性現役が減少し、女性現役が増加するため、50代後半以降では男性現役と女性現役との差がかなり縮まる。ただし、60代前半では現役の社会活動積極群かなり減少し、OBの社会活動積極群の方が多くなる。OBの社会活動積極群は50代後半から出てくるが、60代後半ピークに到達する。概して、男性OBが女性OBよりも多いが、50代後半だけはなぜか女性OBの方が男性OBより多い。

図表1　年代別・性別・現役／OB別にみた社会活動積極群の割合（%）

	男性現役	女性現役	男性OB	女性OB
30代後半	20.1	10.7		
40代前半	23.2	13.2		
40代後半	22.5	13.1		
50代前半	21.8	14.6		
50代後半	20.9	18.3	17.2	24.5
60代前半	16.0	15.4	27.9	23.9
60代後半			38.0	34.4
70代前半			39.5	34.0

2．社会活動積極群の活動分野別にみた参加の割合

3回の調査を通して、社会活動積極群がもっとも多く参加する活動分野は、「地域の生活環境を守る活動」で、4割前後を占めている。「趣味・スポーツや学習グループのリーダーの活動」は第1回と第3回では2位であったが、第4回では3位になっている。それに代わって、「地域のイベントや村おこしの活動」が3位から2位に上昇している。これら3つに比べると参加の割合は少ないが、「児童や青少年の活動の世話役」「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」などの分野が続いている。しかし、3時点でさほど大きな変動は認められないので、データを一緒にして、性別・現役／OB別・活動分野別に社会活動積極群の割合をみ

たのが図表 2 である。

男性は、概して現役よりも OB の割合の多い分野が多いが、「イベントや村おこし」あるいは「児童・青少年の世話役」は OB よりもむしろ現役が多い。女性は「地域の生活環境を守る」「イベントや村おこし」「グループのリーダー」「児童・青少年の世話役」「文化財や伝統を守る」「自然・環境保護」など多くの分野で OB よりも現役の割合が多い。女性で OB が現役を上回るのは「消費者活動」「障害者・老人の支援」「行政の委員」などであるが、とくに「障害者・老人の支援」は OB が多い。一般に、現役は OB に比べて自由時間が少なく、それだけ社会参加が難しいと思われているが、女性は OB よりも現役が上回る分野が多く、また、「児童・青少年の世話役」は男女とも現役が OB をかなり上回り注目される。

図表2　性別・現役／OB 別・活動分野別にみた社会活動積極群の割合（%）

	男性現役	男性OB	女性現役	女性OB
地域の生活環境を守る	40.1	44.3	36.6	35.3
イベントや村おこし	29.2	26.8	26.2	23.5
グループのリーダー	27.7	34.2	26.8	25.3
児童・青少年の世話役	19.5	9.8	18.9	5.3
文化財や伝統を守る	8.3	10.5	4.9	2.4
消費者活動	1.9	4.1	5.5	8.2
障害者・老人の支援	8.0	13.3	8.5	25.3
行政の委員	3.2	10.5	1.8	5.3
自然・環境保護	10.9	13.5	10.4	8.2
国際交流	4.3	5.2	6.1	6.5

３．社会活動積極群の参加の理由

図表 3 は、3 回の調査データを一緒にして社会活動積極群の参加理由の割合をみたものである。「地域や社会に貢献する」が他に比して断然多い。現役と OB との差に注目すると、男性は、「地域や社会に貢献したい」「自分の知識や経験を生かしたい」「生活にはりあいを持たせたい」「社会人として当然と思った」などで OB が現役を上回っている。とくに、「生活にはりあいを持たせたい」は現役と OB との差が目立っている。他方、女性は、「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりあいを持たせたい」「自分の知識や経験を生かしたい」などで OB が現役をかなり上回っている。とくに、「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりあいを持たせたい」は現役と OB との差が目立っている。OB になると男女とも社会参加が増えるが、その参加動機としてこれらの理由が影響していると推測される。また、「地域や社会に貢献したい」「社会人として当然と思った」は男性 OB に多く、「友人や仲間を増やしたい」は女性 OB に多いという特徴が認められる。

これに対して、現役が OB を上回っているものは、男性では「身近な人に誘われた」「会社の勧めや命令」、女性では「会社の勧めや命令」のみであった。現役の場合には、会社の勧めや命令が社会参加を促す上でそれなりに有効であることを示している。

図表3　性別・現役／OB 別にみた社会活動積極群の参加理由の割合（%）

	男性現役	男性OB	女性現役	女性OB
地域や社会に貢献したい	50.3	63.6	50.0	46.5
自分の知識や経験を活かしたい	23.1	34.2	22.2	29.4
社会への見聞を広げたい	15.3	16.4	19.1	22.4
友人や仲間を増やしたい	24.5	27.6	21.6	38.2
生活にはりあいを持たせたい	12.0	28.2	21.0	37.1
身近な人に誘われた	21.7	15.5	17.9	21.2
会社の勧めや命令	9.2	2.0	6.2	1.2
社会人として当然と思った	25.3	35.2	22.2	22.4
何となく	1.6	0.5	1.2	0.0

４．社会活動消極群の不参加理由

図表 4 は、3 回の調査データを一緒にして性別・現役／OB 別に社会活動消極群の不参加理由の割合をみたものである。現役の場合は、男女とも「時間がない」が断然トップであるが、男性よりも女性の方が多い。「きっかけがつかめない」「精神的ゆとりがない」などがこれに続いている。しかし、OB の場合は「時間がない」は大きく減少し、男性では「きっかけがつかめない」がトップである。「時間がない」は、「自分に合った活動の場がない」に続き 3 位である。女性も「時間がない」は大きく減少するが、1 位を保持している。ただし、2 位の「きっかけがつかめない」との差はあまりない。3 位に「自分に合った活動の場がない」がきている。したがって、社会活動消極群の OB は男女とも「きっかけがつかめない」「時間がない」の他に「自分に合った活動の場がない」を重要視しているといえる。また、女性 OB の場合には 4 位の「健康や体力に自信がない」が 3 位とあまり差がなく、女性 OB が健康・体力を重視していることがうかがわれる。

図表4　性別・現役／OB 別にみた社会活動消極群の不参加理由の割合（%）

	男性現役	男性OB	女性現役	女性OB
時間がない	54.8	29.8	63.1	34.4
経済的余裕がない	10.6	7.0	10.6	7.6
精神的ゆとりがない	22.2	10.1	27.3	14.0
健康や体力に自信がない	4.8	17.6	12.3	26.5
家族や周囲の理解や協力が得られない	1.2	1.1	1.6	2.6
自分に合った活動の場がない	19.8	31.2	14.2	28.6
一緒にやる仲間がいない	10.7	15.1	9.6	12.8
何から始めるか、きっかけがつかめない	38.1	40.1	39.9	30.9
興味がない、関心がない	20.3	15.3	10.4	11.4

５．社会活動消極群の今後の参加動機

直近の第４回調査（図表５）によれば、社会活動消極群は積極的に参加する意志のある人はきわめて少ないものの、６割強の人が「条件付き参加」の意志を示しており、条件の整備如何で社会参加が増える可能性はかなり残されていることが示された。したがって、社会活動消極群のOBの主要な不参加理由である「きっかけがつかめない」「時間がない」「自分に合った活動の場がない」、女性 OB の「健康や体力に自信がない」などへの対応が適切になされることによって、今後、社会活動への参加が増える可能性は十分残されている。また、「定年前に退職」は現役や定年退職に比して「積極的参加」の意志のある人がやや多く注目される。他方、女性は男性に比して「条件付き参加」が少ないが、「参加するつもりなし」も少なく、「わからない」が多い。したがって、女性は男性に比して、躊躇している人が多いように思われる。

図表５ 社会活動消極群の今後の参加動機（%）

	現役	定年前退職	定年退職	男性	女性
積極的に参加	4.0	8.1	5.3	4.2	4.9
条件付き参加	60.9	61.3	60.5	62.2	58.4
参加するつもりなし	14.1	12.6	14.0	14.9	12.2
わからない	20.1	18.0	19.3	19.9	24.2

III. 社会参加と生活要因との関連

１．社会参加と自由時間の意識との関連

（１） 自由時間の意識

① **時代差**　図表 6 は、自由時間の意識の時代差を示したものである。自由時間を「十分にある」と「まあまあ」を合わせた肯定的意識の割合は、直近の第４回調査でもっとも多くなっており、およそ４人に３人である。

図表６ 自由時間の意識の時代差（%）

	十分にある	まあまあ	不十分である	まったくない	無回答
第1回調査(1991)	18.6	40.0	34.1	4.7	2.6
第2回調査(1996)	22.2	47.2	27.8	1.6	1.2
第3回調査(2001)	19.6	42.7	33.8	2.3	1.8
第4回調査(2006)	26.4	47.9	19.5	1.8	4.4

② **現役と OB の差及び性差**　直近の第４回調査（図表 7）でみると、自由時間の肯定的意識は、現役に比して OB が多い。他方、現役では、女性の方に否定的意識が多い傾向が示さ

れた。ただし、OB では男女とも 9 割近いので、女性は OB になることによって男性よりも肯定的意識が伸びる傾向があるともいえる。

図表7　現役／OB 別・性別にみた自由時間の肯定的意識の割合（%）

	現役	OB
男性	70.6	87.5
女性	63.5	87.8

（2）自由時間の使い方

①　時代差　図表 8 は、自由時間の使い方の時代差を示したものである。ビッグ 3 をみると、第 1 回調査では 1 位「ＴＶ・ごろ寝・パチンコ・酒」、2 位「家庭との団らん・家庭サービス」、3 位「庭いじり・家事」であったが、第 4 回調査では 1 位「家庭との団らん・家庭サービス」、2 位「庭いじり・家事」、3 位「仲間と趣味・スポーツ」（2 位と 3 位の差ほとんどなし）と変わった。第 1 回調査で 1 位の「ＴＶ・ごろ寝・パチンコ・酒」は 4 位に落ちている。第 1 回調査では 8 位であった「仲間と趣味・スポーツ」が大きく浮上し 3 位になっている。また、同じ趣味・スポーツでも第 1 回調査 4 位だった「ひとりで趣味・スポーツ・学習」は 8 位に落ちている。ひとりで楽しむものから仲間と共に楽しむものに変わってきている。「仕事仲間とのプライベート」や「仕事の勉強や残務整理」は第 1 回調査から第 2 回調査にかけて大きく減らし、その後回復の兆しはない。それに対して、第 1 回調査から第 2 回調査にかけて大きく増やしたのが、「仲間と趣味・スポーツ」と「行楽・ドライブ」、「庭いじり・家事」である。ただし、「庭いじり・家事」と「行楽・ドライブ」は第 2 回調査以降、低下気味である。また、割合は少ないが回を追う毎に着実に増えているのが「個人的な友人・仲間とのつきあい」と「パソコン通信・インターネット」である。

図表8　自由時間の使い方の時代差（%）

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査
仕事仲間とのプライベート	18.8	10.0	9.9	9.1
仕事の勉強や残務整理	17.0	11.3	12.3	8.8
TV・ごろ寝・パチンコ・酒	43.6	32.5	32.3	29.6
ひとりで趣味・スポーツ・学習	31.8	30.0	28.7	28.9
仲間と趣味・スポーツ	16.8	29.6	31.0	29.9
パソコン通信・インターネット	0.0	2.6	12.7	16.5
個人的な友人・仲間とのつきあい	21.2	27.0	26.6	28.5
行楽・ドライブ	11.8	29.6	28.2	23.4
庭いじり・家事・家庭内のこと	33.8	38.7	36.3	30.5
家庭との団らん・家庭サービス	35.7	33.5	31.6	39.0
近隣とのつきあい・地域の用事	6.7	7.1	6.3	9.1

② 現役と OB の差及び性差 図表 9 は、直近の第 4 回調査により、自由時間の使い方の現役と OB の差及び性差を示したものである。「家庭との団らん・家庭サービス」「ＴＶ・ごろ寝・パチンコ・酒」は、男女とも、現役に比べて明らかに OB が少ない。また、「仲間と趣味・スポーツ」「庭いじり・家事」「近隣とのつきあい・地域の用事」は、男女とも、現役に比べて明らかに OB が多い。男性はほかに「個人的な友人・仲間とのつきあい」も現役に比べて明らかに OB が多い。他方、「家庭との団らん・家庭サービス」「ＴＶ・ごろ寝・パチンコ・酒」「パソコン通信・インターネット」は、現役も OB も、男性に比べて明らかに女性が少ない。また、「個人的な友人・仲間とのつきあい」「庭いじり・家事」は、現役も OB も、男性に比べて明らかに女性が多い。

図表9 自由時間の使い方の現役と OB の差及び性差（%）

	男性現役	男性OB	女性現役	女性OB
仕事仲間とのプライベート	9.8	8.3	9.9	4.5
仕事の勉強や残務整理	11.9	6.3	6.5	3.6
TV・ごろ寝・パチンコ・酒	39.6	19.4	24.5	13.6
ひとりで趣味・スポーツ・学習	29.3	28.2	31.1	22.7
仲間と趣味・スポーツ	25.1	42.6	20.5	41.8
パソコン通信・インターネット	20.1	17.0	9.0	7.3
個人的な友人・仲間とのつきあい	15.9	34.3	47.8	46.4
行楽・ドライブ	22.7	26.0	19.9	20.0
庭いじり・家事・家庭内のこと	20.0	37.3	40.4	54.5
家庭との団らん・家庭サービス	53.2	23.1	34.2	19.1
近隣とのつきあい・地域の用事	6.1	15.9	5.3	15.5

（３）社会参加と自由時間の関連

図表 10 は、直近の第 4 回調査により、自由時間の肯定群（十分＋まあまあ）と否定群（不十分＋まったくない＋無回答）とで、社会参加の積極群の割合に差がないか、示したものである。その結果、自由時間肯定群の方が自由時間否定群よりも社会参加積極群が 7%程度多い（$\chi^2=9.4, df=1, p<0.01$）。したがって、自由時間の肯定的なとらえ方は社会参加の積極さに関連していることが示された。

図表10 社会参加と自由時間との関連（%）

	自由時間肯定群	自由時間否定群
社会活動積極群	27.5	20.7
社会活動消極群	72.5	79.3

２．社会参加と生活状況との関連

（１） 結婚状態

図表 11 は、これまでのデータを一緒にして、結婚状態による社会参加積極群の割合をみたものである。社会参加積極群は、既婚者（死別）がもっとも多く、次いで既婚者（有配偶）、既婚者（離別）、未婚者はもっとも少なかった（$\chi^2=42.9,df=1,p<0.001$）。したがって、既婚者（死別）はもっとも社会参加しやすい条件にあり、既婚者（有配偶）よりも多い。それに比べて、既婚者（離別）は参加しにくく、それ以上に未婚は参加しにくい条件があると思われる。

図表11 社会参加と結婚状態（%）

	未婚	既婚（配偶者あり）	既婚（離別）	既婚（死別）
社会参加積極群	11.2	28.2	15.8	31.6
社会参加消極群	88.8	71.8	84.2	68.4

（２） 世帯構成

図表 12 は、世帯構成別に社会参加の状態を示したものである。社会参加は、自分たち夫婦（または自分）と子ども夫婦がもっとも多く、次いで、自分たち夫婦だけ、自分たち夫婦（または自分）と親、自分たち夫婦（または自分）と未婚の子が続き、ひとり暮らしがもっとも少ない傾向がある。核家族よりは多世代同居の方が参加しやすく、高齢の一人暮らしよりは高齢の夫婦世帯の方が参加しやすいと思われる（$\chi^2=16.9,df=1,p<0.01$）。

図表12 社会参加と世帯構成（%）

	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦（または自分）と未婚の子	自分たち夫婦（または自分）と子ども夫婦	自分たち夫婦（または自分）と親
社会参加積極群	15.7	28.0	22.9	39.4	25.2
社会参加消極群	84.3	72.0	77.1	60.6	74.8

（３） 居住地域・居住年数・居住形態

第 1 回調査、第 3 回調査、第 4 回調査のデータを一緒にして、居住地域による社会参加積極群の割合をみると、かなりの数の地域に及ぶので詳細は省くが、特徴的な点を言えば、東京は社会参加が少なく、とくに 23 区がもっとも少なく、地方の郡部がもっとも多い傾向が示された。

居住年数別に社会参加積極群の割合（図表 13）をみると、居住年数が長くなるほど、積極的に社会参加する人が多い傾向がある（$\chi^2=102.4,df=4,p<0.001$）。また、居住形態別に社会参加積極群の割合（図表 14）をみると、賃貸や借家よりも持ち家である方が、分譲マンションよりは一戸建ての方が積極的に社会参加する人が多い傾向がある（$\chi^2=140.5,df=$

4,p<0.001)。

図表13　社会参加と居住年数(%)

	5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上～30年未満	30年以上
社会参加積極群	16.7	19.1	22.4	24.2	30.5
社会参加消極群	83.3	80.9	77.6	75.8	69.5

図表14　社会参加と居住形態(%)

	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート
社会参加積極群	28.4	18.2	12.4	15.0	13.9
社会参加消極群	71.6	81.8	87.6	85.0	86.1

（4）　経済状態・暮らし向き

第1回調査、第3回調査、第4回調査のデータを一緒にして、年収による社会参加積極群の割合（図表15）をみると、300万円以上400万円未満までは年収が増えると社会参加が増える傾向にあるが、それ以降は段階的に減少する傾向が示された（χ^2=24.3,df=8,p<0.01)。また、暮らし向き別に社会参加積極群の割合（図表16）をみると、暮らし向きが楽な方が概して社会参加が多い傾向はあるが、単調な関係にはなっていない（χ^2=14.5,df=4,p<0.01)。

図表15　社会参加と経済状態(%)

	社会活動積極群	社会活動消極群
200万円未満	25.4	74.6
200万円以上～300万円未満	27.1	72.9
300万円以上～400万円未満	30.7	69.3
400万円以上～500万円未満	28.3	71.7
500万円以上～600万円未満	24.0	76.0
600万円以上～800万円未満	23.5	76.5
800万円以上～1000万円未満	25.1	74.9
1000万円以上～1500万円未満	20.3	79.7
1500万円以上	22.4	77.6

図表16　社会参加と暮らし向き（%）

	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても苦しい
社会参加積極群	28.1	25.7	28.0	21.7	23.6
社会参加消極群	71.9	74.3	72.0	78.3	76.4

（5） 学歴

第 1 回調査、第 3 回調査、第 4 回調査のデータを一緒にして、学歴による社会参加積極群の割合（図表 17）をみると、学歴の高い方が社会的地位や仕事へのこだわりが強いのか、社会参加は少ない傾向が示された（$\chi^2=41.3, df=4, p<0.001$）。

図表17　社会参加と学歴（%）

	社会活動積極群	社会活動消極群
小学校・高等小学校・新制中学校	31.2	68.8
旧制中学校・高等女学校・実業学校・新制高等学校	26.3	73.7
旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	24.5	75.5
大学・大学院	21.4	78.6
専門学校・専修学校	23.3	76.7

IV. 社会参加と内面生活との関連

1．社会参加と生活満足度との関連

（1） 生活満足度の構造

図表 18 は、生活満足度に関する 12 項目について、因子分析（最尤法・プロマックス回転）した結果を示したものである。生活満足度はおよそ 3 因子からなるとみられ、第 1 因子は、「精神的ゆとり」「時間的ゆとり」「経済的ゆとり」などに負荷が高く、生活のゆとりの満足度を反映している（以下、生活のゆとりの満足度の因子と呼ぶ）。第 2 因子は、「近隣との交流」「社会の役に立つこと」などに負荷が高く、地域活動・社会貢献の満足度を反映している（以下、地域活動・社会貢献の満足度の因子と呼ぶ）。第 3 因子は、「社会的地位」「仕事のはりあい」などに負荷が高く、地位・仕事の満足度を反映している（以下、地位・仕事の満足度の因子と呼ぶ）。生活のゆとりの満足度は、地域活動・社会貢献の満足度との間に 0.551、地位・仕事の満足度との間に 0.350 の相関がある。また、地域活動・社会貢献の満足度と地位・仕事の満足度との間に 0.396 の相関がある。したがって、生活のゆとりの満足度と地域活動・社会貢献の満足度、地位・仕事の満足度はそれぞれ相互に関連し合っている

図表18　生活満足度の因子構造（因子パターン）

	第1因子	第2因子	第3因子
精神的ゆとり	**0.865**	−0.036	0.025
時間的ゆとり	**0.682**	0.090	−0.276
経済的ゆとり	**0.527**	−0.104	0.239
家族の理解・愛情	**0.380**	0.028	0.131
健康	**0.342**	0.034	0.140
近隣との交流	−0.046	**0.849**	−0.099
社会の役に立つこと	−0.103	**0.634**	0.239
自然とのふれあい	0.198	**0.537**	−0.072
熱中できる趣味	0.264	**0.282**	0.055
友人・仲間	0.225	**0.261**	0.174
社会的地位	−0.007	−0.007	**0.793**
仕事のはりあい	0.056	0.018	**0.689**

（2） 生活満足度の時代差

生活満足度の 3 因子の因子得点を使って、サラリーマン全体の生活満足度の時代差をみたのが図表 19 である。時代的にみた変動の傾向は、いずれの満足度も同様で、第 1 回調査（1991 年）から第 2 回調査（1996 年）にかけては安定的に推移していたが、第 3 回調査（2001 年）で急激に低下し、第 4 回調査（2006 年）でも回復していない。したがって、現在は、生活のゆとりの満足度、地域活動・社会貢献の満足度、地位・仕事の満足度いずれも第 3 回調査（2001 年）の低い水準のままである。

図表19　生活満足度の時代差（因子得点）

	第1回調査	第2回調査	第3回調査	第4回調査
生活のゆとりの満足度	0.037	0.063	−0.129	−0.133
地域活動・社会貢献の満足度	0.058	0.041	−0.127	−0.097
地位・仕事の満足度	0.064	0.041	−0.062	−0.048

（3） 社会参加と生活満足度

図表 20 は、社会参加の状況別に生活満足度の因子得点をみたものである。いずれの満足度も社会参加の多いほど高くなっていることがわかる。したがって、社会参加によって生活満足度が上がるということは意識されていないかもしれないが、社会参加するほどサラリーマンの生活満足度は高まるということが示されたといえる。

図表20　社会参加と生活満足度（因子得点）

	定期的に参加	ときどき参加	以前参加した	参加していない
生活のゆとりの満足度	0.330	0.111	−0.141	−0.185
地域活動・社会貢献の満足度	0.696	0.375	−0.088	−0.300
地位・仕事の満足度	0.366	0.204	−0.007	−0.132

２．社会参加と生きがい

（１）　生きがい対象の時代差と社会参加

図表 21 は現役の生きがい対象の時代差をみたものである。直近の第 4 回調査でみると、「子ども・孫・親などの家族・家庭」がもっとも多く、次いで「趣味」、「仕事」の順になる。時代差に注目すると、「仕事」は現役においてすら低下してきており、「子ども・孫・親などの家族・家庭」の地位が高まってきている。また、「自然とのふれあい」が減少するのに対して、「ひとり気ままにすごす」が増えてきている傾向がある。図表 22 は OB の生きがい対象の時代差をみたものである。直近の第 4 回調査によれば、OB では「趣味」と「子ども・孫・親などの家族・家庭」が並んでもっとも多く、次いで「自分自身の健康づくり」の順になる。「仕事」の地位はかなり低下している。また、時代差についてみていくと、OB においても「仕事」が低下し、「子ども・孫・親などの家族・家庭」が高まる傾向がうかがわれる。また、OB も「自然とのふれあい」が減少し、「ひとり気ままにすごす」が増えてきている傾向がある。一部、スポーツの傾向に現役と OB の食い違いが多少感じられるが、むしろ共通点が多いように思われる。他方、「社会活動」が選択される割合が注目されたが、現役に比べ OB では「社会的活動」の割合がやや伸びているものの、その割合は概して少なく、しかも時代的にも減り気味であった。したがって、社会活動が生きがい対象として意識されることは少ないように思われる。

図表21　現役の生きがい対象の時代差（%）

	第2回調査	第3回調査	第4回調査
仕事	49.6	45.7	32.2
趣味	43.8	37.7	39.8
スポーツ	17.2	13.8	15.8
学習活動	4.2	4.3	2.9
社会活動	5.9	3.5	4.1
自然とのふれあい	20.5	16.2	12.7
配偶者・結婚生活	25.0	25.6	26.7
子ども・孫・親などの家族・家庭	49.5	58.1	58.8
友人など家族以外の人との交流	16.6	17.4	17.8
自分自身の健康づくり	12.6	10.3	10.5
ひとり気ままにすごすこと	8.6	11.7	12.6
自分自身の内面の充実	13.6	13.8	15.0

図表22　OBの生きがい対象の時代差（%）

	第2回調査	第3回調査	第4回調査
仕事	29.8	20.0	19.0
趣味	54.2	54.3	49.9
スポーツ	13.2	16.2	17.7
学習活動	8.7	8.1	4.1
社会活動	13.3	9.4	10.6
自然とのふれあい	26.0	22.2	22.1
配偶者・結婚生活	17.5	19.5	19.6
子ども・孫・親などの家族・家庭	41.5	52.0	49.9
友人など家族以外の人との交流	19.3	20.7	22.4
自分自身の健康づくり	32.0	30.9	29.1
ひとり気ままにすごすこと	9.2	9.7	13.3
自分自身の内面の充実	13.9	11.2	10.8

（2）　社会参加と生きがいの有無

図表 23 は、現役と OB 別の社会参加の状況別に生きがいの有無を示したものである。「生きがいを持っている」ものの割合は現役よりも OB が多いが、いずれも定期的参加＞ときどき＞以前参加＞不参加となっており、積極的に社会参加している人ほど「生きがいを持っている」という人が増える傾向が明瞭である。逆に、社会参加に消極的な人ほど、「前は持って

いたが今は持っていない」「持っていない」「わからない」などの否定的回答が増える傾向がある。

図表23　現役／OB 別にみた社会参加と生きがい（%）

		定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない
現役	生きがいを持っている	75.7	70.3	60.5	53.3
	前は持っていたが、今はもっていない	3.8	5.0	7.7	7.9
	生きがいを持っていない	8.5	9.7	12.1	17.5
	わからない	9.9	13.9	17.1	19.9
	無回答	2.1	1.0	2.5	1.5
OB	生きがいを持っている	88.0	84.1	73.5	67.0
	前は持っていたが、今はもっていない	4.5	6.2	13.9	12.3
	生きがいを持っていない	2.4	1.8	3.1	7.6
	わからない	3.2	5.1	6.7	10.9
	無回答	1.9	2.8	2.7	2.2

3．社会参加とパーソナリティ

（1） パーソナリティの構造

図表 24 は、パーソナリティに関する 13 項目について、因子分析（最尤法・プロマックス回転）した結果を示したものである。本調査におけるパーソナリティはおよそ 3 因子からなるとみられ、第 1 因子は、「自分には他人にはない優れたところがある」「他人にはない自分なりの価値観を持っている」「いつも目標に突き進む」などに負荷が高く、自尊心の高さを反映している（以下、自尊心の因子と呼ぶ）。第 2 因子は、「いろいろな人の話や意見をよく聞く」「どんなところでも結構楽しみを見いだす」「新しいグループの中に、わりと気軽に入れる」などに負荷が高く、社会性を反映している（以下、社会性の因子と呼ぶ）。第 3 因子は、「無理をせずマイペースで進む」「自分の世界や個性を大切にする」に正の負荷、「指導的立場に立とうとする」に負の負荷が高く、マイペースの行動傾向を反映している（以下、マイペースの因子と呼ぶ）。このマイペースの行動傾向は、指導的立場に就こうとするリーダー的行動傾向とは反対の傾向であると考えられる。なお、自尊心は社会性と 0.598 の相関がある。しかし、自尊心とマイペース傾向、あるいは社会性とマイペース傾向との間にはあまり相関はみられない。

図表24　パーソナリティの因子構造（因子パターン）

	第1因子	第2因子	第3因子
自分には他人にはない優れたところがある	**0.766**	−0.108	−0.033
他人にはない自分なりの価値観を持っている	**0.754**	−0.111	0.241
いつも目標に向かって突き進む	**0.537**	0.158	−0.047
自分の世界や個性を大切にする	**0.501**	−0.050	**0.333**
指導的立場に立とうとする	**0.476**	0.133	**−0.397**
いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	**0.418**	0.248	−0.007
一つのことにじっくり取り組む	**0.388**	0.058	0.134
いろいろな人の話や意見をよく聞く	−0.073	**0.718**	0.121
どんなところでも結構楽しみを見いだす	0.072	**0.626**	0.126
新しいグループの中に、わりと気軽に入れる	0.055	**0.620**	−0.071
人との関係やつながりを大切にする	−0.016	**0.549**	0.049
上下の立場や関係を尊重する	−0.066	**0.502**	0.013
無理をせずマイペースで進む	0.089	0.142	**0.489**

（2） パーソナリティ傾向の時代差

パーソナリティの 3 因子の因子得点を使って、サラリーマン全体のパーソナリティの時代差をみたのが図表 25 である。自尊心や社会性は明瞭に減少傾向があり、第 2 回調査（1996 年）から第 4 回調査（2006 年）にかけて萎縮傾向が強まっている印象がある。それに対して、マイペース傾向は時代的な変動はあまりないように思われる。

本調査は横断的調査であるためサンプルの違いもあるので一概には言えないが、こうした時代差はサラリーマンが時代的環境変化に適応するなかで形成されてきているのではないかと推察される。また、こうしたパーソナリティ傾向の時代的変化はサラリーマンの生きがいが時代的にやや内向きになってきていることと無縁ではないように思われる。

図表25　パーソナリティ傾向の時代差（因子得点）

	第2回調査	第3回調査	第4回調査
自尊心	0.105	−0.013	−0.184
社会性	0.073	−0.031	−0.166
マイペース傾向	−0.025	0.028	−0.041

（3） 社会参加とパーソナリティ

図表 26 は、社会参加の状況別にパーソナリティの因子得点をみたものである。社会参加

が積極的な人ほど自尊心や社会性が高いことが明瞭に出ている。また、それほど強い関係ではないが、まったく社会参加しない人は、マイペース傾向がやや高いことが示された。

図表26　社会参加とパーソナリティ（因子得点）

	定期的に参加	ときどき参加	以前参加した	参加していない
自尊心	0.246	0.082	−0.042	−0.190
社会性	0.308	0.170	0.005	−0.245
マイペース傾向	−0.079	−0.110	−0.053	0.051

Ⅴ. まとめ

本章では、サラリーマンの社会参加と生きがいについて多数の興味深い結果が得られた。最後に、まとめに変えて、これらの結果について若干の検討を加えておくことにする。

１．現役、OB、男性、女性それぞれに合った活動分野

社会活動積極群がもっとも多く参加する活動分野は、「地域の生活環境を守る活動」で、4割前後を占めている。生活環境の問題は子どもから大人までみんなの問題であり、みんなが参加する社会活動として地域として、社会としてもっと推進していく必要があろう。一般に、現役はOBよりも時間が少なく、その分、社会参加は少ないと思われている。しかし、本調査から、現役の方がOBよりも積極的に参加している活動分野が少なくないことが示された。「イベントや村おこし」「児童・青少年の世話役」などは男女とも現役の方がOBよりも多く、OBよりも現役が合っている側面があると考えられる。「地域の生活環境を守る」「グループのリーダー」「文化財や伝統を守る」「自然・環境保護」などは女性において、現役がややOBを上回っており、女性の現役が参加しやすい条件があると思われる。逆に、男性は、これらの活動分野はOBが現役を上回っており、OBに向いている面があると考えられる。また、「消費者活動」「障害者・老人の支援」「行政の委員」などは男女とも現役よりOBが多く、現役よりもOBが合っていると思われる。

２．現役、OB、男性、女性それぞれの参加理由

現役とOBの参加理由の割合の変動から、現役からOBに移行することに伴う社会参加の増加の背景を探ってみると、男性は、「地域や社会に貢献したい」「自分の知識や経験を生かしたい」「生活にはりあいを持たせたい」「社会人として当然と思った」などでOBが現役を明瞭に上回っている。他方、女性は、「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりあいを持たせたい」「自分の知識や経験を生かしたい」などでOBが現役をかなり上回っている。「自分の知識や経験を生かしたい」「生活にはりあいを持たせたい」は男女に共通しており、定年退職にともなって男女とも社会参加の大きな動機になっていると推測される。他方、「地域や社会に貢献したい」「社会人として当然と思った」は男性OBに多く、「友人や仲間を増やしたい」は女性OBに多いという特徴が認められる。ここから、男性は社会参加を社会貢献の視点か

らとらえる傾向があるのに対して、女性は友人や仲間をつくるきっかけとしてとらえる傾向があるように思われる。また、「会社の勧めや命令」は男女とも現役が OB を上回り、現役の社会参加を促すためには、こうした企業サイドの支援も一定の効果があると推測される。

３．社会活動消極群の不参加理由と今後の参加動機

現役の場合は、男女とも「時間がない」「きっかけがつかめない」「精神的ゆとりがない」が 3 大理由である。とくに「時間がない」は多いが、女性で目立っている。しかし、OB の場合は「時間がない」は大きく減少し、それに代わって、「きっかけがつかめない」「自分に合った活動の場がない」が浮上してくる。したがって、現役は時間面からの支援が必要であるが、OB では時間よりもきっかけや自分に合った活動の場を見つけることが問題であり、そうした面からの支援が必要であると考えられる。しかし、女性の場合は、「時間がない」の割合は大きく減少するものの、OB においてもなおトップであり、女性における時間面への配慮の重要性が示唆される。また、女性の場合には「健康や体力に自信がない」も無視できないように思われる。

社会活動消極群のうち 6 割強の人が条件付き参加の意志を示しており、条件の整備如何で社会参加が増える可能性はかなり残されているとみられる。

４．社会参加と自由時間

自由時間はこれまでの 4 回の調査の中では最高の水準にあり、およそ 4 人に 3 人は自由時間を肯定的にとらえている。OB に比して現役で肯定的な人は少ないが、とくに女性現役は少ない。社会参加の不参加理由でも女性の「時間がない」が目立ったが、女性の場合は自由時間をもっと増やしていくことが課題といえる。自由時間が多いほど、積極的な社会参加が増えることが示されている。

自由時間の使い方についてみると、現役と OB とで違い、OB は「仲間と趣味・スポーツ」「庭いじり・家事」「近隣とのつきあい・地域の用事」が多い傾向がみられた。また、男性と女性で違い、男性は「家庭との団らん・家庭サービス」「TV・ごろ寝・パチンコ・酒」「パソコン通信・インターネット」が多く、女性は「個人的な友人・仲間とのつきあい」「庭いじり・家事」が多い傾向がみられた。他方、時代的な変化に注目すると、「仕事仲間とのプライベート」や「仕事の勉強や残務整理」など仕事がらみは大きく減っているのに対して、「仲間と趣味・スポーツ」「個人的な友人・仲間とのつきあい」「パソコン通信・インターネット」など仲間・友人に関係しているものが伸びてきている。

５．社会参加と生活状態との関連

離別者や未婚者は、地域とのつながりが薄く社会活動に参加しにくい条件のあることが示唆された。また、核家族よりは多世代同居の方が参加しやすく、一人暮らしよりは夫婦世帯の方が社会参加しやすいとみられる。多世代同居の参加が多いのは、多世代同居の方が核家族よりも地域の人々とのつながりが多くなるためと推測される。居住地域についてみると、地方の郡部がもっとも多く、東京は社会参加が少ない傾向が示された。居住年数が長くなるほど、地域とのつながりが深く、積極的に社会参加する人が多い傾向があるためとみられる。

また、居住形態別についてみると、賃貸や借家よりも持ち家である方が、そして分譲マンションよりは一戸建ての方が地域とのつながりが深く、積極的に社会参加する人が多い傾向があるといえる。

年収についてみると、300 万円以上 400 万円未満までは年収が増えると社会参加が増える傾向にあるが、それ以降は段階的に減少する傾向が示された。ここには、現役と OB の年収の差が反映されているとみられる。暮らし向き別に社会参加積極群の割合をみると、一概に楽な方の社会参加が多いとは言えない。また、概して、学歴の高い方が仕事や社会的地位へのこだわりが強いためか、社会参加は少ない傾向が示された。

６．社会参加と生活満足度

生活満足度に関する 3 つの因子を抽出し時代差をみると、生活のゆとりの満足度、地域活動・社会貢献の満足度、地位・仕事の満足度いずれも第 1 回調査（1991 年）から第 2 回調査（1996 年）にかけては安定的に推移していたが、第 3 回調査（2001 年）で急激に低下し、第 4 回調査（2006 年）も回復していない。したがって、現在は、第 3 回（2001 年）の低い水準のままである。また、いずれの満足度も社会参加の多いほど高くなっていることが示された。したがって、それとは意識されていないかもしれないが、積極的に社会参加している人ほど生活満足度が高まる傾向があるといえる。

７．社会参加と生きがい

現役の主要な 3 つの生きがい対象は、「子ども・孫・親などの家族・家庭」「仕事」「趣味」であるが、OB では「趣味」「子ども・孫・親などの家族・家庭」「自分自身の健康づくり」の 3 つになり、「仕事」の地位はかなり低下している。また、時代差についてみていくと、「仕事」は現役においてすら低下し、「子ども・孫・親などの家族・家庭」の地位が高まってきていることがわかる。OB においてもまったく同様の傾向がうかがわれる。全体に、サラリーマンの生きがいがやや内向きになってきているように感じられる。そうした中にあって、「仕事」に代わり「社会活動」の相対的位置が高まることが期待されるが、OB にしてその地位は依然として低く、しかも、時代的にわずかに減り気味である。この結果は、社会参加するほど生活満足度が高い傾向が示されてはいるものの、社会参加が生きがい対象と意識されるまではなりえていないということを物語っている。

社会参加の状況別に生きがいの有無の割合をみると、「生きがいを持っている」ものの割合は現役よりも OB が多いが、いずれも定期的参加＞ときどき＞以前参加＞不参加となっており、積極的に社会参加している人ほど「生きがいを持っている」という人が増える傾向が明瞭である。したがって、社会参加が生きがい対象であると意識している人は少ないものの、積極的に社会参加しているほど「生きがいを持っている」人が多いといえる。

８．社会参加とパーソナリティ

パーソナリティの 3 因子を抽出して時代差をみたところ、自尊心や社会性は減少傾向があるが、マイペース傾向の時代差はあまりない。こうした時代差はサラリーマンが時代的環境変化に適応した結果であるとも考えられ、サラリーマンの生きがいがやや内向きになってき

ていることと決して無縁ではないように思われる。社会参加とパーソナリティの関係をみると、社会参加が積極的な人ほど自尊心や社会性が高いことがわかる。また、まったく社会参加しない人は、マイペース傾向がやや高いことが示唆された。

第３章　生活満足度および性格と生きがい

明治学院大学教授　佐藤 眞一

Ⅰ. 生活満足度と生きがい

１．生活満足度の夫婦データの分析

今回の調査における本人調査問 6 および配偶者調査問 3 の生活満足度の項目について，本人および配偶者のペアデータを検討した。分析は，本人調査が男性の場合と女性の場合に分けて検討した。本人調査が女性の場合は，夫が無職のケースは 16.6%であり，正規従業員が 64.2%に派遣・嘱託・パート 5.2%および自営業 8.8%を含めると夫婦共働きは約 8 割であった。一方，本人調査が男性の場合は，妻が専業主婦のケースは 48.8%と約半数，派遣・嘱託・パートなどが 29.0%と両者で 77.8%を占め，正規従業員は 12.5%だった。

（１） 項目分析と尺度得点

生活満足度 12 項目による両極性 5 件法による尺度化のために，今回調査の全データについて，まず，主因子法・プロマックス回転による因子分析を行ったところ，3 因子が見出された。しかし，因子間相関が高いこと(0.378～0.529)，2 項目のみの因子があること，前回 2001 年調査においても因子別の分析を示してないこと等を考慮して，全 12 項目による尺度化を試みることとした。

表 1-1 には本人調査が男性の場合の，そして表 1-2 には本人調査が女性の場合のデータについて夫婦別に項目分析を行った結果と尺度得点を示した。得点が高いほど満足度の高いことを示している。

表 1-1 をみると，項目得点中央値の 3 点よりも高い得点の項目が多かった。特に，「(4)家族の理解・愛情」は，夫婦ともに最も高く約 4 点であった。夫婦で異なる項目は，「(9)社会的地位」と「(11)近隣との交流」であった。(9)では妻の，(11)では夫の満足度が得点中央値よりも低かった。夫婦ともに得点中央値よりも低かったのは「(12)社会の役に立つこと」であった。尺度得点は夫婦であまり差はなく，夫婦間の相関は 0.425 と中程度であった。

IT 相関は，夫では 0.362～624，妻では 0.372～0.637 と特に低い項目はなく，その項目を除いた時のα係数も全項目のα係数より高い項目はなかった。尺度のα係数は夫が 0.828，妻が 0.820 と十分に高い内的整合性を示した。また，尺度の 1 次元性を検討するために単一因子分析を行ったところ，夫婦ともに 0.4 未満の項目はなく，１次元性が確認された。

表 1-2 の本人調査が女性の場合でも「(5)家族の理解・愛情」の項目得点が最も高く，次いで「(6)友人・仲間」，「(1)健康」と続いている。対人的満足度と健康への満足は高いと考えられる。本人調査が女性の場合では，「(9)社会的地位」への満足度は夫婦であまり違わなかった。仕事を持っている妻のデータであることが関係していると思われる。「(11)近隣との交流」と「(12)社会の役に立つこと」は，夫婦ともに得点中央値を下回っており，特に(11)は妻の得点も低いのは，妻が仕事をしていることと関係していると思われる。

IT 相関は，夫では 0.371～0.595，妻では 0.336～0.706 と特に低い項目はなく，α係数でも問題はなかった。尺度全体のα係数は夫が 0.841，妻が 0.818 と十分に高かった。単一因子分析では夫の「(2)時間的ゆとり」と妻の「(5)家族の理解・愛情」の因子負荷量が 0.4 に達しなかったが，対象数が少なかったことも勘案すれば特に 1 次元性を否定するものではない。

表 1-1 生活満足度尺度の項目分析（本人調査が男性の場合）

（上段が夫，***下段が妻，*** n=1057）

	平均*1	S.D.	IT 相関*2	α*3	因子負荷*4
(1) 健康	3.59	0.93	0.403	0.821	0.446
	3.57	***0.92***	***0.372***	***0.815***	***0.413***
(2) 時間的ゆとり	3.39	1.05	0.482	0.815	0.544
	3.30	***1.07***	***0.373***	***0.816***	***0.434***
(3) 経済的ゆとり	3.23	0.96	0.483	0.815	0.540
	3.36	***0.95***	***0.501***	***0.804***	***0.561***
(4) 精神的ゆとり	3.32	0.91	0.624	0.804	0.689
	3.35	***0.95***	***0.637***	***0.792***	***0.713***
(5) 家族の理解・愛情	4.03	0.71	0.362	0.823	0.407
	3.95	***0.82***	***0.474***	***0.807***	***0.545***
(6) 友人・仲間	3.62	0.79	0.516	0.813	0.570
	3.82	***0.80***	***0.497***	***0.805***	***0.554***
(7) 熱中できる趣味	3.36	1.06	0.473	0.816	0.521
	3.27	***1.11***	***0.487***	***0.806***	***0.537***
(8) 仕事のはりあい	3.43	0.93	0.477	0.815	0.527
	3.18	***0.99***	***0.383***	***0.814***	***0.418***
(9) 社会的地位	3.38	0.86	0.437	0.818	0.485
	2.83	***0.96***	***0.454***	***0.808***	***0.490***
(10) 自然とのふれあい	3.16	0.99	0.553	0.809	0.601
	3.09	***0.99***	***0.535***	***0.801***	***0.588***
(11) 近隣との交流	2.77	1.01	0.483	0.815	0.537
	3.18	***0.97***	***0.479***	***0.806***	***0.538***
(12) 社会の役に立つこと	2.77	0.94	0.520	0.812	0.567
	2.76	***0.93***	***0.507***	***0.804***	***0.549***
尺度得点	40.05	6.58	0.425***	0.828	29.2
	39.68	***6.65***		***0.820***	***28.6***

***p<0.001

注）*1. 各項目の得点範囲は 1～5

*2. IT 相関はその項目の得点とその項目を除いた他の項目の合計得点との相関係数(r)
ただし，「尺度得点」の値は尺度得点の夫データと妻データの相関係数(r)

*3. 各項目のαはその項目を除いたときの値，尺度得点のαは尺度全体の値

*4. 「尺度得点」の値は因子寄与率(%)

表 1-2 生活満足度尺度の項目分析（本人調査が女性の場合）

（上段が夫，***下段が妻，*** n=193）

	平均[*1]	S.D.	IT 相関[*2]	α[*3]	因子負荷[*4]
(1) 健康	3.41	1.06	0.416	0.835	0.452
	3.60	***0.90***	***0.457***	***0.806***	***0.508***
(2) 時間的ゆとり	3.08	1.18	0.371	0.840	0.395
	2.91	***1.15***	***0.531***	***0.799***	***0.614***
(3) 経済的ゆとり	3.23	0.97	0.446	0.833	0.473
	3.28	***0.96***	***0.501***	***0.802***	***0.562***
(4) 精神的ゆとり	3.23	1.00	0.595	0.822	0.635
	3.04	***1.02***	***0.706***	***0.782***	***0.796***
(5) 家族の理解・愛情	3.96	0.73	0.438	0.834	0.485
	3.94	***0.81***	***0.336***	***0.815***	***0.391***
(6) 友人・仲間	3.52	0.90	0.586	0.823	0.652
	3.78	***0.71***	***0.385***	***0.811***	***0.414***
(7) 熱中できる趣味	3.38	1.10	0.541	0.826	0.597
	3.12	***1.14***	***0.532***	***0.799***	***0.587***
(8) 仕事のはりあい	3.23	1.07	0.504	0.829	0.579
	3.27	***0.94***	***0.409***	***0.810***	***0.452***
(9) 社会的地位	3.05	1.04	0.536	0.826	0.599
	2.97	***0.93***	***0.393***	***0.811***	***0.434***
(10) 自然とのふれあい	3.10	1.12	0.529	0.827	0.574
	3.02	***1.00***	***0.464***	***0.805***	***0.504***
(11) 近隣との交流	2.75	1.05	0.541	0.826	0.586
	2.84	***1.02***	***0.414***	***0.810***	***0.458***
(12) 社会の役に立つこと	2.72	0.98	0.591	0.822	0.662
	2.56	***0.95***	***0.489***	***0.803***	***0.519***
尺度得点	38.63	7.39	0.307***	0.841	31.7
	38.35	***6.70***		***0.818***	***27.2***

***p<0.001

注）*1. 各項目の得点範囲は 1～5

*2. IT 相関はその項目の得点とその項目を除いた他の項目の合計得点との相関係数(r)

ただし，「尺度得点」の値は尺度得点の夫データと妻データの相関係数(r)

*3. 各項目のαはその項目を除いたときの値，尺度得点のαは尺度全体の値

*4. 「尺度得点」の値は因子寄与率(%)

（2） 生きがいの有無と生活満足度

本人および配偶者の生きがいの有無（本人調査問 8 付問，配偶者調査問 4 付問）が，それぞれの生活満足度に影響を与えるかどうかを検討するために，夫と妻の生きがいの有無を要因とする分散分析を行った。なお，生きがいの有無については，「持っている」を生きがい「有」，「前は持っていたが，今は持っていない」，「持っていない」および「わからない」を生きがい「無・他」の 2 群に分けた。

表 2-1　生きがいの有無と生活満足度（平均(S.D.)）（本人調査が男性の場合）

（上段が夫，***下段が妻***）

			妻		
			生きがい		
			有	無・他	
夫	生きがい	有	42.8 (6.0) n=427 ***42.8 (5.7)***	41.4 (5.9) n=204 ***36.7 (6.2)***	42.4 (6.0) n=631 ***40.8 (6.5)***
		無・他	36.8 (6.3) n=180 ***41.7 (5.5)***	36.0 (5.4) n=222 ***34.9 (5.7)***	36.4 (5.8) n=402 ***38.0 (6.6)***
			41.0 (6.7) n=607 ***42.4 (5.7)***	38.6 (6.2) n=426 ***35.8 (6.0)***	

本人調査が男性の場合の夫と妻の生きがいの有無別に生活満足度尺度得点平均値(S.D.)を表 2-1 に示した。

夫の生活満足度に対して夫の生きがいの有無($F(1, 1029)=213.4, p<.001$)も，妻の生きがいの有無($F(1, 1029)=8.4, p<.01$)も有意に影響を与えていたが，交互作用は有意ではなかった($F(1, 1029)=0.8$, n.s.)。すなわち，夫の生きがいの有無には，夫本人だけでなく，妻の生きがいの有無も関係していることがわかった。

同様に妻の生活満足度に対しても，夫の生きがいの有無($F(1, 1029)=284.3, p<.001$)も，妻の生きがいの有無($F(1, 1029)=13.8, p<.001$)も有意に影響を与えていたが，交互作用は有意ではなかった($F(1, 1029)=0.9$, n.s.)。

本人調査が女性の場合を表 2-2 に示した。

この場合も夫の生活満足度については同様の結果であり，夫の生きがいの有無($F(1, 184)=41.7, p<.001$)も，妻の生きがいの有無($F(1, 184)=5.6, p<.05$)も有意に影響を与えていたが，交互作用は有意ではなかった($F(1, 184)=1.3$, n.s.)。

しかし，妻の生活満足度については異なる結果だった。妻自身の生きがいの有無は生活満足度に有意に影響していた($F(1, 184)=23.6, p<.001$)が，夫の生きがいの有無は妻の生活満足度に有意な影響を与えていなかった($F(1, 184)=1.3$, n.s.)。なお，交互作用も有意ではなかった($F(1, 184)=0.2$, n.s.)。以上より，今回本人調査の対象となった女性の生活満足度だけが，夫の生きがいの有無に左右されていなかったことが示された。

表 2-2 生きがいの有無と生活満足度（平均(S.D.)）（本人調査が女性の場合）

（上段が夫，***下段が妻***）

			妻		
			生きがい		
			有	無・他	
夫	生きがい	有	42.7 (6.0) n=70 ***40.5 (7.3)***	39.2 (7.5) n=46 ***36.3 (5.8)***	41.3 (6.8) n=116 ***38.8 (7.0)***
		無・他	35.1 (6.5) n= 39 ***39.9 (5.8)***	33.8 (6.6) n= 33 ***34.8 (5.3)***	34.5 (6.5) n= 72 ***37.6 (6.1)***
			40.0(7.1) n=109 ***40.3 (6.8)***	36.9 (7.6) n= 79 ***35.6 (5.6)***	

（3） 生きがいの意味と生活満足度

生きがいの意味をどのように考えること（本人調査問 8，配偶者調査問 4）が生活満足度に

表 3-1 生きがいの意味と生活満足度（平均(S.D.)，t 値） （本人調査が男性の場合）

	夫			妻		
	該当	非該当	t 値	該当	非該当	t 値
1. 生活の活力やはりあい	n=322 40.5 (6.7)	733 39.9 (6.5)	1.434	353 40.2 (6.5)	700 39.4 (6.7)	1.673
2. 生活のリズムやメリハリ	105 41.7 (5.7)	950 39.9 (6.6)	**2.594****	113 40.8 (6.8)	940 39.6 (6.6)	1.863
3. 心の安らぎや気晴らし	286 39.1 (6.3)	789 40.3 (6.6)	**-2.601****	323 39.0 (6.4)	730 40.0 (6.8)	**-2.114***
4. 生きる喜びや満足感	468 40.1 (6.5)	587 40.0 (6.6)	0.392	464 39.6 (7.0)	589 39.8 (6.3)	-0.429
5. 人生観や価値観の形成	100 39.8 (7.3)	955 40.1 (6.5)	-0.437	64 40.1 (6.6)	989 39.7 (6.7)	0.465
6. 生きる目標や目的	215 38.1 (6.3)	840 40.5 (6.6)	**-4.928*****	242 38.9 (7.0)	811 39.9 (6.5)	**-2.033****
7. 自分自身の向上	135 40.5 (6.6)	920 40.0 (6.6)	0.842	161 40.5 (6.2)	892 39.5 (6.7)	1.614
8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	258 40.7 (6.4)	797 39.8 (6.6)	**1.972***	183 39.9 (6.4)	870 39.6 (6.7)	0.467
9. 他人や社会の役に立っていると感じること	159 41.2 (6.7)	896 39.8 (6.5)	**2.428***	107 40.8 (6.1)	946 39.6 (6.7)	1.879

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

影響するかを検討した。

表 3-1 には，提示した 9 種類の生きがいの意味（生きがい観）に，自分の考えが該当する者とそうでない者の生活満足度得点平均値(S.D.)と，両者の差を検討するための t 値を，本人調査が男性の場合について夫婦別に示した。

夫では，該当する場合の生活満足度が有意に高かったのは，「2. 生活のリズムやメリハリ」，「8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」および「9. 他人や社会の役に立っていると感じること」の 3 項目であった。達成感や有用感，あるいは生き生きとした日常生活と生活満足度は正の関係があるようである。一方，該当する場合に有意に生活満足度が低くなる項目は，「3. 心の安らぎや気晴らし」という消極的な生きがい観と，逆に「6. 生きる目標や目的」という積極的な生きがい観を持つ，いわば両極的な生きがい感がともに生活満足度を低める要因となっていた。

妻では，生活満足度を高める生きがい観は認められなかったが，夫の場合と同様に，「3. 心の安らぎや気晴らし」と「6. 生きる目標や目的」を選択した者の生活満足度が有意に低かった。

表 3-2 生きがいの意味と生活満足度（平均(S.D.)，t 値）　（本人調査が女性の場合）

	夫			妻		
	該当	非該当	t 値	該当	非該当	t 値
1. 生活の活力やはりあい	n= 53	140	1.950	67	126	1.192
	40.3 (7.9)	38.0 (7.1)		39.1 (6.9)	37.9 (6.6)	
2. 生活のリズムやメリハリ	17	176	0.835	21	172	1.409
	40.1 (6.4)	38.5 (7.5)		40.3 (5.6)	38.1 (6.8)	
3. 心の安らぎや気晴らし	41	152	-1.618	42	151	-0.301
	37.0 (7.3)	39.1 (7.4)		38.1 (7.1)	38.4 (6.6)	
4. 生きる喜びや満足感	71	122	0.736	98	95	**-2.529***
	39.1 (8.0)	38.3 (7.0)		37.2 (6.3)	39.6 (6.9)	
5. 人生観や価値観の形成	16	177	-0.036	13	180	**2.409***
	38.6 (6.4)	38.6 (7.5)		42.6 (8.3)	38.0 (6.5)	
6. 生きる目標や目的	57	136	0.730	39	154	-0.281
	39.2 (5.9)	38.4 (7.9)		38.1 (6.5)	38.4 (6.8)	
7. 自分自身の向上	33	160	-0.095	34	159	0.090
	38.5 (8.4)	38.7 (7.2)		38.4 (6.5)	38.3 (6.8)	
8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	45	148	-0.833	37	156	0.850
	37.8 (7.4)	38.9 (7.4)		39.2 (6.0)	38.1 (6.9)	
9. 他人や社会の役に立っていると感じること	28	165	0.454	15	178	-1.498
	39.2 (7.9)	38.5 (7.3)		35.9 (9.0)	38.6 (6.5)	

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

表 3-2 には，本人調査が女性の場合の結果を示した。この結果では，夫が選択した生きがい観で生活満足度に有意な影響を与えた項目はなかったが，妻では，「5. 人生観や価値観の形成」が正の影響を与え，「6. 生きる喜びや満足感」が負の影響を与えていた。人生観や価値観という追求的な内容（「求める生きがい」）を生きがいと考える者の生活満足度が高く，人生の喜びや満足という結果としての充実（「獲得した生きがい」）を生きがいと考える者の生活満足度が低いという結果は，働く女性の生きがい観を考える上で有益であろう。

（4） 生きがい対象と生活満足度

何を生きがいの対象とするか（本人調査問 9，配偶者調査問 5）が，生活満足度に影響するか否かを検討した。

表 4-1 には，提示した 12 項目それぞれについて，自分の生きがい対象として該当する者とそうでない者の生活満足度得点平均値(S.D.)および t 検定の結果を，本人調査が男性の場合に関して夫婦別に示した。

夫婦ともに生活満足度に正の影響を与えている生きがい対象は，「2. 趣味」，「3. スポーツ」，「5. 社会活動」の 3 項目であった。また，夫のみに正の効果がみられたのは「6. 自然とのふれあい」で，妻にのみ正の効果がみられたのが「4. 学習活動」であった。一方，生活満足度に有意な負の効果を示したのは，夫婦ともに「11. ひとりで気ままにすごすこと」だけであった。また，仕事や家族，友人関係，健康づくりや精神的充実に関連する対象には，生活満足度と有意な関係はみられなかった。

表 4-2 は，本人調査が女性の場合である。夫では，「2. 趣味」，「5. 社会活動」，「6. 自然とのふれあい」の 3 項目で生活満足度への正の効果が認められ，「11. ひとりで気ままにすごすこと」では負の効果が認められた。本人調査が男性だった場合と比べるとスポーツが有意でなかったが，結果は類似していた。一方，妻では，有意な正の効果がみられたのは「2. 趣味」と「3. スポーツ」のみで，本人調査が男性の場合の妻と比べて，社会活動と学習活動は有意な効果を与えていなかった。

負の効果に関しても妻の結果は，これまでのものと異なっていた。ひとりで気ままにすごすことは負の効果を示さず，「12. 自分自身の内面の充実」のみが生活満足度に負の効果を示した。

本人調査が男性の場合も女性の場合も，また，夫の場合も妻の場合も，一貫して生活満足度に有意な正の効果を示した生きがい対象は「2. 趣味」のみであった。趣味は，生活満足度を高める強力な生きがい対象であることが明らかになった。

一方，本人調査が女性の場合の妻を除いて，生活満足度に負の影響を与えていたのは「11. ひとり気ままにすごすこと」であった。明確な対象のない生活は，生活満足度にはマイナスに作用していた。本人調査が女性の場合の妻で，内面の充実を生きがい対象と考えている者の生活満足度が低いのは，結果として内面の充実が図れない現実が生活満足度を低めてしまうということを示唆しているようである。

表 4-1 生きがいの対象と生活満足度（平均(S.D.)，t 値）　（本人調査が男性の場合）

	夫			妻		
	該当	非該当	t 値	該当	非該当	t 値
1. 仕事	n=342 40.4 (6.4)	712 39.9 (6.6)	1.326	166 39.8 (6.3)	887 39.7 (6.7)	0.196
2. 趣味	425 41.1 (6.6)	629 39.4 (6.5)	**4..081*****	382 41.6 (6.2)	671 38.6 (6.6)	**7.203*****
3. スポーツ	196 41.9 (6.1)	858 39.6 (6.6)	**4.500*****	86 42.1 (5.8)	967 39.5 (6.7)	**3.535*****
4. 学習活動	35 41.3 (7.3)	1019 40.0 (6.5)	1.152	34 42.2 (5.9)	1019 39.6 (6.6)	**2.222***
5. 社会活動	78 43.6 (6.8)	976 39.8 (6.5)	**5.033*****	52 43.1 (6.0)	1001 39.5 (6.6)	**3.794*****
6. 自然とのふれあい	172 41.2 (6.1)	882 39.8 (6.6)	**2.458***	142 40.3 (6.1)	911 39.6 (6.7)	1.127
7. 配偶者・結婚生活	326 40.0 (6.3)	728 40.1 (6.7)	-0.039	314 40.5 (6.5)	739 39.3 (6.7)	**2.625****
8. 子ども・孫・親などの家族・家庭	667 39.9 (6.5)	387 40.3 (6.7)	-0.892	659 39.7 (6.5)	394 39.7 (6.8)	-0.153
9. 友人など家族以外の人との交流	140 40.1 (6.4)	914 40.0 (6.6)	0.109	301 40.2 (6.0)	752 39.5 (6.9)	1.687
10. 自分自身の健康づくり	155 40.4 (6.5)	899 40.0 (6.6)	0.795	147 40.4 (6.5)	906 39.6 (6.7)	1.372
11. ひとりで気ままにすごすこと	114 36.0 (6.1)	940 40.6 (6.5)	**-7.156*****	138 36.6 (7.3)	915 40.2 (6.4)	**-5.968*****
12. 自分自身の内面の充実	105 39.2 (6.9)	949 40.2 (6.5)	-1.428	163 39.4 (6.7)	890 39.7 (6.6)	-0.558

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

表 4-2 生きがいの対象と生活満足度（平均(S.D.)，t 値）　（本人調査が女性の場合）

	夫			妻		
	該当	非該当	t 値	該当	非該当	t 値
1. 仕事	n= 64	129	1.011	46	147	-0.705
	39.4 (8.1)	38.2 (7.0)		37.7 (6.1)	38.5 (6.9)	
2. 趣味	74	119	**2.551***	73	120	**3.650*****
	40.3 (6.7)	37.6 (7.6)		40.5 (7.0)	37.0 (6.1)	
3. スポーツ	31	162	1.666	16	177	**2.061***
	40.6 (8.1)	38.2 (7.2)		41.6 (6.2)	38.1 (6.7)	
4. 学習活動	6	187	-0.603	6	187	0.551
	36.8 (6.6)	38.7 (7.4)		39.8 (6.5)	38.3 (6.7)	
5. 社会活動	13	180	**2.030***	7	186	1.068
	42.6 (6.2)	38.3 (7.4)		41.0 (4.8)	38.2 (6.7)	
6. 自然とのふれあい	36	157	**2.650****	27	166	1.480
	41.5 (6.6)	38.0 (7.4)		40.1 (7.5)	38.1 (6.5)	
7. 配偶者・結婚生活	63	130	0.445	54	139	0.317
	39.0 (6.5)	38.5 (7.8)		38.6 (7.9)	38.3 (6.2)	
8. 子ども・孫・親などの家族・家庭	76	117	-0.192	124	69	-0.628
	38.5 (6.6)	38.7 (7.9)		38.1 (6.9)	38.8 (6.3)	
9. 友人など家族以外の人との交流	18	175	-1.115	49	144	1.161
	36.8 (10.6)	38.8 (7.0)		39.3 (5.8)	38.0 (7.0)	
10. 自分自身の健康づくり	28	165	0.040	30	163	0.728
	38.7 (6.2)	38.6 (7.6)		39.2 (6.7)	38.2 (6.7)	
11. ひとりで気ままにすごすこと	31	162	**-2.153***	16	177	-0.372
	36.0 (7.8)	39.1 (7.2)		37.8 (4.7)	38.4 (6.9)	
12. 自分自身の内面の充実	31	162	-0.806	34	159	**-3.724*****
	37.6 (9.2)	38.8 (7.0)		34.6 (6.3)	39.2 (6.5)	

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

2．生活満足度得点の変化

生活満足度の時系列的な変化をみるために，1991 年からの全 4 回の本人調査の結果を表 5 に示した。表 5 には，男女別の項目平均(S.D.)と尺度得点およびα係数を測定時点別に表示している。得点中央値の 3 点を基準にすると，男女ともに一貫して負の傾向を示したのが「(11)近隣との交流」（1991 年測定の女性を除く）と「(12)社会の役に立つこと」であった。また，女性では「(9)社会的地位」が一貫して 3 点を下回り，男性に比べて社会的評価に対する満足度の低いことに変化はない。

一方，満足度が相対的に高かったのは，男女とも「(5)家族の理解・愛情」が第１位で，「(6)友人・仲間」は男性でも高いが，女性では(5)と同レベルに満足度が高かった。次いで，「(1)

表５　生活満足度（平均(S.D.)）の変化

（上段は男性，***下段は女性***）

測定時点	1991 年	1996 年	2001 年	2006 年
人　数	2274 ***485***	2090 ***474***	2114 ***653***	1359 ***444***
(1) 健康	3.76 (0.90) ***3.78 (0.89)***	3.79 (0.90) ***3.81 (0.89)***	3.67 (0.92) ***3.65 (0.89)***	3.58 (0.93) ***3.57 (0.93)***
(2) 時間的ゆとり	3.42 (1.10) ***3.20 (1.15)***	3.46 (1.08) ***3.15 (1.18)***	3.21 (1.13) ***2.95 (1.18)***	3.42 (1.04) ***3.20 (1.15)***
(3) 経済的ゆとり	3.32 (0.92) ***3.29 (0.96)***	3.34 (0.91) ***3.42 (0.96)***	3.26 (0.93) ***3.27 (0.95)***	3.25 (0.97) ***3.28 (0.96)***
(4) 精神的ゆとり	3.46 (0.90) ***3.41 (0.93)***	3.49 (0.89) ***3.40 (1.01)***	3.35 (0.91) ***3.16 (0.97)***	3.30 (0.91) ***3.18 (0.98)***
(5) 家族の理解・愛情	4.09 (0.70) ***3.93 (0.81)***	4.04 (0.73) ***3.92 (0.86)***	4.06 (0.75) ***3.83 (0.90)***	3.94 (0.78) ***3.85 (0.89)***
(6) 友人・仲間	3.69 (0.80) ***3.92 (0.73)***	3.72 (0.80) ***3.92 (0.84)***	3.63 (0.82) ***3.89 (0.76)***	3.60 (0.81) ***3.84 (0.75)***
(7) 熱中できる趣味	3.46 (1.09) ***3.29 (1.20)***	3.55 (1.05) ***3.43 (1.17)***	3.45 (1.07) ***3.34 (1.14)***	3.37 (1.05) ***3.27 (1.14)***
(8) 仕事のはりあい	3.56 (0.94) ***3.53 (0.96)***	3.52 (0.95) ***3.47 (1.02)***	3.41 (0.97) ***3.28 (0.98)***	3.41 (0.94) ***3.20 (0.94)***
(9) 社会的地位	3.33 (0.91) ***2.88 (0.99)***	3.31 (0.89) ***2.97 (1.03)***	3.27 (0.90) ***2.85 (0.98)***	3.35 (0.88) ***2.97 (0.93)***
(10) 自然とのふれあい	3.29 (1.06) ***3.21 (1.10)***	3.37 (1.04) ***3.30 (1.12)***	3.26 (1.03) ***3.12 (1.10)***	3.15 (1.00) ***3.05 (1.02)***
(11) 近隣との交流	2.89 (1.04) ***3.01 (1.09)***	2.82 (1.05) ***2.93 (1.13)***	2.73 (1.03) ***2.73 (1.08)***	2.77 (1.02) ***2.80 (1.04)***
(12) 社会の役に立つこと	2.85 (0.98) ***2.61 (1.02)***	2.82 (0.97) ***2.59 (0.98)***	2.63 (0.98) ***2.42 (0.94)***	2.73 (0.95) ***2.56 (0.90)***
合計得点 α係数	41.12 (6.55) 0.814 ***40.07 (6.79)*** ***0.809***	41.21 (6.36) 0.802 ***40.31 (7.26)*** ***0.832***	39.93 (6.51) 0.808 ***38.50 (6.72)*** ***0.803***	39.88 (6.62) 0.826 ***38.77 (6.66)*** ***0.811***

注）各項目の得点範囲は 1～5

健康」の満足度が一貫して高い傾向にあった。

「(2)時間的ゆとり」にはやや男女差があるようである。女性の方が一貫して男性より低い傾向があり，特に 2001 年調査では，得点中央値を下回っている。この年は男性も他と比べて低かった。「(4)精神的ゆとり」は，どの調査時点でも男女とも得点中央値の 3 点よりも高いが，2001 年から女性の満足度が低下している。「(10)自然とのふれあい」は男女ともに，また，「(8)仕事のはりあい」は女性で低下傾向にある。

なお，尺度得点の測定時点間の差と男女差については，次節を参照のこと。α係数は一貫して十分な高さを示した。

3．生きがいの有無と生活満足度の変化

生きがいの有無が生活満足度得点に与える効果を男女別，測定年次別にみたのが表 6 である（本人調査）。

分散分析の結果，生きがいの有無の主効果(F(1,9761)=1338.0, p<.001)，性の主効果(F(1,9761)=40.3, p<.001)，測定年次の主効果(F(3,9761=14.7, p<.001)の全ての主効果が有意であった。生きがいは「有」，性は「男性」が有意に生活満足度が高く，測定年次では，Tukey の HSD 検定の結果, 1991 年と 1996 年の間と 2001 年と 2006 年の間には有意な差はなかったが, 1991 年と 1996 年はともに 2001 年および 2006 年よりも 0.1%水準で有意に生活満足度が高かった。すなわち，生活満足度に関しては，1996 年と 2001 年の間が低下に向かう分岐点となっていた。

2 次の交互作用はいずれも有意ではなかったが，3 次の交互作用が有意だった(F(3,9761)=2.8, p<.05)。これは，2006 年の男性で生きがいの有る者の生活満足度と，同年

表 6　生きがいの有無と生活満足度の変化（平均(S.D.)）

	男性		女性	
	生きがい		生きがい	
	有	無・他	有	無・他
1991 年	n=1505	744	312	165
	42.9 (6.0)	37.5 (6.1)	42.3 (6.2)	35.8 (5.6)
1996 年	1642	426	361	108
	42.4 (6.0)	36.9 (5.7)	41.8 (6.7)	35.4 (6.7)
2001 年	1440	652	398	240
	41.7 (6.1)	35.9 (5.7)	41.0 (6.3)	34.3 (5.4)
2006 年	791	554	246	193
	42.5 (5.9)	36.2 (5.8)	41.0 (6.3)	35.9 (6.1)
計	5378	2376	1317	706
	42.4 (6.0)	36.6 (5.9)	41.6 (6.4)	35.3 (5.9)

の女性で生きがいが無・他の者の生活満足度が，期待値に比べて高いことが影響していると思われる。

II. 性格と生きがい

1．性格尺度の分析

（1） 因子分析

問 7「性格」の 13 項目について，1991 年データを除く全データおよび 3 測定時点別，男女別に因子分析をすると，1996 年調査から採用した「(5)他人にはない自分なりの価値観を持っている」と「(6)自分には他人にない優れたところがある」の相関が特に強く，この 2 項目を中心とする因子が現れた。しかし，1991 年の第 1 回調査時点で概念化した内容と異なり，また，解釈のしにくい因子となってしまうことから，2001 年調査の際の分析と同様に，次に，この 2 項目を削除した 11 項目によって改めて因子分析を行った。その結果，今回も前回と同様に，「(4)無理をせずマイペースで進む」の因子負荷量が低く，複数の因子間における交差負荷の傾向もあったため，この項目も削除し，10 項目による因子分析を各測定時点別，男女別に行った。固有値 1 を基準とした因子分析では，各時点や男女によって多少変動はあったものの，前回同様，安定した 2 因子が確認できたので，全測定時点男女込みの全データによって，因子数を 2 に指定した主因子法・プロマックス回転による結果を表 7 に示した。

表 7 性格尺度の因子分析（プロマックス回転後）

項　目	Ⅰ	Ⅱ
(11) いろいろな人の話や意見をよく聞く	**0.774**	0.134
(10) 新しいグループの中に，わりと気軽に入れる	**0.614**	0.052
(13) どんなところでも結構楽しみを見出す	**0.544**	0.135
(1) 人との関係やつながりを大切にする	**0.523**	0.018
(12) 上下の立場や関係を尊重する	**0.511**	-0.065
(3) いつも目標に向かってつき進む	-0.015	**0.761**
(7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	0.157	**0.502**
(2) 自分の世界や個性を大切にする	-0.118	**0.499**
(8) 一つのことにじっくり取り組む	-0.033	**0.463**
(9) 指導者的立場に立とうとする	0.233	**0.340**

今回の分析においても，1991 年から 2001 年の 3 回の全データによる因子分析と全く同じ 2 因子が確認された。前回の分析では，第Ⅰ因子は親和性を基礎とする対人特性の因子，第Ⅱ因子は積極的・達成的な行動特性の因子としたが，今回は，因子特性が明確になるように，

第Ⅰ因子を「対人的親和性」，第Ⅱ因子を「行動的積極性」と命名することにした。両因子の相関係数は 0.651 と前回の 0.656 とほぼ同じで，やや強い相関を示したが，このこともまた，両因子の特徴の安定性を示している。

（2） 下位尺度の項目分析

① 対人的親和性の項目分析

表 8-1 に対人親和性尺度の項目分析の結果を男女別に示した。各項目の得点範囲は 1～4 点，得点中央値は 2.5 点である。

男女とも「(10)新しいグループの中に，わりと気軽に入れる」の平均値がほぼ中央値に一致した以外は，どの項目も中央値よりも高く，特に，「(1)人との関係やつながりを大切にする」が男性で 3.42，女性で 3.50 と高かった。

IT 相関は，「(12)上下の立場や関係を尊重する」が最も低かったが，それでも男性で 0.383，女性で 0.391 と中程度の相関があり，特に相関の低い項目はなかった。尺度のα係数は男性が 0.727，女性が 0.721 と十分な内的整合性を示しており，この値を下げる項目はなかった。さらに，尺度の 1 次元性を確認するために主因子法による単一因子分析を行ったが，最低の因子負荷量でも男性の項目(12)の 0.459 と高かったので，本尺度の 1 次元性が確認できた。因子寄与率は，男性が 35.8%，女性が 35.5%とほぼ同様であった。

表 8-1 対人的親和性尺度の項目分析

（上段が男性 (n=8337)，***下段が女性 (n=2272)***）

	平均*1	S.D.	IT 相関*2	α*3	因子負荷*4
(11) いろいろな人の話や意見をよく聞く	3.06 ***3.12***	0.65 ***0.66***	0.567 ***0.577***	0.651 ***0.638***	0.686 ***0.706***
(10) 新しいグループの中に，わりと気軽に入れる	2.51 ***2.52***	0.77 ***0.84***	0.519 ***0.493***	0.668 ***0.672***	0.643 ***0.606***
(13) どんなところでも結構楽しみを見出す	2.75 ***2.88***	0.71 ***0.75***	0.516 ***0.552***	0.669 ***0.643***	0.628 ***0.671***
(1) 人との関係やつながりを大切にする	3.42 ***3.50***	0.63 ***0.60***	0.464 ***0.410***	0.690 ***0.699***	0.549 ***0.483***
(12) 上下の立場や関係を尊重する	3.07 ***3.12***	0.71 ***0.71***	0.383 ***0.391***	0.721 ***0.707***	0.459 ***0.476***
尺度得点	14.81 ***15.15***	2.41 ***2.46***	－ －	0.727 ***0.721***	35.8 ***35.5***

注）*1. 各項目の得点範囲は 1～4

*2. IT 相関はその項目の得点とその項目を除いた他の項目の合計得点との相関係数(r)

*3. 各項目のαはその項目を除いたときの値，尺度得点のαは尺度全体の値

*4. 「尺度得点」の値は因子寄与率(%)

② 行動的積極性の項目分析

表 8-2 は，行動的積極性尺度の男女別項目分析の結果である。対人的親和性尺度に比べて項目平均値は低い傾向にあり，3 点を超えたのは「(2)自分の世界や個性を大切にする」だけであった。また，「(9)指導者的立場に立とうとする」は，分析に使用した性格の全 10 項目中唯一得点中央値より低く，また，男性では 2.45 と中央値に近かったもの女性は 2.06 と特に低い傾向がみられた。項目得点が対人親和性尺度よりも低い傾向にあるため，尺度得点も低い傾向にあった。

尺度のα係数は男性で 0.662，女性で 0.696 と対人的親和性尺度よりも内的整合性が低かったが，尺度としては容認できる値である。しかし，そのため IT 相関も対人親和性尺度よりは総じて低い傾向にあったが，0.3 を下回る項目は男女ともになく，α係数を下げる項目もなかった。単一因子分析の結果をみても，最低の因子負荷量が男性の「(2)自分の世界や個性を大切にする」の 0.385 であったので，尺度の 1 次元性も確認された。因子寄与率は，男性で 30.3%，女性で 33.7%だった。

なお，尺度合計点の男女比較については，「2. 生きがいの有無と性格」を参照のこと。

表 8-2 行動的積極性尺度の項目分析

（上段が男性 (n=8257)，***下段が女性 (n=2250)***）

	平均*1	S.D.	IT 相関*2	α*3	因子負荷*4
(3) いつも目標に向かってつき進む	2.87 ***2.77***	0.73 ***0.76***	0.567 ***0.616***	0.540 ***0.575***	0.764 ***0.806***
(7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	2.68 ***2.68***	0.77 ***0.83***	0.454 ***0.390***	0.592 ***0.625***	0.574 ***0.623***
(2) 自分の世界や個性を大切にする	3.12 ***3.13***	0.70 ***0.72***	0.315 ***0.363***	0.653 ***0.681***	0.385 ***0.439***
(8) 一つのことにじっくり取り組む	2.74 ***2.73***	0.74 ***0.78***	0.361 ***0.390***	0.635 ***0.672***	0.442 ***0.462***
(9) 指導者的立場に立とうとする	2.45 ***2.06***	0.79 ***0.80***	0.390 ***0.399***	0.623 ***0.669***	0.508 ***0.491***
尺度得点	13.85 ***13.38***	2.44 ***2.61***	－ －	0.662 ***0.696***	30.3 ***33.7***

注）*1. 各項目の得点範囲は 1～4

*2. IT 相関はその項目の得点とその項目を除いた他の項目の合計得点との相関係数(r)

*3. 各項目のαはその項目を除いたときの値，尺度得点のαは尺度全体の値

*4. 「尺度得点」の値は因子寄与率(%)

（3） 尺度得点の年次変化

① 対人的親和性の年次変化

表 9-1 に対人親和性得点を測定時点別，男女別に示した。

尺度得点の年次変化をみると，男女とも 1996 年が最も高く，2001 年，2006 年と徐々に低下してきている傾向が認められる（ただし，尺度得点の差の検定は「2. 生きがいの有無と性格」を参照のこと）。項目別にみると，男女ともに 2006 年の「(1)人との関係やつながりを大切にする」が，過去最大であった 1996 年よりも 0.2 ポイント程度低下している。また，女性では「(11)いろいろな人の話や意見をよく聞く」も 1991 年の 3.19 や 1996 年の 3.18 よりも 0.2 ポイント以上低かった。

α係数をみると，2006 年の女性のみが 0.7 を下回っていた。これは，対象者数が少なかったことと同時に，得点が低下している項目と変化しない項目があったため，項目間の相関が低くなったことがその理由と考えられる。

表 9-1 対人的親和性得点の変化（平均(S.D.)）

（上段は男性，***下段は女性***）

測定時点	1991 年	1996 年	2001 年	2006 年
人　数	2316 ***516***	2254 ***533***	2333 ***749***	1434 ***474***
(11) いろいろな人の話や意見をよく聞く	3.10 (0.66) ***3.19 (0.64)***	3.09 (0.66) ***3.18 (0.70)***	3.02 (0.65) ***3.12 (0.65)***	2.98 (0.62) ***2.96 (0.60)***
(10) 新しいグループの中に，わりと気軽に入れる	2.50 (0.78) ***2.51 (0.89)***	2.57 (0.79) ***2.60 (0.85)***	2.49 (0.76) ***2.49 (0.83)***	2.45 (0.73) ***2.50 (0.81)***
(13) どんなところでも結構楽しみを見出す	2.77 (0.71) ***2.87 (0.78)***	2.78 (0.73) ***2.91 (0.79)***	2.75 (0.71) ***2.91 (0.74)***	2.69 (0.66) ***2.82 (0.71)***
(1) 人との関係やつながりを大切にする	3.43 (0.63) ***3.50 (0.58)***	3.49 (0.62) ***3.56 (0.59)***	3.44 (0.63) ***3.54 (0.59)***	3.26 (0.65) ***3.35 (0.61)***
(12) 上下の立場や関係を尊重する	3.16 (0.72) ***3.20 (0.73)***	3.06 (0.72) ***3.14 (0.72)***	3.01 (0.72) ***3.11 (0.72)***	3.06 (0.63) ***3.05 (0.65)***
合計得点 α係数	14.96 (2.45) 0.737 ***15.27 (2.58)*** ***0.743***	14.99 (2.42) 0.722 ***15.40 (2.51)*** ***0.717***	14.71 (2.38) 0.716 ***15.17 (2.44)*** ***0.720***	14.45 (2.29) 0.733 ***14.69 (2.26)*** ***0.687***

注）各項目の得点範囲は 1～4

② 行動的積極性の年次変化

表 9-2 は，行動的積極性尺度の男女別年次変化である。

尺度合計点の変化をみると，男女とも 2001 年にやや低下し，2006 年には大きく低下している。項目別にみると，1991 年あるいは 1996 年に比べて 2006 年では，男性の「(3)いつも目標に向かってつき進む」と「(7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする」が 0.2 ポイント程度低下していた。この両項目に関しては，女性は男性ほどではないが，やはり 0.1 ポイント程度低下していた。

α係数をみると，他に比べて対象者数が少ないにもかかわらず，女性の 2006 年のデータが唯一 0.7 を超えており，対人的親和性尺度とは反対の傾向が認められた。各項目の低下の程度は，男性のように特に大きな項目はなかったが，各項目とも同程度に低下し，項目間の相関が高まったからであろう。

表 9-2 行動的積極性得点の変化（平均(S.D.)）の変化

（上段は男性，***下段は女性***）

測定時点	1991 年	1996 年	2001 年	2006 年
人　数	2291 ***506***	2237 ***531***	2304 ***738***	1425 ***475***
(3) いつも目標に向かってつき進む	2.91 (0.73) ***2.80 (0.77)***	2.91 (0.73) ***2.81 (0.75)***	2.88 (0.73) ***2.78 (0.77)***	2.70 (0.70) ***2.70 (0.75)***
(7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	2.70 (0.79) ***2.68 (0.85)***	2.73 (0.78) ***2.74 (0.84)***	2.72 (0.75) ***2.69 (0.83)***	2.53 (0.71) ***2.58 (0.79)***
(2) 自分の世界や個性を大切にする	3.11 (0.70) ***3.13 (0.70)***	3.17 (0.71) ***3.13 (0.72)***	3.14 (0.70) ***3.18 (0.72)***	3.01 (0.68) ***3.06 (0.73)***
(8) 一つのことにじっくり取り組む	2.79 (0.76) ***2.75 (0.79)***	2.73 (0.75) ***2.78 (0.79)***	2.72 (0.75) ***2.74 (0.80)***	2.67 (0.69) ***2.65 (0.71)***
(9) 指導者的立場に立とうとする	2.49 (0.82) ***2.06 (0.79)***	2.52 (0.79) ***2.15 (0.85)***	2.41 (0.78) ***2.03 (0.79)***	2.36 (0.72) ***2.03 (0.74)***
合計得点 α係数	14.00 (2.45) 0.646 ***13.42 (2.62)*** ***0.695***	14.06 (2.43) 0.654 ***13.61 (2.63)*** ***0.683***	13.86 (2.46) 0.675 ***13.42 (2.61)*** ***0.687***	13.27 (2.28) 0.661 ***13.03 (2.57)*** ***0.721***

注）各項目の得点範囲は 1～4

２．生きがいの有無と性格

生きがいの有無（生きがい「有」と「無・他」，被験者間要因）と性格の 2 尺度の関連性を検討するために，性（被験者間要因）と測定年次（被験者内要因）を含む分析を行った。方法は，対人的親和性得点と行動的積極性得点を従属変数とする 2×2×4 の多変量分散分析である。表 10 には，性別，測定年次別に生きがいの有無別の尺度平均値を示した。

表 10 生きがいの有無と性格：測定時点別（平均(S.D.)）

	対人的親和性				行動的積極性			
	男性		女性		男性		女性	
	生きがい		生きがい		生きがい		生きがい	
	有	無・他	有	無・他	有	無・他	有	無・他
1991 年	n=1517	737	315	175	1517	737	315	175
	15.5 (2.3)	13.9 (2.3)	16.0 (2.4)	14.0 (2.4)	14.5 (2.3)	12.9 (2.3)	14.2 (2.5)	12.0 (2.3)
1996 年	1752	444	404	118	1752	444	404	118
	15.3 (2.3)	13.7 (2.4)	15.8 (2.4)	14.1 (2.4)	14.4 (2.3)	12.6 (2.3)	14.1 (2.5)	12.1 (2.3)
2001 年	1592	676	449	264	1592	676	449	264
	15.2 (2.2)	13.5 (2.3)	15.8 (2.2)	14.0 (2.4)	14.4 (2.3)	12.6 (2.3)	14.1 (2.5)	12.3 (2.4)
2006 年	837	571	267	197	837	571	267	197
	15.1 (2.2)	13.5 (2.1)	15.4 (2.2)	13.8 (2.1)	14.0 (2.2)	12.3 (2.0)	13.9 (2.5)	11.9 (2.2)
計	5698	2428	1435	754	5698	2428	1435	754
	15.3 (2.3)	13.7 (2.3)	15.8 (2.3)	14.0 (2.3)	14.4 (2.3)	12.6 (2.3)	14.1 (2.5)	12.1 (2.3)

生きがいの有無の主効果は，両尺度に対して有意であった。対人的親和性尺度における生きがい「有」の平均値は 15.4 (S.D.=2.3, n=7133)，「無・他」は 13.7 (2.3, 3182)と生きがいの有る者の方が有意に高かった(F(1, 10299)=783.4, p<.001)。行動的積極性尺度でも，生きがい「有」の平均値は 14.3 (S.D.=2.4, n=7133)，「無・他」は 12.5(2.3, 3182)と生きがいの有る者の方が有意に高かった(F(1, 10299)=929.1, p<.001)。

同時に投入した性および測定年次の主効果も，両尺度に対して有意であった。

対人的親和性尺度における男性の平均値は 14.8 (S.D.=2.4, n=8126)，女性は 15.2 (2.5, 2189)で，女性の方が有意に高かった(F(1, 10299)=45.2, p<.001)。一方，行動的積極性尺度では，男性の平均値は 13.9 (S.D.=2.4, n=8126)，女性は 13.4(2.6, 2189)と，逆に男性の方が有意に高かった(F(1, 10299)=42.0, p<.001)。

測定年次に関しては，対人的親和性尺度(F(3, 10299)=7.4, p<.001)，行動的積極性尺度(F(3, 10299)=9.2, p<.001)と両尺度とも有意だったので，Tukey の HSD 検定による多重比較を行った。

対人的親和性尺度（表 9-1 参照）では，1991 年と 1996 年には有意な差は認められなかったが，1991 年と 2001 年（p<.01）および 2006 年(p<.001)の間に有意差が認められ，いずれ

も 1991 年の得点の方が高かった。1996 年の得点は，2001 年(p<.001)および 2006 年よりも有意に高かった。また，2001 年と 2006 年の間にも有意な差があり(p<.001)，2001 年の得点の方が有意に高かった。すなわち，1991 年と 1996 年はほぼ同質群であるが，2001 年はそれよりも対人的親和性が低く，さらに 2006 年がそれよりも低いということが明らかになった。

行動的積極性尺度（表 9-2 参照）では，1991 年は 1996 年および 2001 年との間に有意差がなかったが，1996 年は 2001 年よりも有意に得点が高かった(p<.01)。一方，2006 年は，他のいずれの測定年次の得点よりも有意に低かった(いずれも p<.001)。したがって，2006 年の行動的積極性は，他の測定年次よりも明らかに低いといえる。

第４章　　定年・引退と生きがい

東京学芸大学教授　直井 道子

I. 目的　　生きがい喪失仮説とぬれ落ち葉仮説

これまで、老年学の世界では早くからリタイアメント・ショックという現象が取りざたされてきたが、中でも仕事人間・会社人間が多い日本人は定年退職によって生きがいを失う危険性が高いと指摘されてきた。これを「生きがい喪失仮説」と呼んでおく。また、その一つの兆候として引退後の夫は妻と行動を共にしたがり、妻の外出を喜ばないなど、まるでぬれ落ち葉のように妻にべったりくっつくと揶揄された。これを「ぬれ落ち葉仮説」と呼んでおく。この章では、この「生きがい喪失仮説」と「ぬれ落ち葉仮説」の真偽をデータに照らして検討する。

この問題をより具体的に検討するために、もう少し厳密にまた具体的に問題を設定しておこう。第一に、生きがいという言葉はきわめて多義的で豊かな言葉であり、本調査では次の3 通りのデータが得られている。1、問 8 では生活の張り、生きる目標、生きる喜びなど 9 種類の「生きがいをあらわす言葉」〔以下では生きがいの意味と表現する〕をあげ、その中から最も適当なものを二つまで選択してもらい、「そのような生きがいをあなたは持っていますか」と聞いている。これは生きがいの意味をあえて限定させてからその有無を問うているので「狭義の生きがいの有無」と呼んでおく。2、問 10 では、問 8 の選択肢と同様の生きがいの意味を文章化して、それぞれが得られる場はどこか、家庭，仕事・会社、地域・近隣など 5 つの場をあげて 2 つまで聞いている。ここでは、生きがいを先にあげたように狭義に限定していないので、これを「生きがいの構成要素」別の「生きがいが得られる場」と呼ぶ。3、問 9 で「あなたはどのようなことに生きがいを感じますか」と聞いて 3 つまで選択してもらった結果がある。これを「生きがいの対象」と呼ぶことにする。このような多様なデータによって、どの使用法の場合に「生きがい喪失仮説」があてはまるのか、あるいは当てはまらないのか、を検討する。

第二に、これまで定年退職という言葉を使って記述してきたが、日本では多くの人が定年後も働き続け、定年すなわち引退ではない。かりに退職が生きがい喪失を招くとすれば、それは「定年」という長期間働いてきた職場から一定年齢に到達したことをもって退職する時期であるのか、それともその後すべての職から「引退」した時期なのか？　そのいずれかを明確にするために、本章では定年と引退と言う言葉を厳密に使い分け、生きがい喪失があるとすれば、そのきっかけは「定年時か、引退時か」を問うことにする。そのために、サンプルを定年前正規従業員、定年後の正規従業員、定年後の非正規就労、無職にわけ、どのタイプの間で生きがいの差異が見られるのかを追究する。このタイプ分けはあくまで横断的なもので定年前の人と定年後の人の比較にすぎないのであるが、定年前正規従業員から定年を経て再び就労し、そして最後に無職になるという多くの雇用者がたどる経過として解釈しても、それほどまちがってはいないだろう。以下ではあくまで横断的分析であることに留意しなが

らも、定年後の経過としての解釈も行っていきたい。

第三に、本調査はもともと女性が 4 分の 1 になるように設計されたもので、勤務先の自然な分布にしたがって男女を選択したものではない。しかも定年・引退後の生きがいという問題は男女でかなり異なると想像されることから、男女をなるべく別に集計し、男女差を検討していくことにしたい。

第四に、「ぬれ落ち葉仮説」については退職者の行動から検証することは難しいので、夫の退職によって配偶者の趣味や友人関係が阻害されているかどうかを、配偶者の側から検討することにする。したがって、この部分は、女性無職配偶者のデータを使用する。

まとめると、以下では「狭義の生きがいの有無」「生きがいの対象」「生きがいの構成要素別の生きがいが得られる場」の 3 つのデータを利用して、生きがい喪失はあるのか、あるとすれば定年時なのか、引退時なのか、を男女別に検討することになる。さらに、夫の定年・引退が無職の妻の生きがいと関連するかどうかを、配偶者データによって検討する。いずれも、就労タイプ別の傾向をライフコースにおける経過と読み替えて解釈することによって、「生きがい喪失仮説」と「ぬれ落ち葉仮説」の真偽を検討する。

II. 就労タイプ別の基本属性

ここでは分析に使用した就労タイプをどのように類型化したかを述べておく。就労タイプは定年について聞いた問 13（1.まだ定年前、2.定年前に退職、3.定年退職）と現在の就業上の地位の 5 分類（正規、派遣・嘱託・パート、自営業・自由業・内職、シルバー人材センター、無職）を組合せて作った。このままだと 3×5＝15 パタンができてしまうので、両方の分類を減らすことにし、最近では定年の輪郭がぼやけてきて定年年齢前に勤務先の指示で転職をする場合も多いところから、定年前に退職した場合も「定年後就業」に含めた扱いとした。したがって、就労タイプの「定年後」には定年年齢前の退職が含まれている。また従業上の地位は、正規と無職以外は自営業を含めてすべて「非正規」としてまとめた。これで 2×3＝6 パタンとなった。この中で定年前の非正規はきわめて例外的だと考え分析対象外とし、また定年前無職というパタンはないことから、最終的には定年前正規、定年後正規、定年後非正規、無職の 4 パタンとなった。どちらかの問いに無回答だったものはどのパタンにも分類せずに分析の対象外としたため、合計して 170 人もが対象外となった。この中には定年前か後かを不明として答えず、現在正規だと答えたもの 57 人、定年前でパート・派遣・嘱託が 22 名含まれている。

次にそれぞれのタイプの基本属性を示しておきたい。表 1 には年齢層別就労タイプの分布を示した。まず、50 歳代では圧倒的に「定年前正規」の比率が高いが、50 歳代後半では 15%ほどが定年後の正規雇用と定年後非正規となっていることが目につく。60 歳―64 歳では反対に 15%ほどを除いては定年を迎え、3 割近くが無職になっているが、あとは何らかの形で働いている。65 歳以上も同様だが、年齢が高いほど無職の比率が高い傾向にある。本章の目的は定年･引退後の生きがいに焦点をあてているので､人数としては多いが定年前正規の人々をひとまとめにし、それと定年後の人々を対比してみていくことにする。

表１　年齢層別就労タイプ（%）

	定年前正規	定年後正規	定年後非正規	無職
54 才以下	98.3	1.0	0.4	0.2
55-59 才	85.7	9.3	3.7	1.2
60-64 才	14.6	21.9	35.4	28.1
65-69 才	7.3	13.1	29.3	50.2
70-74 才	0.8	8.1	17.1	74.0
合計	67.1	7	10.1	15.7

次に表 2 で男女別に就労タイプを見ると、男女とも定年前正規に多くが集中しているが、定年後正規と定年後非正規では女性の比率がかなり小さくなっている。女性は定年後に就労したくないのか、あるいはしたくても見付かりにくいのか、いずれかであろう。

表２　男女別就労タイプ（%）

	定年前正規	定年後正規	定年後非正規	無職
男	65.2	8.7	10.8	15.4
女	72.9	1.4	7.6	18.1
合計	66.9	6.9	10	16.2

表３　就労タイプ別の基本属性

	平均年齢(歳)		女性比率(%)	管理職率(%)		事務職率(%)		平均年収(円)	
	男	女		男	女	男	女	男	女
定年前正規	49.0	48.2	26.0	51.3	9.4	30.0	83.0	870.1	770.0
定年後正規	62.4	59.5	4.8	76.7	0.0	10.8	83.3	796.0	733.3
定年後非正規	65.1	62.6	18.0	19.5	0.0	30.9	57.6	521.3	508.3
無職	69.0	67.3	26.7					450.0	358.8

同様のことを、就労タイプ別の属性という形で、平均年齢や女性比率として表現し、また他の属性についても掲載したのが表 3 である。女性比率はもともと 4 分の 1 になるように調査依頼をしているが、定年後の就労者では非常に女性が少ないという表 2 でみた現象がさらによくわかる。就労タイプ別の分析をする際には定年後正規というのはほとんど男性であることを意識しておく必要があるだろう。また、年齢をみると同じ就労タイプでも女性の方が平均で 2 歳ほど若いことがわかる。次に職種については男性の場合、正規従業では管理職と事務職の比率が高いことがわかるが、とくに定年後正規では管理職比率の高さが目につく。女性では定年後はそもそも就労人数が少ない上にほとんど管理職はいない。なお、年収については、質問紙では夫婦単位の収入を 100 万円刻みまたは 200 万円刻みのカテゴリーで質問

している。平均値をとるために、200 万未満については 150 万、1500 万円以上については 1600 万を与え、他のカテゴリーには真ん中の値〔例、600 万から 800 万であれば 700 万〕を与えて、計算した。したがって、この平均は正確なものではなく、あくまで目安である。定年後はしだいに年収が低下していくと解釈できる。また男女で収入の差異が見られるが、これは夫婦単位の所得を聞いた結果であり、男性の 89%が有配偶であるのに、女性は約 5 割しか有配偶でないことに留意してみる必要がある。

次に夫の就労タイプ別に無職女性配偶者（妻）624 名の特性も記しておきたい。夫の就労タイプ別の妻の平均年齢は、表 4 のとおりで、無職の場合には平均 65 歳に達していた。

表 4　夫の就労タイプ別妻の平均年齢

就労タイプ	平均値(歳)
定年前正規	45.8
定年後正規	59.5
定年後非正規	62.0
無職	65.2
合計	53.9

表 5　夫の就労タイプ別　配偶者（妻）の家族構成

	一人暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(自分)と未婚の子	自分たち夫婦(自分)と子ども夫婦	自分たち夫婦(自分)と親	無回答
定年前正規	1.8	19.6	64.5	0.6	13.0	0.6
定年後正規	1.5	45.6	36.8	7.4	8.8	
定年後非正規		45.7	38.3	6.2	8.6	1.2
無職		63.6	23.1	6.3	6.3	0.7
合計	1.1	35.9	48.6	3.4	10.4	0.6

また配偶者（妻）の家族構成を見たところ表 5 のとおりで、定年前では未婚の子が同居しているケースが多いが、定年後になると「自分達夫婦だけ」の比率が高く、無職では 6 割以上が夫婦だけの暮らしになっている。

この様に各タイプの特徴を理解した上で、いよいよ生きがいの分析に入りたい。

III. 定年前後で生きがいの保有率はちがうか　（狭義の生きがい）

以下では生きがいとして 3 とおりのデータを用いるが、まず、生きがいの意味を本人に二つまで答えてもらったあとで「そのような生きがいをあなたは持っていますか？」と聞いた質問への回答、「狭義の生きがいの有無」から検討しよう。

表 6 を見ると，「生きがいを持っている」の比率は男女とも「定年前正規」が５割前後で最も低く、むしろ定年後の就労者や無職者の方が高い。また、定年前後の差は男性より女性

表６　男女別、就労タイプ別　狭義の生きがいの有無

		持っている	前は持っていたが今はない	持っていない	わからない	無回答
男	定年前正規	51.8	8.0	17.7	19.6	3.0
	定年後正規	62.5	5.8	12.5	15	4.2
	定年後非正規	68.5	2.0	7.4	18.8	3.4
	無職	64.2	9.9	5.2	13.7	7.1
	合計	56.4	7.5	14.2	18.2	3.8
女	定年前正規	49.4	8.8	14.2	24.2	3.5
	定年後正規	83.3			16.7	
	定年後非正規	81.8	9.1		9.1	
	無職	72.2	13.9	7.6	5.1	1.3
	合計	56.4	9.6	11.7	19.5	2.8

が大きいことがわかる。定年後の女性の就労者は少ないからあまり一般化はできないかもしれないが、無職でも 7 割以上が生きがいをもっていることは注目してよい。このことから、「狭義の生きがい」に着目する限り、「生きがい喪失仮説」は、定年前についても定年後についても全く妥当していないと結論できよう。

さらにこの表の「前は持っていたが、今はもっていない」の比率に着目すると、男女とも無職がやや高い。これを無職になったことで生きがいを失ったと解釈するならば、定年時ではなく引退時に生きがいを失う、生きがい喪失仮説にあてはまる人が１割程度はいるともいえる。ただし、以上は自分で生きがいという言葉の意味を解釈したあとでの「狭義の生きがい」の有無であるので、生きがいの意味をどのように解釈したのかと生きがいの有無の関連も検討したがあまり明確な傾向はつかめなかった。

次に、視点を変更して生きがいの対象という角度から「仕事が生きがい」という比率が定年の前後でどの程度異なるのか、ということを見ていきたい。質問は「あなた方は現在どのようなことに生きがいを感じますか。〔○は 3 つまで〕」である。選択肢は 13 個あるが、3 個の○をつけた人は 43.3%、2 個の人は 22.4% ,全く○をつけなかった人と 1 個だけ○をつけた人が約４分の１ずつで、○のつけ方は多様であった。また、この質問は前の質問（狭義の生きがい）で「生きがいはない」と答えた人にも聞いており、「生きがいはない」「わからない」とした人の中にも「仕事・職場」を生きがいとした人が 20-30%ほどあった。

さて、生きがいの対象として「仕事」を３つのうちの１つに選んだ人は表７のように男女ともおよそ３割前後である。定年前正規、定年後正規、定年後非正規の間でその比率はほとんどかわらない。しかし、引退後は当然ながらほとんどいないので、「仕事が生きがい」が減

少するのは定年時ではなく、引退時である、と解釈できる。

表７　仕事が生きがいの比率（狭義）・男女別（%）

	男	女
定年前正規	34.7	21.7
定年後正規	35.0	33.3
定年後非正規	32.9	36.4
無職	1.4	
その他不明	29.4	19.0

この結果は意外な面もある。一般に定年後の仕事は定年前より給料が低く、またしばしば以前より権限が小さいとか、能力に見合っていないなどで、より満足できないものである、といわれる。それなのに、「仕事が生きがい」という人の比率はほとんど同じなのである。もしかすると定年後の仕事は満足度において定年前とかわらないものなのであろうか？

この点を調べるために実際の仕事や職場への不満度を就労タイプ別に見ていくことにした。質問は「現在の仕事や職場について、どのように感じていますか。(1) から (8) のそれぞれについてお答えください」として、表８のような８項目をあげ、それぞれに「とても満足している」「やや満足している」「どちらともいえない」「やや不満である」「とても不満である」のうちから１つを選択してもらっている。そこで、５つのカテゴリーに各１点（とても満足）から５点（とても不満）を与え、項目ごとに就労タイプ別の平均点をとった。すなわち、数値は不満度を表しており、値が大きければ大きいほど不満だといえる。その結果は表８に示すとおりである。男性について全体的傾向として言えることは、定年前正規従業より定年後正規従業の不満度が高い項目は一つもない、ということである。定年退職のあとすべての人が正規の職につけるわけではないが、正規の職についた人では満足度はむしろ高いといえる。次に定年前正規と定年後非正規を比較しても、定年後非正規のほうが不満度が低い項目が多い。非正規のほうが不満度が高いのは、賃金と福利厚生のみであった。女性については、定年後正規はわずか 6 人であるが、すべての項目で不満度は定年後の方が低い。また定年前正規と定年後非正規を比較してみると、非正規の方が不満度が高いのは就業形態、賃金、福利厚生のみであった。男女とも、定年後正規の不満は低く、定年後非正規でも賃金と福利厚生（女性はこれに就業形態）のみが不満であるという結果である。

これらをまとめてみると、1、定年前でも仕事を（狭義の）生きがいとする人は 3 割程度で、それほど高くない、2、定年後の就労者も仕事への満足度はむしろ上がる、3、定年前の人に比較して生きがいがある人の比率も、仕事を生きがいとする比率も低くない。すなわち、生きがい喪失仮説は少なくとも定年時にはあてはまらず、データに裏付けられていないと結論できる。

表８　仕事への不満度（男女別平均点）（数値が大きいほど不満）

		仕事の内容	就業形態	職場での地位の高さ	賃金	業績評価の公平さ	福利厚生	職場の人間関係・雰囲気	全体
男性	定年前正規	2.33	2.23	2.46	2.88	2.93	2.71	2.54	2.51
	定年後正規	2.01	1.98	1.95	2.63	2.55	2.69	2.36	2.24
	定年後非正規	1.99	2.16	2.45	2.96	2.73	2.74	2.18	2.26
	合計	2.25	2.19	2.41	2.87	2.87	2.71	2.48	2.45
女性	定年前正規	2.41	2.26	2.8	3.07	3.13	2.69	2.68	2.64
	定年後正規	1.5	1.83	2.67	2.5	2.33	2.17	2.00	1.83
	定年後非正規	2.16	2.52	2.71	3.1	2.81	2.97	2.39	2.5
	合計	2.38	2.27	2.79	3.07	3.09	2.71	2.64	2.62

IV. 仕事にかわる「生きがい」はあるのか―

以上で、定年のときの「仕事が生きがい」だけに注目した場合には、「生きがい喪失仮説」はあてはまらないことがあきらかになった。そこで、次に定年・引退後に仕事にかわる生きがいをみつけているか、という問題に移りたい。前節では現在の「生きがいの対象」として「仕事」だけに注目したが、○は 13 のカテゴリーから 3 つを選んでもらっているので、他の項目にも着目して○のパタンを見ていくことにする。だたし、13 項目をパタン化すると、あまりにパタンの数が多くなるので、13 項目を大きく 3 つに分類してパタン化した。趣味、スポーツ、学習、社会活動、自然との触れあいをすべて「趣味」として、いずれかに（あるいは重複して）○をつけた者は趣味が生きがいとした。同様に、配偶者・結婚生活、子どもや孫、友人のいずれか（または重複して）をつけた場合には「交流」が生きがいとした。ほかに健康づくりや内面の充実、一人気ままにすごすについては、「一人で」としてまとめることにしたが、これに○をつけた人は少ないので別に考察することとして、パタンには含めないことにした。「趣味」「交流」の 2 つに仕事を加えた 3 つでパタンを作り、就労パタンとのクロス表をとったのが表 9 である。これを見ると、男女とも定年前正規でも最も高率なのが「趣味と交流」ついで「交流のみ」で仕事は生きがいに入っていないパタンが高率である。定年後仕事をしている二つの就労パタンも「趣味と交流」がもっとも高率な点は同じであるが、男性では定年後非正規で「趣味と交流」の比率がより高くなっている。さらに無職には大きな特徴があり、男女とも「趣味と交流」が 5 割を越し、「趣味のみ」の比率も合わせると男女とも８割前後にもなる。これらのことから「定年」よりは「引退」に大きな境目があり、趣味や交流に生きがいを見出している様子がうかがえる。

表９　男女別、就労パタン別　生きがいの対象のパタン

		なし	交流のみ	趣味のみ	趣味・交	仕事のみ	仕交	仕趣	仕趣交	不明
男性	定年前正規	3.2	18.3	11.4	29.7	2.0	14.3	6.8	11.6	2.7
	定年後正規	4.2	12.5	12.5	30.8	2.5	10.0	6.7	15.8	5.0
	定年後非正規	0.7	9.4	15.4	40.9	2.7	12.8	7.4	10.1	0.7
	無職	3.3	10.4	22.2	57.1		0.9	0.5		5.7
	合計	3.0	15.6	13.6	35.2	1.8	11.7	5.9	10.0	3.1
女性	定年前正規	4.1	21.4	13.5	35.5	1.6	9.4	4.1	6.6	3.8
	定年後正規		16.7		50.0		16.7		16.7	
	定年後非正規	6.1	21.2	12.1	24.2	6.1	15.2	6.1	9.1	
	無職	1.3	13.9	26.6	58.2					
	合計	3.7	20.0	15.6	39.0	1.6	8.3	3.4	5.7	2.8

「交流のみ」の比率は無職がとくに大きいという傾向は見られない。すなわち、引退後、仕事を生きがいに出来なくなった分、趣味を行っていると解釈できる。次にそれぞれ大きくまとめた「趣味」、「交流」、「一人で」の中でどのような項目が多いのかを見てみると、「趣味」については、「何もない」が定年後正規では 37.6%もあるのに、無職では 14.5%と低いのが目に付く。「交流」の中では「子ども：孫」などのみを生きがいとする比率がもっとも高率であった。「一人で」やることについては 6 割の人が該当しなかったが、これを生きがいの対象として選んだ人の中では「健康づくり」が多かった。スポーツと同じような趣味になっているのか、それとも健康状態が悪く、それと戦うことが目下の生きるはりであるのかは、よくわからない。

以上から、仕事を引退したときに、趣味を生きがいとする人が増える、すなわち仕事に替わる生きがいをみつける傾向があると推察できる。すなわち、生きがい喪失ではなくて、生きがい代替という現象が見られるといえるだろう。そして、それは定年後非正規になったころから少しずつ始まっていると解釈できる兆候もある。

Ⅴ.「生きがい」の構成要素と生きがいが得られる場

１．生きがいの構成要素と仕事

今度は「生きがいの構成要素」として「生活の活力やはりあい」「生活のリズムやめりはり」「心の安らぎや気晴らし」など 9 種類について、家庭、仕事・会社など 6 つの場所をあ

げて、「どこで得られるのか」を聞いて、2 つまで、○をつけてもらった質問を分析したい。この質問は、いわば「生きがい」を広い意味にとり、その意味を構成要素別に細分化すると同時に、その特定の種類の生きがいが「得られる場」をあきらかにしようとしている。ここではまず生きがいが得られる場としての「仕事・会社」からみていく。

結果を見ると、Ⅲで狭義の生きがいの有無でみた場合とは 2 つの点で大きな違いが見られる。第一は狭義の場合は「生きがいが仕事」は○を 3 つまでつけてもらっても選択率は 3 割程度だったのに、今回は全体として選択された比率がずっと高いことだ。第二はⅢで分析したときは生きがい有の比率には就労タイプではほとんど差異が見られなかったのに、構成要素別に生きがいを聞いた場合には差異が見られたということである。

これらの点についてもう少し詳しくみてみよう。表 10 は、生きがいの構成要素として「仕事、会社」に○をつけた比率を一つの表にしたものである。表に見られるように、「生活のリズムやめりはり」「自分自身を向上させている場」「自分の可能性を実現したり何かをやり遂げたと感じる（達成感と略記)」「自分が役に立っていると感じたり、評価を得ている（有用感と略記)」の 4 つの構成要素で男女とも「定年前正規」の人の 7 割から 8 割が仕事・会社でこのような生きがいを得られるとする。他の項目も男女とも「安らぎ」の選択率はとても低いが、女性ではこれに加えて「満足」「価値」が 3 割程度であることを除いては、狭義の生きがいの場合よりはるかに高い選択率であることが目立つ。

次に就労パタンによる差異に目を向ける。女性の定年後正規はわずか 6 人で%が大きく変動しやすいため、表から省いて考察することにする。男性ではおおむね「定年後非正規」では「定年前正規」よりだいぶ生きがいとして選択された比率が低い。男性では上述した 4 つ

表 10　仕事・会社で得られる生きがいの比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
男性	定年前正規	52.3	71.0	5.4	42.4	51.0	47.0	75.3	80.0	77.3
	定年後正規	60.0	70.0	5.0	45.0	46.7	38.3	74.2	76.7	77.5
	定年後非正規	50.3	61.1	11.4	38.9	37.6	37.6	58.4	66.4	67.1
	無職	3.8	7.5	0.5	4.2	7.5	6.6	10.8	15.1	12.3
	合計	45.3	60.1	5.3	36.4	42.5	39	63.5	68.3	66.3
女性	定年前正規	50.9	76.7	2.8	32.7	34.6	38.4	72.0	76.1	70.8
	定年後非正規	48.5	69.7	3.0	16.7	33.3	27.3	66.7	75.8	72.7
	無職	2.5	1.3		1.3	1.3	1.3	3.8	3.8	3.8
	合計	42.2	62.4	2.3	26.6	28.2	30.5	59.2	62.8	58.7

の構成要素とも 10%以上も低く、「向上の場」や「達成感」では 15%程度も低い。すなわち、10 から 15%の人にとっては定年がこの意味での生きがい喪失の契機となっていると解釈できる。ただし、女性の場合は男性より、ほとんどの構成要素において就労パタンによる差異が小さい。女性は定年前正規でも仕事が生きがいの構成要素になりにくく、その分、非正規

になっても低下する度合いが少ない、と解釈できる。

以上をまとめると、生きがいを広い意味にとり、その構成要素別に見ていくと、仕事は生活のリズム､向上の場や達成感､有用感などの意味で大きな生きがいになっているといえる。そして就労パタンによる差異があって、男性が主として定年後非正規になったときに 1 割から 2 割の人は生きがい喪失仮説があてはまるといえる。無職になったときにはさらに低いのは仕事に注目する限り当然であるが、無職の人については、次に 2 と 3 で分析する。

2．定年・引退後に職場以外で生きがいが得られるか

さて、生きがいを広くとらえると定年後に仕事という生きがいは減るのだとすれば、かわって何が生きがいになるのだろうか？　先にⅣでは生きがいの対象のパタンから引退後に趣味などを行う人が増えるのではないか、と分析したが、生きがいの構成要素別に生きがいを得る場を見るとどのようなことがあきらかになるのだろうか？　考えられるのは、定年・引退後の生き方として、仕事に替わって 1、家族が重要性を増す　2、地域で活動をする　3、友人との付き合いが活発になる、などが考えられる。そこでこれらを順次検討してみたい。

表 11　家庭で得られる生きがいの比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
男性	定年前正規	72.2	47.3	81.8	68.9	37.3	70.2	23.7	21.6	39.6
	定年後正規	71.7	50.8	83.3	65.8	32.5	74.2	18.3	22.5	34.2
	定年後非正規	69.1	47.0	76.5	67.8	32.2	73.8	20.1	24.2	30.9
	無職	72.6	55.7	75.9	64.2	33.0	65.1	23.6	25.0	35.8
	合計	71.9	48.9	80.4	67.8	35.7	70.2	22.8	22.4	37.6
女性	定年前正規	57.5	36.5	74.2	62.9	42.8	63.8	18.9	18.6	40.3
	定年後非正規	48.5	39.4	63.6	54.5	21.2	60.6	9.1	18.2	21.2
	無職	62.0	48.1	65.8	64.6	30.4	67.1	32.9	41.8	48.1
	合計	57.3	38.5	71.8	62.6	38.5	64.0	20.4	22.7	40.1

まず、生きがいの構成要素別に「家庭」を生きがいの得られる場として選んだかどうかを検討しよう。結果は表 11 に示されているが、驚いたことに無職のほうが「家庭」を生きがいの場として選ぶという傾向はほとんど見られない。男性では選択率が定年前正規より無職のほうが 5%以上高いのは「リズム」という構成要素だけであった。他の構成要素はほとんど同じ比率か、むしろ無職で低い。女性の場合は「活力」「リズム」「向上」「達成感」「有用感」などより多くの項目で無職の方が定年前正規より高率に「家庭」を選択している。男性は退職したからといってなかなか家庭を生きがいの場にはできないのかもしれない。

それでは「近隣・地域」についてはどうだろうか。表 12 に示すとおり、どの構成要素でも地域を生きがいの場として選んだ比率は全体としては大きくない。しかし男女ともほとんどの構成要素で定年前正規より定年後に生きがいとしての選択率がずっと高くなっている。

「リズム」のように無職での選択率がとくに高く、引退がきっかけであろうと推察される要素もあるし、「活力」のように定年後正規、定年後非正規、無職としだいに選択率が高くなっている項目もある。いずれにせよ、定年、または引退のときに「地域」が生きがいの場として浮上してくる人々が1割か2割いる、と解釈できるだろう。

表 12　近隣・地域で得られる生きがいの比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
男性	定年前正規	3.0	3.2	4.1	3.6	4.1	2.4	5.3	6.0	7.9
	定年後正規	3.3		1.7	3.3	5.0	4.2	5.0	3.3	7.5
	定年後非正規	7.4	8.1	8.1	10.1	10.1	6.0	12.1	10.1	14.1
	無職	17.9	24.1	9.9	14.2	17.5	14.2	25.0	26.9	34.4
	合計	5.8	6.7	5.2	5.9	6.9	4.8	9.1	9.4	12.6
女性	定年前正規	0.9	0.6	1.6	0.6	2.8	0.9	3.8	2.8	3.8
	定年後非正規	6.1	6.1	3.0	6.1	12.1	6.1	9.1	9.1	15.2
	無職	20.3	27.8	10.1	12.7	13.9	13.9	26.6	25.3	26.6
	合計	5.0	6.0	3.4	3.2	5.7	3.9	8.3	7.3	8.7

次に友人で生きがいが得られる比率をみてみよう。表 13 から読み取れることは、第一に、男性より女性で選択率が高いということである。9 つの構成要素を通じての選択比率が男性では最高 3 割程度、女性は 5 割程度である。女性の方が友人に生きがいを見出している人が高率だといえるだろう。第二に、その比率は多くの構成要素において定年前よりも定年後非正規、無職で高くなっている。「喜び」は男女とも無職でとくに高い。第三に、男女とも「安らぎ」の選択率が高いことである。目標や達成感はあまり選択されていない。

表 13　友人で生きがいが得られる比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
男性	定年前正規	14.1	9.8	31.3	15.9	23.2	5.4	10.9	4.6	5.7
	定年後正規	10.8	9.2	36.7	17.5	25.0	4.2	12.5	2.5	4.2
	定年後非正規	16.8	10.7	30.9	18.1	34.2	3.4	14.8	6.7	8.7
	無職	23.1	21.7	30.2	30.2	31.1	6.6	17.9	12.7	11.3
	合計	15.5	11.7	31.6	18.5	25.8	5.3	12.5	5.9	6.7
女性	定年前正規	30.2	16.7	52.8	33.6	43.4	5.3	17.6	5.3	13.2
	定年後非正規	27.3	3.0	48.5	30.3	33.3	9.1	24.2	6.1	12.1
	無職	39.2	30.4	49.4	44.3	46.8	13.9	25.3	13.9	20.3
	合計	31.2	18.3	51.8	35.1	42.9	7.1	19.7	7.3	14.4

３．無職の人の生きがい　得られる場の組み合わせの分析

さて、２でも無職の人の生きがいについて一通りの分析を行ったが、今度は生きがいを得られる場として選ばれた二つの○の組み合わせに注目しながら、とくに無職の人の生きがいについて考察を深めたい。組み合わせ自体は 5 つの場（「その他」と「どこにもない」を含めない場合）があるために、非常に数多くなりうるが、「家庭のみ」「仕事のみ」「家庭と仕事」「仕事と近隣・友人・世間」「家庭と近隣・友人・世間」それに「どこにもない＋不明」に大きくまとめてみた。就労パタン別の表は省略するが、無職になると「仕事」を選ぶことができないので、「仕事のみ」と「家庭と仕事」がほとんどない。そこで、無職の場合、その分どこが多くなるのか、という発想で生きがい喪失仮説を検討してみることにした。表 14 はその結果である。実は無職でも少数ながら「仕事」や「仕事とその他」を選んでいる人があるので、合計は 100%になっていない。

この表からは無職の人の生きがいの構成要素別の状況がよくわかる。「仕事」が非常に高率だった生きがいの構成要素、たとえばリズム、向上できる場、達成感、有用感などにおいては、最も高率なのは「家庭を含まない組み合わせ」すなわち、近隣、友人、世間などの合計である。さらに「無し＋不明」が 1 割を超えていることが目につき、とくに有用感では 17%にも及ぶ。すなわち、生きがいの要素のうち、これらは仕事で非常に多く得られるもので、なかなか家庭では得られないと結論できよう。3 割から 4 割の人は、近隣や友人にそれを感じているが、1 割から 2 割近い人が無職になって喪失感を味わっている。女性もこれらの構成要素の生きがいは近隣、友人、世間などで最も得られている点は類似した傾向にあるものの「無し＋不明」は男性より比率が低い。

これらとは対照的なのが男性の「安らぎ」で家庭を含む選択が 7 割に及んでいる。女性の場合は「安らぎ」でも家庭のみの比率はもっと低く、むしろ「目標」などで家庭が選択されている。男女の家庭への期待の違いが現れている。

表 14　無職の人の「生きがいが得られる場」の組み合わせ

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
男性	家庭のみ	33.5	24.1	40.6	28.3	10.8	37.7	9.4	11.3	15.6
	家庭＋友近世	36.3	29.2	35.4	33.0	20.3	23.6	14.2	12.3	17.0
	友人･近隣･世	15.6	26.4	12.3	19.3	47.6	16.0	47.2	40.6	35.4
	なし＋不明	8.0	11.3	8.0	10.8	11.8	12.7	13.7	14.6	17.4
女性	家庭のみ	27.8	21.5	29.1	33.3	16.5	44.3	15.2	22.8	25.3
	家庭＋仕友近	34.2	26.6	35.4	36.7	29.5	13.9	21.5	16.5	20.3
	友人･近隣･世	25.3	36.7	22.8	25.6	55.7	19.0	50.6	40.5	32.9
	なし＋不明	5.1	5.1	6.4	6.4	8.8	6.4	7.6	7.6	10.3

VI. 配偶者の生きがい　ぬれ落ち葉仮説は妥当か

1．生きがいの有無と生きがいの対象（狭義）

最後に配偶者の生きがいについてふれたい。これまでの分析から生きがいには仕事と家庭が重要な要素であることがわかっているため、配偶者の場合にも仕事の影響は大きいであろうと予測できる。しかし、本章の目的は対象者本人の退職やその後の就労が配偶者の生きがいにも影響を与えるかどうかを追究することである。そこで、あえて配偶者のうち自らの仕事を持たない無職の女性624名（いわゆる専業主婦）に限定して、夫の定年、引退は配偶者の生きがいに影響を与えるか、「ぬれ落ち葉仮説」を念頭において見ていく。

まず、狭義の生きがいの有無を夫の就労パタン別に見たのが表 15 である。生きがいがある人の比率は表 6 の対象者本人の場合とそれほどかわらない。また夫が無職になってからのほうがより生きがいを持っている比率が高い。夫が定年前正規で働いている人よりも、夫が非正規や無職の方が無職の妻の生きがいは増すと考えてよいだろう。この結果からはぬれ落ち葉仮説は否定されているように見える。かつて袖井は（袖井、1985）夫の引退によって妻とのコミュニケーションが増すことが妻の結婚満足度を高めているという結果を調査から得た。すなわち、ぬれ落ち葉仮説どころか、むしろ第二の新婚期説が妥当するというのである。夫が無職の妻の生きがい保有率が高い理由として、このいずれが正しいのかは、次に生きがいの対象を分析する中で検討していこう。

表 15　夫の就労パタン別　無職の妻の生きがいの有無

妻の生きがい→		持っている	前は持っていたが今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
夫の就労	定年前正規	55.7	7.5	9.9	25.9	0.9
	定年後正規	51.5	7.4	16.2	19.1	5.9
	定年後非正規	67.9	12.3	2.5	16.0	1.2
	無職	74.1	9.1	4.2	10.5	2.1
	合計	61.1	8.5	8.3	20.4	1.8

そこで生きがいの対象について 13 から 3 つまで選んでもらったうち、比較的選択率が高かった（およそ 30%）趣味、配偶者、子ども・孫、友人の 4 つについて夫の就労との関連をみたのが表 16 である。複数回答のうち 4 つに注目した表であるので、横の合計は 100%にはならない。すべての就労パタンを合わせた全体で最も高率なのは子・孫であって配偶者よりはるかに比率が高い。ただし、両者とも夫が定年前正規従業のときに最も高率であることが目を引く。どうやら夫が退職して無職になって第二の新婚期を楽しむというわけではないらしい。先の表 5 の妻の家族構成と照らし合わせると、生きがいはやはり子ども・孫にあって、子どもの離家や孫の成長によって子・孫を生きがいとする比率が減ってしまうと解釈できる。配偶者が無職になって家にいつもいることがそのかわりにはなっていないようである。無職

が他より選択率が高いのは「友人」だけで、「趣味」の選択率も夫が就労している場合よりかなり低い。

表 16　夫の就労別　妻の生きがいの対象（趣味、配偶者、子ども・孫、友人）

	妻の生きがい→	趣味	配偶者	子･孫	友人
夫の就労	定年前正規	63.9	37.3	70.5	29.5
	定年後正規	52.9	25.0	50.0	27.9
	定年後非正規	54.3	18.5	60.5	25.9
	無職	39.2	21.0	48.3	34.3
	合計	55.8	29.8	61.9	30.0

以上をまとめると、妻の狭義の生きがいの有無から見ると、夫が無職の場合に高いが、生きがいの対象では、無職の場合に高いのは友人のみで、趣味も家族も夫が有職の場合より低い。これではなぜ、夫が無職の場合に妻の生きがい有の比率が高いのかよく説明できない。

そこで、次にもう少し生きがいの意味を広くとり、その構成要素別に、どこで得られるのかを聞いた質問を検討しよう。

２．生きがいの構成要素とそれがどこで得られるか

以下では比較的「生きがいが得られる場」として選択されることが多い家庭、近隣、友人に限定して、生きがいの構成要素別に見ていく。

まず、家庭で生きがいが得られるとした比率を表 17 に示した。全体として、多くの構成要素において家庭は高く選択されている。なかでも「活力」や「喜び」「安らぎ」「目標」の 4 要素では定年前正規の人は 8 割以上が選択しており、無職での選択率はこれよりは低く、7 割台となっている。他方、自らの「向上」や「達成感」がやや低く、定年前正規でも 5 割台、

表 17　家庭で得られる生きがいの比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
配偶者	定年前正規	85.8	74.1	80.1	84.0	63.0	82.2	53.9	56.3	75.9
	定年後正規	70.6	51.5	57.4	64.7	52.9	67.6	35.3	45.6	60.3
	定年後非正規	86.4	63.0	74.1	70.4	51.9	79.0	49.4	51.9	67.9
	無職	79.7	60.8	70.6	70.6	54.5	71.3	36.4	41.3	59.4
	合計	82.9	67.1	74.7	77.1	58.5	77.7	47.3	51.1	69.4

無職では 3 割から 4 割と相対的には低い選択率となっている。専業主婦の半数程度において家庭のなかで達成感や向上した感覚を持つことが困難な様子がうかがわれるが、それでも男性に比較するとはるかに家庭が生きがいの場になっているといえよう。ただし、夫が無職の場合にこの比率は他の場合よりすべての構成要素において低くなっていることに注目したい。

すなわち、夫が無職になると、妻も家庭を生きがいの場として選択しなくなるといえる。

それでは近隣についてはどうだろうか？　表 18 で見られるのは男性の場合と比較的似ている分布である。全体として生きがいの場としての選択率は低いが、夫が無職の場合により多く選択される傾向にある。「向上」や「達成感」、「有用感」ではほぼ 3 割に達している。

表 18　夫の就労パタン別、妻が近隣・地域で得られる生きがいの比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
夫の就労パタン	定年前正規	9.3	15.4	5.1	6.9	6.9	7.8	14.2	14.8	20.5
	定年後正規	13.2	17.6	4.4	4.4	5.9	5.9	17.6	16.2	20.6
	定年後非正規	13.6	24.7	9.9	19.8	12.3	9.9	18.5	22.2	19.8
	無職	21.7	25.9	8.4	16.1	14.0	18.9	33.6	29.4	32.2
	合計	13.1	19.2	6.4	10.4	9.1	10.4	19.6	19.2	23.1

次に先に生きがいの対象でみたときには唯一無職でより多く選択されていた友人についてはどうだろうか？　表 19 で見られるように、半数くらいの構成要素で無職の場合にはより選択率が低いが、「喜び」「向上」「達成感」「有用感」などではやや高くなっている。夫が無職の場合に友人に生きがいを見出す比率がやや高い傾向（表 16）はここでも裏づけられた。

表 19　夫の就労パタン別　妻が友人で得られる生きがいの比率

		活力	リズム	安らぎ	喜び	価値観	目標	向上	達成感	有用感
	定年前正規	29.2	21.4	47.6	25.0	42.5	6.6	19.9	9.0	13.6
	定年後正規	32.4	30.9	48.5	29.4	38.2	7.4	27.9	16.2	19.1
	定年後非正規	30.9	23.5	42.0	28.4	40.7	8.6	21.0	11.1	13.6
	無職	25.9	21.7	43.4	33.6	30.8	9.1	23.0	10.5	20.3
	合計	29.0	22.8	46.0	27.9	39.1	7.5	21.0	10.4	15.7

これらの結果からは、無職の妻の生きがいは家庭で多く得られているが、夫が無職になるとその選択率は低くなっている。かわって、妻は近隣・地域や友人に生きがいを見出す人も少しはいるようだ。これらから見ると、夫の引退は家庭の魅力をやや低下させるという意味ではぬれ落ち葉仮説があたっているし、しかし、近隣や友人との交際を妨げていないという面からは否定されているようにも見える。結局、生きがいという角度だけからではこの仮説の妥当性は結論できない。そこで、もう少し夫婦関係にも立ち入ってみてみよう。

3．夫婦関係との関連

そこで、「配偶者との関係」についての質問を夫の就労パタン別に分析してみた。「まったくそのとおり」を 1 点、「まあそのとおり」を 2 点、「あまりそうでない」を 3 点、「全く違う」を 4 点として夫の就労パタン別の平均値を算出したところ、ほとんどの項目で目立った

差異は認められなかった。ぬれ落ち葉仮説と関連しているような 4 項目だけを表 20 に示した。夫が無職だと「会話がある」と「配偶者は自分によりかかりすぎる」はやや肯定的になり、「配偶者は金銭的にうるさい」はやや否定的で、「配偶者は自分を自由にさせてくれる」は変わらないと考えられる。

表 20　夫の就労パタン別　妻がみた夫婦関係の平均点　点数が低いほど「そのとおり」

		会話あり	自由	金銭にうるさい	よりかかりすぎ
夫の就労	定年前正規	1.84	1.75	3.10	3.04
	定年後正規	1.99	1.69	3.18	2.96
	定年後非正規	2.06	1.73	3.10	2.99
	無職	1.92	1.74	3.16	2.99
	合計	1.90	1.74	3.12	3.01

生きがいの分析にこれらを加味してぬれ落ち葉仮説の妥当性を検討すると、夫が引退することは、１割程度の妻には家庭の魅力を損なうようである。会話は多いが、夫がよりかかりすぎと感じる妻も夫が有職の場合よりも少し多くなっている。かといって、夫が妻の自由をとくにうばうようになったとは感じられていない。妻は友人や近隣・地域をより生きがいにするようになる。その意味で１割程度の人にとってはぬれ落ち葉仮説は該当しているようにも見える。あくまで想像ではあるが、ぬれ落ち葉仮説はかなり人口に膾炙するようになったので、夫も妻の自由を束縛しないように気をつけているのではないだろうか？

VII. 結論　生きがい喪失仮説とぬれ落ち葉仮説の妥当性

以上の分析のうえで、ここでは就労パタンを夫の定年前から退職、引退への経過を読み替えて解釈し、やや大胆に生きがい喪失仮説とぬれ落ち葉仮説の妥当性について結論づけることにする。

まず、生きがいという言葉は多様であるが、生活のリズム、達成感、自分が向上する感覚、有用感などという意味では「仕事・会社」でこの生きがいが得られるという人が男女とも有職者の大多数である。この様な生きがいを仕事に見出す比率は定年後の就労で１割程度低下する。したがってこの意味での生きがいは定年時でも低下し、また仕事という生きがいを失うという意味では引退時がやはり一つの危機であり、生きがい喪失仮説は、ある程度妥当性を持つ。とくに男性では、引退後の無職の人の１割を超える人々が生きがいを得られる場について「どこにもない」と答えたり、何も答えなかったりしていることは、注目してよい。

しかし、想像するところ、多くの人はこのショックをある程度予想しているのだろう。大多数の人は仕事に替わる生きがいを見つけることに成功しており、いわば生きがい代替説があてはまる。趣味を生きがいとする人が最も高率ではあるが、地域活動、友人との交流など

に生きがいを見つけている人も引退後には増えている。生きがいの場としての家庭は、多くの人に選択されるが、男性の場合はもっぱら「安らぎの場」としてで、これを目標にしたり達成感を感じたりすることは困難なようである。

それでは夫の定年・引退は妻の生きがいと関連しているだろうか？　引退後の夫の無職の妻の生きがい保有率はむしろ高いが、生きがいの対象別に見ると定年前は選択率が高かった子・孫も趣味も配偶者も無職では低下している。子どもは離家し、孫は成長したのはわかるが、趣味を生きがいとする人も減少しているのである。友人だけは若干高くなっている。ただし、無職になってからの夫婦関係を見るととくに悪いと思われる人は少なく、とくに自由を制限されている様子もない。引退後、夫が寄りかかる感じを持つ人はやや増えるようだが、ぬれ落ち葉仮説が妥当するのはほんのわずかな人々だといえるのではないか？

以上はあくまで、就労タイプを定年から定年後へと読み替えて解釈した結果である。定年後の人々は年齢がやや高く世代としてはやや古いわけで、この結果には世代差が現れたと見ることもできる。その意味では、定年前から定年後への人々を追跡した場合にはとくに数値（1 割程度の人、など）は現実にかなり異なってくる可能性もあるだろうが、一応の目安として示した。

なお、最後にこの問題へのアプローチのしかたについてもまとめておきたい。生きがいの意味を最初に問うた後に「そのような意味での生きがいを持っていますか」と狭義の生きがいを問う方法では生きがい喪失仮説は否定された。生きがいの構成要素別に広く生きがいを得られる場を質問のした場合には生きがい喪失の様相が、とくに達成感や有用感でとらえられた。これらの矛盾したようにも見える結果から、結論的には、定年を契機として、またとくに引退後には、生きがいの意味内容が変質するのではないか、ということが示唆される。この「生きがいの変質」をとらえるためには生きがいの意味を限定しないで、広くとるアプローチのほうが有効なのではないかと思う。今回の分析の結果として、今後に向けて、定年時または引退時の「生きがいの変質仮説」を提示したいと思う。

参考文献

袖井孝子・都築佳代,1985「定年退職後夫婦の結婚満足度」『社会老年学』No.22pp.63-77

第５章　サラリーマンの夫婦関係と生きがい

お茶の水女子大学教授　永瀬伸子

I. はじめに

この調査は、企業年金基金や厚生年金基金を持つ企業に勤める（勤めていた）者を対象とした調査である。こうした制度を持つ企業に勤務する雇用者は約３割と言われ、給与面、雇用の安定性、福利厚生面で比較的恵まれた雇用者層、どちらかといえば典型的に「日本的雇用慣行」（年功型賃金、長期雇用、企業内福利、企業内労働組合）を持つ企業に勤務する層をとらえたものであり、またそうした企業に勤務する家族の状況をとらえたものではないかと考えられる。

もともとこの調査は、高齢期の生きがいをテーマに設計された調査だが、高齢期はひととびにやってくるわけではなく、若いころからの仕事や家族関係、友人関係の歴史の中で、それぞれの人の生きがいが規定されていくものと考えられる。

そこで、この章では次の疑問を設定し、これに対してこたえていきたいと思う。

①「日本的雇用慣行」を持つ企業に勤務する男性、女性の家族関係はどのようなものか。特に夫婦関係と夫婦の就業状況、子どもとの関係に着目する。

②近年は、家族の多様化がすすみ、生涯独身が増えているが、夫婦世帯と比べて、生活満足がどのように異なるのかを比較する。

この調査では、男性３対女性１での回答を求めているが、それぞれ誰と住み、どのような生活を送っているのだろうか。このこと事態、きわめて興味ある調査である。というのは、1986 年、1997 年、と改正均等法が施行され、大企業の雇用慣行がかなり変化している可能性があるからである。

以下に付録で詳細を示したように、男性は９割が有配偶者で一人暮らしも少ない一方、女性は未婚も３人に１人である。また女性単身を見ると、中年期までは親同居が多いが、高齢期には一人暮らしが増えるなどかなり異なる家族属性が示されている。VI付録では調査に回答した男女の家族や居住地域、仕事内容の属性を確認してある。その上で、上記の課題を分析する。

II. 夫婦の働き方と夫婦関係

サラリーマンの幸せは「仕事の場での満足」と「家庭の関係性への満足」の両方に軸足があると考えられる。90 年代後半から 2000 年代前半にかけて、安定企業に勤務するサラリーマンについても、その生活は大きく変わった。

30 歳代から 40 歳代を見れば、業績主義、能力主義の導入による男性雇用者を中心とした労働時間の長時間化と密度の強化、一方で現実に対応できるかどうかは別として男性の子育てや子どもの教育への関心が高まっている。また女性の職場進出が進み、男女差がまだ大と

はいえ、縮小傾向にあり、また男女ともに未婚化が進展している。

一方、50 歳代以上の世代にとって気になるのは、老後の収入や生活の安定、それから子どもの独立であろう。若年層の雇用の不安定化と非婚化がすすみ、子どもの独立に懸念する引退世代が増えているかもしれない。ところで豊かな家庭の専業主婦が幸せとは限らないことを描きベストセラーとなったのは、1982 年に出された斉藤茂男の『妻たちの思秋期』である。当時、30 歳代から 40 歳代の女性達を描いていたとすれば、約 25 年たった現在、55 歳から 65 歳、ちょうどこの調査の引退世帯の女性たちの姿にあたる。

サラリーマン世帯は、どのような夫婦関係を持ち、どのように仕事に向かっているのだろうか。

以下は、分析を夫婦世帯に限り、また夫婦の就業状況を分析の軸とするため、就業状況について無回答がある夫婦は分析から除く。

１．世帯類型別に見た夫婦パターン

夫婦共働き世帯や専業主婦世帯で、またライフサイクルの途上で夫婦関係はどのように異なるだろうか。

定年経験がない有職者について、1. 夫婦とも正社員世帯、2. パート世帯（本人が正社員で配偶者が非正規有業者）、3. 専業主婦世帯（本人が正社員、配偶者が無業）、4. 本人が非正社員（配偶者は有業）に分け、またア．無子、イ．末子 10 歳以下、ウ．末子 10 歳以上で分けて、類型化を行った。サンプル数は、図表 1 のとおりである。

図表 1 のとおり、現役の者（定年経験のない者）を見ると、男性は、専業主婦世帯が 42%、次いでパート世帯が 38%と多く、夫婦とも正社員の世帯は 16%である。一方、女性は、企業年金がある企業に勤務している者に聞いたものであるため、夫婦とも正社員の共働きが 67%と多数をしめ、共働きで子どもがいない世帯もその 3 分の 1 程度と少なくない。また女性は本人が非正社員という者も 14%と男性と比べてより大きい割合となっている。

〔図表 1〕現役世代の夫婦の就業状況と構成比

		夫本人		平均年齢		妻本人		平均年齢	
		サンプル数	構成比	夫本人	配偶者	サンプル数	構成比	妻本人	配偶者
夫婦正社員	無子	30	4%	52	45	38	23%	44	45
	末子10歳以下	25	3%	45	38	27	16%	42	40
	末子11歳以上	72	9%	53	51	47	28%	50	52
本人正社員配偶者非正規有業	無子	46	6%	52	45	10	6%	47	50
	末子10歳以下	61	8%	42	38	2	1%	40	38
	末子11歳以上	194	24%	52	49	9	5%	54	58
本人正社員配偶者無業	無子	51	6%	51	48	3	2%	51	58
	末子10歳以下	128	16%	42	37	－	－	－	－
	末子11歳以上	165	20%	55	53	8	5%	58	63
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		36	4%	62	55	23	14%	55	51
計		808	100%	50	47	167	100%	48	49

また定年経験あり(早期引退者も含む)を見ると、男性は本人正社員が 25%、本人非正規有業が 34%、本人無業が 41%である。女性は、同じくそれぞれ 7%、29%、64%である。男性は正規、非正規合わせて、引退後も有業者が過半数であり、女性は引退後は無業者が過半

数となっている。

〔図表 2〕定年経験ありの者の就業状況と構成比

		夫本人		平均年齢		妻本人		平均年齢	
		サンプル数	構成比	夫本人	配偶者	サンプル数	構成比	妻本人	配偶者
定年経験あり（早期退職含む）	本人正社員	114	25%	62	59	4	7%	58	54
	本人非正規有業・配偶者有業	70	15%	65	60	11	18%	60	61
	本人非正規有業・配偶者無業	89	19%	65	62	7	11%	64	65
	本人無業・配偶者有業	49	11%	68	64	11	18%	67	65
	夫婦とも無業	141	30%	70	65	28	46%	67	70
計		463	100%	66	62	61	1	65	66

2006 年調査の有配偶者数は男性 1324 サンプル、女性 250 サンプルであり、これをもとに分析する。ただし作成した世帯類型で分析する場合は、配偶者の就業形態などの無回答が類型かできないこと等の理由から、男性 1271 サンプル、女性 228 サンプルを用いた。

夫婦関係の設問を利用するが、夫婦関係が良いと点数が上がるようにし、最大を 4、最低を 1 とした。

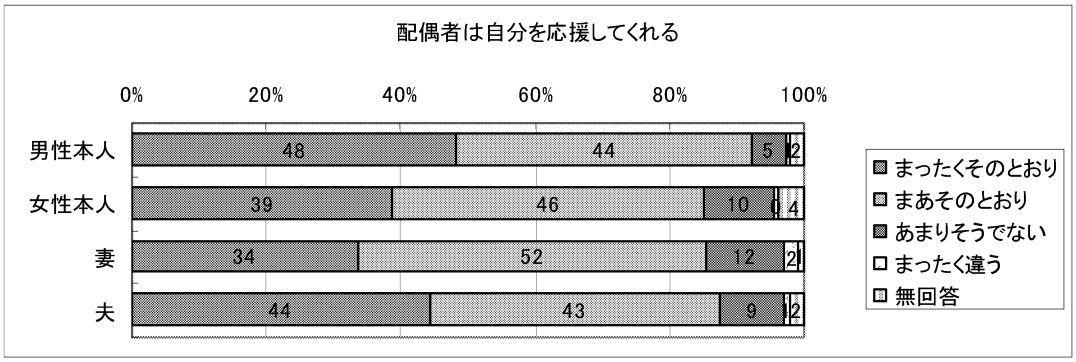
また因子分析ではすべての夫婦関係項目への回答がある者のみを分析に用いているため、分析対象数は 921（男性　778、女性 143）となっている。

２．夫婦がお互いをサポートしている、されている意識

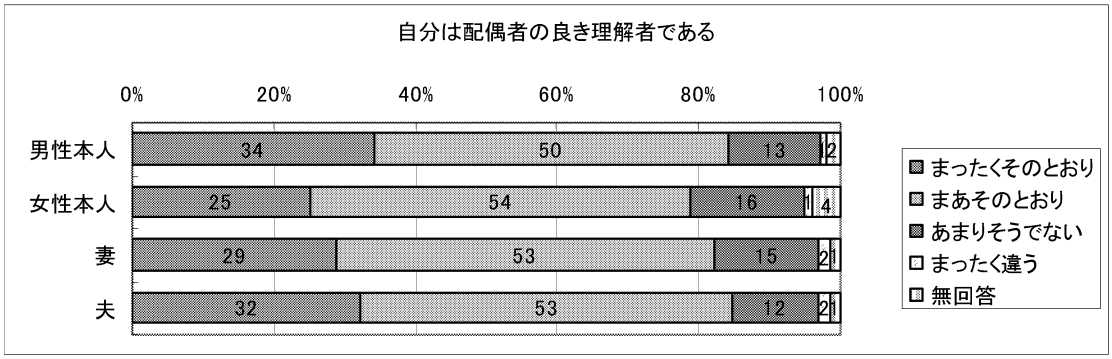
（１） 男女別に見た本人と配偶者の回答

配偶者は自分を応援してくれる、自分は配偶者の良き理解者である、という意識だが、男女ともに、相互をサポートしているという意識は強く、まったくそのとおり、まあそのとおりを加えると本人回答、配偶者（妻、夫）回答ともに 8 割から 9 割であり、夫婦のサポート関係はきわめて良好に見える。

〔図表 3〕「配偶者は自分を応援してくれる」への同意



〔図表 4〕「自分は配偶者の良き理解者である」への同意



男女別に見ると、「配偶者は自分を応援してくれる」に対する強い同意は男性でより高く、男性は 5 割近いが女性は 4 割から 35%程度である。「自分は配偶者の良き理解者であり応援している」に対する強い同意は全般にやや下がるが、ここでも男性の方が強い同意が高く、男性は女性以上に、妻は自分を応援してくれる、自分は妻の理解者であるという意識が男性は高い。これは男性本人回答の夫を見ても、女性本人回答の配偶者である夫回答を見ても双方について見られる特徴となっている。

① 世帯類型：現役世帯、妻がフルタイムかパートか専業主婦か、子ども年齢等で類型化

幼い子どもがいるかどうか、また子どもがいない夫婦かどうかによって、共働きであることの摩擦や時間調整の難しさはまるで違うだろう。そこで子ども年齢と、妻の働き方とで夫婦のサポート感がどのように異なるかを世帯類型を用いて比較する。

まず、男性と女性との対比で見ると、夫本人回答と、その配偶者回答を見ると、男性の方がサポートされている、サポートしているという意識が高い。一方、妻が雇用者である女性の妻本人の回答とその夫回答を比較すると、男女で有意な差はない。

〔図表 5〕配偶者のサポートに関する夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均
（夫婦の働き方、子ども年齢階級別）

		配偶者は自分を応援してくれる				自分は配偶者を理解し応援している			
		夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
		本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
夫婦正社員	無子	3.28	3.17	3.43	3.53	3.17	3.13	3.14	3.32
	末子10歳以下	3.24	3.24	3.33	3.37	3.28	3.04	3.07	3.15
	末子11歳以上	3.28	3.18	3.32	3.47	3.11	3.07	3.09	3.28
本人正社員配偶者非正規有業	無子	3.50	3.24	3.60	3.40	3.23	3.20	2.90	3.00
	末子10歳以下	3.54	3.34			3.38	3.03		
	末子11歳以上	3.32	3.10			3.14	3.02		
本人正社員配偶者無業	無子	3.61	3.29			3.33	3.25		
	末子10歳以下	3.58	3.28			3.27	3.09		
	末子11歳以上	3.51	3.13			3.28	3.16		
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		3.52	3.00	3.05	3.22	3.04	2.97	3.05	2.89
計		3.45	3.18	3.35	3.38	3.23	3.09	3.10	3.19

（注）サンプル数が 10 未満は表示していない。

さらに詳しく見ることにする。

夫の夫婦サポート点数が、同じ子ども属性内で、妻の働き方で異なるかどうかを検定すると、「配偶者は自分を応援してくれる」ことへの同意が、妻が正社員の場合有意に低くなることが示された。その一方で、配偶者である妻回答を見ると、妻の働き方によって夫から受けるサポートに差がでることは見出されなかった。(女性本人回答については、就業形態はほとんどが正社員共働き夫婦であるために、就業形態による差異の検定はしていない。つまりこれ以後、点数の差の検定は、同じ子ども年齢階級の中で、夫本人回答、およびその妻回答のみについて行っている。)

〔図表 6〕「配偶者は自分を応援してくれる」の夫認識が妻の働き方で異なるかどうか

「配偶者は自分を応援してくれる」

子どもの有無、年齢階級	世帯類型	夫本人			有意水準
無子	夫婦正社員	3.28			
	パート世帯	3.50	**	パート＞正社員	0.0658
	専業主婦世帯	3.61	***	専業主婦>正社員	0.0058
末子10歳以下	夫婦正社員	3.24			
	パート世帯	3.54	***	パート＞正社員	0.0122
	専業主婦世帯	3.58	***	専業主婦>正社員	0.0028
末子11歳以上	夫婦正社員	3.28			
	パート世帯	3.32	***	専業主婦>パート	0.0016
	専業主婦世帯	3.51	***	専業主婦>正社員	0.0025

また「自分は配偶者の理解者であり応援している」については、末子 11 歳以上のみ、専業主婦世帯の夫で有意に高かった。

配偶者である妻回答については、子どもがいない場合、末子が 10 歳以下の場合は、夫へのサポートに差は見られなかった。ただし末子 11 歳以上のみ、妻の夫への理解とサポートは、専業主婦が正社員よりも有意に高いものとなっていた。

〔図表 7〕「自分は配偶者の理解者であり応援している」の夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

「自分は配偶者の理解者であり応援している」

子どもの有無、年齢階級	世帯類型	夫本人			有意水
末子11歳以上	夫婦正社員	3.11			
	パート世帯	3.14	***	専業主婦>パート	0.0196
	専業主婦世帯	3.28	***	専業主婦>正社員	0.0309
		配偶者である妻			
末子11歳以上	夫婦正社員	3.07			
	パート世帯	3.02			
	専業主婦世帯	3.16	***	専業主婦>正社員	0.0295

② 定年経験ありの引退世代：夫婦の就業状況別

妻が調査対象者で定年後正社員、定年後本人は非正社員で夫が無業のサンプルはとても特徴があるが、前者はサンプル数 4、後者はサンプル数 7 であり、信頼性は高くないので示してはいないが、サポート評価はかなり高い。

男性は全般に妻からのサポートを高いものとして受け取っている。

〔図表 8〕配偶者のサポートに関する夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均

（定年経験者：夫婦の働き方別）

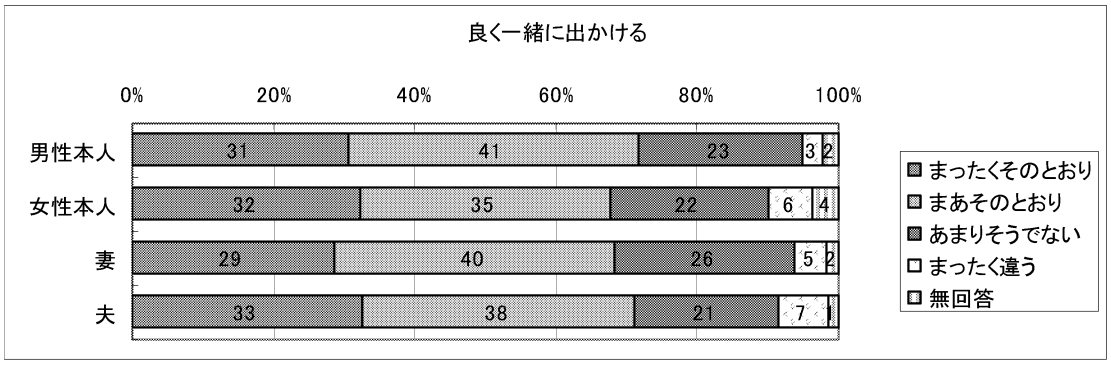
	配偶者は自分を応援してくれる				自分は配偶者を理解し応援している			
	夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
正社員	3.38	3.26			3.08	3.21		
非正社員有業配偶者有業	**3.42**	3.03	3.20	3.25	3.14	2.97	**3.40**	3.00
非正社員有業配偶者無業	**3.43**	3.14			3.09	3.17		
無業配偶者有業	**3.53**	3.19	3.27	3.33	3.31	3.17	3.18	3.11
夫婦無業	**3.44**	3.23	3.00	3.19	3.26	3.17	2.82	3.14
計	3.43	3.19	3.12	3.25	3.17	3.15	2.98	3.09

３．夫婦の共同行動

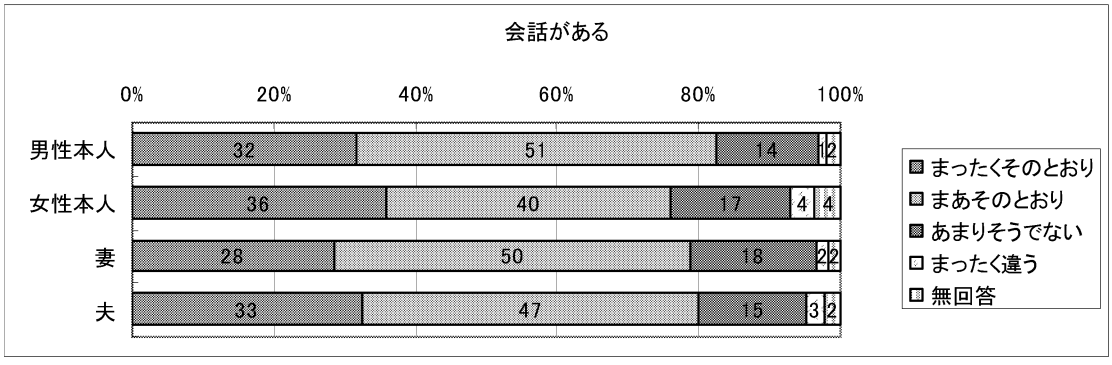
夫婦の共同行動は全般にやや下がる。良く一緒にでかけるが３割程度、会話があるが３割強である。これも男性の調査対象の妻の同意が、強い同意に限るとやや低いものとなっている。

図示しないが、年齢層別に見ると、若い方が一緒にでかけることが多い。また「出かける」に比べて「会話」は弱い同意も含めると８割近くと高いものとなるが、やや年配で下がる傾向が見られる。

〔図表 9〕「良く一緒にでかける」への同意



〔図表 10〕「会話がある」への同意



（１） 世帯類型：現役世帯、妻がフルタイムかパートか専業主婦か、子ども年齢等で類型化

〔図表 11〕夫婦の共同行動の夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均
（夫婦の働き方、子ども年齢階級別）

		(4)よく一緒に出かける				(5)会話がある			
		夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
		本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
夫婦正社員	無子	3.07	3.17	3.35	3.16	3.28	3.30	3.46	3.29
	末子10歳以下	3.08	2.96	3.19	3.22	3.20	3.00	3.26	3.33
	末子11歳以上	2.94	2.93	2.83	2.98	3.06	3.07	3.02	3.13
本人正社員配偶者非正規有	無子	3.02	2.98	3.10	3.20	3.18	3.04	3.40	3.20
	末子10歳以下	3.28	3.13			3.31	3.28		
	末子11歳以上	2.89	2.83			3.06	2.95		
本人正社員配偶者無業	無子	3.45	3.19			3.20	3.23		
	末子10歳以下	3.35	3.14			3.33	3.20		
	末子11歳以上	3.01	2.92			3.25	3.12		
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		3.07	2.94	2.81	2.83	3.33	2.94	2.90	2.82
計		3.08	2.98	3.03	3.04	3.20	3.10	3.18	3.14

配偶者のサポートについては、男性本人回答、女性本人回答のどちらを見ても、妻よりも夫の点数が高い傾向があるが、共同行動に関する認識は子どもの有無や年齢により別の面白い特徴が見られるように思われる。

夫婦ともフルタイム就業で子どもがいない場合、妻は共同行動が多いと感じているが夫は妻よりも少なくしかこれを認識していない。妻も仕事があるため、必ずしも夫都合で共同行動をとれないからかもしれない。

末子 10 歳以下の場合は、妻の就業形態にかかわりなく、夫は（家族と話したり、出かけたりと）共同行動をしていると思っている。しかし主に子どものケアを担う妻の点数は夫に比べると全般に低く、夫ほどは共同行動をしていると感じておらずより少なく感じている。

末子が 11 歳以上になると全体に夫、妻ともに共同行動も会話も減る傾向がある。

本人回答の中で、夫婦の就業のあり方で統計的に有意な差が見られたのは、「良くでかける」は無子の専業主婦世帯の夫と有業の夫、末子 10 歳以下の専業主婦世帯の夫と夫婦正社員の夫である。

また「会話がある」については、末子 11 歳以上の専業主婦世帯の夫（本人）と夫婦とも正社員の世帯の夫（本人）、および同様に専業主婦世帯の夫（本人）とパート世帯の夫（本人）「会話がある」の評価(有意水準それぞれ　0.0183、0.0053)である。

「良く出かける」、「会話がある」、は男性の認識で見ると、専業主婦世帯の方が高いものとなっている。一方、妻については、「良く出かける」は就業形態による有意な差は見られなかったが、「会話がある」は末子が 10 歳以下の場合、妻が正社員の場合、低い傾向があり、末子が 11 歳以上の場合、妻がパートの方が妻が専業主婦よりも低い傾向があった。

〔図表 12〕「良く出かける」の夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

子どもの有無、年齢階級	世帯類型	夫本人			有意水準
無子	夫婦正社員	3.07			
	パート世帯	3.02	***	専業主婦世帯の夫＞パート世帯の夫	0.003
	専業主婦世帯	3.45	***	専業主婦世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.014
末子10歳以下	夫婦正社員	3.08			
	パート世帯	3.28			
	専業主婦世帯	3.35	***	専業主婦世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.044
末子11歳以上	夫婦正社員	2.94			
	パート世帯	2.89			
	専業主婦世帯	3.01			

〔図表 13〕「会話がある」の夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

「会話がある」への同意

					有意水準
末子11歳以上　夫	夫婦正社員	3.06			
	パート世帯	3.06	***	専業主婦世帯の夫＞正社員の夫	0.0183
	専業主婦世帯	3.25	***	専業主婦世帯の夫＞パートの夫	0.0053
末子10歳以下　妻	夫婦正社員	3.00			
	パート世帯	3.28	***	パート＞正社員	0.0469
	専業主婦世帯	3.20	**	専業主婦＞正社員	0.0874
末子11歳以上　妻	夫婦正社員	3.07			
	パート世帯	2.95			
	専業主婦世帯	3.12	***	専業主婦＞パート	0.0154

末子 11 歳以上の場合、夫についても妻についても、専業主婦世帯で一番会話が多いと双方が認識しているのはなぜだろうか。時間のゆとりがあり、妻が調整することが可能だから、ということがあるかもしれない。また学歴の影響を見ていないが、末子 11 歳以上で専業主婦世帯に残るのは、高学歴の妻が多いことが知られているが、子どもの教育についての会話が多いのかもしれない。

（２） 定年経験ありの引退世代：夫婦の就業状況別

若い世代に比べて、一緒に出かけることは一層少なくなっている。

〔図表 14〕夫婦の共同行動の夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均

（定年経験あり、夫婦の働き方別）

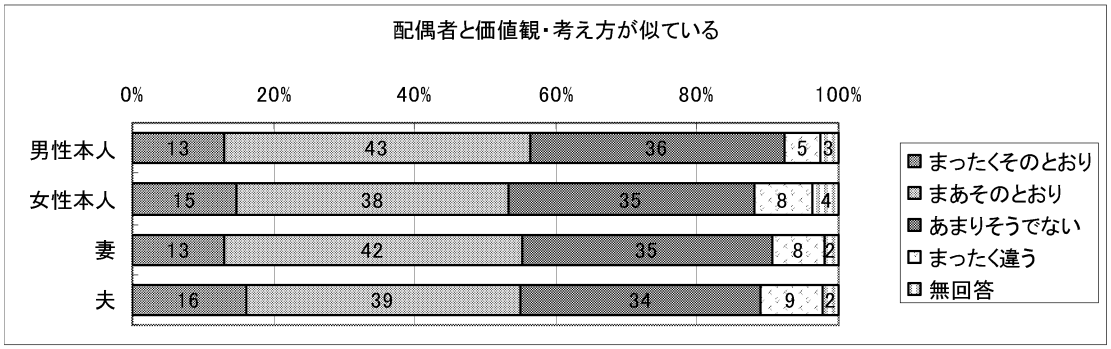
	(4)よく一緒に出かける				(5)会話がある			
	夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
正社員	2.91	2.88	**3.50**	3.00	3.02	3.04	**3.50**	3.00
非正社員有業配偶者有業	2.83	2.73	3.10	**3.11**	3.06	2.92	**3.30**	**3.33**
非正社員有業配偶者無業	2.88	2.90	2.43	2.43	3.05	2.91	2.71	2.86
無業配偶者有業	2.96	3.00	2.55	2.56	**3.22**	**3.24**	3.00	3.00
夫婦無業	2.94	2.83	2.82	2.93	3.18	3.09	2.89	3.15
計	2.90	2.86	2.82	2.84	3.10	3.03	3.00	3.11

４．価値観の一致と自由度

価値観の一致は必ずしも同意が高くはない。図には示さないが、配偶者との価値観考え方

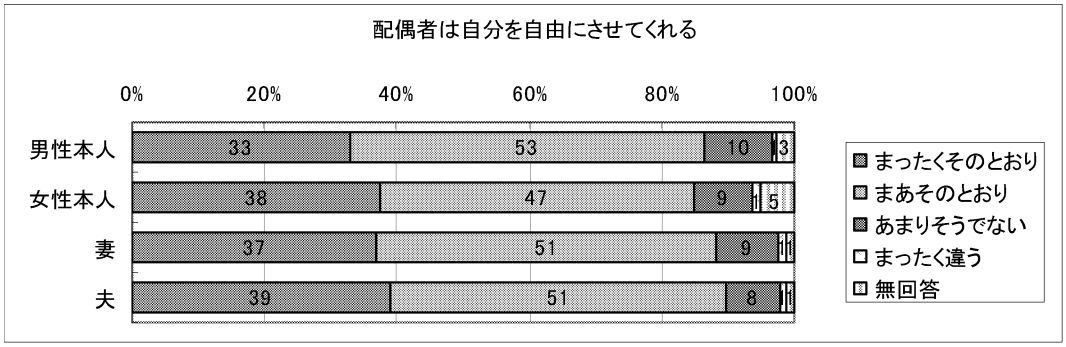
の不一致は年齢が上がるほど高い様子が見られる。

〔図表 15〕「配偶者と価値観・考え方が似ている」への同意



「配偶者は自由にさせてくれる」については、本人回答、配偶者回答、ともに女性の方が同意が高い。図示はしないが、年齢層別に見るとやや若い層の方で違うという回答が増える。

〔図表 16〕「配偶者は自分を自由にさせてくれる」への同意



（１） 世帯類型：現役世帯、妻がフルタイムかパートか専業主婦か、子ども年齢等で類型化

〔図表 17〕価値観や行動の自由についての夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均
（夫婦の働き方、子ども年齢階級別）

		③配偶者と価値観・考え方が似ている				⑥配偶者は自分を自由にさせてくれる			
		夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
		本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
夫婦正社員	無子	2.62	2.67	2.70	2.65	2.97	3.30	3.41	3.21
	末子10歳以下	2.68	2.64	2.78	2.81	2.96	3.04	3.22	3.11
	末子11歳以上	2.65	2.51	2.68	2.68	3.25	3.28	3.32	3.47
本人正社員配偶者非正規有	無子	2.73	2.76	2.60	2.70	3.30	3.37	3.40	3.20
	末子10歳以下	2.80	2.72			3.00	3.33		
	末子11歳以上	2.57	2.50			3.15	3.26		
本人正社員配偶者無業	無子	2.90	2.85			3.27	3.46		
	末子10歳以下	2.86	2.71			3.10	3.20		
	末子11歳以上	2.76	2.70			3.22	3.22		
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		2.81	2.59	2.43	2.53	3.22	3.23	3.20	3.28
計		2.72	2.64	2.70	2.68	3.16	3.26	3.32	3.27

配偶者は自分を自由にさせてくれる、は同じ子ども年齢の場合、夫婦正社員の夫の評価が低くなっている。子育て負担を担っているからかもしれない。

〔図表 18〕「配偶者は自分を自由にさせてくれる」の夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

同じ子ども年齢階級内で夫婦の就業状況による夫本人（あるいは妻）の点数の差の検定	有意水準
末子10歳未満　専業主婦世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.0381
パート世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.0319
末子11歳以上　パート世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.0308

（２） 定年経験ありの引退世代：夫婦の就業状況別

若い世代に比べて、価値観の一致はさらに低下している。一方、配偶者は自由にさせてくれる、は、男性については若い世代よりも上昇している。

〔図表 19〕価値観や行動の自由についての夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均
（定年経験者、夫婦の働き方別）

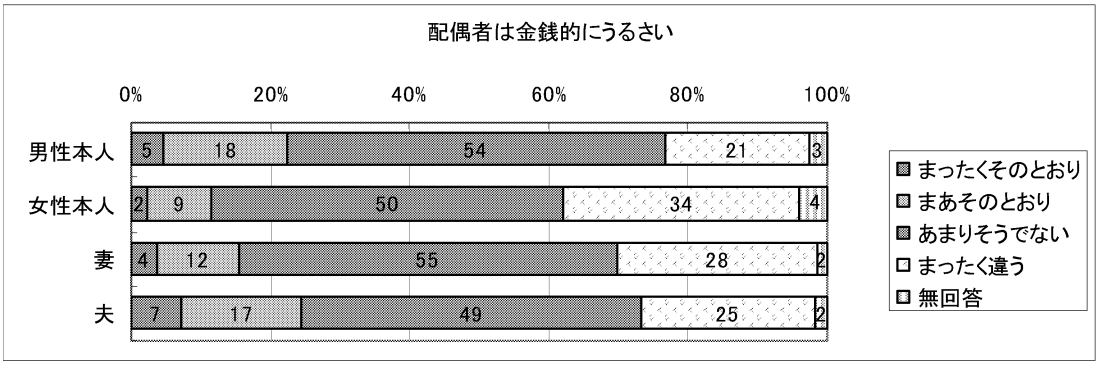
	（3）配偶者と価値観・考え方が似ている				（6）配偶者は自分を自由にさせてくれる			
	夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
正社員	2.52	2.55	2.50	2.67	3.19	3.29	3.25	3.00
非正社員有業配偶者有業	2.43	2.46	**2.90**	**2.89**	3.22	3.18	3.30	3.22
非正社員有業配偶者無業	2.51	**2.61**	2.14	2.43	3.35	3.26	3.14	3.29
無業配偶者有業	2.69	**2.61**	2.27	2.33	**3.40**	3.20	3.18	**3.56**
夫婦無業	**2.67**	**2.62**	2.21	2.44	**3.45**	3.26	3.04	**3.44**
計	2.57	2.58	2.35	2.51	3.33	3.25	3.14	3.38

５．夫婦の不満：金銭的にうるさい、配偶者は自分によりかかりすぎる

続いて夫婦の金銭の使い方の口出しに対する不満、配偶者の自分の依存への不満、配偶者の家事水準についての不満、自分の親を大切にしてくれないという不満である。

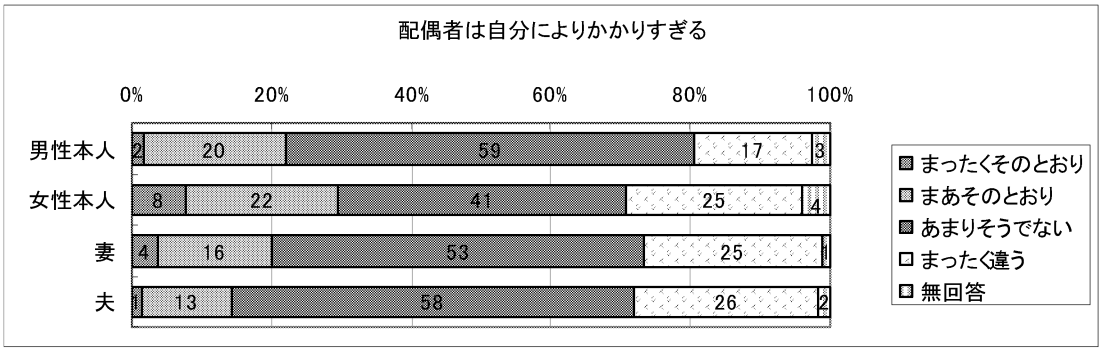
金銭的な口出しについては、男性は女性から口出しされることが多く、雇用女性はまったく口出しをされないという者が 35%近くと男性の 21%に比べて高いものとなっている。図示はしていないが年齢層別にみると若い層の男性が金銭管理を負担に思っており、男性が管理されていると感じている。

〔図表 20〕「配偶者は金銭的にうるさい」への同意



配偶者はよりかかりすぎると女性の方が感じている。しかしいわゆる「濡れ落ち葉」という言葉があるが、年齢が上がっても同意が増えてはおらず、60 歳代は独立独歩型に見える。

〔図表 21〕「配偶者は自分によりかかりすぎる」への同意



（１） 世帯類型：現役世帯、妻がフルタイムかパートか専業主婦か、子ども年齢等で類型化

〔図表 22〕金銭や依存についての夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均
（夫婦の働き方、子ども年齢階級別、点が高い方が不満が少ないよう点数化）

		(8)配偶者は金銭的にうるさい				(9)配偶者は自分によりかかりすぎる			
		夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
		本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
夫婦正社員	無子	2.79	3.13	3.14	2.76	3.00	3.07	2.76	2.89
	末子10歳以下	2.80	2.96	3.33	3.07	3.12	2.96	2.93	3.19
	末子11歳以上	2.92	3.21	3.23	3.09	3.07	3.04	2.85	3.38
本人正社員配偶者非正規有	無子	3.00	3.09	3.60	3.00	2.91	2.89	3.60	2.90
	末子10歳以下	2.64	3.16			2.90	3.11		
	末子11歳以上	2.96	3.06			2.91	3.05		
本人正社員配偶者無業	無子	2.98	3.13			2.71	3.15		
	末子10歳以下	2.92	3.01			2.92	3.09		
	末子11歳以上	2.98	3.16			2.89	2.99		
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		2.67	2.94	3.24	2.67	2.96	3.03		
計		2.91	3.09	3.25	2.91	2.92	3.04	2.90	3.11

このように若い男性の方が不満が高いのだが、ライフステージを同じにおいて、妻の働き方別に見ると、末子 10 歳未満では、パート世帯の夫は専業主婦世帯よりも管理されていると感じており、パート世帯の妻は、専業主婦世帯、正社員夫婦の妻よりも自由にお金が使えると感じている。しかし末子 11 歳以上となると、専業主婦世帯にとどまっても金銭的問題を感じにくい妻のみが、専業主婦にとどまるのかもしれないが、専業主婦の方がパート世帯の妻よりもうるさく言われないと感じている。「金銭的にうるさい」は妻の働き方によって、妻の認識が異なることが比較的多い項目である。

〔図表 23〕「配偶者は金銭的にうるさい（ということはない）」が夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

同じ子ども年齢階級内で夫婦の就業状況による夫本人（あるいは妻）の点数の差の検定		有意水準
末子10歳未満、	専業主婦世帯の夫＞パート世帯の夫	0.0081
	パート世帯の妻＞専業主婦世帯の妻	0.0839
	パート世帯の妻＞正社員世帯の妻	0.0882
末子11歳以上、	専業主婦世帯の妻＞パート世帯の妻	0.0938

「配偶者は自分によりかかりすぎる（ことはない）」は、妻の働き方によって、夫認識が大きく変わる項目である。一方、妻認識は、妻の働き方による変化はない。同じライフステージで見て世帯類型別に見ると、夫婦正社員の夫は、専業主婦世帯やパート世帯の夫に比べて、妻がよりかかりすぎると感じていない。

〔図表 24〕「配偶者は自分によりかかりすぎ（ということはない）」が夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

同じ子ども年齢階級内で夫婦の就業状況による夫本人（あるいは妻）の点数の差の検定		有意水準
無子世帯	夫婦正社員の夫＞専業主婦の夫	0.0484
	パート世帯の夫＞専業主婦の夫	0.0943
末子10歳未満、	夫婦正社員の夫＞専業主婦世帯の夫	0.0795
	夫婦正社員の夫＞パート世帯の夫	0.0702
末子11歳以上、	夫婦正社員の夫＞パート世帯の夫	0.0392

（２） 定年経験ありの引退世代：夫婦の就業状況別

引退時期に配偶者の不満がおおいに高まるといった様子は見られない。

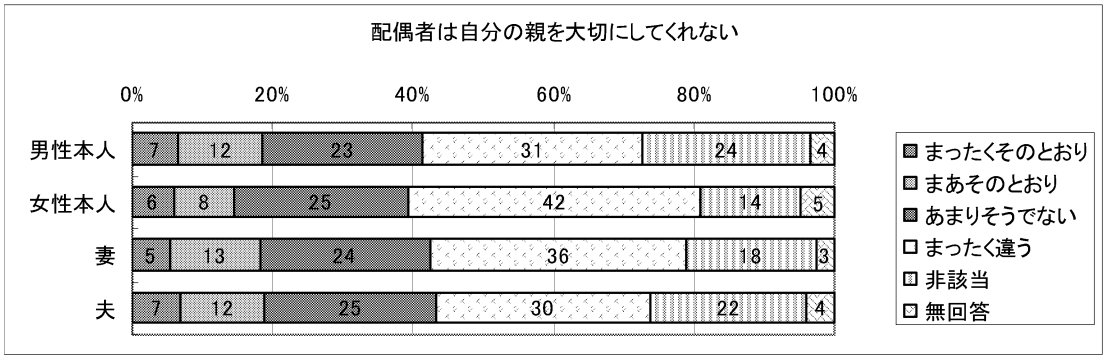
〔図表 25〕金銭や依存についての夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均
（定年経験あり、夫婦の働き方別）

	（8）配偶者は金銭的にうるさい				（9）配偶者は自分によりかかりすぎる			
	夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
正社員	2.95	3.13	**3.75**	2.67	2.85	2.97	2.50	3.00
非正社員有業配偶者有業	3.00	3.02	3.10	3.00	2.99	3.02	2.90	**3.33**
非正社員有業配偶者無業	2.85	3.07	**3.29**	**3.14**	2.90	**3.00**	2.57	**3.57**
無業配偶者有業	3.02	**3.15**	3.09	2.89	2.96	2.74	2.73	2.89
夫婦無業	3.07	**3.18**	2.96	3.08	**3.04**	2.99	2.63	**3.04**
計	2.98	3.12	3.10	3.02	2.95	2.97	2.68	3.13

６．夫婦の不満：親を大切にしてくれない、配偶者にもっと家事をしてほしい

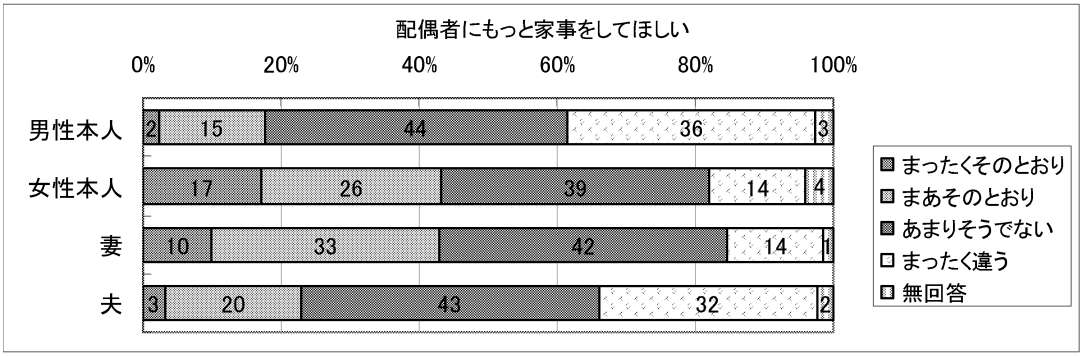
親を大切にしてくれないという不満は全体に大きくはない。

〔図表 26〕「配偶者は自分の親を大切にしてくれない」への同意



もっとも高い不満は、女性が男性に対して家事をしてくれないという不満である。特に雇用女性に高い。

〔図表 27〕「配偶者にもっと家事をしてほしい」への同意



（１） 世帯類型：現役世帯、妻がフルタイムかパートか専業主婦か、子ども年齢等で類型化

〔図表 28〕家事分担や自分の親のケアについての夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均（夫婦の働き方、子ども年齢階級別）

		(10)配偶者にもっと家事をして欲しい				)配偶者は自分の親を大切にしてくれな			
		夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
		本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
夫婦正社員	無子	2.93	2.27	2.35	2.84	3.19	3.48	3.51	3.06
	末子10歳以下	2.92	2.64	2.33	3.19	3.16	2.96	3.38	3.32
	末子11歳以上	3.14	2.66	2.45	3.15	3.09	3.19	3.27	3.02
本人正社員配偶者非正規有	無子	2.84	2.52	2.90	3.00	3.25	3.17	3.00	3.43
	末子10歳以下	3.15	2.61			3.33	3.37		
	末子11歳以上	3.18	2.54			3.08	3.14		
本人正社員配偶者無業	無子	3.31	2.77			3.14	3.20		
	末子10歳以下	3.27	2.58			3.41	3.45		
	末子11歳以上	3.25	2.65			3.00	3.11		
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		3.19	2.40	2.52	3.18	3.00	3.16	3.50	3.23
計		3.17	2.58	2.51	3.05	3.16	3.22	3.33	3.11

妻の不満は、妻の就業形態によらず全般に高く、夫の不満は妻の就業形態によらず全般に低い。世帯類型別に見ると、妻が働いている場合の方が妻の不満が高いのではないかと想像したが、妻で有意な差があったのは、子どもがいない専業主婦の妻と夫婦正社員世帯の妻の

みであった。有子世帯については、妻はあきらめているのか、妻側では、ライフステージを統一した上で、妻の働き方によって夫の家事分担への不満が有意に異なることはない。妻側で有意に不満が高いのは、無子世帯の夫婦共働きの妻である。また妻の働き方によって、夫側の家事満足は異なるようである。

〔図表 29〕「配偶者にもっと家事をしてほしい（ということはない）」が夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

同じ子ども年齢階級内で夫婦の就業状況による夫本人（あるいは妻）の点数の差の検定		有意水準
無子世帯	専業主婦世帯の夫>夫婦正社員の夫	0.031
	専業主婦世帯の夫>パート世帯の夫	0.0027
	専業主婦世帯の妻>夫婦正社員の妻	0.0078
末子10歳未満、	専業主婦世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.0155

「配偶者は自分の親を大切にしてくれない（ことはない）」という回答について、末子 10 歳未満の世帯では、夫婦正社員世帯の妻で、親を大切にしてくれないという回答が有意に高いものとなっている。

〔図表 30〕「配偶者は自分の親を大切にしてくれない（ということはない）」が夫、妻の認識が妻の働き方で異なるかどうか

同じ子ども年齢階級内で夫婦の就業状況による夫本人（あるいは妻）の点数の差の検定		有意水準
無子世帯	夫婦正社員の妻＞パート世帯の妻	0.0862
末子10歳未満、	専業主婦世帯の夫＞夫婦正社員の夫	0.067
	専業主婦世帯の妻＞夫婦正社員の妻	0.0026
	パート世帯の妻＞夫婦正社員の妻	0.0153

（２） 定年経験ありの引退世代：夫婦の就業状況別

男性が家事をしないということへの不満は、有業女性の引退期には一層強いものになっている。

〔図表 31〕家事分担や自分の親のケアについての夫本人、妻本人、その配偶者それぞれの評価平均（定年経験者、夫婦の働き方別）

	（10）配偶者にもっと家事をして欲しい				（7）配偶者は自分の親を大切にしてくれない			
	夫本人		妻本人		夫本人		妻本人	
	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者	本人	配偶者
正社員	3.12	**2.56**	3.00	3.00	2.88	3.15	**3.50**	**4.00**
非正社員有業配偶者有業	3.18	2.73	2.70	3.22	3.00	**3.08**	**3.29**	**3.60**
非正社員有業配偶者無業	3.27	2.66	2.29	3.43	2.81	2.70	2.50	3.75
無業配偶者有業	3.11	**2.58**	**2.36**	3.11	2.93	2.95	3.00	2.33
夫婦無業	3.14	2.68	**2.37**	3.04	2.85	3.05	3.13	2.50
計	3.16	2.64	**2.46**	3.13	2.88	3.02	3.07	2.97

７．因子分析

ここまでは、各設問について、男性、女性の回答を集計し、さらに男性回答については、妻の就業形態別に、夫の認識、妻の認識を見てきた。

続いて、夫婦関係認識についての、本人、配偶者それぞれ 10 の設問の回答パターン分布から夫婦関係をとらえることを試みる。

自分は配偶者にサポートされ、配偶者をサポートしている、配偶者に家事をもっとやってほしいと考えている、配偶者との会話が多い、といった本人の夫婦認識について因子分析を行い、夫婦関係の因子をとりだすことは可能だろう。しかし、ここでは、本人と配偶者のペアデータがとれるため、それぞれが夫婦関係をどう認識しているか、その認識の一致や微妙なずれにも関心を払い夫婦関係をとらえたいと思う。

たとえば、自分は配偶者から応援され、応援している、という認識に対して、配偶者も同じように、配偶者から応援されていると感じている夫婦もあるだろうし、逆に配偶者は自分は夫を支えているが、夫からはあまり理解されていないと感じている夫婦もあるだろう。そのような夫婦関係のあり方を因子分析によってとらえることで、夫と妻の双方からの関係性としての夫婦関係をとらえることになるのではないか。

このように考えて夫と妻の回答を１つの夫婦関係認識として、両者を合わせて因子分析を行うことにした。なお男性（とその妻）のみ、および女性（とその夫）のみデータでそれぞれ行った。男性サンプルの場合は、専業主婦世帯、パート世帯、夫婦正社員世帯が含まれる。一方、女性サンプルは主に企業勤務女性のみであるため、共働き世帯に偏っている。そこで夫婦関係が異なるのではないかと考えて、男女別々に分析を行うこととした。

（１） 男性サンプルのみを用いた場合

男性のみで因子分析を行った結果が図表 32 である。次の４因子を取り出した。

第１因子　共同行動が多い。　調査対象者が配偶者以上に夫婦間サポートが高いと思う。

第２因子　共同行動が多い。　配偶者が調査対象者に夫婦間サポートや共同行動が高いと思う。

第３因子　配偶者から本人への家事、親のケア、自立などへの満足が高い。

第４因子　本人から配偶者への親のケア、自立、家事、自由度への満足は高いが配偶者はさめている。

〔図表 32〕男性サンプルを用いた夫婦関係の因子分析

		因子1 共同行動が多く調査対象本人が配偶者以上に夫婦サポートが高いと思う	因子2 配偶者が調査対象本人以上に夫婦サポートが高いと思い、共同行動が多いと思う	因子3 配偶者からの本人に対する家事、親のケア、自立などについての満足が高い	因子4 本人から配偶者への親、自立、家事、自由などへの評価が高いが配偶者は共同行動が少ないと感じている	uniqueness
本人	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる	**0.6998**	0.225	0.0785	0.2542	0.3888
	(2)自分は配偶者の良き理解者である	**0.6764**	0.2892	0.0884	0.2407	0.3931
	(3)配偶者と価値観・考え方が似ている	**0.5625**	0.2998	−0.0395	0.2013	0.5516
	(4)よく一緒に出かける	**0.7276**	0.2737	0.0355	−0.2085	0.351
	(5)会話がある	**0.7297**	0.2912	−0.0241	0.0245	0.3816
	(6)配偶者は自分を自由にさせてくれる	0.2212	0.155	0.0243	**0.3758**	0.7852
	(7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない	0.3214	0.0836	0.1709	0.2098	0.8165
	(8)配偶者は金銭的にうるさい	0.1634	0.1497	0.1637	**0.3797**	0.7799
	(9)配偶者は自分によりかかりすぎる	0.022	−0.011	0.1217	**0.4123**	0.8146
	(10)配偶者にもっと家事をして欲しい	0.3319	0.1023	0.1909	**0.3294**	0.7344
配偶者	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる	0.2736	**0.7244**	0.2324	0.0699	0.3416
	(2)自分は配偶者の良き理解者である	0.2636	**0.7476**	0.0139	0.1505	0.3488
	(3)配偶者と価値観・考え方が似ている	0.2912	**0.6557**	−0.012	0.0959	0.4759
	(4)よく一緒に出かける	**0.5097**	**0.5656**	0.0596	**−0.2848**	0.3357
	(5)会話がある	**0.4395**	**0.6597**	0.0059	**−0.1055**	0.3605
	(6)配偶者は自分を自由にさせてくれる	0.0255	**0.4917**	0.3014	0.0425	0.665
	(7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない	0.1733	0.1678	**0.3574**	0.0251	0.8134
	(8)配偶者は金銭的にうるさい	0.0118	0.094	**0.4213**	0.0897	0.8055
	(9)配偶者は自分によりかかりすぎる	−0.0108	0.1177	**0.5179**	0.0632	0.7138
	(10)配偶者にもっと家事をして欲しい	0.1156	0.2818	**0.4376**	0.0612	0.7119

因子 1−4 について、スコアを標準偏差で割り、10 倍し、100 を加えることで、平均 100、分散 10 の指数を作った。

必ずしも良い命名ではないが、次のように呼ぶことにする。

指数 1　(共同行動が多い。　調査対象者が配偶者以上に夫婦間サポートが高いと思う)

→本人の満足指数。

指数 2　(共同行動が多い。　配偶者が調査対象者に夫婦間サポートや共同行動が高いと思う)　→　配偶者の満足指数。

指数 3　(配偶者から本人への家事、親のケア、自立などへの満足が高い。)

→配偶者からのケア評価指数

指数 4　(本人から配偶者への親のケア、自立、家事、自由度への満足は高いが配偶者はさめている)　配偶者が一方的にケアをしているので、

→　配偶者へのケア借り度指数

指数 1−3 は高い方が良い。指数 4 は高いほど、(夫評価は悪くはないが) 妻評価が低いことを示している。また指数 2, 3 が高い場合は、妻の評価が夫以上に高く、指数 1 が高い場合は夫から妻への評価が高いことを示す。

もっとも夫婦関係が良いのは、子どもがいない専業主婦世帯、および末子が 10 歳以下の専業主婦世帯と妻がパート就業の世帯である。本人の満足がそれぞれ 105、103、103 である。(配偶者の満足は 102、100、101 と平均的かやや高めである。) また配偶者からの本人

のケア評価指数は、102、101、102 と比較的高い。一方配偶者への借り度指数も、98、98、98 と低い。

共働き世帯については、子が 10 歳以下や、無子の場合は、夫婦の応援関係は平均的（あるいは無子世帯は双方わずかに高めで夫 101、妻 101）であるが、妻の夫に対する家事や親のケア等への評価が低く、配偶者からの本人ケア評価指数は 98、99 である。

末子 11 歳以上では、夫婦関係は全体に冷めた関係となっていく。その中で特に悪いのは、妻がパート世帯であり、夫婦サポートや共同行動の評価が一番低くなっている（本人満足 98、妻満足 99）。また専業主婦世帯では、夫が妻に応援してもらっているという評価がやや高く（101）、共働き世帯ではこれがやや低く（98）なっている。

定年経験後、夫の評価は高いが妻の評価が低いのは、夫が無業で妻が有業の世帯である。定年後夫婦とも無業で引退している場合は、夫は妻が自分を応援してくれなくなったと感じる(本人満足指数 97)。また夫から妻への家事、親のケアなどの満足は相対的に高いが、妻から夫へのそうした側面への評価は特段に低い（借り度指数 103)。夫が引退後正社員を続ける場合も、妻からの応援が少なくなったと夫は感じている（本人満足指数 97）

〔図表 33〕ライフサイクル、夫婦の就業組み合わせでみた夫婦関係の４指標平均（男性サンプルを用いたもの）

		本人の満足指数	配偶者の満足指数	配偶者からのケア評価指数	配偶者への借り度指数
		共同行動が多く調査対象本人が配偶者以上に夫婦サポートが高いと思う	配偶者が調査対象本人以上に夫婦サポートが高いと思い、共同行動が多いと思う	配偶者からの本人に対する家事、親のケア、自立などについての満足が高い。	本人から配偶者への親、自立、家事、自由などへの評価が高いが配偶者は共同行動が少ないと感じている。
夫婦正社員	無子	100.8	101.1	98.3	96.0
	末子10歳以下	99.6	99.8	98.5	98.6
	末子11歳以上	**98.2**	100.3	100.5	100.4
本人正社員配偶者非正規有業	無子	99.0	101.1	100.1	100.7
	末子10歳以下	**102.9**	101.1	**101.5**	**98.4**
	末子11歳以上	98.0	98.9	100.6	100.6
本人正社員配偶者無業	無子	**104.9**	101.8	**101.8**	**97.8**
	末子10歳以下	**103.1**	100.1	**101.1**	**98.4**
	末子11歳以上	101.4	99.7	99.0	101.1
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		**98.2**	**97.0**	**96.6**	100.0
定年経験あり	正社員	**96.9**	100.1	99.0	99.4
	非正社員有業配偶者有業	**98.7**	99.0	**101.0**	**101.5**
	非正社員有業配偶者無業	**97.1**	100.1	**96.4**	99.8
	無業配偶者有業	100.5	**97.8**	**96.2**	**103.4**
	夫婦無業	**96.7**	101.3	100.9	**103.3**
	計	100.0	100.0	100.0	100.0

（２） 女性サンプルのみを用いた場合

続いて、女性調査対象者のみで因子分析を行う。企業勤務女性の夫婦関係について、子ど

も年齢や引退でどう変化するかをみるためである。

第１因子　夫婦ともに双方の支え合いを高く評価

第２因子　配偶者からの家事、自立などの評価は高いが共同行動が少なく本人の配偶者評価は低い。

第 3 因子　本人から配偶者への評価は高いが、配偶者はサポートされていないと感じる。

第４因子　双方ともにサポートされていないと感じる。

第１因子が高いほど夫婦関係は良く、第４因子が高いほど悪い。第２因子は相対的に夫側の家事等への評価が高く、第３因子は妻側の家事等への評価が高い。

〔図表 34〕　女性サンプルを用いた夫婦関係の因子分析

		因子1	因子2	因子3	因子4	uniqueness
		夫婦ともに応援され応援しあう関係、共同行動も多い	配偶者の本人への家事、自由、自立などの評価は高いが、共同行動は少なく本人の配偶者評価は低い	本人から配偶者への家事、自由、自立などの評価は高いが、配偶者はサポートされていないと感じている	夫婦ともにサポートされていないと感じている	
本人	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる	**0.7001**	**−0.0728**	0.338	**−0.1232**	0.3751
	(2)自分は配偶者の良き理解者である	**0.6537**	0.0117	0.2342	**−0.1775**	0.4861
	(3)配偶者と価値観・考え方が似ている	**0.7212**	0.195	0.1057	−0.0794	0.4243
	(4)よく一緒に出かける	**0.7144**	−0.364	0.0575	0.2308	0.3005
	(5)会話がある	**0.768**	−0.0708	0.0495	−0.1021	0.3922
	(6)配偶者は自分を自由にさせてくれる	**0.5447**	0.0779	**0.2395**	−0.0841	0.6328
	(7)配偶者は自分の親を大切にしてくれな	0.1634	**−0.1504**	0.1688	0.1995	0.8824
	(8)配偶者は金銭的にうるさい	0.3232	0.049	0.1428	**0.3018**	0.7816
	(9)配偶者は自分によりかかりすぎる	0.3698	0.0422	**0.3173**	−0.0311	0.7598
	(10)配偶者にもっと家事をして欲しい	0.3754	0.1083	**0.3877**	−0.1302	0.6801
配偶者	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる	**0.6237**	0.0494	**−0.4173**	**−0.0988**	0.4247
	(2)自分は配偶者の良き理解者である	**0.6553**	0.0641	**−0.3095**	**−0.3126**	0.373
	(3)配偶者と価値観・考え方が似ている	**0.6917**	0.1701	**−0.2385**	0.0493	0.4333
	(4)よく一緒に出かける	**0.673**	**−0.3554**	**−0.2091**	**0.3393**	0.2619
	(5)会話がある	**0.7394**	**−0.1017**	−0.248	0.1012	0.3713
	(6)配偶者は自分を自由にさせてくれる	0.2859	**0.2853**	−0.2443	−0.103	0.7666
	(7)配偶者は自分の親を大切にしてくれな	0.1708	0.1761	0.0571	0.2447	0.8767
	(8)配偶者は金銭的にうるさい	0.1142	**0.2871**	−0.0937	0.0416	0.894
	(9)配偶者は自分によりかかりすぎる	0.0381	**0.5781**	0.0145	0.1433	0.6436
	(10)配偶者にもっと家事をして欲しい	0.1709	**0.4947**	0.0599	**0.3265**	0.6158

専業主夫世帯などサンプル数が大変少ないため、主に共働き夫婦の夫婦関係が子どもの出産と成長につれてどうかわるかを見る。

同様に４つの指数を作る

指数１　（夫婦ともに双方の支えあいを高く評価）　→　夫婦応援指数

指数２　（配偶者からの家事、自立などの評価は高いが共同行動が少なく本人の配偶者評

価は低い）　　→本人の貸し指数

指数３　（本人から配偶者への評価は高いが、配偶者はサポートされていないと感じる。）

→配偶者の貸し指数

指数４　（双方ともにサポートされていないと感じる。）

→　夫婦幻滅指数

子どもがいない世帯では、どちらのサポート感が高いかには差はあるものの、全体に、夫婦ともに応援され応援しあう関係と感じている（夫婦応援指数 101、本人貸し指数 103、配偶者貸し指数 103、夫婦幻滅指数 96）。妻が正社員で夫が非正社員の場合も、子どもがいなければ、やや本人の貸しが多いと感じているものの夫婦関係は悪いとはいえない（夫婦応援指数 100、本人貸し指数 102、配偶者貸し指数 97、夫婦幻滅指数 100）。

しかし子どもができると、夫婦関係は変化するようである。夫婦はともにサポートされていない、理解されていないと感じる者が増える。特に子どもの年齢が低いときには、夫の妻評価は相対的に高いが、妻は夫が十分に家事をしないと感じている（夫婦応援指数 99、本人貸し指数 104、配偶者貸し指数 98、夫婦幻滅指数 103）。逆に子どもが 11 歳以上になると(夫も経験によって家事能力等の訓練が増えるためか)、妻の夫評価は相対的に高くなるが、夫の妻への家事や共同行動への評価は低くなる（夫婦応援指数 99、本人貸し指数 98、配偶者貸し指数 101、夫婦幻滅指数 102）。

引退期はサンプル数が少ないため、なんともいえないが、引退期で妻が有業の場合は、夫婦ともにサポートされていないと感じる者が多く、夫が無業の場合は、妻の夫からのサポート評価は高まるが、夫からの評価は低い。

〔図表 35〕ライフサイクル、夫婦の就業組み合わせでみた夫婦関係の 4 指標平均（女性サンプルを用いたもの）

		夫婦応援指数 夫婦ともに応援され応援しあう関係、共同行動も多い	本人の貸し指数 配偶者の本人への家事、自由、自立などの評価は高いが、共同行動は少なく本人の配偶者評価は低い	配偶者の貸し指数 本人から配偶者への家事、自由、自立などの評価は高いが、配偶者はサポートされていないと感じている	夫婦幻滅指数 夫婦ともにサポートされていないと感じている	サンプル数
夫婦正社員	無子	**101.0**	**102.5**	**102.6**	96.1	29
	末子10歳以下	99.3	**103.9**	98.1	**102.8**	23
	末子11歳以上	98.6	97.8	101.3	**102.1**	36
本人正社員配偶者非正規有業	無子	**102.3**	**103.2**	96.6	98.4	7
	末子10歳以下	92.6	87.0	94.0	100.6	2
	末子11歳以上	110.2	100.0	99.5	96.3	4
本人正社員配偶者無業	無子	114.1	110.0	109.8	118.2	1
	末子10歳以下					
	末子11歳以上	108.8	92.4	87.5	99.4	4
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		100.4	**102.0**	96.8	100.4	11
定年経験あり	正社員	99.1	105.1	93.7	102.0	3
	非正社員有業配偶者有業	99.5	101.0	95.1	102.2	4
	非正社員有業配偶者無業	99.8	99.3	109.3	110.1	3
	無業配偶者有業	100.0	**94.7**	100.9	97.1	6
	夫婦無業	**92.2**	98.5	**104.1**	96.0	6
	計	100.0	100.4	99.9	100.2	139

（3） 因子分析のまとめ

男性サンプルのみ、女性サンプルのみで夫婦関係の因子分析を行った。

男性標本から分析を行い、夫婦関係の 4 つの因子を取り出した。これは、夫側が応援されているという評価が高いかどうか、妻側が応援され理解されているという評価が高いかどうか、妻から夫への家事や親ケア等への評価等が高いかどうか、と妻から貸しが多いと評価されているかどうか、の 4 因子である。

この中で、夫婦関係は、子どもがいない結婚後の状態で高く、子どもができると、専業主婦世帯やパート世帯で矛盾が少なく、特に夫からの評価が高いものとなっていた。しかし子どもが成長するとともに、夫婦の応援されている、理解されているという関係は希薄になっていき、特に妻がパートの世帯で妻の評価が下がっていく。特に定年を迎えると、夫が有業の場合も定年前ほど応援してもらっていないと感じるようになり、夫が無業の場合は、妻が家事や親の面で貸しばかりしているという評価となっていく。

一方、共働き世帯の女性について、因子分析を行うと、夫婦関係の因子は、夫婦応援か、夫婦幻滅か、本人の貸しか、配偶者の貸しか、という 4 つの因子が取り出された。専業主婦世帯やパート世帯も含まれる場合の補完的な夫婦関係と異なり、共働き世帯の夫婦関係は、双方支援しあうか、幻滅しあうかという関係になるのかもしれない。

子どもがいない時点での共働き夫婦の関係は良好だが、子どもができると、特に子どもが幼いうちには妻側に多くの負担がかかる。子どもが成長した後は、夫側が十分に応援してもらっていないという不満を持つ。子どもができると共働き世帯では葛藤が増していることがわかる。

Ⅲ．子どもの独立、子育てへの評価と夫婦関係

近年労働市場の変化とともに、独立できない子どもを持つ中高年夫婦が増えているといわれる。アンケートから企業年金基金や厚生年金基金を持つ企業に勤める（勤めていた）者の子どもの就業についてその実態を見る。

2006 年調査では、18 歳以上の子どもについて、就業や無職（正社員、派遣社員・スタッフなど、学生、無業）の子どもの数、および有配偶・無配偶の子どもの数をたずねている。パートやアルバイトがどこに入るかは親の判断となっているがおそらく派遣社員・スタッフなどに入るだろう。

末子が 18 歳以上の世帯について、末子年齢階級別に世帯の子ども数にしめる正社員比率と有配偶率を示すと図表 36 のとおりである。末子 30 歳以上 39 歳階級に注目すると、正社員就業の子どもの比率は 68%、有配偶率が 66%である。

〔図表 36〕末子年齢化級別に見た正社員比率と有配偶率　（末子 18 歳以上の世帯に限る）

末子の年齢階級	正社員比率					
	1人	2人	3人	4人	セル平均、サンプル数	
22歳以下	7%	27%	44%	50%	27%	155
29歳以下	70%	72%	64%	58%	69%	263
39歳以下	73%	68%	67%	88%	68%	357
54歳以下	84%	69%	67%	ー	73%	66
平均	60%	62%	61%	59%	61%	841
計	127	546	152	16		
末子の年齢階級	有配偶率					
	1人	2人	3人	4人	セル平均、サンプル数	
22歳以下	27%	16%	15%	83%	19%	121
29歳以下	15%	38%	45%	53%	38%	250
39歳以下	41%	71%	67%	75%	66%	345
54歳以下	67%	81%	93%	.	79%	60
平均	36%	53%	51%	62%	51%	776
計	102	514	145	15		

子どもが複数いる場合は、世帯の子ども数にしめる正社員数の意味の解釈は複雑になるが、子供 1 人の場合は、その子どもの就業状況を示すため、子ども 1 人を示したのが図表 37 である。子ども 30－39 歳層に注目すれば、正社員比率が 73%、派遣社員比率が 18%、無業率が 10%である。婚姻率がなぜか 41%と低い。ただし図表 36 に掲載したサンプル数を比較するとわかるように、子ども数に対する回答に比べると、婚姻率は欠損値が比較的多くなっている点には留意する必要がある。

〔図表 37〕子ども 1 人の世帯の子ども年齢階級別に見た就業率とその構成（末子 18 歳以上世帯に限る）

末子年齢階級	就業状況					婚姻率	サンプル数
	正社員比率	派遣社員比率	無業率	学生	サンプル数		
22歳以下	7%	0%	0%	93%	27	27%	15
29歳以下	70%	10%	0%	17%	30	15%	26
39歳以下	73%	18%	10%	0%	51	41%	46
54歳以下	84%	11%	5%	0%	19	67%	15
計	60%	11%	5%	24%	127	36%	102

子どもが安定した職を得たり、安定した婚姻に入ったりしたときに、親は子どもの独立を実感するのではないかと考えられる。日本では出産女性の多くはいったん無業になる場合が多い。そこで有配偶の娘が無業だとしても、安定した婚姻関係にあれば、親は子の独立を認識すると考えられる。ところがこの調査では子どもが男性か女性かはわからない。しかし、子どもの半数が娘と仮定すると 30－39 歳層の無業率は上がると想像したが、子供が 1 人の世帯に限定すると無業率は図表 37 のとおり 10%と思いがけず低い。

さらに出産による無業化が起こりにくいと考えられる無配偶の子どもに限り、その就業状況を見る。子ども 1 人世帯、その子どもが 30－39 歳層を見ると、74%が正社員、11% が派遣社員、15%が無業である。出産退職者が少ないと想像した無配偶については、全体平均よりも無職者が減るものと予想したが、このデータではむしろ増えている。

子ども 1 人に限らず、世帯の子ども全員が無配偶であり、かつ末子年齢階級で 30－39 歳層を見ると、世帯の子どもの就業状況の平均は、正社員が 71%、派遣社員が 16%、そして無業が 11%である。婚姻しておらず、無業や不安定就業の子どもが 27%いることになる。

〔図表 38〕無配偶の子どもの就業状況（末子 18 歳以上の世帯）

末子年齢階級	子ども1人、無配偶				
	正社員比率	派遣社員比率	無業率	学生	サンプル数
22歳以下	18%	0%	0%	82%	11
29歳以下	77%	5%	0%	14%	22
39歳以下	74%	11%	15%	0%	27
54歳以下	80%	20%	0%	0%	5
計	66%	8%	6%	18%	65
末子年齢階級	子どもが全員無配偶				
	正社員比率	派遣社員比率	無業率	学生	サンプル数
22歳以下	29%	7%	5%	61%	15
29歳以下	74%	11%	4%	4%	41
39歳以下	71%	16%	11%	1%	161
54歳以下	64%	21%	14%	0%	39
計	58%	11%	6%	5%	256

〔図表 39〕子ども数、子どもの就業状態、有配偶かどうかの回答者数（末子 18 歳以上の世帯に限る）

末子年齢階級	子ども数回答者数	子どもの就業形態回答者数	子供が有配偶かどうか回答者数
22歳以下	157	155	121
29歳以下	267	263	250
39歳以下	380	357	345
54歳以下	76	66	60
計	880	841	776

注）婚姻状況の回答は比較的欠損が多い

子育てに関する親の自己評価として「子育てがうまくいった」という設問への同意を見る項目がある。まったくそのとおりを 4、まあそのとおりが 3、あまりそう思わないが 2、全く違うを 1 で点数化すると、図表 40 のとおりである。

〔図表 40〕子育てに対する親の評価（本人回答、すべての年齢層の子どもを含む）

	子育てはうまくいった				子どもが幼いころによく世話をした、している			
	男性	女性	計	サンプル数	男性	女性	計	サンプル数
44歳以下	3.06	2.92	3.03	272	3.01	3.10	3.03	271
45－54歳	2.97	3.12	3.00	312	2.92	3.02	2.94	312
55－64歳	3.00	2.86	2.98	261	2.79	3.09	2.83	260
65－74歳	2.85	3.16	2.92	121	2.76	3.28	2.87	120
計	2.99	3.01	2.99	966	2.89	3.10	2.93	963
サンプル数	800	166	966		797	166	963	

また図表 40 では、「子どもが幼いころに良く世話をした、している」の同意を見たが、男性は若い世代ほど明らかに子育てにかかわる者が増えている。

このうち、子育てへの評価について、夫婦双方の評価があるサンプルのみを取り出したものが図表 41 である。

男性は、男性調査の本人回答、女性調査の夫回答、どちらを見ても、子どもが幼いうちの発達を肯定的に評価し、妻はより厳しく評価している（44 歳以下の層を見ると、夫本人 3.07、妻 2.99 であり、妻本人が 2.92、夫 3.14 である）。一方男性本人の成人子どもの評価は厳しく、その妻はより寛容な尺度を持っている傾向見受けられる。一方、共働き女性である女性本人回答を見ると、むしろ子どもが成長した後に、全般にむしろ男性より評価が低いように見受けられる。

〔図表 41〕子育てに対する夫と妻の評価（夫婦カップルの回答、すべての年齢層の子どもを含む）

	子育てはうまくいった						
	夫（本人）	妻	男性調査サンプル数	妻（本人）	夫	女性調査サンプル数	全体サンプル数
44歳以下	3.07	2.99	203	2.92	3.14	36	239
45－54歳	2.96	2.94	229	3.08	3.08	37	266
55－64歳	2.99	3.02	187	2.84	2.95	19	206
65－74歳	2.86	3.08	71	2.78	3.11	9	80
計	2.99	2.99		2.95	3.08		791
サンプル数	690			101			

男女差、および女性の働き方による子育て評価の差を見るために、男女回答ともに夫婦の働き方で分類したものが図表 42 である。「夫婦正社員、現役」の男性サンプルを見ると、やはり子どもが幼いうちは、妻の評価が厳しく、夫の評価が甘い。末子 11 歳以上で現役世代を見ると、男性サンプルでは両者の評価は一致、女性サンプルではむしろ有業の妻の方が子育てがうまくいったという評価が高い傾向がみられる。

しかし「定年退職経験あり」でおそらく子どもが成人を迎えたであろう世帯を見ると、男性サンプルでは妻評価が夫評価をすべてのケースで上回る。一方、女性が働いていたと思われる女性サンプルでは、サンプル数が少ないものの、どのケースでも、妻回答が夫回答を下回る。男性サンプルはおそらく世間的な成功から、また働いていて子どもに十分な時間を費やせなかった後悔から自分の子育てを評価するのに対して、その妻は、十分に時間を費やしたという思いから、世間的評価とは独立に肯定的に子どもを評価しているのかもしれない。一方、女性の就業者サンプルは、末子が 11 歳を超えた現役時代については、子どもが幼い大変な時期を乗り越えたことから、この時期については自分の子育てを肯定的に評価するのに対して、定年退職後は、仕事をしていたために、母親としては十分な時間を費やすことができなかった子育てへの後悔かどうかはわからないが、評価が下がるのかもしれない。

〔図表 42〕子育てに対する夫と妻の評価（夫婦カップルの就業状況別の回答、すべての年齢層の子どもを含む）

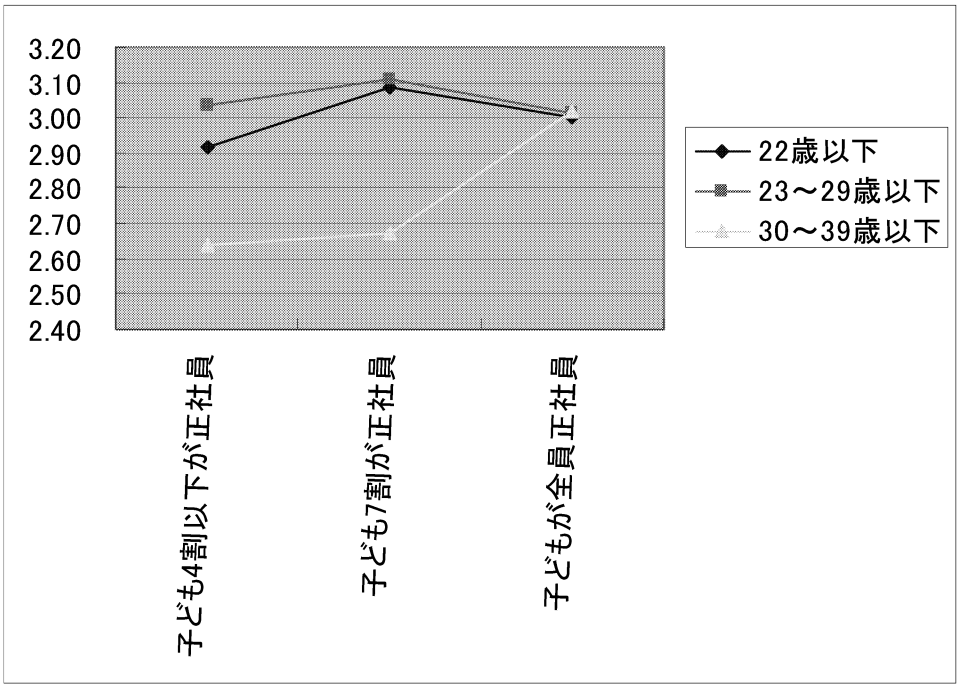
		男性サンプル			女性サンプル			計
		夫本人	妻	男性サンプル	女性本人	夫	女性サンプル	
夫婦正社員	末子10歳以下	3.05	2.95	22	2.81	3.19	26	48
	末子11歳以上	3.00	3.00	52	3.15	3.09	34	86
本人正社員配偶者非正規有業	末子10歳以下	2.98	2.84	58	2.50	3.00	2	60
	末子11歳以上	2.95	3.01	155	3.50	3.50	6	161
本人正社員配偶者無業	末子10歳以下	3.12	3.00	120	.	.	0	120
	末子11歳以上	3.01	2.96	113	2.50	3.00	2	115
本人非正社員配偶者有業定年経験なし		3.00	2.79	14	3.00	3.00	9	23
定年経験あり	正社員	2.91	3.02	46	2.50	2.50	2	48
	非正社員有業配偶者有業	2.56	2.64	25	2.60	2.80	5	30
	非正社員有業配偶者無業	3.00	3.15	33	3.33	3.67	3	36
	無業配偶者有業	3.29	3.43	7	3.00	3.00	4	11
	夫婦無業	3.00	3.17	29	2.67	2.83	6	35
計		2.99	2.98	674	2.97	3.10	99	773

図表 43 は、子どもの育ちについての親の評価と、世帯で育った子どもの正社員比率との関係を見たものである。30 歳より若い場合は、子どもの育ちの評価と安定した職とに関係はなさそうだが、30－39 歳層になると、子どもが安定した職についているかどうかが、親が子がうまく育ったと考えるかどうかの鍵となっていることが示されている。なお配偶関係も見たが、子どもが順調に発達したという認識と、子どもの婚姻とは特定の関係にはないようであった。

〔図表 43〕子どもが良く育ったという評価と世帯の子の正社員比率（末子 18 歳以上に限る）

	子ども4割以下が正社員	子ども7割が正社員	子どもが全員正社員	計	サンプル数
22歳以下	2.92	3.09	3.00	2.98	129
23～29歳以下	3.04	3.11	3.01	3.05	152
30～39歳以下	2.64	2.68	3.02	2.83	122
54歳以下	3.00	3.29	3.22	3.21	19
全体平均	2.89	2.99	3.03	2.97	422
計	128	148	146	422	

〔図表 44〕子どもは良く育ったかどうかの評価（最高点数 4）



では子どもが正社員という安定した職に就くことと夫婦関係の良好さを見てみよう。男性サンプルについてみると、子どもの多くが非正社員の場合は、妻への借り指標が多い傾向が見られる。子どもが全員正社員の場合は、夫婦関係はこの年齢層にしては高い（どの指標もほぼ 100 であり平均的であるが、平均的ということは、子どもが成長しているこの年齢層では一般の夫婦関係が平均より低い傾向があるため、年齢層内では高い方に位置する。）なお子ども年齢を 30－39 歳層に限った場合にも、子どもの非正社員比率が高い方が夫婦関係が悪い傾向が見られた。

〔図表 45〕子どもの正社員比率と男性サンプルの夫婦関係（子 18 歳以上の世帯に限る）

	本人の満足指数	配偶者の満足指数	配偶者からのケア評価指数	配偶者への借り度指数	サンプル数
子ども4割以下が正社員	98.9	98.0	99.8	**102.0**	157
子ども7割が正社員	98.7	100.5	98.7	**101.5**	118
子どもが全員正社員	99.5	99.3	**100.6**	99.8	93
計	99.0	99.1	99.7	101.3	368

続いて女性サンプルについてみると、子どもが全員正社員の場合は、夫婦応援指数が高い（103）傾向が見られる。逆に子どもの非正社員割合が高い場合は、夫婦幻滅指標がやや高く（101）、また夫婦応援指標は明確に低く（96）、どちらかの夫婦がより多く気遣う様子もない。

〔図表 46〕子どもの正社員比率と女性サンプルの夫婦関係（子 18 歳以上の世帯に限る）

	夫婦応援指数	本人の貸し指数	配偶者の貸し指数	夫婦幻滅指数	サンプル数
子ども4割以下が正社員	96.3	98.8	97.3	101.3	24
子ども7割が正社員	97.0	96.8	**102.7**	100.4	16
子どもが全員正社員	**103.4**	96.6	97.1	100.2	21
計	98.9	97.5	98.6	100.7	61

夫婦関係の良さが子どもの育ちを保障するという側面と、子どもの育ちへの悩みが夫婦関係を悪くしているという側面、両方の因果関係が考えられるため、どちらが原因でどちらが結果かはこの集計からはわからないが、いずれにせよ、子どもの良い育ちと夫婦関係は深くかかわっていることが示されている。

Ⅳ．未婚者と既婚者との生きがいおよび仕事満足の比較

１．未婚者と既婚者の生きがいの場の比較

ここまで有配偶者の夫婦関係を見てきたが、この調査でも若い世代ほど未婚男女が大幅に増えている（本章付録Ⅵ参照）。

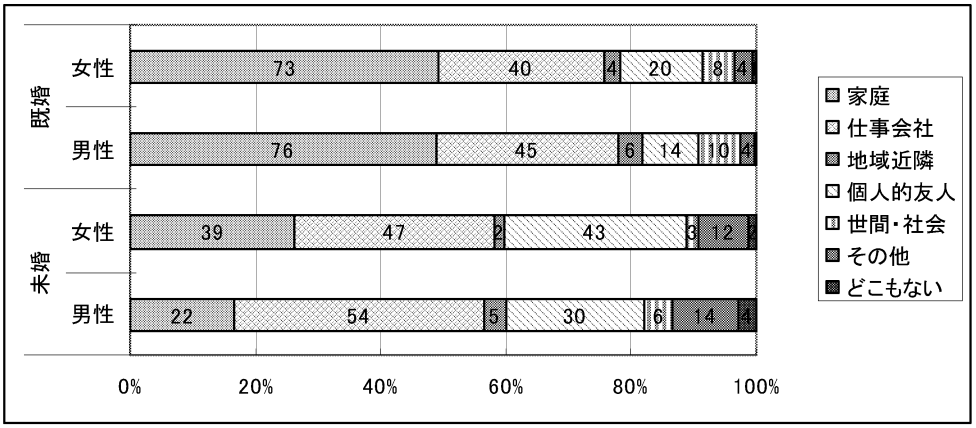
そこで未婚男女と、有配偶の男女とで生きがいがどのように異なるのか、いくつかの項目について集計した。

生きがいについて、「2 つまで選択可能」となっているが、1 つしか選択していない者が少なくない。それぞれの項目を挙げた者の割合を図表の数字で示したが、複数回答した者もいるため合計は 100 を越えている。しかし全体の分布の差が印象としてわかるように、属性別に横棒グラフとした。

「生活の活力や張り合いをもたらすもの」を見ると、有配偶者は家庭が 7 割以上を占めるのに対して、未婚者は、仕事が男性 54%、女性 47%、ついで個人的な友人関係が男性 30%、女性 43%である。また未婚女性の場合は、親同居が多いためと考えられるが、家族も 39%

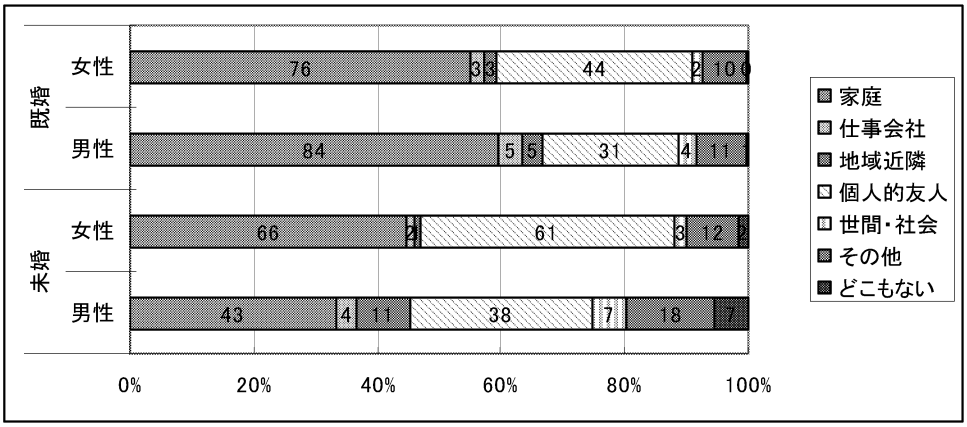
と比較的高い割合を占める。

〔図表 47〕生活の活力や張り合いをもたらすもの



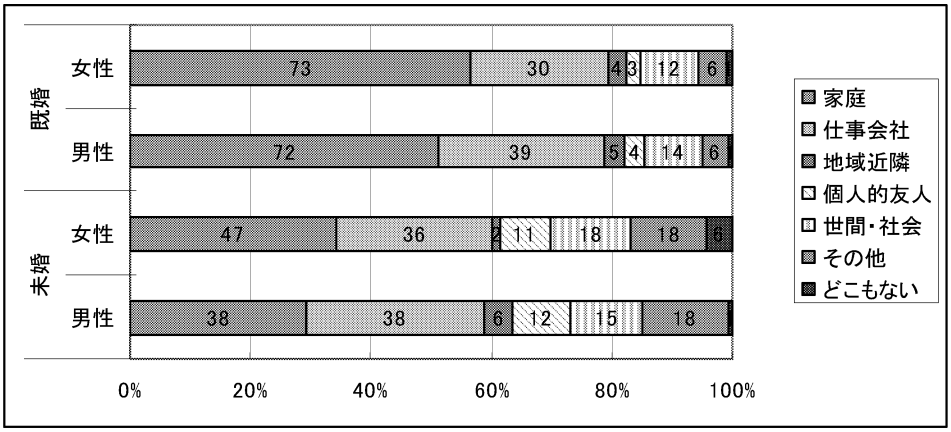
心のやすらぎや気晴らしを得るところ、を見ると、男女ともに、有配偶者は、8 割程度を「家庭」と回答している。一方、未婚者も、親同居が多いことを反映してか、あるいは、一人暮らしでも家がやすらぎの場なのか、「家庭」が未婚女性は 66%、未婚男性は 43% 、ついで個人的友人が女性は、61%と高い。

〔図表 48〕心のやすらぎや気晴らしを得るところ



生活の目標や目的はどこにあると感じるか、に対して、有配偶者は 7 割以上が家庭で、加えて仕事も 3 割強が回答しているが、未婚者は、家庭が男性 38%、女性 47%、ついで仕事が 4 割弱であり、有配偶者よりも、目標や目的の数が少ない。

〔図表 49〕生活の目標や目的はどこにあると感じるか



２．仕事に対する満足

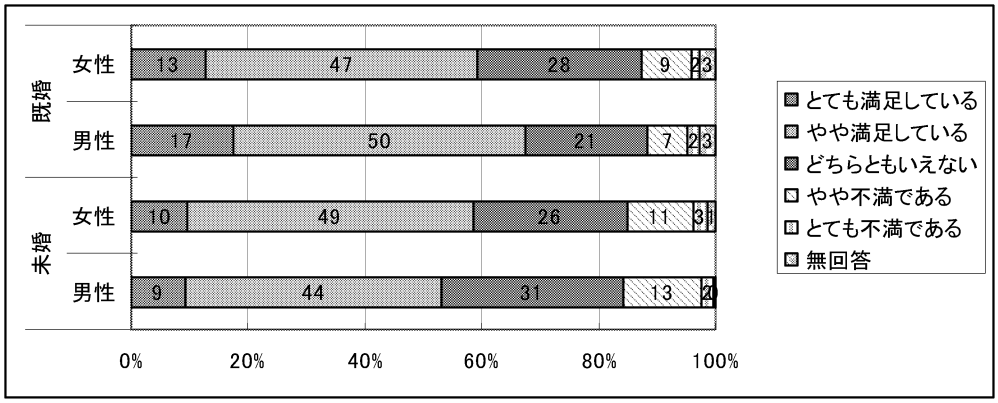
未婚者にとって、仕事が生きがいである割合は、有配偶者よりも高いが、仕事満足はどうだろうか。

結論を言えば、未婚者の方がむしろやや仕事満足が低い傾向がある。これは満足を得る場が、仕事が中心であるだけに、要求水準が高くなっているのかもしれない。

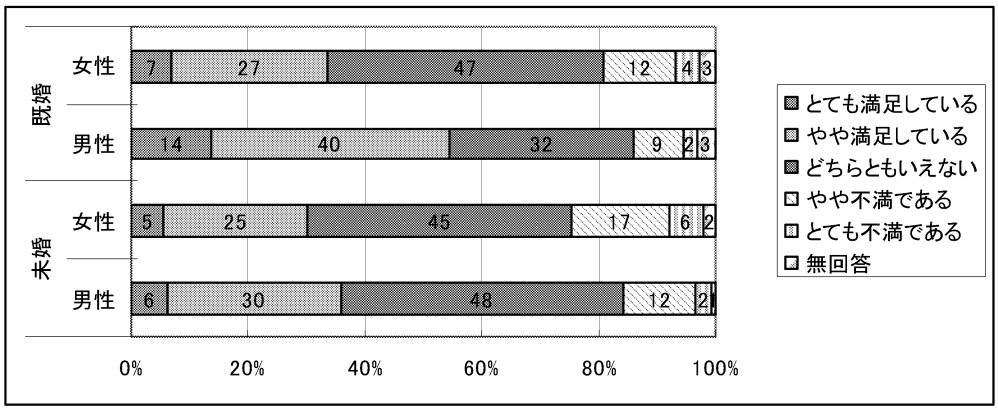
特に未婚女性では、業績の評価の公平さ、および職場の地位に対する不満が大きい。

賃金に対する満足も有配偶と未婚とで差が大きく、仕事全般についても、やや有配偶の方が満足が高い。

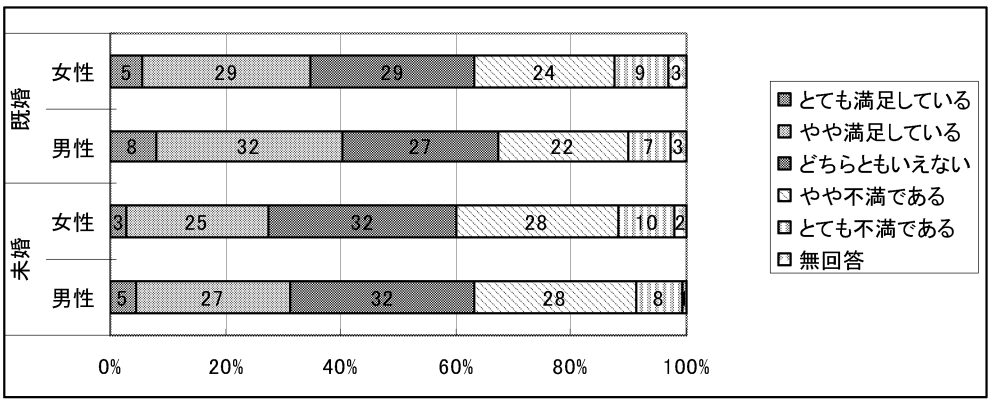
〔図表 50〕仕事内容に対する満足



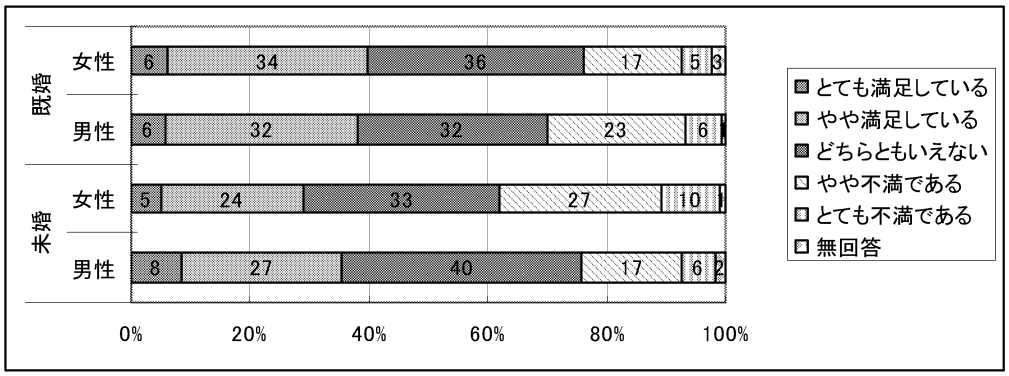
〔図表 51〕職場の地位の高さに対する満足



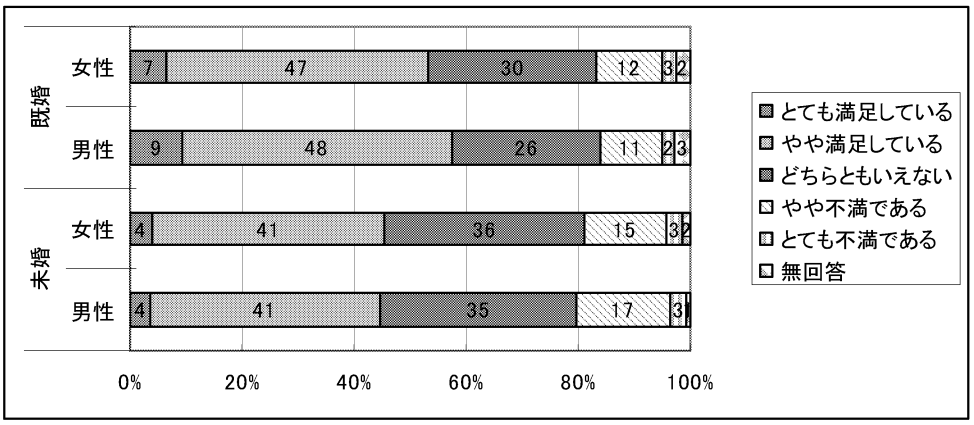
〔図表 52〕賃金に対する満足



〔図表 53〕業績評価の公平さに対する満足



〔図表 54〕仕事全体に対する満足



今日、未婚男女が大きく増えているが、生きがいを家庭、仕事、友人など複数に持ちやすい点で、有配偶男女のほうが、生活全般に対する満足が高いように見え、また仕事に限っても有配偶男女の方が不満が少ない。

Ⅴ．まとめ

今日、「仕事と家庭の両立」の推進のために、保育園の整備や育児休業法等の整備が行われている。しかし厚生労働省『21 世紀出生児縦断調査』等から、女性の就業継続は近年になってもほとんど増えておらず、国立社会保障人口問題研究所『第 13 回出生動向基本調査』からは出産者の 15% 程度しか正社員での就業継続をしていないことが示されてきた。

なぜ女性が離職を選ぶのか、保育園の整備不足や育児休業法の使いにくさなどが挙げられてきたが、サラリーマンの日本的雇用慣行の中で、夫婦が正社員で子どもを持つことの難しさ、葛藤の多さを今回の夫婦関係に関する分析は示している。その中で、子育て期には専業主婦世帯がもっとも葛藤が少ないものとなっている。

もっとも専業主婦世帯も、子どもの成長とともに、夫婦関係は低調になっていく。子どもの成長とともにパート就業の妻が増えていくが、そうした世帯で夫婦関係は相対的に悪いものとなっている。

引退期を見ると、定年を迎えて妻の夫サポートが減るが、このとき夫が就業を続けた場合は、夫はサポートが減少したと感じ、夫が引退し無業でいる場合は、妻は夫が十分に家事を手伝わないと感じ、夫婦関係の見直しが必要となる。

このように子どもがいない夫婦 2 人のときが一番葛藤が少なく高揚しており、子育ての中で、相互補完的な専業主婦世帯と葛藤の多い共働き世帯にわかれ、子どもの成長とともに妻が労働市場に戻りはじめると、パートの妻に仕事と家事の二重負担がかかり、夫婦関係は悪くなっていくことが示されている。

もっとも因子分析を用いたこの分析は相対的なものであり、回答そのものの絶対水準としては、お互いをサポートしあい、認め合う良好な夫婦関係を見ることができる。

とはいえ、婚姻しない男女が増加していること、また日本的雇用慣行が不安定になってい

ることから、定年期の夫婦関係の悪化と同様の（あるいはそれ以上の）夫婦関係の悪化が、失業や転職時に見出されると想像される。

通常、企業は、賃金制度と生産性の関係、評価とやる気の問題などに注目し、雇用制度をつくりあげる。しかし、子どもを持つ夫婦のあり方への注目が、雇用慣行の形成の中で今後必要になっていくことをこの分析は示している。この分析では、非正規雇用の男女の関係は考察できていないが、非正規雇用が拡大する中で、そうした視点での研究も必要となっていくだろう。

また子どもの育ちと夫婦関係を見ると、夫婦関係の良さと子どもが良く育ったという評価とは、非常に関連が深いものであった。近年、非正規労働にしかつけない男女が増えているが、子どもが 30-39 歳層であって、正規労働についていない場合、親は子どもが良く育ったと思えない傾向があることがわかった。

最後に、有配偶者と無配偶者とで、生きがいや仕事満足について比較してみると、有配偶者の方が満足度が全般に高い様子が見られた。

サラリーマンにとって、家族を形成し、夫婦関係を良好に保ち、子どもが安定した仕事に就けるということが、満足につながっているということがわかる。

近年、若年の雇用の不安定化、未婚化が進展しているが、この傾向は、個人の幸せという点からみて、好ましい傾向ではないと思われる。

Ⅵ. 付録　アンケート調査回答者の家族、仕事および居住地域の特徴

１．回答者の世帯構成と家族属性

われわれが今回分析したのは、どのような夫婦、あるいは単身男女なのだろうか。またアンケートの中で夫婦が占める割合はどのように変化しているのだろうか。そのことを確認するために、4 回の調査の中での今回調査の特徴を、有配偶世帯の割合、有配偶世帯の子ども数、男女の年収、調査対象者の居住地域、男女の職種構成などから見ていくことにした。

（１） 男女別に見た有配偶と無配偶の状況

① 配偶関係：男性の有配偶率のゆるやかな低下、女性未婚者は 3 人に 1 人

今回アンケートを行い回収された、企業年金連合会（旧厚生年金基金連合会）のある企業に勤める(勤めていた)男性の 9 割が有配偶であるが、これに対して女性は 5 割強が有配偶、未婚も 3 割強と比較的高く、安定企業に継続勤務する男性は家族形成がしやすいが逆に女性はしにくいことが示されている。もっとも過去の調査と比較すると、第 1 回は男性の 98%が有配偶であったが、回を重ねるにつれて、95%、93%、89%と有配偶率が低下、未婚が第 1 回の 1%から第 4 回の 7%に上昇している。 特に 35-44 歳層の男性の未婚率を見ると、第 1 回から第 4 回にかけて 3%、8%、11%、16%と、国勢調査にも示されている全般的な独身男性の増加を反映し(国勢調査の水準よりは低いが)若いコホートほど未婚者が増加している。これに対して同じ年齢層の女性の未婚率は、27%、46%、48%、39%であり、(国勢調査では上昇傾向が見られるものの、企業年金連合会に参加する企業の勤務者という点では）上昇気

味ではあるが明確な傾向があるとは現時点では言い切れない。また全年齢層を見ても女性の有配偶率にはあまり明確な傾向はなく、第1回は61%が有配偶、その後46%、46%、51%であり、未婚は26%、36%、36%、33%であり、あるいは、企業年金連合会に参加する企業に継続勤務する女性は、依然として男性よりは難しいものの、過去と比べれば、家族形成がしやすくなっているのかもしれない。

〔図表55〕男女別に見た配偶関係（%、サンプル数）

男性	標本数	未婚	有配偶	離別	死別	不詳
35～44歳	339	16%	82%	2%	0%	0%
45～54歳	347	7%	90%	3%	1%	0%
55～64歳	425	4%	92%	1%	3%	0%
65～74歳	343	1%	92%	1%	6%	1%
計	1454	97	1297	22	35	3
女性	標本数	未婚	有配偶	離別	死別	不詳
35～44歳	132	39%	53%	6%	1%	2%
45～54歳	131	34%	54%	9%	3%	0%
55～64歳	138	36%	49%	7%	9%	0%
65～74歳	85	21%	47%	6%	25%	1%
計	486	162	248	35	38	3

（注）年齢不詳は集計から除いた

② 同居世帯員：高齢になると単身世帯が増える女性

同居世帯員を見ると、男性は中年期は未婚子との同居、ついで親同居が多いが、65-74歳層になると子どもの独立、あるいは親の死亡により、夫婦2人暮らしが57%と最大になる。また男性の一人暮らしは6%と多くはない。一方女性は、3人に1人が未婚だが、未婚子も親同居が多いため、40歳代でも一人暮らしはさほど増えない。しかし65-74歳層になると一人暮らしの女性が27%となり、男性の4倍以上である。

詳しく見ると、未婚女性は35-44歳層では、親同居が73%であるが、年齢階層の上昇とともに（表に示した年齢区分を用いると）、47%、33%、6%と減少、かわりに一人暮らしが24%から48%、49%、72%と上昇する。一方有配偶女性は、夫婦のみが35-44歳層は39%であるが、45-54歳層は子どものいる世帯が増え夫婦のみが減少し23%、その後再び夫婦のみ世帯が増加、55-64歳層が45%、65-74歳層が68%である。企業年金連合会に参加する企業に継続勤務する生涯独身女性は、一人暮らしが45歳以上から半数近くからそれ以上となり、企業年金連合会に参加する企業に継続勤務する有配偶女性は、55歳から74歳では過半数が夫婦2人世帯となっている。

〔図表 56〕男女別に見た同居世帯員（%、サンプル数）

男性	標本数	一人暮らし	夫婦のみ	未婚子同居	子ども夫婦同居	親同居	その他	無回答
35～44 歳	339	11%	11%	54%	1%	21%	1%	1%
45～54 歳	347	8%	12%	57%	1%	22%	1%	0%
55～64 歳	425	5%	32%	43%	4%	16%	0%	0%
65～74 歳	343	6%	57%	22%	9%	6%	1%	0%
計	1,454	104	411	638	55	232	8	6
女性		一人暮らし	夫婦のみ	未婚子同居	子ども夫婦同居	親同居	その他	無回答
35～44 歳	132	10%	20%	27%	0%	41%	2%	1%
45～54 歳	131	17%	12%	30%	1%	39%	1%	1%
55～64 歳	138	22%	22%	17%	4%	26%	9%	0%
65～74 歳	85	27%	32%	18%	11%	4%	8%	1%
計	486	88	100	113	16	144	22	3

（注）年齢不詳は集計から除いた

子どものいる者の比率を見ると、35-44 歳層では、男性の 66%、女性の 33%であり、安定企業に勤務する女性の有子率は低い。年齢層が上昇するほど、子どもを持つ者の割合は増えるが、女性の特徴として、有配偶（および離死別含む）で子どもがいない割合が 35-44 歳層で 46%と、その他の年齢層の約 2 割に対して 2 倍強に増えていることがある。また子ども 1 人も 35-44 歳層で 25%と、その他の年齢層の 1 割台に比べると高いものとなっている。おそらく、均等法施行後、男性なみの仕事へのコミットメントを要求される働き方が女性に広がり、若い世代の大企業正社員勤務の女性ほど、子どもを持たない、あるいは持っても 1 人までの者が増加したと可能性がある。

男性についても子どもがいない有配偶（および離死別含む）は、35-44 歳層で 21%と他の年齢層の 1 割台に比べて高いが、女性ほど著しい差にはなっていない。

均等法、改正均等法世代については、これ以前に日本的雇用慣行を持つ企業に正社員として勤務していた女性に比べて、昇進機会は広がったと見受けられる（年収の表参照）が、その一方では子どもを持って勤務を継続することがより困難になっているのかもしれない。

〔図表 57〕子ども数（%、サンプル数）

男性	標本数	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人以上
35～44 歳	339	34%	17%	40%	7%	1%
45～54 歳	347	22%	14%	42%	19%	2%
55～64 歳	425	17%	9%	53%	19%	2%
65～74 歳	343	16%	12%	55%	15%	2%
計	1,454	323	187	694	225	25
女性	標本数	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人以上
35～44 歳	132	67%	15%	17%	2%	0%
45～54 歳	131	48%	8%	32%	11%	0%
55～64 歳	138	52%	10%	32%	4%	1%
65～74 歳	85	38%	16%	38%	8%	0%
計	486	255	59	140	30	2

（注）年齢不詳は集計から除いた

〔図表 58〕未婚者を除いた調査対象者の子ども数（%）

男性	標本数	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人以上
35～44 歳	284	21%	20%	48%	9%	2%
45～54 歳	324	17%	15%	45%	21%	2%
55～64 歳	409	14%	9%	55%	20%	2%
65～74 歳	340	16%	12%	55%	15%	2%
計	1357	226	187	694	225	25
女性	標本数	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人以上
35～44 歳	81	46%	25%	27%	2%	0%
45～54 歳	82	22%	13%	48%	17%	0%
55～64 歳	89	26%	16%	49%	7%	2%
65～74 歳	67	21%	21%	48%	10%	0%
計	324	95	59	140	30	2

（注）年齢不詳は集計から除いた

③　学歴と収入：男性の高収入、女性中年層の収入上昇

学歴は、若い世代に平均学歴の上昇が見られ、年齢階層別に差が大きいが、同時に男女差も大きい。男性は 35-44 歳層の 6 割が大学・大学院卒、専門学校卒が 11%であるが、同じ年齢層の女性は、大卒以上は 27%、短大が 30%、専門学校が 11%であり、企業年金連合会に参加する企業に継続勤務する男性は、35－44 歳層は大卒が中心だが、女性は短大と専門学校が中心といえる。

〔図表 59〕学歴構成（%、サンプル数）

男性	標本数	中学卒	高校卒	短大卒	大学以上卒	専門学校卒	その他	無回答
35～44 歳	339	2%	19%	2%	60%	11%	0%	6%
45～54 歳	347	2%	23%	2%	55%	9%	0%	9%
55～64 歳	425	6%	32%	3%	46%	4%	0%	9%
65～74 歳	343	10%	34%	6%	37%	2%	0%	10%
計	1,454	76	399	44	716	89	3	127
女性	標本数	中学卒	高校卒	短大卒	大学以上卒	専門学校卒	その他	無回答
35～44 歳	132	3%	21%	30%	27%	11%	0%	9%
45～54 歳	131	5%	37%	18%	16%	15%	0%	9%
55～64 歳	138	9%	53%	11%	11%	9%	0%	7%
65～74 歳	85	18%	53%	7%	4%	9%	1%	8%
計	486	39	194	83	74	55	1	40

（注）中学卒には小学校、高等小学校を含む、高校卒には旧制中学校、旧制高等女学校、旧制実業学校を含む、短大卒には、旧制高等学校、高等師範学校を含む。大卒以上には大学院含む、専門学校には専修学校含む

年収は、35-44 歳層の女性は、男性以上に高収入(800 万以上は男性の 31%、女性の 32%であるが、1000 万以上でみると女性の方が割合が高い)という点が注目される。均等法、改正均等法の影響で、比較的賃金水準の高い都会の大企業で女性の継続が増えていることを示唆する。また平均学歴が女性は男性よりも低く、女性は離職する者が少なくないことを考えれば､35－44 歳層で安定企業に継続勤務している女性は賃金評価が高い女性が多いといえる。

もっとも 45-54 歳層では、男女の年収の差は明確にあり、男性は年収 800 万以上が 56%と過半数に対して女性は 41%、55-64 歳層では年収 800 万以上が男性が 44%、女性が 37%である。性による年収格差は引退世代で一層顕著である。65-74 歳層となると、女性は、200 万未満が 11%、200-300 万未満が 22%であるが、男性は、それぞれ 2%、9%であり、逆に年収が 500 万以上層は男性は 39%、女性は 17%である。この格差は、引退世代の平均賃金の男女格差が大であったということと単身者に対しては被扶養配偶者分の給付がないという公的年金制度の双方が影響しているものと推測される。

〔図表 60〕　男女別、年齢階層別にみた世帯年収

男性	標本数	200 万未満	200-300 万未満	300-400 万未満	400-500 万未満	500-600 万未満	600-800 万未満	800-1000 万未満	1000 万以上	1500 万以上	無回答
35～44 歳	339	0%	1%	5%	12%	16%	30%	21%	9%	1%	6%
45～54 歳	347	0%	0%	3%	2%	8%	23%	27%	26%	3%	9%
55～64 歳	425	1%	4%	7%	7%	9%	18%	18%	22%	4%	9%
65～74 歳	343	2%	9%	20%	17%	11%	12%	7%	6%	3%	11%
計	1,454	15	50	123	135	159	300	262	233	45	132
女性	標本数	200 万未満	200-300 万未満	300-400 万未満	400-500 万未満	500-600 万未満	600-800 万未満	800-1000 万未満	1000 万以上	1500 万以上	無回答
35～44 歳	132	1%	5%	10%	11%	15%	12%	14%	17%	1%	14%
45～54 歳	131	1%	4%	4%	11%	11%	19%	18%	16%	7%	11%
55～64 歳	138	7%	9%	9%	10%	12%	16%	12%	12%	3%	11%
65～74 歳	85	11%	22%	20%	18%	6%	5%	0%	5%	1%	13%
計	486	21	43	48	57	55	67	58	63	15	59

引退世代の男性の年収が高いことは、あるいは未婚子、既婚子の同居によって子どもの年収が世帯賃金を膨らましている可能性がある。そこで夫婦 2 人、および、単身に限ってみたのが、図表 42 である。65 歳以上の夫婦 2 人暮らしあるいは 1 人暮らしの引退世代について、男性は世帯年収 500 万以上の層が驚くことに 41%を占め、逆に女性は 22%である。また年収 300 万未満は男性の 12%、女性の 22%であり、女性については、むしろ一人暮らし、あるいは夫婦 2 人暮らしの方が年収が高いことが前掲表との比較によって示される。つまり長期勤続後退職した女性については、低年収はむしろ子同居している者が多い。

〔図表 61〕夫婦 2 人暮らしおよび単身者の引退世代の年収

男性	標本数	200 万未満	200-300 万未満	300-400 万未満	400-500 万未満	500-600 万未満	600-800 万未満	800-1000 万未満	1000 万以上	1500 万以上	無回答
55～64 歳	155	1%	6%	9%	5%	6%	19%	17%	22%	6%	9%
65～74 歳	217	3%	9%	21%	17%	14%	12%	5%	7%	3%	10%
女性	標本数	200 万未満	200-300 万未満	300-400 万未満	400-500 万未満	500-600 万未満	600-800 万未満	800-1000 万未満	1000 万以上	1500 万以上	無回答
55～64 歳	60	5%	13%	5%	10%	15%	17%	13%	7%	3%	12%
65～74 歳	50	6%	16%	24%	18%	8%	6%	0%	6%	2%	14%

④　管理職の女性割合は依然として男性よりも大幅に低い

職種を見ると、男性は年齢上昇とともに管理職の割合が大幅に高まり、45-54 歳層では 62%

に達している。これに対して、女性は、同じ年齢層でも 9%に過ぎず、事務職が 76%である。均等法施行世代である 35-44 歳層についても、管理職は男性が 46%、女性が 3%と大きい差異が見られる。また 65-74 歳層では男性の無職が 51%、女性の無職が 67%である。

〔図表 62〕【配偶者調査】就業状況・形態

男性	標本数	35-44 歳	45-54 歳	55-64 歳	64-75 歳
専門技術職	5%	9%	6%	2%	5%
管理職	43%	28%	62%	56%	21%
事務職	24%	46%	21%	21%	8%
販売職	2%	3%	2%	2%	2%
技能職	7%	11%	7%	6%	6%
サービス職	1%	1%	0%	1%	1%
その他	3%	1%	1%	2%	6%
無職	15%	0%	0%	9%	51%
無回答	0%	1%	0%	0%	1%
計	1,431	336	346	416	333
女性	標本数	35-44 歳	45-54 歳	55-64 歳	64-75 歳
専門技術職	4%	4%	7%	2%	0%
管理職	8%	3%	9%	12%	5%
事務職	65%	92%	76%	62%	8%
販売職	2%	1%	1%	1%	5%
技能職	2%	0%	4%	2%	1%
サービス職	1%	0%	0%	1%	1%
その他	3%	0%	2%	3%	7%
無職	17%	0%	2%	17%	67%
無回答	1%	0%	0%	0%	5%
計	480	129	130	138	83

⑤　居住地域の変化：東京圏の増加

居住地域について見ると最近の調査結果では、男女ともに、関東の回答者が大幅に増えている。第 1 回目は男性 38%（女性 37%）であったが、第 4 回では 44%（女性 43%）を占める。また九州地区の回答者が増加、中部・東海地方が微増、逆に近畿地区および中国地方、北海道・東北からの回答者は減少している。

〔図表 63〕【配偶者調査】就業状況・形態

男性	標本数	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
北海道・東北	8%	9%	7%	8%	6%
関東	38%	38%	30%	42%	44%
北陸	7%	3%	16%	4%	5%
中部・東海	13%	13%	13%	13%	14%
近畿	17%	19%	20%	17%	11%
中国	6%	8%	6%	4%	5%
四国	3%	2%	2%	3%	3%
九州	8%	8%	6%	8%	11%
計	8,282	2,408	2,220	2,351	1,303
女性	標本数	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
北海道・東北	8%	10%	7%	8%	6%
関東	37%	37%	24%	43%	43%
北陸	8%	3%	23%	4%	5%
中部・東海	13%	10%	14%	14%	15%
近畿	17%	19%	19%	17%	11%
中国	6%	9%	5%	4%	5%
四国	3%	3%	3%	3%	3%
九州	9%	9%	6%	8%	12%
計	2,288	557	531	763	437

第 6 章 生きがい保有率の減少と現役・OB の生活と生きがい

I.「生きがいの保有率」の減少について

主任研究員　苅谷達朗

1．「生きがい」の保有状況について

第 1 章で述べたとおり、本人調査の問 8 付問で「生きがい」の保有状況については、「生きがい」を「持っている」と回答した割合が、第 3 回調査の 67.3%から今回調査の 56.9%まで、10.4%ポイントも減少した。

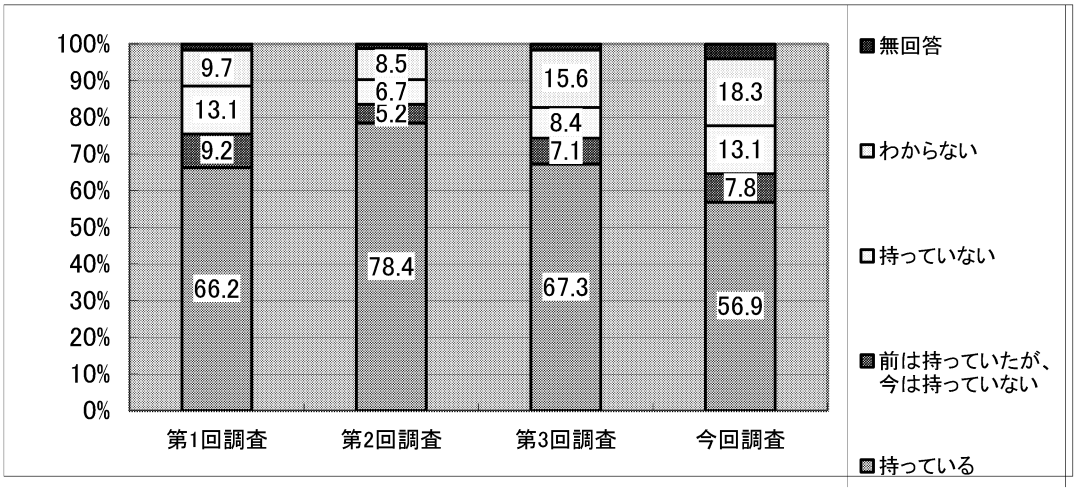
5 年前の前回調査（第 3 回調査、2001 年）時点に比べると、今回調査時点（2006 年末）における日本の経済情勢は明らかに好転しており、この結果は、一見矛盾しているようにも見える。そこで本考察「2．」以降では、直近 5 年（第 3 回調査と今回調査）に焦点を当て、「生きがい」の保有状況が変化した背景について、これが標本のサンプル相違による影響か、それとも別の要因が背景にあるのか考察する。

（1） 「生きがい」の保有状況比較

まず、「生きがい」の保有状況の変化について再確認しておく。第 1 回調査から今回調査までの 4 時点の「生きがい」保有状況をまとめたものが図表 1 である。

この表から分かる通り、「生きがい」を「持っている」と答えた割合（以下「生きがいの保有率」）は、第 2 回調査の 78.4%をピークに、第 3 回は 67.3%、今回調査は 56.9%と 2 回連続で 10 ポイント以上ずつ減少し、減少幅の合計は 21.5 ポイント（第 1 回調査と今回調査対比では 9.3 ポイント）に達している。その一方で、「持っていない」と回答した割合は、第 3 回調査の 8.4%から今回調査の 13.1%まで 4.7 ポイント増加し、また「わからない」と回答した割合も、第 3 回調査の 15.6%から今回調査の 18.3 ポイントまで 2.7 ポイント（第 1 回調査と今回調査対比では 8.6 ポイント）増加している。

〔図表 1〕「生きがい」の有無①（第 1 回～今回調査、全体）（%）



２．「生きがいの保有率」減少要因の分析

（１） 標本属性の相違に基づく影響について

「生きがいの保有率」減少の背景を分析する上では、まずアンケート調査における標本（アンケート回答者）の基本属性相違（サンプル相違）による影響を確認しておかなくてはならない。

そこで、第３回調査と今回調査において、標本の基本属性を比較してみた。その結果、図表２の通り、「年齢構成割合[6]」を含め、４点において、比較的大きな相違があった。ここでは、この４点について「生きがいの保有率」の減少に、どの程度影響を及ぼしたかを検討する。

〔図表 2〕基本属性の標本相違について（主要事項、第 3 回調査～今回調査）

基本属性	相違内容
① 年齢構成割合	年齢層を 5 歳刻みで集計した場合、60 歳以上の標本割合が第 3 回調査の 38.0%から今回調査の 32.4%へ減少
② 会社規模	大企業（従業員 1000 人以上）の会社に就業している標本割合が、第 3 回調査の 49.3%から 32.7%へ減少
③ 就業状況	正社員の標本割合が、第 3 回調査の 60.1%から今回調査の 70.6%へ増加
④ 一日の勤務時間	一日の勤務時間が 9～12 時間とする標本割合が 21.6%から 39.4%へ増加。また、一日の平均勤務時間も 8.3 時間から 8.6 時間へ増加

①「年齢構成割合」の相違による影響

まず、影響を及ぼしている可能性が最も高いと考えられる「年齢構成割合」について検証を進める。

「年齢構成割合」が“影響を及ぼしている可能性が最も高いと考えられる”理由は、大きく２点ある。１点目は、これまでの調査において、「生きがいの保有率」と「年齢」の相関関係が高い（＝「生きがいの保有率」は、年齢が高くなるにつれて高まる傾向にある）ことが明らかとなっていたからである。この傾向は、今回調査においても同様であった（図表３）。

この図表３を見ると、35 歳から 54 歳の年齢層までの「生きがい保有率」は、概ね 45%前後から 50%前後で推移しているが、55 歳から 59 歳の年齢層では 55.7%、その後増加する傾向が続き、70 歳から 74 歳の年齢層では 75.5%に達していることが分かる。

---

[6] アンケート調査の回答は、年齢を直接記入してもらったが、ここでは５歳刻みで集計した「年齢構成割合」を利用した。これ以降の分析では、年齢そのものを利用した。

〔図表 3〕「生きがい」の有無②（今回調査、年齢層別）（%）

	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳
持っている	**51.2**	**50.2**	**44.4**	**49.4**	**55.7**	**63.3**	**70.9**	**75.5**
前は持っていたが、今は持っていない	5.2	8.7	8.6	8.1	8.4	7.8	8.1	7.0
持っていない	16.7	16.9	18.1	20.4	14.5	7.8	4.2	5.6
わからない	23.8	21.9	25.5	18.7	17.4	15.6	13.0	5.6
無回答	3.2	2.3	3.3	3.4	4.1	5.5	3.9	6.3

2 点目は、第 3 回調査と今回調査の標本の「年齢構成割合」（＝各年齢層がサンプル数全体に占める割合）において、図表 4 の通り、「生きがいの保有率」が高まる 60 歳以降の年齢層の割合が、第 3 回調査に比べ 5.6 ポイント（38.0%－32.4%）減少していたからである。

これらの結果を踏まえれば、「生きがいの保有率」の減少は、この「年齢構成割合」の相違が影響との仮説が成り立つ。

〔図表 4〕年齢層別標本数、割合

		35～39 歳		40～44 歳		45～49 歳		50～54 歳		55～59 歳	
	標本数	割合	標本数	割合	標本数	割合	標本数	割合	標本数	割合	標本数
今回調査	1992	12.7%	252	11.0%	219	12.2%	243	11.8%	235	17.3%	345
第3回調査	3189	10.7%	341	10.4%	331	11.2%	358	13.1%	419	14.0%	448

	60～64 歳		65～69 歳		70～74 歳		無回答		60 歳以上計	
	割合	標本数	割合	標本数	割合	標本数	割合	標本数	割合	標本数
今回調査	10.9%	218	14.3%	285	7.2%	143	2.6%	52	32.4%	646
第3回調査	12.8%	407	17.4%	556	7.8%	248	2.5%	81	38.0%	1211

そこで、「年齢構成割合」の相違による「生きがいの保有率」への影響を分析する前提として、年齢層別の「生きがいの保有率」を、第 3 回調査と今回調査で比較してみると、図表 5 の通り、第 3 回調査に比べ今回調査では「生きがいの保有率」は、全ての年齢層で減少していた。特に 45 歳から 64 歳までの 4 階層については、全体の減少幅 10.4 ポイントを上回る大きさであった。

〔図表 5〕年齢層別「生きがいの保有率」（%）

	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	無回答
今回調査	51.2	50.2	44.4	49.4	55.7	63.3	70.9	75.5	57.7
第 3 回調査	56.6	55.0	56.4	61.3	67.9	74.7	80.6	81.5	65.4
今回－第 3 回	-5.4	-4.8	-12.0	-11.9	-12.2	-11.4	-9.7	-6.0	-7.7

上記の通り、全ての年齢層において「生きがいの保有率」が減少していた。この結果は、「生きがいの保有率」の下落には、別の要因が背景にあることを示唆している。

しかしながら、先述の通り、「生きがいの保有率」が相対的に高くなる 60 歳以上の年齢層の標本割合が、第 3 回調査に比べ減少していることもあるため、それが全体の「生きがいの保有率」に、どの程度影響を及ぼしているのかを、以下の方法でシミュレーションを行った。

（シミュレーション）

「年齢構成割合」は第 3 回調査の割合とし、「生きがいの保有率」は今回調査の結果を利用し、全体の「生きがいの保有率」を算出する。具体的には、以下の要領で算出した。

（35～39 歳）今回調査の「生きがいの保有率」（51.2%）×第 3 回調査の「標本割合」（10.7%）+・・・・・
+（70～74 歳）今回調査の「生きがいの保有率」（75.5%）×第 3 回調査の「標本割合」（7.8%）
+（年齢無回答）今回調査の「生きがいの保有率」（57.7%）×第 3 回調査の「標本割合」（2.5%）

上記要領で算出したところ、全体の「生きがいの保有率」は 57.7%となり、今回調査の「生きがいの保有率」56.9%と比較すると、0.8%の微増となった。この結果から、今回調査の「生きがいの保有率」の減少について、「年齢構成割合」の変化が及ぼした影響は、0.8%程度と軽微なものであった。

② 会社規模の相違による影響

次に、基本属性の中で標本相違が比較的大きかった項目が「会社規模」である。

第 3 回調査と今回調査における「会社規模」別の標本数を比較したところ、図表 6 の通り、1000 人以上の従業員を持つ大企業に就業している割合が、第 3 回調査の 49.3%から今回調査の 32.7%へと 16.6%ポイントも減少していた。

昨今の経済情勢の回復状況を企業規模別に見た場合、大企業から先行して回復していることから、「会社規模」の標本相違（＝大企業に就業している人の割合が大幅に減少）が、「生きがいの保有率」にマイナスの影響を及ぼした可能性があろう。

〔図表 6〕会社規模別（%）

	標本数	1～29 人	30～99 人	100～299 人	300～999 人	1000 人以上	無回答	非該当
今回調査	1,656	24.2	14.6	14.9	12.2	32.7	1.4	0.0
第 3 回調査	2,353	16.3	10.9	9.9	10.7	49.3	2.8	0.2
第 2 回調査	2,305	14.8	11.9	11.0	10.8	45.9	3.1	2.4
第 1 回調査	2,461	16.1	11.1	13.3	12.8	43.1	3.7	0.0

しかし、第 3 回調査と今回調査の「生きがい保有率」を、会社規模別にまとめた図表 7 を見ると、「会社規模」と「生きがいの保有率」との間では、両調査時点とも、特段の傾向（相

関関係[7]）がないことが確認できる。また、第３回調査と今回調査を比較した場合、全ての会社規模においてほぼ同程度で「生きがいの保有率」が減少した。従って、「会社の規模」の標本相違が「生きがいの保有率」の減少に及ぼした影響はないものと結論付けた。

〔図表 7〕会社規模別「生きがいの保有率」（%）

	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	無回答
今回調査	58.3	58.3	46.3	50.5	55.7	80.0
第３回調査	67.9	66.4	66.8	58.7	62.8	66.7

③ 就業状況による影響

次に、現在の「就業状況」による影響を確認する。

第３回調査と今回調査における現在の「就業状況」別の標本割合を確認したところ、図表８の通り、「正規の社員・従業員」で、第３回調査の 60.1%から今回調査の 70.6%へ 10.5 ポイント増加していた。

〔図表 8〕就業状況別の標本割合（%）

	標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	無職	その他	無回答
今回調査	1,992	70.6	9.5	1.9	0.1	0.4	15.4	0.7	1.5
第３回調査	3,189	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8

そこで、第３回調査と今回調査における「就業状況」別の「生きがいの保有率」をまとめた図表９をみると、標本割合の最も多い「正規の社員・従業員」をはじめ、主だった就業状況（標本割合が 10%程度を超える「派遣・嘱託・パートタイマーなど」及び「無職」）については、「生きがいの保有率」が減少していた。このため、「生きがいの保有率」減少には、「就業状況」とは別の要因が背景にあることを示唆している。

[7]統計的にも偏相関係数を算出し相関関係を確認したが、相関関係は認められなかった。なお、偏相関係数とは、ある変数の影響を除去した場合の２変数間の相関の強さを示す係数で、今回は、本人調査の問８の付問「生きがい」を持っているかとの質問に対して、「わからない」と「無回答」と回答したものを分析対象から除外した。

〔図表 9〕就業状況別の「生きがいの保有率」

	標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	無職	その他	無回答
今回調査	1,992	52.7	63.7	73.0	100.0	100.0	66.0	76.9	76.7
第 3 回調査	3,189	61.6	75.4	85.1	83.3	76.9	75.3	100.0	74.5

しかしながら、標本割合の最も多い「正規の社員・従業員」の「生きがいの保有率」がそもそも他の就業上の地位に比べて低い（第 3 回調査及び今回調査の両時点おいて平均値を 5 ポイント程度下回っている）ことに加え、その標本割合が、第 3 回調査から今回調査で 10 ポイント程度増加した。こうした事情から、ここでも「就業状況」の標本相違が「生きがいの保有率」減少に及ぼした影響について「年齢構成割合」と同じ方法でシミュレーションを行った（具体的には、「就業状況」別の割合は第 3 回調査の割合とし、「生きがい保有率」は 4 回調査の結果を利用した)。

その試算結果は、59.1%となり、今回調査の「生きがいの保有率」56.9%比 2.2 ポイント増加となった。これは、「正規の社員・従業員」構成割合の 10.5 ポイント増加が、「生きがいの保有率」の減少に 2.2 ポイント程度影響を及ぼしたとみなされる。

④ その他の基本属性の標本相違による影響

その他、標本相違が目立った項目として「一日の勤務時間」が認められた。「一日の勤務時間」では、「9～12 時間」の割合が第 3 回調査の 21.6%から今回調査の 39.4%へ増加していた。

そこで、「会社規模」等と同様に、「生きがいの保有率」と「一日の勤務時間」との相関関係（傾向）を確認したが、特段の相関関係は認められなかった。従って、この「一日の勤務時間」については、今回の「生きがいの保有率」減少への影響がないと結論付けた。

なお最後に、その他の基本属性についても、目立った標本相違は見当たらなかったものの、念のため、「生きがいの保有率」との相関関係を統計的に確認[8]した。その結果、図表 10 に記載した事項に関しては、相関関係が認められたものの、その値は、「定年経験の有無」と「年齢」を除き、比較的小さな値であった。このように、目立った標本相違も無く、また相関関係が低かった結果を考慮すると、その他の基本属性の標本相違が「生きがいの保有率」の減少に与えた影響はごく限られたものと考えられる。

なお、「定年経験の有無」については、相関係数が比較的高かったものの、質問の性格が「年齢構成割合」と相似しているため、分析は省略した。

8 「会社規模」の分析の際利用した編相関係数で相関関係を確認した。

〔図表 10〕「生きがいの保有率」と偏相関関係が認められた基本属性

質問	相関係数	絶対値
定年経験の有無	−0.184	0.184
年齢	−0.171	0.171
子どもの有無	0.115	0.115
未既婚	−0.076	0.076
居住年数	−0.073	0.073
住宅ローンの有無	−0.058	0.058
最終学歴	0.055	0.055

（２） 「生きがいの保有率」減少に影響を与えたその他の事項

「生きがいの保有率」減少（前回調査比 10.4 ポイント減）について、シミュレーションの結果では、基本属性の標本相違による影響で 3 ポイント程度（「年齢構成割合」で 0.8 ポイント、「就業状況」で 2.2 ポイント）は説明できそうだ。そうすると、残り 7.4 ポイント程度の減少については、その他の要因が考えられる。ここでは、「生きがいの保有率」と相関関係の高い質問を抽出し、当該質問への回答状況と「生きがいの保有率」との関係から後者への影響の大きさを分析してみた。

① 「生きがいの保有率」と相関関係の高い質問項目

まず「生きがいの保有率」の減少の背景を探るために、「生きがいの保有率」と、意識や行動に関する質問を含む全ての質問項目との相関関係を検証した。なお、この検証では、本人調査の問 8 付問「生きがい」を持っているかとの質問に対して、「わからない」「無回答」と回答したものを分析対象から除外して偏相関係数[9]を計測させた。

図表 11 は、「生きがいの保有率」と相関関係が認められた（統計的に有意であった）質問について、相関係数が高かった上位 20 項目[10]を、順に並べたものである。

図表 11 からは、「生きがいの保有率」と相関度の高い質問が、生活満足度の質問群、性格にかかわる質問群と仕事の満足度にかかわる質問群の 3 グループに分かれかつ集中する、という特徴が窺われる。

この結果から、「生きがいの保有率」に最も関係の深いものは「生活の満足度」であるということである。その相関係数は正の値であり、当然のことながら、「生活の満足度」が増加すれば「生きがいの保有率」も増加する関係にある。なお上位 20 項目には、「生活の満足度」の他、「性格」や「仕事の満足度」に属する項目が続き、基本属性に関する項目を始めその他の質問は全く入って来ない。

---

9 ある変数の影響を除去した場合の２変数間の相関の強さを示す係数。今回は、本人調査の問 8 の付問「生きがい」を持っているかとの質問に対して、「わからない」「無回答」と回答したものを分析対象から除外した。

10 問 15(４)10.「生活のはりや生きがいがなくなった」との相関係数も 0.257 となったが、質問同士の性格（「生きがいを持っているか」と「生活のはりや生きがいがなくなった」）が非常に似ているため、この図表からは削除した。

〔図表 11〕「生きがいの保有率」と偏相関関係が認められた意識や行動に関する質問項目（今回調査）

	内容	項目	相関係数	絶対値
1	生活の満足度	社会の役に立つこと	0.370	0.370
2	生活の満足度	熱中できる趣味	0.361	0.361
3	生活の満足度	仕事のはりあい	0.360	0.360
4	性格	目標に向かってつき進む	0.349	0.349
5	生活の満足度	友人・仲間	0.333	0.333
6	仕事の満足度	仕事の内容	0.323	0.323
7	生活の満足度	精神的ゆとり	0.323	0.323
8	性格	どこでも楽しみを見出す	0.312	0.312
9	性格	人との関係を大切にする	0.309	0.309
10	生活の満足度	自然とのふれあい	0.305	0.305
11	性格	いろいろなことにチャレンジ	0.287	0.287
12	仕事の満足度	全体として	0.282	0.282
13	生活の満足度	近隣との交流	0.280	0.280
14	仕事の満足度	職場の人間関係	0.257	0.257
15	性格	自分なりの価値観を持つ	0.254	0.254
16	性格	新しいグループに気軽に入れる	0.248	0.248
17	性格	他人より優れたところがある	0.246	0.246
18	生活の満足度	家族の理解・愛情	0.245	0.245
19	生活の満足度	社会的地位	0.238	0.238
20	性格	一つのことにじっくり取り組む	0.233	0.233

では、このような相関関係は具体的にどのようになっているのだろうか。図表 12 は、最も相関度の高かった「社会に役に立つこと」の満足度と「生きがいの保有率」との関係を例示したものである。

図表 12 の通り、「社会に役に立つこと」の満足度で「十分満たされている」と回答した人の「生きがいの保有率」は、97.3%と非常に高く、これ以降「まあ満たされている」の 83.8%、「どちらともいえない」の 62.7%と満足度が下がるにしたがい順に低下し、「まったく欠けている」では 31.1%（「持っていない」は 32.9%）となる。言い換えれば、「満足度」が高い人は「生きがいの保有率」も高く、「満足度」が低い人は「生きがいの保有率」が低いという顕著な傾向が確認できる。

〔図表 12〕「社会に役に立つこと」の満足度と「生きがい」の保有状況の関係

		「生きがい」の保有状況				
		持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	分からない	無回答
「社会に役に立つこと」の満足度	十分満たされている	97.3	0.0	0.0	2.7	0.0
	まあ満たされている	83.8	4.1	2.9	8.3	1.0
	どちらともいえない	62.7	6.5	8.8	20.8	1.2
	ややかけている	45.2	10.9	19.8	22.4	1.7
	まったくかけている	31.1	14.2	32.9	21.0	0.9
	無回答	17.6	0.0	0.0	1.5	80.9

② 質問項目に対する「満足度 DI」「あてはまり度 DI」の変化

次に、以上の「生きがいの保有率」と相関関係の高い質問上位 20 項目について、それぞれの回答状況を第 3 回調査と今回調査で比較してみる。

この 20 項目の回答は、満足度を問う質問は「十分満たされている」から「まったく欠けている」の 5 段階、性格にかかわる質問は「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」の 4 段階である。図表 13 では、満足度を問う質問は「十分満たされている」と「まあ満たされている」の合計値から「やや不満である」と「とても不満である」の合計値を差し引いた「満足度 DI」を、性格にかかわる質問は「よくあてはまる」と「少しあてはまる」の合計値から「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の合計値を差し引いた「あてはまり度 DI」を用い、両調査結果を比較している。

〔図表 13〕「満足度 DI」「あてはまり度 DI の変化」（%）

	内容	項目	比較に利用した回答	第 3 回調査	今回調査	増減
1	生活の満足度	社会の役に立つこと	「満足度 DI」	-27.2	-20.4	6.8
2	生活の満足度	熱中できる趣味	「満足度 DI」	34.1	29.3	-4.8
3	生活の満足度	仕事のはりあい	「満足度 DI」	33.3	32.1	-1.2
4	**性格**	**目標に向かってつき進む**	**「あてはまり度 DI」**	**36.8**	**19.8**	**-17.0**
5	生活の満足度	友人・仲間	「満足度 DI」	59.1	56.0	-3.1
6	仕事の満足度	仕事の内容	「満足度 DI」	51.9	56.9	5.0
7	生活の満足度	精神的ゆとり	「あてはまり度 DI」	30.2	26.9	-3.3
8	**性格**	**どこでも楽しみを見出す**	**「あてはまり度 DI」**	**32.0**	**23.6**	**-8.4**
9	**性格**	**人との関係を大切にする**	**「あてはまり度 DI」**	**87.0**	**79.3**	**-7.7**
10	**生活の満足度**	**自然とのふれあい**	「満足度 DI」	**21.5**	**14.0**	**-7.5**
11	**性格**	**いろいろなことにチャレンジ**	**「あてはまり度 DI」**	**16.5**	**-1.3**	**-17.8**
12	仕事の満足度	全体として	「満足度 DI」	36.6	41.8	5.2
13	生活の満足度	近隣との交流	「満足度 DI」	-13.2	-10.3	2.9
14	仕事の満足度	職場の人間関係	「満足度 DI」	31.2	38.7	7.5
15	性格	自分なりの価値観を持つ	「あてはまり度 DI」	46.6	41.8	-4.8
16	性格	新しいグループに気軽に入れる	「あてはまり度 DI」	-3.6	-7.5	-3.9
17	**性格**	**他人より優れたところがある**	**「あてはまり度 DI」**	**7.7**	**-0.8**	**-8.5**
18	生活の満足度	家族の理解・愛情	「満足度 DI」	74.4	70.2	-4.2
19	生活の満足度	社会的地位	「満足度 DI」	19.6	23.8	4.2
20	性格	一つのことにじっくり取り組む	「あてはまり度 DI」	20.2	16.8	-3.4

まずこの図表 13 による特徴を上げると、第一に、「性格」に関する質問では、8 項目全てで、「あてはまり度 DI」は減少、言い換えればネガティブな回答が増加したことである。またその減少度合いも大きく「いろいろなことにチャレンジ」で 17.8 ポイント減少、「目標に向かってつき進む」で 17.0 ポイント減少、その他の項目についても減少率は相対的に大きかった。次に、「生活の満足度」に関する質問については、9 項目中 6 項目が減少しており、特に「自然とのふれあい」は 7.5%も減少した。一方「仕事の満足度」に関する質問では、3 項目全てで「満足度 DI」は増加し、特に「職場の人間関係」については 7.5 ポイントも増加するなど、興味深い結果となった。

以上の結果から、「生きがい保有率」の増減に対して、「性格」のネガティブ化と「生活の満足度」の減少はこれを引下げる方向に、「仕事の満足度」上昇はこれを引上げる方向に働いたものとみられよう。これらは相殺し合う関係にあるものの、引下げる方向の要因数の多さと DI 変化幅の大きさから、ネットの効果としては引下げる方向がかなり強かったものと考えられる。

「生きがいの保有率」の前回調査比減少幅 10.4 ポイントのうち、標本によるとみられる 3

ポイント程度を除く 7.4 ポイント分については、繰り返すと、「性格」のネガティブ化、消極化いわば内向き指向化と「生活の満足度」の減少、この 2 つの影響が大きく、そのかなりの部分を占めるものと想定される。

3．「生きがいの保有率」減少の要因とその影響度について

これまでに「生きがいの保有率」減少の背景や要因について、標本のサンプル相違の影響や相関関係の観点で分析を進めてきたが、最後に重回帰分析により、その要因や影響度を確認した。

（1） 重回帰分析による要因抽出とその影響度

① ステップワイズ法（対話型変数選択法）[11]による重回帰分析

目的変数は「生きがいの保有率」だが、説明変数としては「生きがいの保有率」と相関度の高かった質問項目（40 項目）から選ぶこととした。ただし、これら 40 項目は相互の相関関係が高いと考えられるものが多いため（多重共線性[12]を免れない可能性が高いため）、ステップワイズ法を利用し、説明変数を取捨選択させたが、相関関係の強い説明変数を完全には除去できず、多重共線性が解決されなかった[13]。

この結果を前提に、決定係数（R2 乗）[14]が最も高かったモデルをみると、その説明変数は「性格」関連が 4 項目（「人との関係を大切にする」「どこでも楽しみを見出す」「一つのことにじっくり取り組む」「自分なりの価値観を持つ」）、「生活の満足度」関連が 3 項目（「仕事のはりあい」「社会の役に立つこと」「家族の理解・愛情」）、「仕事の満足度」関連が 1 項目（「全体として」）であった。

② 事前スクリーニング法（逐次変数選択法）[15]

以上のステップワイズ法で選択された質問項目や相関関係の高かった質問項目を中心に、説明変数を選択・除去する作業を何度も繰り返した結果、多重共線性の恐れがほぼないものの内、決定係数（$R^2=0.413$）が最も高かったモデルが図表 14 である。

---

11 ステップワイズ法とは、説明変数となる質問項目を数ステップで取捨選択し、最適な回帰式を導き出す手法である。一般的には、ステップワイズ法により、相関関係の高い説明変数が除去され、多重共線性が改善・解決されることになる。

12通称「マルチコ」。独立変数間（ここでは質問項目間を示す）に非常に強い相関があったり，一次従属な変数関係がある場合には，解析が不可能であったり，たとえ結果が求まったとしてもその信頼性は低くなること。このような場合に多重共線性があると言われる。

13 VIF 値が 2.1～4.0 と依然として高かった。

14 目的変数の変動のうち、回帰式による説明変数の変動の占める割合で、この回帰式でどの位の変動を説明できるかを示している。

15 事前スクリーニング法とは、各回帰整数の有意性に基づいて、有効な変数と不要な変数を振り分ける方法である。

〔図表 14〕事前スクリーニング法による重回帰分析

質問項目	標準化係数（β）
性格 （どこでも楽しみを見出す）	0.543
生活の満足度 （仕事のはりあい）	0.161
現在の就業状況	−0.080
年齢	−0.060

このモデルでは、説明変数として、「性格」「生活の満足度」「現在の就業状況」「年齢」の 4 項目が選択された。

項目別にみると、「性格（どこでも楽しみを見出す）」に関する項目の標準化係数[16]が 0.543 と極めて高く、「生きがいの保有率」に最も大きな影響を及ぼしたとみられる。次に「生活の満足度（仕事のはりあい）」（同 0.161）が続き、その後には、基本属性項目である「現在の就業状況」「年齢」が続いている。なお、基本属性項目の標準化係数がそれぞれマイナスとなっていることは、正社員の増加する／年齢が低くなるほど「生きがいの保有率」は下がることを示している。

（２） 結論

重回帰分析においても、「生きがいの保有率」への影響度が最も大きい項目は「性格」であり、次に「生活の満足度」であったことが確認された。また、前回調査（第 3 回調査）時点から今回調査にかけては、「性格」のネガティブ化や「生活の満足度」の低下がみられたことから、「生きがいの保有率」の減少は、「性格」のネガティブ化と「生活の満足度」の低下の影響が大きかったことが窺える。

また、「現在の就業状況」や「年齢」といった標本相違による影響が重回帰分析の結果からも確認された。

なお、その影響度を標準化係数でみると「性格」と「生活の満足度」の合計で 0.704、「現在の就業状況」と「年齢」の基本属性合計で−0.140 と、その影響度は、本考察「2.」の分析とほぼ同様の結果になったと言えよう。

16 ある説明変数が 1 標準偏差変動したときに，標準化された目的変数が何単位変動するかを表す係数。この標準化係数を比較するにより、目的変数への影響度を確認することができる。

II. 従業員現役の仕事、OB の企業年金と生活

研究主幹　千保喜久夫

本節では、現役従業員については、生活の中核をなす仕事に焦点を当て、仕事を巡る現況から生活満足度、生きがいとの関連を、また定年退職を展望した準備のあり方を整理し、OB については、企業年金受給と生活満足度、生きがいとの関連を整理する（本節の内容はこうした整理を行う関係から、第１章および本章Ⅰ．と重複があることを付言しておきたい）。

そして、これらから得られる知見をもとに、福利厚生施策に関し若干の示唆を提示する。

１．従業員現役の仕事と生活

（１） 現在の仕事の状況

現役はさまざまな労働条件の下で勤務しているが、まず日々の生活時間のゆとりを左右するであろう１日の勤務時間をみると図表 15 のようになる。

最初に「全体」へ注目すると、今回調査では、所定内労働時間とみられる「7～8 時間」以内の構成比が 7.7%、これを超える「8～9 時間」以上が 91.1%であった。これを時系列でみると、「7～8 時間」以内と軽微な時間外勤務であろう「8～9 時間」とが減少する一方、「9～12 時間」がかなり増加した（前回調査比 22.4 ポイント増）。「9～12 時間」への回答率増加は、男女共通しているものの、その増加幅は男性の方がより著しい。

【図表 15】　１日の勤務時間

		7時間未満	7～8時間	8～9時間	9～10時間	10～12時間	12時間以上
今回調査	全体	1.3	6.4	39.4	21.2	25.3	5.2
	男性	1.2	5.3	32.1	21.8	31.6	6.8
	女性	1.7	9.5	58.6	19.5	8.3	1.1
第3回調査	全体	0.7	7.2	57.8	12.0	12.1	5.8
	男性	0.4	6.9	56.4	11.7	13.9	7.0
	女性	1.6	8.4	62.2	12.9	6.9	2.2
第2回調査	全体	1.7	19.8	51.7	9.1	7.8	3.7
	男性	1.1	18.2	51.4	9.5	9.2	4.4
	女性	3.7	25.3	54.5	8.0	2.9	0.5
第1回調査	全体	0.8	11.1	56.6	13.4	10.4	6.5
	男性	0.7	10.2	55.3	14.1	12.3	6.7
	女性	1.2	14.8	62.5	10.8	2.6	4.9

（２） 現在の仕事や職場の満足度

現役について、現在の仕事や職場の満足度をみると（図表 16)、今回調査における傾向値は「第１章Ⅰ．2.（1)」で報告した内容とほぼ同じである。

すなわち、男女とも「仕事の内容」、「就業形態」の満足度がかなり高く、「職場の人間関係・雰囲気」も概ね良好といってよいだろう。これに「福利厚生」が続く。このため、総合的評価である「全体として」の回答率も良好である。

ただし、その他の個別項目には次のような特徴が認められる。「職場での地位の高さ」では、男性が概ね良好なものの、女性はかなり低く、また「賃金」、「業績評価の公平さ」については、男女とも満足度が相当低位にあって、とりわけ女性では満足度 DI がマイナスになる。

【図表 16】現在の仕事や職場の満足度（%）

項目	性別	とても満足	やや満足している	どちらともいえない	やや不満足	とても不満足である	無回答	満足度数	不満足度数	満足度DI
仕事の内容	男性	15.1	49.0	25.3	7.7	2.3	0.3	64.1	10.0	54.1
	女性	9.0	52.0	28.5	8.7	1.5	0.3	61.0	10.2	50.8
就業形態	男性	20.3	48.1	21.6	7.1	2.4	0.5	68.4	9.5	58.9
	女性	18.3	49.7	18.9	9.9	3.2	0.0	68.0	13.1	54.9
職場での地位の高さ	男性	14.9	40.0	30.6	11.8	2.4	0.3	54.9	14.2	40.7
	女性	7.6	26.5	48.5	13.1	4.4	0.0	34.1	17.5	16.6
賃金	男性	9.7	30.7	27.2	24.8	7.2	0.3	40.4	32.0	8.4
	女性	**5.2**	**27.3**	**29.1**	**27.9**	**9.9**	**0.6**	**32.5**	**37.8**	**−5.3**
業績評価の公平さ	男性	6.6	26.1	40.8	19.1	6.8	0.5	32.7	25.9	6.8
	女性	**4.9**	**23.5**	**34.0**	**27.6**	**9.6**	**0.3**	**28.4**	**37.2**	**−8.8**
福利厚生	男性	9.0	35.9	33.1	17.5	4.0	0.3	44.9	21.5	23.4
	女性	9.9	35.8	32.8	16.3	4.9	0.3	45.7	21.2	24.5
職場の人間関係･雰囲気	男性	11.4	42.7	29.3	12.4	3.8	0.3	54.1	16.2	37.9
	女性	10.2	41.3	24.4	17.7	6.4	0.0	51.5	24.1	27.4
全体として	男性	8.9	46.8	29.5	12.7	1.7	0.2	55.7	14.4	41.3
	女性	8.0	45.8	30.5	13.4	2.1	0.2	53.8	15.5	38.3

女性の満足度の低かった 3 項目のうち、第 2 回調査から時系列計数がある「職場での地位の高さ」と「賃金」について確認すると（図表 17、18)、「職場での地位の高さ」では男性の満足度 DI がほぼ 40 ポイント強で安定的に推移しているが、女性のそれは 2.6～16.8 ポイントの間で低位のままである。また、「賃金」にかかわる満足度 DI の傾向も、男女とも第 2 回調査から今回調査までほとんど変らない。

【図表 17】職場での地位の高さ（%）

		とても満足	やや満足	どちらとも	やや不満	とても不満	満足度数	不満足度数	満足度 DI
今回調査	男性	14.9	40.0	30.6	11.8	2.4	54.9	14.2	40.7
	女性	7.6	26.5	48.5	13.1	4.4	34.1	17.5	16.6
第3回調査	男性	10.6	43.4	32.8	9.2	2.5	54	11.7	42.3
	女性	4.1	23.5	46.2	17.7	7.3	27.6	25	2.6
第2回調査	男性	10.8	42.0	34.2	9.6	2.7	52.8	12.3	40.5
	女性	6.3	28.0	47.0	13.7	3.8	34.3	17.5	16.8

【図表 18】賃金（%）

		とても満足	やや満足	どちらとも	やや不満	とても不満	満足度数	不満足度数	満足度 DI
今回調査	男性	9.7	30.7	27.2	24.8	7.2	40.4	32.0	8.4
	女性	5.2	27.3	29.1	27.9	9.9	32.5	37.8	−5.3
第3回調査	男性	7.1	36.6	25.4	21.7	8.0	43.7	29.7	14
	女性	3.2	24.8	28.9	30.2	11.4	28	41.6	−13.6
第2回調査	男性	5.6	33.1	28.4	24.7	7.7	38.7	32.4	6.3
	女性	4.4	29.4	32.1	25.8	7.7	33.8	33.5	0.3

現在の仕事や職場の満足度については、男女とも全体としての満足度は良好である。しかし、まず男性をみると、「業績評価の公平さ」、「賃金」、「福利厚生」の順に満足度数が低く、かつこの 3 項目のそれは他の項目比目立って低い。また不満足度数に着目すると、やはり 3 項目の回答率が他項目比高くなっている。女性については、処遇のあり方自体が先にみた「職場での地位の高さ」、「業績評価の公平さ」、「賃金」に相互に関連しつつ低い満足度 DI となって表現されているように思われる。

（3） 仕事と自由時間、仕事のはりあい、生きがい

次に、現役の仕事を巡る諸側面の中で、自由時間の使い方では、「仕事仲間とのプライベートなつきあい」、「仕事に関する勉強や残務整理」の選択順位が低く、今回調査におけるこれらの選択率と順位は前回調査比、多少とはいえさらに下がった。

生活満足度（問 6）の中の「仕事のはりあい」に関しては、現在仕事についている人で集計した第 1 章Ⅰ．2.（5）の図表 19 を参考にすると、この項目に対する満足度 DI は、生活満足度 12 項目のうち 5 位にある。

それでは現役の「仕事のはりあい」は、時系列また男女別ではどのような傾向となっているだろうか。図表 19 によれば、男女ともその満足度 DI が低下傾向にある。男性では第 2 回調査（1996 年）以降、回を追うごとに低下し、女性の場合、第 2 回調査（1996 年）から第

3 回調査（2001 年）の間で下方へ段差が生じている。女性の満足度 DI は一貫して男性のそれを大きく下回っており、先の職場の満足度に対する評価がここにも反映しているのかもしれない。

【図表 19】「仕事のはりあい」の満足度（第 1 回～今回調査）（%）

		とても満足	やや満足	どちらとも	やや不満	とても不満	満足度数	不満足度数	満足度DI
今回調査	男性	6.9	45.0	30.5	12.0	3.2	51.9	15.2	36.7
	女性	2.3	39.1	34.2	17.8	3.4	41.4	21.2	20.2
第3回調査	男性	8.0	49.0	29.2	10.8	2.2	57.0	13.0	44.0
	女性	7.1	38.8	32.9	16.3	4.5	45.9	20.8	25.1
第2回調査	男性	10.3	50.0	27.3	9.0	2.3	60.3	11.3	49.0
	女性	9.6	46.5	23.9	16.0	2.7	56.1	18.7	37.4
第1回調査	男性	9.3	52.5	27.5	9.2	1.1	61.8	10.3	51.5
	女性	11.0	45.9	29.1	11.3	1.7	56.9	13.0	43.9

次に、生きがいの対象としての「仕事」は、第 1 章Ⅰ．2.（8）の図表 29 のとおり、現役全体の選択率順位は「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「趣味」に続く 3 位と高い。これを時系列でみると（図表 20）、男女とも第 2 回調査以降、選択率は順次下がってきたが、男性では 3 位のポジションが維持されている。女性においては、男性比、選択率の水準が低くく「仕事」の選択率順位は 5 位となる。

【図表 20】生きがいの対象としての「仕事」選択率（%）

	男性	女性
今回調査	34.7	22.1
第3回調査	48.9	34.9
第2回調査	52.6	40.0

また、現役の生きがいを得られる場について図表 21 をみると、「仕事・会社」（職場）の役割が「リズムやメリハリ」、「自分自身の向上」、「可能性の実現、やりとげ感」、「役に立つ、評価を得る」では依然として第 1 の主要な場であることに変りがない。男性では、さらに「人生や価値観に影響」でも同様である。

本項を総じていえば、今回調査において、現役の仕事関連項目への回答状況（満足度）は後退したものが多く、また女性の回答状況では一部で男性比さらに低い項目がみられるものの、現役の男女にとって生きがいの対象として「仕事」はやはり重要で、「可能性の実現、や

りとげ感」等を得られる場としての「仕事・会社」の役割は大きい。当然のことながら、仕事はそれだけ生活の中で重みを持ち、職場の重要性はいささかも減じていないといえよう。

【図表 21】生きがいの場（%）

		家庭	仕事	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
生活のはりあいや活力	男性	71.6	52.2	3.0	14.2	4.5	4.7	1.0
	女性	58.3	51.7	0.9	28.4	4.9	6.0	1.4
リズムやメリハリ	男性	46.8	70.7	3.2	9.8	7.4	4.1	2.8
	女性	36.5	76.4	0.9	15.5	5.5	3.7	0.6
心の安らぎや気晴らし	男性	81.4	5.4	4.1	31.7	2.4	12.2	1.5
	女性	74.4	3.2	1.4	50.9	2.3	11.2	1.7
喜びや満足感	男性	68.4	42.4	3.8	16.2	4.2	9.3	2.5
	女性	63.2	33.3	0.6	32.5	3.2	11.2	1.4
人生や価値観に影響	男性	37.2	50.7	4.2	23.3	22.2	7.3	3.0
	女性	44.0	33.6	2.6	41.1	13.5	9.2	1.7
生活の目標や目的	男性	70.0	46.4	2.5	5.5	11.9	6.8	1.1
	女性	63.8	38.8	1.1	5.2	13.2	10.1	3.4
自分自身の向上	男性	23.7	74.4	5.9	11.1	24.8	5.2	2.3
	女性	19.8	72.1	4.0	16.1	22.1	6.9	4.0
可能性の実現、やりとげ感	男性	21.1	79.6	6.1	4.9	16.3	8.0	2.8
	女性	18.4	76.7	2.6	5.2	14.1	10.9	6.0
役に立つ、評価を得る	男性	39.5	76.8	8.0	5.6	10.0	4.1	3.3
	女性	41.1	71.0	4.0	12.9	7.2	2.6	4.9

（４） 「仕事のはりあい」と仕事や職場の満足度について

本章Ⅰの分析によると、生きがいの有無について相関係数の高いものの１つが、生活満足度の中にある「仕事のはりあい」である。

それでは、「仕事のはりあい」と関係の深い仕事や職場の満足度項目はどれだろうか。両者の相関度を計測した図表 22 によれば、最も相関係数が高い項目は「仕事の内容」で、次が「職場の人間関係・雰囲気」となった。これに「職場での地位の高さ」、「業績評価の公平さ」が続く。そして、さらにその後が「賃金」となった。こうした相関度の大きさをみる限り、「仕事のはりあい」に関係するものの第一は「仕事の内容」で、いわば適材適所がやはり大事ということのようである。

こうした関係を、「仕事のはりあい」を目的関数、仕事や職場の満足度 8 項目を説明変数とした重回帰分析によって検証してみた。さらに説明変数を、この８項目から多重共性線を

回避しうる「仕事の内容」、「職場の人間関係・雰囲気」、「職場での地位の高さ」に絞って計測すると、図表 23 のとおり、決定係数が 0.501 で、各説明変数の係数も統計的に有意となった。これによると、「仕事のはりあい」に最も影響を与えている項目は「仕事の内容」で、これは間接的にも生きがいの有無へ反映している可能性があるとみられよう。

【図表 22】「仕事のはりあい」との相関係数

仕事の内容	0.670
就業形態	0.425
職場での地位の高さ	0.463
賃金	0.393
業績評価の公平さ	0.462
福利厚生	0.321
職場の人間関係・雰囲気	0.505
全体として	0.626

【図表 23】重回帰分析

質問項目	標準化係数（β）
仕事の内容	0.498
職場の人間関係・雰囲気	0.235
職場での地位の高さ	0.119

２．定年退職に向けて

（１） 定年退職後の生活

本項は、第１章Ⅰ．2.（12）の要約再掲である。

まず、現役の考える定年後の生活費を賄う手段である（第１章.図表 38）。男性では「公的年金」、「企業年金」、「退職金」、「就労」の順である一方、女性は「公的年金」、「企業年金」、「生命保険の保険金や個人年金」、「預金の取りくずし」の順となる。男女とも主たる所得源は圧倒的に公的年金ながら二番目に企業年金が選択されており、企業年金への期待が大きい。

定年退職後の就労希望では（第１章.図表 42）、男性の 22.3%がそのまま引退を希望するものの、何らかの形で仕事を継続したい割合は 71.1%と高い比率になっている。女性は、引退希望が 33.9%と男性比やや高く、仕事継続希望は 53.1%である。

（２） 定年退職に向けて必要なこと

現役が考える定年退職を迎えるにあたって必要なことについて、今回調査の結果をまとめると図表 24 のようになる。男女とも選択率順位の１位、２位は「健康の維持・増進を心がける」、「貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる」であるが、男性は次に「夫婦・家族の関係を

大事にする」、「生涯楽しめる趣味などをもつ」が、女性では3位に「生涯楽しめる趣味などをもつ」が、さらに「友人や仲間との交流を深める」が続き、「夫婦・家族の関係を大事にする」は5位となっている。

【図表 24】定年に向けて必要なこと（%）

	全体	男性	女性
健康の維持・増進を心がける	80.6	80.7	81.9
貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	63.8	63.0	67.0
生涯楽しめる趣味などを持つ	44.3	42.3	50.3
定年後も活かせる専門的技術を身につける	10.6	11.9	7.5
夫婦・家族の関係を大切にする	37.1	41.4	26.1
友人や仲間との交流を深める	17.9	14.9	26.1
近隣や地域の人との交流を深める	11.0	12.2	8.0
会社以外の活動の場をつくっておく	20.3	19.3	23.3
その他	0.2	0.0	0.2
特に何も必要ない	0.5	0.8	0.0

これと関連し、定年退職に向けて企業へ期待することでは（図表 25)、男女ともに「企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる」が最大の選択率である。次に高い選択率となったものは、やはり男女とも「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」、「希望者には定年年齢を延長させる」といった継続雇用の機会確保にかかわる項目となった。定年退職後の雇用機会をつくることでは、社会的対応への期待でも上位の選択率であった。

【図表 25】定年退職に向けて企業に期待すること（%）

	全体	男性	女性
退職準備教育や退職相談を充実させる	35.4	36.4	33.3
企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる	50.4	53.3	43.7
労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	29.7	29.4	30.7
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	20.8	20.4	22.1
希望者には定年年齢を延長させる	40.8	41.7	39.1
定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	46.9	48.4	43.7
社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	16.6	17.0	15.8
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	12.3	12.8	11.2
退職に向けたセミナーの充実	27.6	27.5	28.4
その他	0.9	0.6	1.4
特に何も必要ない	4.1	4.6	2.9

３．OB の企業年金受給状況と生活

（１） 収入に占める企業年金の割合

今回調査の本人調査ではフェイスシートの F10 で、年金を受給されている方に、夫婦ベースの収入源について「公的年金」、「企業年金」、「給与」、「不動産収入等」、「その他」それぞれの割合を（合計で 10 割となるよう）聞いている。

これを集計したものが図表 26 である。これによると、「給与」割合がゼロとする回答者が 49.5%とほぼ半数を占め（逆にいえば、給与を持つ人もほぼ半分いる）、「不動産収入等」、「その他」がゼロの人は大半の 85.4%～87.8%である。一方、「公的年金」が８割を超える人は 22.6%で、10 割つまり夫婦の収入の全てとする回答者が 7.2%存在した。「企業年金」の割合では、それがゼロとする人が 31.7%、1～3 割とする人が合わせて 54%となる。

さらに、「給与」割合がゼロ、すなわち就業引退者のみを取り出してみると（図表 27）、「公的年金」の５割超である回答者が 88.7%に達する。「企業年金」の割合は、多くの人（該当者の 68.4%）が 1～4 割の間となる。

【図表 26】年金受給者の夫婦の収入源

	公的年金	企業年金	給与	不動産	その他
0 割	12.5	31.7	49.5	85.4	87.8
1 割	5.2	20.4	3.8	6.4	6.8
2 割	6.6	20.7	4.9	3.7	1.7
3 割	8.9	12.9	6.3	1.7	2.4
4 割	9.1	8.5	3.8	1.4	0.3
5 割	11.8	4.2	7.7	0.9	0.5
6 割	11.0	0.9	4.4	0.3	0.2
7 割	12.4	0.5	4.7	0.2	0.0
8 割	9.1	0.0	3.1	0.0	0.0
9 割	6.3	0.2	4.5	0.0	0.2
10 割	7.2	0.0	7.3	0.0	0.0
平均	4.9	1.7	2.8	0.3	0.2

【図表 27】年金受給者／就業引退者の夫婦の収入源

	公的年金	企業年金	不動産	その他
0 割	0.7	22.2	81.7	83.5
1 割	0.4	15.5	6.0	7.7
2 割	0.7	21.5	5.3	2.8
3 割	2.8	18.0	3.2	3.5
4 割	6.7	13.4	2.1	0.7
5 割	12.7	7.0	1.1	1.1
6 割	15.5	1.4	0.4	0.4
7 割	18.3	0.7	0.4	0.0
8 割	15.5	0.0	0.0	0.0
9 割	12.3	0.4	0.0	0.4
10 割	14.4	0.0	0.0	0.0

ここで、年金受給者で就業から引退した人につき、企業年金の年収に占める割合別に年収の分布をみてみよう。これをまとめた図表 28 をみると、両者の間に明瞭な線が引けるわけではないが、全体の年収分布と比較した場合、企業年金の年収に占める割合がゼロと 1 割の層では、「300 万円未満」の割合が多く、「400 万円以上」の割合が少ない。また、企業年金の年収に占める割合がゼロと 1 割の層よりも、2～4 割の層の年収分布がやや高い方へ寄っている。

【図表 28】年金受給者／就業引退者の企業年金割合別年収分布

	300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上
全体	27.1	27.8	43.7
0 割	34.9	30.2	33.3
1 割	36.4	25.0	38.7
2 割	19.6	21.3	55.7
3 割	27.4	33.3	37.3
4 割	23.7	34.2	42.2
5 割	15.0	20.0	65.0

（２） 企業年金受給と生活満足度

次に、企業年金受給と生活の満足度とはどのような関係にあるのだろうか。この相互の関係を、今回調査で、生活の満足度項目から「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」の 2 つを取り出し、OB と対比させてみた。これをまとめた図表 29 をみると、「経済的ゆとり」では、「年金受給者かつ就業引退者、全体」の満足度 DI は、「OB」、「年金受給者全体」よりやや高か

った。とりわけ、企業年金割合の「2 割」、「3 割」層のそれが目立って高い。

一方、「精神的ゆとり」は、OB の満足度 DI が 55.3 ポイントであるのに対し、「年金受給者かつ就業引退者、全体」のそれが 66.6 ポイントと、11.3 ポイントも高い。ここでも同様に、企業年金割合が「2 割」、「3 割」の人は満足度 DI がそれぞれ 75.4、80.4 であった。

このように、企業年金受給者（とりわけ企業年金割合の「2 割」、「3 割」層）の「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」の満足度は OB よりも概ね高かった。

【図表 29】企業年金受給と生活の満足度「経済的ゆとり」

	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答	満足度数	不満足度数	満足度DI
OB	6.7	50.1	24.7	13.0	2.2	3.3	56.8	15.2	41.6
年金受給者全体	7.0	53.0	23.9	11.7	1.6	3.0	60.0	13.3	46.7
年金受給者且つ就業引退者、全体	6.3	54.9	23.9	9.2	1.4	4.2	61.2	10.6	50.6
0 割	9.5	44.4	22.2	15.9	3.2	4.8	53.9	19.1	34.8
1 割	6.8	54.5	25.0	11.4	0.0	2.3	61.3	11.4	49.9
2 割	4.9	63.9	23.0	3.3	1.6	3.3	68.8	4.9	63.9
3 割	5.9	60.8	19.6	9.8	0.0	3.9	66.7	9.8	56.9
4 割	2.6	50.0	34.2	10.5	0.0	2.6	52.6	10.5	42.1
5 割	5.0	55.0	20.0	0.0	5.0	15.0	60.0	5.0	55.0

【図表 30】企業年金受給と生活の満足度「精神的ゆとり」

	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答	満足度数	不満足度数	満足度DI
OB	9.2	53.7	25.4	6.2	1.4	4.1	62.9	7.6	55.3
年金受給者全体	10.1	55.1	23.3	7.0	1.0	3.5	65.2	8.0	57.2
年金受給者且つ就業引退者、全体	12.3	59.2	19.7	3.5	1.4	3.9	71.5	4.9	66.6
0 割	7.9	65.1	12.7	6.3	3.2	4.8	73.0	9.5	63.5
1 割	6.8	61.4	25.0	2.3	2.3	2.3	68.2	4.6	63.6
2 割	21.3	55.7	18.0	1.6	0.0	3.3	77.0	1.6	75.4
3 割	13.7	70.6	9.8	3.9	0.0	2.0	84.3	3.9	80.4
4 割	13.2	36.8	42.1	5.3	0.0	2.6	50.0	5.3	44.7
5 割	0.0	60.0	20.0	0.0	5.0	15.0	60.0	5.0	55.0

４．以上から得られる示唆

本節における諸検討を改めて振り返ると、近年の厳しい経済環境を反映してか、勤務時間数の増加した現役がかなり多い。ところが、自由時間の有無への回答状況は前回調査比むしろ改善している。こうした一見矛盾した動きについては、自由時間の使い方で仕事絡み（仕事仲間とのつきあい、残務整理など）が減ってきていることが、勤務時間増を埋め合わせているのかもしれない。

また、仕事の満足度も、男女とも「仕事の内容」、「就業形態」や「職場の人間関係・雰囲気」で高く、したがって「全体として」も良好である。しかしながら、女性に焦点を当てると、「職場での地位の高さ」、「業績評価の公平さ」、「賃金」に対する満足度 DI の低いことが際立っている。女性に男性と同等の処遇機会を提供することについては、周知の古くてかつ新しい課題である。

生きがいの対象としての「仕事」は選択率順位がなお 3 位を維持するものの、選択率そのものは経年下がってきた。現役の生活に占める仕事の地位は後退気味にあるといえるかもしれない。ただそれでも忘れてならないことは、「人生や価値観に影響」、「自分自身の向上」、「可能性の実現、やりとげ感」、「役に立つ、評価を得る」ことなどでは、「仕事・会社」（職場）が依然として主たる場であることだろう。

生きがいの有無に対しては、生活満足度の中の「仕事のはりあい」が大きな相関度を持っている。最近強調されている「家庭と仕事の両立」を目指すことからも、またこれに関連し次世代育成支援対策が大々的に講じられつつある流れからも、勤務時間、とりわけ残業の軽減や、女性の処遇改善が求められよう。こうした対応がさらに進められれば、現役が家庭に振り向け得る時間が増え「仕事のはりあい」も高まり、ひいては現役の生きがい保有率が向上することも期待されるだろう。

定年退職に向けた準備の観点、また企業年金を受給する人の年収分布や「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」への満足度の状況から、経済的基盤形成への支援策として企業年金の充実等が期待されている。また、定年退職後の継続就労希望割合の高さから、そうした雇用機会の確保も求められている。

〔本節におけるまとめ―企業サイドへの示唆のポイント〕
①勤務時間の軽減
②女性の処遇全般を男性と同等のものへ
③経済的基盤形成への支援（企業年金の充実等）
④定年後における継続雇用機会の一層の確保

Ⅰ．調査票

「第４回サラリーマンの生活と生きがい」に関する調査【本人用】

平成 18 年 12 月
財団法人　年金シニアプラン総合研究機構

調査のお願い

○ 当財団では、豊かな人生経験を持ち、心身とも活力あふれる企業退職者を“シニア”と位置づけ、こうした方々が定年後も充実した生活を送るために必要なさまざまな社会システム“シニアプラン”を社会に提示しています。
その事業の一つとして、現在「第 4 回サラリーマンの生活と生きがい」に関する調査研究を進めております。このアンケート調査は、厚生年金基金・企業年金の加入者・受給者の方々を対象に、普段の生活の状況や生きがい等についてのお考えを伺い、それが定年退職後の生活にどう関連するのかを調べることを目的としております。
この調査は、平成３年に開始し、その後５年毎に実施、今回が第４回目にあたります。

○ 調査は、各年金基金のご協力・ご尽力を頂きまして、基金から皆様へお送り頂いております。また、調査は、「無記名式」で実施し、ご回答については細心の注意を持って取り扱い、結果はすべて統計的に処理いたしますので、個人名やひとりひとりの回答内容が公になることはありません。また、ご回答頂きましたものを、調査以外の目的に使用することもございません。ご多忙中とは思いますが、是非ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 同封の**【配偶者用】**調査票につきましては、封筒の宛名の方の配偶者の方がご記入下さい（配偶者がおられない場合は、**【配偶者用】**調査票の記入・返送は不要です)。
調査票へのご記入が終わりましたら**【本人用】**調査票は緑色の封筒に、**【配偶者用】**調査票は黄色の封筒にそれぞれ封印のうえ、緑色の封筒と黄色の封筒の両方（ただし配偶者がおられない場合は緑色の封筒のみ）を返信用封筒に封印し、ご投函願います。

○ **なお、この調査の集計作業は社団法人中央調査社に委託しました。内容や書き方など調査に関する問い合わせは、以下にお願いします。**

社団法人　中央調査社　管理部
東京都中央区銀座６－１６－１２　丸高ビル
電話　０３（３５４９）３１２５　もしくは
０１２０（４８）５３５１（フリーダイヤル）

記入上の注意

１）この調査のご回答は、封筒の宛名の方ご本人がご記入ください。
２）回答は、すべてこの調査用紙に直接記入してください。
３）問１から順にお答えください。回答は、あてはまる番号に○をつけるところと、記入していただくところがあります。

〔例１〕 ①．はい　　２．いいえ

〔例２〕 １ ２ 年

４）とくに断りがないときは、１問につき○は１つだけです。
５）「その他」を選んだときは、番号に○をつけたうえで、（＿＿＿＿＿＿＿＿）に具体的に記入してください。

■　ふだんのお仕事と生活についておうかがいします。

問１．あなたの現在の就業状況・形態は、次のどれですか。

１．正規の社員・従業員	70.6	５．シルバー人材センター（高齢者事業団）	0.4
２．派遣・嘱託・パートタイマーなど	9.5	６．無職 →（最後に職を離れてから 6.6 年）	15.4
３．自営業・自由業・家族従業員	1.9	→ 問４へお進み下さい	
４．内職	0.1	７．その他（　　）	0.7
		NA	1.5

★６（無職）を選択された方は、問４へお進み下さい

問２．〔現在、職業についている方におうかがいします。〕

（１）あなたの職種は次のどれですか。

（n = 1,656）

１．専門技術職（研究職・技師等）	5.7	５．技能職	7.4
２．管理職（役員・課長以上の管理職）	39.6	６．サービス職（添乗員・ホテルマン等）	1.0
３．事務職（一般事務・営業・経理事務等）	40.2	７．その他（　　）	2.9
４．販売職（店員・セールス等）	2.7	NA	0.7

（２）勤務先の従業員数は会社全体でどのくらいですか。（支店や営業所がある場合は合計）

（n = 1,656）

１．１～29 人	24.2	３．100～299 人	14.9	５．1000 人以上	32.7
２．30～99 人	14.6	４．300～999 人	12.2	NA	1.4

（３）あなたの１週間の勤務日数　　５　日

（週によって異なる場合は平均を四捨五入してください）

（４）あなたの１日の勤務時間（残業時間を含む）　　8.6　時間

（日によって異なる場合は平均を四捨五入してください）

問３．現在の仕事や職場について、どのように感じていますか。（１）～（８）のそれぞれについてお答えください。（(1)から(８)まで、○はそれぞれ１つずつ）

	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	NA
（１）仕事の内容	16.2	49.5	24.6	7.0	1.8	1.0
（２）就業形態	20.8	47.7	20.5	7.5	2.4	1.0
（３）職場での地位の高さ	15.3	35.6	34.5	10.7	2.8	1.1
（４）賃　金	9.2	29.5	28.2	24.3	7.5	1.2
（５）業績評価の公平さ	7.2	26.2	39.0	19.0	6.9	1.7
（６）福利厚生	9.2	34.8	33.7	16.4	4.2	1.7
（７）職場の人間関係・雰囲気	12.6	42.7	27.1	12.6	4.0	1.1
（８）全体として	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9

〔全員におうかがいします〕

問４．〔自由時間についておうかがいします〕

あなたが日頃、自由に使える時間は十分にあると思いますか。

１．十分にある 26.5	２．まあまあ 48.1	３．不十分である 19.6	４．まったくない 1.8	NA 4.0

→ 問５へお進みください

付問．日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。（○は３つまで）

（n = 1,876）

１．仕事仲間とのプライベートなつきあい	9.0	８．行楽・ドライブなど	22.9
２．仕事に関する勉強や残務整理	8.6	９．庭いじりや家事など家庭内のこと	29.9
３．テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	29.0	10．家庭との団らんや家庭サービス	38.2
４．ひとりで趣味・スポーツ・学習など	28.3	11．近隣の人とのつきあいや地域の用事	8.9
５．仲間と趣味・スポーツなど	29.3	12．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	4.7
６．パソコン通信やインターネットなど	16.2	13．特に何もしない	0.7
７．個人的な友人・仲間とのつきあい	27.9	NA	2.1

問５．あなたは、地域活動やボランティアなどに参加していますか。何か社会に役立つ活動に参加されていますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。

１．定期的に参加している	11.4	３．以前に参加したことがある	9.5
２．ときどき参加している	14.4	４．参加していない	58.5
		NA	6.1

付問１．どのような分野の活動ですか。（○はいくつでも）

（n = 515）

１．地域の生活環境を守る活動	42.7
２．地域のイベントや“村おこし”の活動	29.5
３．趣味・ｽﾎﾟｰﾂや学習ｸﾞﾙｰﾌﾟのﾘｰﾀﾞｰとしての活動	23.7
４．児童や青少年活動の世話役としての活動	15.3
５．地域の文化財や伝統を守る活動	10.1
６．消費者活動や生活向上のための活動	2.3
７．障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	12.6
８．行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	8.0
９．自然保護や環境保全の活動	9.3
10．国際交流に関する活動	1.9
11．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	11.7
NA	0.4

付問２．活動に参加した理由は何ですか。（○は３つまで）

（n = 515）

１．地域や社会に貢献したい	56.5
２．自分の知識や経験を活かしたい	21.7
３．社会への見聞を広げたい	14.0
４．友人や仲間を増やしたい	22.1
５．生活にはりあいを持たせたい	21.2
６．身近な人に誘われた	22.9
７．会社の勧めや命令	4.9
８．社会人として当然と思った	23.9
９．何となく	1.2
10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	9.9
NA	－

付問３．現在参加していない理由は何ですか。（○は３つまで）

（n = 1,355）

１．時間がない	41.3
２．経済的余裕がない	9.7
３．精神的なゆとりがない	23.8
４．健康や体力に自信がない	10.7
５．家族など周囲の理解や協力が得られない	1.6
６．自分にあった活動の場がない	20.2
７．いっしょにやる仲間がいない	12.6
８．何から始めるか、きっかけがつかめない	40.8
９．興味がない、関心がない	21.3
10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	3.9
NA	3.0

付問４．今後参加したいと思いますか。（○は１つ）

（n = 1,355）

１．積極的に参加したい	4.4
２．条件によっては参加してもよい	60.8
３．参加するつもりはない	14.2
４．わからない	19.7
NA	0.8

〔全員におうかがいします〕

問６．現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。（１）～（12）のそれぞれについてお答えください。（(1)から(12)まで、○はそれぞれ１つずつ）

	十分に満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	NA
（１）健康	10.2	53.9	16.3	14.8	1.8	3.0
（２）時間的ゆとり	12.0	43.9	17.5	18.9	4.6	3.1
（３）経済的ゆとり	4.7	43.7	26.4	18.2	4.2	2.8
（４）精神的ゆとり	5.1	42.1	29.1	17.2	3.1	3.5
（５）家族の理解・愛情	20.7	54.4	16.4	3.7	1.2	3.6
（６）友人・仲間	10.2	54.0	24.7	7.3	0.9	3.0
（７）熱中できる趣味	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2
（８）仕事のはりあい	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2
（９）社会的地位	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8
(10) 自然とのふれあい	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1
(11) 近隣との交流	2.4	25.2	31.6	26.8	11.1	3.0
(12) 社会の役に立つこと	1.9	15.8	40.9	27.1	11.0	3.4

問７．以下の（１）～（13）は、あなたにどの程度あてはまりますか。（１）～（13）のそれぞれについてお答えください。（(1)から(13)まで、○はそれぞれ１つずつ）

	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	NA
（１）人との関係やつながりを大切にする	37.4	50.7	8.1	0.7	3.2
（２）自分の世界や個性を大切にする	23.1	53.7	18.8	1.0	3.4
（３）いつも目標に向かってつき進む	12.5	45.6	36.0	2.3	3.5
（４）無理をせずマイペースで進む	19.3	54.4	21.6	1.6	3.1
（５）他人にはない自分なりの価値観を持っている	16.7	52.6	26.2	1.3	3.3
（６）自分には他人にない優れたところがある	6.7	41.2	45.2	3.5	3.3
（７）いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	9.3	38.5	44.4	4.7	3.1
（８）一つのことにじっくり取り組む	10.0	46.8	37.7	2.3	3.2
（９）指導者的立場に立とうとする	4.5	30.0	49.8	12.2	3.5
(10) 新しいグループの中に、わりと気軽に入れる	7.8	36.8	44.8	7.3	3.3
(11) いろいろな人の話や意見をよく聞く	16.2	63.1	16.6	0.9	3.3
(12) 上下の立場や関係を尊重する	21.4	60.1	14.1	0.9	3.5
(13) どんなところでも結構楽しみを見出す	11.3	48.9	35.3	1.3	3.2

■　生きがいについておうかがいします。

問８．よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから２つまで選んでください。

１．生活の活力やはりあい	29.8	６．生きる目標や目的	20.7
２．生活のリズムやメリハリ	10.7	７．自分自身の向上	14.3
３．心の安らぎや気晴らし	24.4	８．自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	22.1
４．生きる喜びや満足感	42.2	９．他人や社会の役に立っていると感じること	13.7
５．人生観や価値観の形成	8.0	10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.2
		NA	2.9

付問．そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

１．持っている	56.9	３．持っていない	13.1
２．前は持っていたが、今は持っていない	7.8	４．わからない	18.3
		NA	4.0

問９．あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。（○は３つまで）

１．仕事	27.1	８．子ども・孫・親などの家族・家庭	53.7
２．趣味	41.6	９．友人など家族以外の人との交流	18.8
３．スポーツ	16.1	10．自分自身の健康づくり	16.2
４．学習活動	3.1	11．ひとりで気ままにすごすこと	12.3
５．社会活動	6.1	12．自分自身の内面の充実	13.2
６．自然とのふれあい	15.6	13．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.3
７．配偶者・結婚生活	23.2	NA	3.2

問 10．生きがいに関連する（１）～（９）について、それらが次の家庭や仕事・会社などどこで得られるか、あてはまるものを、それぞれ２つまで選んでください。

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	NA
（１）生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	67.4	44.5	5.9	19.1	6.0	5.0	1.0	3.8
（２）生活のどの場で、リズムやメリハリがつきますか	45.6	60.1	6.4	13.2	9.4	4.4	1.7	4.9
（３）心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	77.6	4.7	5.0	35.9	3.7	11.6	1.1	4.2
（４）生活のどの場で、喜びや満足感を感じることが多いですか	66.0	33.9	5.2	22.5	5.1	9.5	1.7	4.7
（５）あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	36.0	38.5	6.7	29.4	23.5	7.1	2.8	4.8
（６）生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	67.7	36.8	4.7	5.8	14.1	7.9	1.6	5.1
（７）どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	22.0	61.5	9.2	14.2	27.3	6.3	2.8	4.7
（８）自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	22.0	66.8	8.8	6.2	18.4	9.7	3.8	4.7
（９）自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	37.8	64.1	11.7	8.3	11.6	4.8	4.0	4.5

■　配偶者や家族との関係についておうかがいします。

〔現在、配偶者がいらっしゃる方におうかがいします。〕

問 11.　★いらっしゃらない場合は、問 12 へお進み下さい

日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。（１）～（10）のそれぞれについてお答えください。（(1)から(10)まで、○はそれぞれ１つずつ）

（n = 1,576）

	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	非該当	NA
（１）配偶者は自分のことを応援してくれる	46.8	44.4	5.8	0.4		2.5
（２）自分は配偶者の良き理解者である	32.7	50.6	13.4	0.8		2.5
（３）配偶者と価値観・考え方が似ている	13.3	42.6	35.7	5.6		2.7
（４）よく一緒に出かける	30.8	40.2	23.1	3.5		2.5
（５）会話がある	32.4	49.1	14.8	1.3		2.4
（６）配偶者は自分を自由にさせてくれる	33.7	52.4	10.1	0.8		3.0
（７）配偶者は自分の親を大切にしてくれない	6.5	11.4	23.1	32.9	22.3	3.7
（８）配偶者は金銭的にうるさい	4.3	16.5	53.6	22.7		3.0
（９）配偶者は自分によりかかりすぎる	2.7	20.6	55.7	18.2		2.8
(10) 配偶者にもっと家事をして欲しい	4.6	17.0	43.0	32.4		2.9

〔現在、ごいっしょにお住まいのお子さまがいらっしゃる方におうかがいします。〕

問 12.　★いらっしゃらない場合は、問 13 へお進み下さい

お子さまとの関係について、（１）～（２）のそれぞれについてお答えください。

（n = 1,220）

	まったくその通り	まあそのとおり	あまりそうではない	まったく違う	NA
（１）子育てはうまくいっている、うまくいった。	13.4	53.9	12.1	0.9	19.7
（２）子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている。	17.3	41.3	19.7	1.8	19.9

■　仕事と引退についておうかがいします。

〔全員におうかがいします〕

問 13.　あなたは定年を経験しましたか。定年は何才ですか。

（定年を２回以上経験した場合は最初の定年の年齢を記入してください。また、ご自分の意思で転職され、まだ定年前の方は１を選択して下さい）

１．まだ定年前	64.3	→ 定年は（ 60.2 ）才	→ 問 14 へお進みください
２．定年前に退職した	8.9	→ 退職は（ 53.7 ）才のとき	→ 問 15 へお進みください
３．定年退職した	22.8	→ 定年は（ 60.1 ）才のとき	
NA	4.0		

〔定年前の方にお聞きします〕

★定年退職・定年前に退職された方は、問 15 へお進み下さい

問 14.

（１）定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。（○は３つまで）

（n = 1,281）

１．公的年金	76.7	６．就労による収入	33.6
２．企業年金	49.9	７．子ども等からの経済的支援	0.7
３．退職金	45.7	８．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	2.3
４．生命保険の保険金や個人年金	22.2	９．わからない・考えたことがない	2.6
５．預貯金の取りくずし	26.9	NA	1.1

（２）今の会社に定年まで勤めたいと思いますか。

（n = 1,281）

１．定年まで勤めたい	81.4	
２．定年前に退職したい	17.1	⟶（あと 6.1 年くらいで）
NA	1.5	

（３）定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。（○は１つだけ）

（n = 1,281）

１．退職とともに職業生活から引退したい	25.5
２．できれば仕事を継続したい	35.3
⟶（a. 満額年金受給時まで 28.1　b. 元気なうちはいつまでも 65.3　c.（　）歳まで 3.5）	
３．定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	7.7
４．退職後は別の企業に再就職したい	7.8
５．退職後は自分で事業や商売を始めたい（自由業を含む）	7.8
６．退職後は家業を手伝いたい	1.2
７．退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	6.3
８．その他（　　）	1.6
９．わからない・考えたことがない	5.9
NA	0.9

（４）．過去５年間に、次のような出来事がありましたか。（○はいくつでも）

（n = 1,281）

１．子どもや孫の誕生	21.0	９．その他の家族の死	22.6
２．子どもの成人・就職	21.2	10．昇進・昇格	36.5
３．子どもや孫との別居	7.6	11．出向・転籍	11.2
４．子どもの結婚	9.9	12．災害等による資産の減少・経済的困難	1.3
５．自分自身の入院	11.6	13．自宅の購入・建て替え	19.0
６．配偶者の入院	8.4	14．親の介護	11.5
７．その他の家族の入院	28.6	15．親との新たな同居	2.9
８．配偶者の死	1.1	16．いずれもない	11.8
NA	0.6		

【　次は問 16 へお進み下さい　】

〔定年退職または定年前の退職を経験した人におうかがいします〕

問 15．（１）定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか。（○は１つだけ）

（n = 631）

１．専門技術職（研究職・技師等）	3.5	５．技能職	7.9
２．管理職（役員・課長以上の管理職）	56.3	６．サービス職（添乗員・ホテルマン等）	1.0
３．事務職（一般事務・営業・経理事務等）	20.4	７．その他（　　）	4.8
４．販売職（店員・セールス等）	2.2	NA	4.0

（２）定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか。

（支店や営業所を含む合計）

（n = 631）

１．１～29 人	10.5	２．30～99 人	8.7	３．100～299 人	12.7	４．300～999 人	12.0	５．1000 人以上	52.5
NA	3.6								

（３）定年後・退職後に仕事につきましたか。（○は１つだけ）

（n = 631）

１．退職とともに職業生活から引退した	26.9
２．退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた	18.1
３．退職後は出向先に移籍した	10.9
４．退職後は別の企業に再就職した	29.3
５．退職後は自分で事業や商売を始めた（自由業を含む）	2.5
６．退職後は家業を手伝うようになった	0.3
７．退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	1.4
８．その他（　　）	8.1
NA	2.4

（４）定年・退職後から今までに次のようなことがありましたか。（○はいくつでも）

（n = 631）

１．経済的に苦しくなった	28.8	10．生活のはりや生きがいがなくなった	9.0
２．住宅問題で困った	2.7	11．所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	8.9
３．自分や配偶者の健康や体力が衰えた	30.4	12．今までの人的交流や情報量が減って困った	19.2
４．配偶者や親の介護が必要になった	11.4	13．世の中の情報化の進展についていけず困った	6.5
５．配偶者に先立たれた	4.8	14．社会から取り残されてしまった	1.7
６．その他の家族の入院や死	11.7	15．時間をもてあました	12.0
７．再就職のことで困った	5.1	16．地域社会にとけこめなかった	3.3
８．家族との人間関係が悪くなった	2.7	17．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.1
９．親との新たな同居	2.1	18．特に問題はなかった	25.2
		NA	5.1

〔全員におうかがいします〕

問 16．定年退職に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。（１）～（４）のそれぞれについてお答えください。

（１）個人としては、定年前にどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

１．健康の維持・増進を心がける	78.4	６．友人や仲間との交流を深める	20.1
２．貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	58.1	７．近隣や地域の人との交流を深める	13.7
３．生涯楽しめる趣味などを持つ	46.4	８．会社以外の活動の場をつくっておく	19.5
４．定年後も活かせる専門的技術を身につける	11.8	９．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	0.3
５．夫婦・家族の関係を大切にする	35.8	10．特に何も必要ない	0.6
		NA	1.2

付問．それでは、実際にあなた自身が準備したり心がけたりしている（した）ことがありますか。

〔定年前の方〕あなた自身が現在準備したり心がけていることをお答えください。

〔定年後・退職後の方〕あなた自身が定年前・退職前に準備したり心がけていたことをお答えください。

（○はいくつでも）

１．健康の維持・増進を心がける	66.0	６．友人や仲間との交流を深める	32.3
２．貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	51.4	７．近隣や地域の人との交流を深める	16.3
３．生涯楽しめる趣味などを持つ	39.4	８．会社以外の活動の場をつくっておく	15.0
４．定年後も活かせる専門的技術を身につける	8.8	９．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.0
５．夫婦・家族の関係を大切にする	40.3	10．特に何も必要ない	4.5
		NA	2.6

（２）企業としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

１．退職準備教育や退職相談を充実させる	34.0
２．企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる	51.5
３．労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	25.4
４．中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	22.7
５．希望者には定年年齢を延長させる	44.5
６．定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	48.8
７．ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	16.5
８．定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	11.6
９．退職に向けたセミナーの充実	25.6
10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.0
11．特に何も必要ない	4.0
NA	1.7

（３）社会としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

１．できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	57.7
２．定年退職者の能力を活かす場を増やす	59.1
３．サラリーマンＯＢが気軽に出入りできる交流の場をつくる	20.5
４．趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	37.2
５．中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	28.1
６．退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	23.2
７．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	2.1
８．特に何も必要ない	3.0
NA	1.8

（４）以上のほかに、定年退職に向けて、または定年後の生活をよりよくするためのご意見やご提案がありましたら、お書きください。個人、企業、社会のいずれに関することでも結構です。

.....

.....

回答あり 13.3　回答なし 86.7

最後に、今までお聞きしたことを分析する上で必要な事項についておうかがいします。

Ｆ１．性　別　１．男 74.4　２．女 24.9　NA 0.7

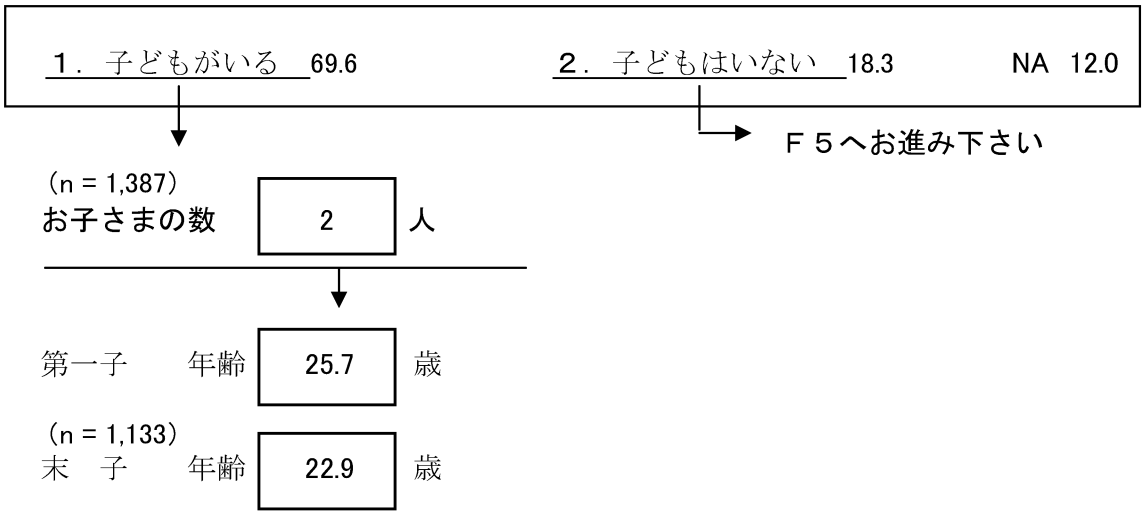
年齢（平成１８年１２月１日現在）　54　歳

Ｆ２．未既婚　１．未婚 13.4　２．既婚（配偶者あり）79.1　３．既婚（離別）2.9　４．既婚（死別）3.7　NA 0.9

Ｆ３．現在、ごいっしょにお住まいの世帯の構成

１．ひとり暮らし	9.7
２．自分たち夫婦だけ	26.4
３．自分たち夫婦（または自分）と未婚の子	38.3
４．自分たち夫婦（または自分）と子ども夫婦（ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む）	3.7
５．自分たち夫婦（または自分）と親（ほかに子や孫がいる場合を含む）	19.3
６．その他（具体的に　）	1.5
NA	1.2

Ｆ４．現在、同居、別居にかかわらずお子さまはいらっしゃいますか。



〔18 歳以上のお子さまをお持ちの方にうかがいます〕

付問．あなたの 18 歳以上のお子さまの就業、結婚状況をおうかがいいたします。同居、別居にかかわらずお答えください。

（n = 955）

①就業の状況

正規従業員のお子さまの人数	1.2	人
派遣社員・スタッフなどのお子さまの人数	0.2	人
未就業のお子さまの人数(学生は除く)	0.1	人
学生のお子さまの人数	0.4	人

（n = 855）

②結婚状況

有配偶の子ども	1.0	人
無配偶の子ども	1.0	人

Ｆ５．居住地

都道府県	市区町村

Ｆ６．現在お住まいの地域（市区町村）に住んで何年になりますか。単身赴任等で一時離れた場合も、家族が継続して住んでいた期間は年数に含めてください。

１．５年未満	8.9	３．10 年以上～20 年未満	18.7	５．30 年以上	37.8
２．５年以上～10 年未満	10.2	４．20 年以上～30 年未満	15.5	NA	8.9

Ｆ７．現在お住まいの住居は、次のどれですか。

１．持ち家（一戸建て）	62.1	４．公社・公団・公営の賃貸住宅	2.3
２．持ち家（分譲マンション等）	15.8	５．民間の借家・マンション・アパート	8.4
３．社宅・会社の寮	2.2	６．その他（具体的に＿＿＿＿＿＿）	0.8
		NA	8.4

付問．住宅ローンを支払っていますか。

１．払っている（残りはあと＿16.2＿年）	31.1	２．払っていない	58.9	NA	10.0

Ｆ８．あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

１．小学校・高等小学校・新制中学校	6.0	４．大学・大学院	40.3
２．旧制中学校・旧制高等女学校・		５．専門学校・専修学校	7.5
旧制実業学校・新制高等学校	30.5	６．その他（＿＿＿＿＿＿）	0.2
３．旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	6.6	NA	8.8

Ｆ９．昨年１年間のあなたのご夫婦の年収（年金や副業等も含めて、税込でお答えください）

１．２００万円未満	1.9	６．６００万円以上～８００万円未満	18.7
２．２００万円以上～３００万円未満	5.2	７．８００万円以上～１０００万円未満	16.2
３．３００万円以上～４００万円未満	8.7	８．１０００万円以上～１５００万円未満	15.0
４．４００万円以上～５００万円未満	9.9	９．１５００万円以上	3.0
５．５００万円以上～６００万円未満	11.2	NA	10.1

〔現在、年金を受給されている方におうかがいします〕

Ｆ10．以下のご夫婦の収入源について、その構成比はおおよそ何割となるでしょうか。

（n = 574）

（１）公的年金	4.9	割
（２）企業年金	1.7	割
（３）給与	2.8	割
（４）不動産収入・利息・配当金	0.3	割
（５）その他	0.2	割
合　計	１０	割　（(1)から（5）の合計が「10」割となる）

Ｆ11．現在の経済的な暮らしについてどのように感じていますか。

１．とても楽だ	3.6	２．少し楽だ	13.6	３．普通	44.5	４．少し苦しい	19.9	５．とても苦しい	4.9
								NA	13.5

（最終ページもご記入ください）

この調査全体についてのご感想やご意見がありましたら、お書きください。

回答あり 8.0　回答なし 92.0

以上で終りです。ご協力ありがとうございました。
記入もれがないかどうかお確かめの上、緑色の回収用封筒に封入のうえ、配偶者の方の調査票を封入した黄色の封筒とともに（ただし配偶者のおられない方は黄色の封筒は不要で、緑色の封筒のみ）、返信用封筒にてご返送ください。

※　なおのちに、この調査に関連して、別途ご意見をうかがう機会を設けたいと考えております。
これに応じてもよいと思われる方は、お名前、ご住所、電話番号をお書きください。

〔別の意見聴取に応じてもよい方〕

お名前		**電話番号**	（　　）
ご住所	**都道府県**		

回答あり 11.3　回答なし 88.7

「サラリーマンの生活と生きがい」に関する調査【配偶者用】

平成１８年１２月

財団法人　年金シニアプラン総合研究開発機構

記入上のお願い

１）この調査のご回答は、封筒の宛名の方の配偶者の方がご記入ください。
２）回答は、すべてこの調査用紙に直接記入してください。
３）問１から順にお答えください。回答は、あてはまる番号に○をつけるところと、記入していただくところがあります。

〔例１〕 ①．はい　　２．いいえ　　〔例２〕 １２ 年

４）とくに断りがないときは、１問につき○は１つだけです。
５）「その他」を選んだときは、番号に○をつけたうえで、（＿＿＿＿＿＿＿＿）に具体的に記入してください。

１月１０日（水）までにご投函ください。

問１．あなたの現在の就業形態（正規の社員、嘱託、自営業など）は、次のどれですか。

１．正規の社員・従業員	18.1
２．派遣・嘱託・パートタイマーなど	23.5
３．自営業・自由業・家族従業員	2.8
４．内　職	0.9
５．シルバー人材センター（高齢者事業団）	0.1
６．無　職 ⟶（最後に職を離れてから 16.1 年）	46.9
７．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	2.9
NA	4.7

問２．あなたは、地域活動やボランティアなどに参加していますか。何か社会に役立つ活動に参加されていますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。

14.2	14.2	12.8	55.7	3.1
定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	NA

付問１．どのような分野の活動ですか。

（n = 431）　（○はいくつでも）

１．地域の生活環境を守る活動	34.1
２．地域のイベントや“村おこし”の活動	28.8
３．趣味・ｽﾎﾟｰﾂや学習ｸﾞﾙｰﾌﾟのﾘｰﾀﾞｰとしての活動	22.3
４．児童や青少年活動の世話役としての活動	27.4
５．地域の文化財や伝統を守る活動	4.9
６．消費者活動や生活向上のための活動	4.4
７．障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	16.2
８．行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	7.9
９．自然保護や環境保全の活動	6.7
10．国際交流に関する活動	1.2
11．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	8.6
NA	0.2

付問２．活動に参加した理由は何ですか。

（n = 431）　（○は３つまで）

１．地域や社会に貢献したい	49.0
２．自分の知識や経験を活かしたい	21.6
３．社会への見聞を広げたい	14.6
４．友人や仲間を増やしたい	32.7
５．生活にはりあいを持たせたい	20.6
６．身近な人に誘われた	27.8
７．会社の勧めや命令	2.6
８．社会人として当然と思った	17.9
９．何となく	0.9
10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	7.0
NA	1.6

付問３．現在参加していない理由は何ですか。

（n = 1,041）　（○は３つまで）

１．時間がない	48.2
２．経済的余裕がない	8.9
３．精神的なゆとりがない	20.5
４．健康や体力に自信がない	17.7
５．家族など周囲の理解や協力が得られない	1.2
６．自分にあった活動の場がない	18.1
７．いっしょにやる仲間がいない	7.2
８．何から始めるか、きっかけがつかめない	29.1
９．興味がない、関心がない	17.7
10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	5.6
NA	2.6

付問４．今後参加したいと思いますか。

（n = 1,041）　（○は１つ）

１．積極的に参加したい	2.8
２．条件によっては参加してもよい	52.2
３．参加するつもりはない	16.0
４．わからない	26.7
NA	2.3

〔全員におうかがいします〕

問３．現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。（１）～（12）のそれぞれについてお答えください。（(1)から(12)まで、○はそれぞれ１つずつ）

	十分に満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	NA
（１）健康	9.5	54.6	16.1	16.0	2.4	1.4
（２）時間的ゆとり	12.8	37.5	21.9	21.9	4.4	1.5
（３）経済的ゆとり	6.8	44.9	27.5	15.5	3.8	1.4
（４）精神的ゆとり	7.1	43.6	27.4	16.3	3.4	2.3
（５）家族の理解・愛情	22.8	55.3	14.9	4.2	0.7	2.0
（６）友人・仲間	15.8	55.6	19.1	7.0	0.9	1.7
（７）熱中できる趣味	13.0	35.6	25.5	18.4	5.7	1.8
（８）仕事のはりあい	5.5	31.7	37.7	9.3	8.0	7.8
（９）社会的地位	2.6	18.8	47.5	13.0	12.7	5.3
(10) 自然とのふれあい	6.1	33.6	32.4	20.3	5.7	1.9
(11) 近隣との交流	4.3	36.7	31.3	20.4	5.7	1.4
(12) 社会の役に立つこと	2.0	17.9	41.0	26.1	10.3	2.6

問４．よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから２つまで選んでください。

１．生活の活力やはりあい	31.8	６．生きる目標や目的	22.9
２．生活のリズムやメリハリ	10.9	７．自分自身の向上	15.9
３．心の安らぎや気晴らし	29.6	８．自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	17.3
４．生きる喜びや満足感	42.3	９．他人や社会の役に立っていると感じること	10.7
５．人生観や価値観の形成	6.3	10．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.0
		NA	1.3

付問．そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

１．持っている	58.8	３．持っていない	9.6
２．前は持っていたが、今は持っていない	7.4	４．わからない	22.0
		NA	2.2

問５．あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。（○は３つまで）

１．仕　事	16.9	８．子ども・孫・親などの家族・家庭	56.9
２．趣　味	37.9	９．友人など家族以外の人との交流	25.7
３．スポーツ	9.7	10．自分自身の健康づくり	14.5
４．学習活動	3.5	11．ひとりで気ままにすごすこと	13.2
５．社会活動	5.3	12．自分自身の内面の充実	15.5
６．自然とのふれあい	15.1	13．その他（＿＿＿＿＿＿）	0.9
７．配偶者・結婚生活	28.4	NA	1.2

問６．生きがいに関連する（１）～（９）について、それらが次の家庭や仕事・会社などどこで得られるか、あてはまるものを、それぞれ２つまで選んでください。

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	NA
（１）生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	78.1	23.5	8.2	24.5	4.7	5.0	1.0	2.1
（２）生活のどの場で、リズムやメリハリがつきますか	59.6	33.4	11.1	16.8	8.6	5.3	1.6	3.4
（３）心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	76.5	3.2	5.1	41.7	3.2	11.7	1.4	2.1
（４）生活のどの場で、喜びや満足感を感じることが多いですか	75.8	16.6	7.2	23.2	4.2	10.0	1.8	3.0
（５）あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	53.7	18.4	7.5	33.0	19.2	8.8	2.1	3.3
（６）生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	77.8	17.0	7.4	6.0	14.0	9.1	1.7	3.4
（７）どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	38.6	32.9	14.4	16.7	23.0	9.1	3.5	2.8
（８）自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	40.9	36.3	12.7	8.1	14.7	12.5	5.6	3.3
（９）自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	58.2	33.9	15.1	11.1	9.2	6.9	4.1	2.4

問７．日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。（１）～（10）のそれぞれについてお答えください。（(1)から(10)まで、○はそれぞれ１つずつ）

	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	非該当	NA
（１）配偶者は自分のことを応援してくれる	35.0	50.2	11.5	1.8		1.6
（２）自分は配偶者の良き理解者である	29.3	52.8	14.4	1.8		1.7
（３）配偶者と価値観・考え方が似ている	13.4	41.5	35.0	7.8		2.3
（４）よく一緒に出かける	29.1	39.4	24.8	4.9		1.8
（５）会話がある	28.9	49.8	17.2	2.1		2.0
（６）配偶者は自分を自由にさせてくれる	36.8	51.2	9.1	1.2		1.7
（７）配偶者は自分の親を大切にしてくれない	5.6	12.6	24.4	35.2	18.9	3.4
（８）配偶者は金銭的にうるさい	4.3	12.4	53.5	27.8		2.0
（９）配偶者は自分によりかかりすぎる	3.4	15.8	53.9	25.3		1.6
(10) 配偶者にもっと家事をして欲しい	8.8	30.9	41.8	16.7		1.8

〔現在、ごいっしょにお住まいのお子さまがいらっしゃる方におうかがいします。〕
★いらっしゃらない場合は、問９へお進み下さい

問８．お子さまとの関係について、（１）～（２）のそれぞれについてお答えください。

（n = 985）

	まったくその通り	まあそのとおり	あまりそうではない	まったく違う	NA
（１）子育てはうまくいっている、うまくいった	17.6	56.8	15.2	0.7	9.7
（２）子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている	42.1	39.5	7.9	0.5	9.9

問９．〔配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した方におうかがいします〕
（１）お宅では、配偶者の方の定年前に、定年後をどうすごすかの生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について、ご夫婦で話し合ったことがありましたか。

（n = 507）
１．よくあった 15.4　２．たまにあった 56.2　３．まったくなかった 19.9　NA 8.5

（２）あなたから見て、配偶者の方には、あるいはご家庭で、定年から今までに、次のようなことがありましたか。（○はいくつでも）

（n = 507）

１．経済的に苦しくなった	28.8	10．生活のはりや生きがいがなくなった	8.3
２．住宅問題で困った	3.4	11．所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	3.7
３．自分や配偶者の健康や体力が衰えた	42.2	12．今までの人的交流や情報量が減って困った	6.5
４．配偶者や親の介護が必要になった	17.8	13．世の中の情報化の進展についていけず困った	7.7
５．配偶者に先立たれた	－	14．社会から取り残されてしまった	1.8
６．その他の家族の入院や死	12.8	15．時間をもてあました	12.0
７．再就職のことで困った	3.9	16．地域社会にとけこめなかった	4.7
８．家族との人間関係が悪くなった	2.6	17．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1.0
９．親との新たな同居	2.4	18．特に問題はなかった	22.3
		NA	8.9

問 10．あなたの性別‥‥‥　１．男　性 14.7　２．女　性 84.7　NA 0.6

問 11．年齢(平成 18 年 12 月１日現在)　52.3 歳

以上で終りです。ご協力ありがとうございました。記入もれがないかどうかお確かめの上、黄色の回収用封筒に入れて、配偶者の方にお渡しください。

Ⅱ. 単純集計結果

【本人調査】

【本人調査】　Q1. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族・従業員	内職	シルバー人材センター（高齢者事業団）	無職	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1407	190	37	1	8	306	13	30
(%)	1992	70.6	9.5	1.9	0.1	0.4	15.4	0.7	1.5
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1917	333	67	6	26	554	4	282
(%)	3189	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1853	274	80	13	30	509	55	95
(%)	2909	63.7	9.4	2.8	0.4	1.0	17.5	1.9	3.3
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	2047	303	80	8	23	506	－	84
(%)	3051	67.1	9.9	2.6	0.3	0.8	16.6	－	2.8

【本人調査】　※Q1. 現在の就業形態（退職後経過年数）

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均（年）＊0年含む
≪今回調査（平成18年）≫	306	105	110	43	8	6	1	33	6.6
(%)	306	34.3	35.9	14.1	2.6	2.0	0.3	10.8	6.6
≪第3回調査（平成13年）≫	554	284	188	45	15	2	1	19	4.8
(%)	554	51.3	33.9	8.1	2.7	0.4	0.2	3.4	4.8
≪第2回調査（平成8年）≫	509	279	130	60	9	2	4	25	4.7
(%)	509	54.8	25.5	11.8	1.8	0.4	0.8	4.9	4.7
≪第1回調査（平成3年）≫	506	207	141	62	10	0	19	67	5.0
(%)	506	40.9	27.9	12.3	2.0	0.0	3.8	13.2	5.0

【本人調査】　Q2（1）. 現在の職種

	該当数	専門技術職（研究職・技師等）	管理職（役員・課長以上の管理職）	事務職（一般事務・営業・経理事務等）	販売職（店員・セールス等）	技能職	サービス職（添乗員・ホテルマン等）	その他	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	94	655	665	44	123	16	48	11	0
(%)	1656	5.7	39.6	40.2	2.7	7.4	1.0	2.9	0.7	0.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	149	920	869	62	231	54	21	43	4
(%)	2353	6.3	39.1	36.9	2.6	9.8	2.3	0.9	1.8	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	100	923	747	49	224	36	105	66	55
(%)	2305	4.3	40.0	32.4	2.1	9.7	1.6	4.6	2.9	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	119	1126	700	56	245	35	79	101	0
(%)	2461	4.8	45.8	28.4	2.3	10.0	1.4	3.2	4.1	0.0

【本人調査】　Q2（2）. 現在の勤務先の企業規模

	該当数	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	400	242	246	202	542	24	0
(%)	1656	24.2	14.6	14.9	12.2	32.7	1.4	0.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	383	256	232	252	1161	65	4
(%)	2353	16.3	10.9	9.9	10.7	49.3	2.8	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	342	274	254	250	1059	71	55
(%)	2305	14.8	11.9	11.0	10.8	45.9	3.1	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	395	272	328	316	1060	90	0
(%)	2461	16.1	11.1	13.3	12.8	43.1	3.7	0.0

【本人調査】　Q2（3）. 現在の1週間の勤務日数

	該当数	1日未満	1～2日未満	2～3日未満	3～4日未満	4～5日未満	5～6日未満	6～7日未満	7日以上	0日	無回答	非該当	平均（日）＊0日含む
≪今回調査（平成18年）≫	1656	0	7	16	53	32	1388	137	9	1	13	0	5.0
(%)	1656	0.0	0.4	1.0	3.2	1.9	83.8	8.3	0.5	0.1	0.8	0.0	5.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	0	19	36	60	52	1884	228	20	0	50	4	5.0
(%)	2353	0.0	0.8	1.5	2.5	2.2	80.1	9.7	0.8	0.0	2.1	0.2	5.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	1	13	22	44	36	1787	267	10	1	69	55	5.0
(%)	2305	0.0	0.6	1.0	1.9	1.6	77.5	11.6	0.4	0.0	3.0	2.4	5.0
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	0	20	30	40	38	1520	687	22	0	104	0	5.2
(%)	2461	0.0	0.8	1.2	1.6	1.5	61.8	27.9	0.9	0.0	4.2	0.0	5.2

【本人調査】　Q2（4）. 現在の1日の勤務時間

	該当数	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8～9時間未満	9～10時間未満	10～12時間未満	12～15時間未満	15時間以上	0時間
≪今回調査（平成18年）≫	1656	0	1	6	11	14	20	27	153	673	301	351	69	10	4
(%)	1656	0.0	0.1	0.4	0.7	0.8	1.2	1.6	9.2	40.6	18.2	21.2	4.2	0.6	0.2
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	0	0	9	19	25	34	53	191	1328	255	254	112	12	0
(%)	2353	0.0	0.0	0.4	0.8	1.1	1.4	2.3	8.1	56.4	10.8	10.8	4.8	0.5	0.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	1	2	3	15	25	34	48	451	1141	195	160	65	8	1
(%)	2305	0.0	0.1	0.1	0.7	1.1	1.5	2.1	19.6	49.5	8.5	6.9	2.8	0.3	0.0
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	0	2	5	19	15	28	48	278	1330	285	208	62	97	1
(%)	2461	0.0	0.1	0.2	0.8	0.6	1.1	2.0	11.3	54.0	11.6	8.5	2.5	3.9	0.0

	該当数	無回答	非該当	平均（時間）＊0時間含む
≪今回調査（平成18年）≫		16	0	8.6
(%)		1.0	0.0	8.6
≪第3回調査（平成13年）≫		57	4	8.3
(%)		2.4	0.2	8.3
≪第2回調査（平成8年）≫		101	55	8.1
(%)		4.4	2.4	8.1
≪第1回調査（平成3年）≫		83	0	9.4
(%)		3.4	0.0	9.4

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （1）仕事の内容

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	269	819	407	116	29	16	−
(%)	1656	16.2	49.5	24.6	7.0	1.8	1.0	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	313	1152	534	189	57	104	4
(%)	2353	13.3	49.0	22.7	8.0	2.4	4.4	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	398	1098	484	171	50	49	55
(%)	2305	17.3	47.6	21.0	7.4	2.2	2.1	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （2）就業形態

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	345	790	340	125	39	17	−
(%)	1656	20.8	47.7	20.5	7.5	2.4	1.0	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	309	1083	511	272	62	112	4
(%)	2353	13.1	46.0	21.7	11.6	2.6	4.8	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	356	1052	498	240	44	60	55
(%)	2305	15.4	45.6	21.6	10.4	1.9	2.6	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （3）職場での地位の高さ

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	253	589	572	177	46	19	−
(%)	1656	15.3	35.6	34.5	10.7	2.8	1.1	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	232	856	824	236	81	120	4
(%)	2353	9.9	36.4	35.0	10.0	3.4	5.1	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	259	833	813	211	60	74	55
(%)	2305	11.2	36.1	35.3	9.2	2.6	3.2	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （4）賃金

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	153	488	467	403	125	20	−
(%)	1656	9.2	29.5	28.2	24.3	7.5	1.2	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	151	730	610	537	207	114	4
(%)	2353	6.4	31.0	25.9	22.8	8.8	4.8	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	144	690	653	529	170	64	55
(%)	2305	6.2	29.9	28.3	23.0	7.4	2.8	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （5）業績評価の公平さ

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	119	434	646	315	114	28	−
(%)	1656	7.2	26.2	39.0	19.0	6.9	1.7	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2353	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2305	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （6）福利厚生

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	152	576	558	272	70	28	−
(%)	1656	9.2	34.8	33.7	16.4	4.2	1.7	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	153	776	747	405	145	123	4
(%)	2353	6.5	33.0	31.7	17.2	6.2	5.2	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	175	737	688	408	163	79	55
(%)	2305	7.6	32.0	29.8	17.7	7.1	3.4	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （7）職場の人間関係・雰囲気

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	208	707	448	209	66	18	−
(%)	1656	12.6	42.7	27.1	12.6	4.0	1.1	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	177	956	705	285	113	113	4
(%)	2353	7.5	40.6	30.0	12.1	4.8	4.8	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	244	913	657	272	104	60	55
(%)	2305	10.6	39.6	28.5	11.8	4.5	2.6	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問3. 現在の就業状況についての満足度 （8）全体として

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
≪今回調査（平成18年）≫	1656	158	767	485	202	29	15	−
(%)	1656	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9	−
≪第3回調査（平成13年）≫	2353	164	1055	661	297	62	110	4
(%)	2353	7.0	44.8	28.1	12.6	2.6	4.7	0.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2305	190	1089	603	255	57	56	55
(%)	2305	8.2	47.2	26.2	11.1	2.5	2.4	2.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2461	−	−	−	−	−	−	−
(%)	2461	−	−	−	−	−	−	−

【本人調査】　問4. 自由時間の有無

	総数	十分にある	まあまあ	不十分である	まったくない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	528	958	390	36	80
(%)	1992	26.5	48.1	19.6	1.8	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	626	1365	1081	72	45
(%)	3189	19.6	42.8	33.9	2.3	1.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	646	1374	811	46	32
(%)	2909	22.2	47.2	27.9	1.6	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	575	1234	1053	146	43
(%)	3051	18.8	40.4	34.5	4.8	1.4

【本人調査】　問4付問. 自由時間の過ごし方

	該当数	仕事仲間とのプライベートなつきあい	仕事に関する勉強や残務整理	テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	ひとりで趣味・スポーツ・学習など	仲間と趣味・スポーツなど	パソコン通信やインターネットなど	個人的な友人・仲間とのつきあい	行楽・ドライブなど	庭いじりや家事など家庭内のこと	家庭との団らんや家庭サービス	近隣の人とのつきあいや地域の用事	その他	特に何もしない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1876	168	162	544	531	549	303	524	430	561	716	167	88	14	39
(%)	1876	9.0	8.6	29.0	28.3	29.3	16.2	27.9	22.9	29.9	38.2	8.9	4.7	0.7	2.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3072	302	374	986	874	944	388	811	861	1106	962	191	105	18	16
(%)	3072	9.8	12.2	32.1	28.5	30.7	12.6	26.4	28.0	36.0	31.3	6.2	3.4	0.6	0.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2831	280	317	909	839	829	72	754	827	1083	936	198	82	17	21
(%)	2831	9.9	11.2	32.1	29.6	29.3	2.5	26.6	29.2	38.3	33.1	7.0	2.9	0.6	0.7
≪第1回調査(平成3年)≫	2862	535	483	1239	904	477	－	602	335	961	1014	190	70	51	15
(%)	2862	18.7	16.9	43.3	31.6	16.7	－	21.0	11.7	33.6	35.4	6.6	2.4	1.8	0.5

【本人調査】　問5. 社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	228	287	190	1165	122
(%)	1992	11.4	14.4	9.5	58.5	6.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	395	372	311	1789	322
(%)	3189	12.4	11.7	9.8	56.1	10.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	－	－	－	－	－
(%)	2909	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	372	383	301	1918	77
(%)	3051	12.2	12.6	9.9	62.9	2.5

【本人調査】　問5付問1. 社会活動参加分野

	該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	515	220	152	122	79	52	12	65	41	48	10	60	2
(%)	515	42.7	29.5	23.7	15.3	10.1	2.3	12.6	8.0	9.3	1.9	11.7	0.4
≪第3回調査(平成13年)≫	767	288	223	227	83	58	25	80	83	94	48	63	8
(%)	767	37.5	29.1	29.6	10.8	7.6	3.3	10.4	10.8	12.3	6.3	8.2	1.0
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	755	321	177	256	128	62	38	96	－	93	44	40	22
(%)	755	42.5	23.4	33.9	17.0	8.2	5.0	12.7	－	12.3	5.8	5.3	2.9

【本人調査】　問5付問2. 社会活動参加理由

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	515	291	112	72	114	109	118	25	123	6	51	0
(%)	515	56.5	21.7	14.0	22.1	21.2	22.9	4.9	23.9	1.2	9.9	0.0
≪第3回調査(平成13年)≫	767	426	214	117	236	160	122	47	189	7	40	14
(%)	767	55.5	27.9	15.3	30.8	20.9	15.9	6.1	24.6	0.9	5.2	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	755	398	245	149	192	173	138	35	264	7	21	14
(%)	755	52.7	32.5	19.7	25.4	22.9	18.3	4.6	35.0	0.9	2.8	1.9

【本人調査】　問5付問3. 社会活動不参加理由

	該当数	時間がない	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあった活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がない、関心がない	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1355	560	131	322	145	22	274	171	553	289	53	40
(%)	1355	41.3	9.7	23.8	10.7	1.6	20.2	12.6	40.8	21.3	3.9	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2100	1114	172	389	211	20	363	197	728	216	119	71
(%)	2100	53.0	8.2	18.5	10.0	1.0	17.3	9.4	34.7	10.3	5.7	3.4
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	2219	986	214	363	258	31	572	281	799	397	70	98
(%)	2219	44.4	9.6	16.4	11.6	1.4	25.8	12.7	36.0	17.9	3.2	4.4

【本人調査】　問5付問4. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1355	60	824	193	267	11
(%)	1355	4.4	60.8	14.2	19.7	0.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2100	137	1262	204	465	32
(%)	2100	6.5	60.1	9.7	22.1	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	2219	159	1332	254	440	34
(%)	2219	7.2	60.0	11.4	19.8	1.5

【本人調査】　問6. 生活充足感 （1）健康

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	203	1073	325	295	36	60
(%)	1992	10.2	53.9	16.3	14.8	1.8	3.0
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	411	1834	412	444	51	37
(%)	3189	12.9	57.5	12.9	13.9	1.6	1.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	488	1708	325	324	38	26
(%)	2909	16.8	58.7	11.2	11.1	1.3	0.9
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	473	1819	314	386	32	27
(%)	3051	15.5	59.6	10.3	12.7	1.0	0.9

【本人調査】　問6. 生活充足感 （2）時間的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	239	875	349	377	91	61
(%)	1992	12.0	43.9	17.5	18.9	4.6	3.1
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	381	1157	567	821	213	50
(%)	3189	11.9	36.3	17.8	25.7	6.7	1.6
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	426	1297	440	578	132	36
(%)	2909	14.6	44.6	15.1	19.9	4.5	1.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	452	1275	499	655	135	35
(%)	3051	14.8	41.8	16.4	21.5	4.4	1.1

【本人調査】　問6. 生活充足感 （3）経済的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	93	871	526	363	83	56
(%)	1992	4.7	43.7	26.4	18.2	4.2	2.8
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	141	1384	900	587	116	61
(%)	3189	4.4	43.4	28.2	18.4	3.6	1.9
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	146	1398	750	493	85	37
(%)	2909	5.0	48.1	25.8	16.9	2.9	1.3
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	142	1421	812	535	98	43
(%)	3051	4.7	46.6	26.6	17.5	3.2	1.4

【本人調査】　問6. 生活充足感 （4）精神的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	101	839	580	342	61	69
(%)	1992	5.1	42.1	29.1	17.2	3.1	3.5
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	214	1376	906	537	88	68
(%)	3189	6.7	43.1	28.4	16.8	2.8	2.1
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	240	1465	689	396	64	55
(%)	2909	8.3	50.4	23.7	13.6	2.2	1.9
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	236	1505	754	451	56	49
(%)	3051	7.7	49.3	24.7	14.8	1.8	1.6

【本人調査】　問6. 生活充足感 （5）家族の理解・愛情

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	413	1084	326	74	23	72
(%)	1992	20.7	54.4	16.4	3.7	1.2	3.6
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	792	1736	426	122	31	82
(%)	3189	24.8	54.4	13.4	3.8	1.0	2.6
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	700	1639	382	102	24	62
(%)	2909	24.1	56.3	13.1	3.5	0.8	2.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	751	1821	313	88	20	58
(%)	3051	24.6	59.7	10.3	2.9	0.7	1.9

【本人調査】　問6. 生活充足感 （6）友人・仲間

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	203	1075	492	145	17	60
(%)	1992	10.2	54.0	24.7	7.3	0.9	3.0
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	383	1768	715	227	38	58
(%)	3189	12.0	55.4	22.4	7.1	1.2	1.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	411	1665	569	202	33	29
(%)	2909	14.1	57.2	19.6	6.9	1.1	1.0
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	373	1762	631	214	32	39
(%)	3051	12.2	57.8	20.7	7.0	1.0	1.3

【本人調査】　問6. 生活充足感 （7）熱中できる趣味

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	236	789	462	343	98	64
(%)	1992	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	486	1293	657	536	153	64
(%)	3189	15.2	40.5	20.6	16.8	4.8	2.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	515	1222	557	475	109	31
(%)	2909	17.7	42.0	19.1	16.3	3.7	1.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	477	1254	546	585	147	42
(%)	3051	15.6	41.1	17.9	19.2	4.8	1.4

【本人調査】　問6. 生活充足感 （8）仕事のはりあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	127	830	593	233	85	124
(%)	1992	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	240	1326	914	349	157	203
(%)	3189	7.5	41.6	28.7	10.9	4.9	6.4
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	293	1333	738	271	122	152
(%)	2909	10.1	45.8	25.4	9.3	4.2	5.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	336	1439	779	255	115	127
(%)	3051	11.0	47.2	25.5	8.4	3.8	4.2

【本人調査】　問6. 生活充足感 （9）社会的地位

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	99	689	794	217	98	95
(%)	1992	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	118	1057	1309	317	232	156
(%)	3189	3.7	33.1	41.0	9.9	7.3	4.9
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	139	1049	1132	303	180	106
(%)	2909	4.8	36.1	38.9	10.4	6.2	3.6
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	132	1154	1127	329	198	111
(%)	3051	4.3	37.8	36.9	10.8	6.5	3.6

【本人調査】　問6. 生活充足感 （10）自然とのふれあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	119	691	588	431	101	62
(%)	1992	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	285	1223	777	662	158	84
(%)	3189	8.9	38.4	24.4	20.8	5.0	2.6
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	319	1243	631	547	131	38
(%)	2909	11.0	42.7	21.7	18.8	4.5	1.3
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	296	1241	635	704	128	47
(%)	3051	9.7	40.7	20.8	23.1	4.2	1.5

【本人調査】　問6. 生活充足感 （11）近隣との交流

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	47	501	630	533	221	60
(%)	1992	2.4	25.2	31.6	26.8	11.1	3.0
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	100	765	981	890	396	57
(%)	3189	3.1	24.0	30.8	27.9	12.4	1.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	115	835	838	758	327	36
(%)	2909	4.0	28.7	28.8	26.1	11.2	1.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	130	930	830	865	262	34
(%)	3051	4.3	30.5	27.2	28.4	8.6	1.1

【本人調査】　問6. 生活充足感 （12）社会の役に立つこと

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	37	314	814	540	219	68
(%)	1992	1.9	15.8	40.9	27.1	11.0	3.4
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	60	493	1138	976	448	74
(%)	3189	1.9	15.5	35.7	30.6	14.0	2.3
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	85	601	1121	755	306	41
(%)	2909	2.9	20.7	38.5	26.0	10.5	1.4
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	89	679	1113	790	315	65
(%)	3051	2.9	22.3	36.5	25.9	10.3	2.1

【本人調査】　問7. 性格 （1）人との関係やつながりを大切にする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	745	1009	162	13	63
(%)	1992	37.4	50.7	8.1	0.7	3.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1685	1286	181	13	24
(%)	3189	52.8	40.3	5.7	0.4	0.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1608	1110	151	10	30
(%)	2909	55.3	38.2	5.2	0.3	1.0
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	1534	1249	179	8	81
(%)	3051	50.3	40.9	5.9	0.3	2.7

【本人調査】　問7. 性格 （2）自分の世界や個性を大切にする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	460	1070	375	20	67
(%)	1992	23.1	53.7	18.8	1.0	3.4
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1041	1556	514	25	53
(%)	3189	32.6	48.8	16.1	0.8	1.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	968	1408	468	22	43
(%)	2909	33.3	48.4	16.1	0.8	1.5
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	870	1487	506	23	165
(%)	3051	28.5	48.7	16.6	0.8	5.4

【本人調査】　問7. 性格 （3）いつも目標に向かってつき進む

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	249	909	718	46	70
(%)	1992	12.5	45.6	36.0	2.3	3.5
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	596	1556	901	77	59
(%)	3189	18.7	48.8	28.3	2.4	1.9
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	584	1429	804	46	46
(%)	2909	20.1	49.1	27.6	1.6	1.6
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	623	1414	802	53	159
(%)	3051	20.4	46.3	26.3	1.7	5.2

【本人調査】　問7. 性格 （4）無理をせずマイペースで進む

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	385	1083	430	32	62
(%)	1992	19.3	54.4	21.6	1.6	3.1
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	795	1691	607	52	44
(%)	3189	24.9	53.0	19.0	1.6	1.4
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	740	1541	545	50	33
(%)	2909	25.4	53.0	18.7	1.7	1.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	885	1548	468	36	114
(%)	3051	29.0	50.7	15.3	1.2	3.7

【本人調査】　問7. 性格　(5)他人にはない自分なりの価値観を持っている

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	333	1047	521	25	66
(%)	1992	16.7	52.6	26.2	1.3	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	746	1567	775	51	50
(%)	3189	23.4	49.1	24.3	1.6	1.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	729	1514	588	36	42
(%)	2909	25.1	52.0	20.2	1.2	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	−	−	−	−	−
(%)	3051	−	−	−	−	−

【本人調査】　問7. 性格　(6)自分には他人にない優れたところがある

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	134	821	901	70	66
(%)	1992	6.7	41.2	45.2	3.5	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	314	1375	1318	125	57
(%)	3189	9.8	43.1	41.3	3.9	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	364	1346	1058	98	43
(%)	2909	12.5	46.3	36.4	3.4	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	−	−	−	−	−
(%)	3051	−	−	−	−	−

【本人調査】　問7. 性格　(7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	185	767	885	93	62
(%)	1992	9.3	38.5	44.4	4.7	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	511	1323	1167	139	49
(%)	3189	16.0	41.5	36.6	4.4	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	512	1187	1064	110	36
(%)	2909	17.6	40.8	36.6	3.8	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	501	1172	1092	134	152
(%)	3051	16.4	38.4	35.8	4.4	5.0

【本人調査】　問7. 性格　(8)一つのことにじっくり取り組む

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	200	932	750	46	64
(%)	1992	10.0	46.8	37.7	2.3	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	500	1387	1144	100	58
(%)	3189	15.7	43.5	35.9	3.1	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	468	1283	1034	86	38
(%)	2909	16.1	44.1	35.5	3.0	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	521	1335	954	90	151
(%)	3051	17.1	43.8	31.3	2.9	4.9

【本人調査】　問7. 性格　(9)指導者的立場に立とうとする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	90	597	992	243	70
(%)	1992	4.5	30.0	49.8	12.2	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	207	1027	1443	453	59
(%)	3189	6.5	32.2	45.2	14.2	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	257	1093	1171	343	45
(%)	2909	8.8	37.6	40.3	11.8	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	269	1039	1192	388	163
(%)	3051	8.8	34.1	39.1	12.7	5.3

【本人調査】　問7. 性格　(10)新しいグループの中にわりと気軽に入れる

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	156	734	892	145	65
(%)	1992	7.8	36.8	44.8	7.3	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	299	1211	1365	261	53
(%)	3189	9.4	38.0	42.8	8.2	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	349	1177	1123	225	35
(%)	2909	12.0	40.5	38.6	7.7	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	310	1084	1251	256	150
(%)	3051	10.2	35.5	41.0	8.4	4.9

【本人調査】　問7. 性格　(11)いろいろな人の話や意見をよく聞く

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	322	1257	330	18	65
(%)	1992	16.2	63.1	16.6	0.9	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	708	1911	485	37	48
(%)	3189	22.2	59.9	15.2	1.2	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	778	1655	410	31	35
(%)	2909	26.7	56.9	14.1	1.1	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	805	1720	349	42	135
(%)	3051	26.4	56.4	11.4	1.4	4.4

【本人調査】　問7. 性格　(12)上下の立場や関係を尊重する

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	427	1198	281	17	69
(%)	1992	21.4	60.1	14.1	0.9	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	796	1725	544	76	48
(%)	3189	25.0	54.1	17.1	2.4	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	810	1512	502	45	40
(%)	2909	27.8	52.0	17.3	1.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	993	1450	399	55	154
(%)	3051	32.5	47.5	13.1	1.8	5.0

【本人調査】　問7. 性格 （13）どんなところでも結構楽しみを見出す

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	226	974	703	26	63
(%)	1992	11.3	48.9	35.3	1.3	3.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	476	1606	980	83	44
(%)	3189	14.9	50.4	30.7	2.6	1.4
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	478	1413	904	74	40
(%)	2909	16.4	48.6	31.1	2.5	1.4
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	459	1462	915	72	143
(%)	3051	15.0	47.9	30.0	2.4	4.7

【本人調査】　問8. 生きがいの意味

	総数	生活の活力やはりあい	生活のリズムやメリハリ	心の安らぎや気晴らし	生きる喜びや満足感	人生観や価値観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	他人や社会の役に立っていると感じること	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	593	213	486	840	160	412	284	440	272	23	58
(%)	1992	29.8	10.7	24.4	42.2	8.0	20.7	14.3	22.1	13.7	1.2	2.9
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	831	325	851	1291	277	559	582	898	544	20	16
(%)	3189	26.1	10.2	26.7	40.5	8.7	17.5	18.3	28.2	17.1	0.6	0.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	761	281	723	1270	230	592	459	719	557	9	33
(%)	2909	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1	0.3	1.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	1073	217	760	1433	297	597	679	－	777	8	30
(%)	3051	35.2	7.1	24.9	47.0	9.7	19.6	22.3	－	25.5	0.3	1.0

【本人調査】　問8付問. 生きがいの有無

	総数	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1133	156	260	364	79
(%)	1992	56.9	7.8	13.1	18.3	4.0
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	2145	228	267	496	53
(%)	3189	67.3	7.1	8.4	15.6	1.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	2280	151	194	248	36
(%)	2909	78.4	5.2	6.7	8.5	1.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	2021	282	400	297	51
(%)	3051	66.2	9.2	13.1	9.7	1.7

【本人調査】　問9. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人との交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままにすごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	539	828	320	62	122	310	462	1070	374	323	246	262	25	63
(%)	1992	27.1	41.6	16.1	3.1	6.1	15.6	23.2	53.7	18.8	16.2	12.3	13.2	1.3	3.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1124	1400	466	182	185	588	733	1762	595	584	345	403	33	27
(%)	3189	35.2	43.9	14.6	5.7	5.8	18.4	23.0	55.3	18.7	18.3	10.8	12.6	1.0	0.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	944	1094	352	136	205	516	498	1051	401	463	204	310	16	5
(%)	2909	32.5	37.6	12.1	4.7	7.0	17.7	17.1	36.1	13.8	15.9	7.0	10.7	0.6	0.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	3051	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （1）生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1342	886	117	380	119	100	20	75
(%)	1992	67.4	44.5	5.9	19.1	6.0	5.0	1.0	3.8
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	2252	1477	188	728	192	155	26	115
(%)	3189	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8	3.6
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1970	1372	170	558	162	118	28	207
(%)	2909	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0	7.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	2087	1750	136	477	214	87	26	135
(%)	3051	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9	4.4

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （2）生活のどの場で、リズムやメリハリがつきますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	908	1198	128	262	187	88	34	97
(%)	1992	45.6	60.1	6.4	13.2	9.4	4.4	1.7	4.9
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1535	1782	208	505	276	170	54	196
(%)	3189	48.1	55.9	6.5	15.8	8.7	5.3	1.7	6.1
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1316	1605	189	386	292	148	45	330
(%)	2909	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0	5.1	1.5	11.3
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	3051	－	－	－	－	－	－	－	－

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （3）心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1546	94	99	715	73	231	22	83
(%)	1992	77.6	4.7	5.0	35.9	3.7	11.6	1.1	4.2
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	2492	198	157	1295	104	364	29	149
(%)	3189	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9	4.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	2280	167	159	1037	131	314	16	211
(%)	2909	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6	7.3
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	2487	273	154	1138	132	308	16	148
(%)	3051	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5	4.9

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （4）どの場で喜びや満足感を感じることが多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1315	675	103	449	102	189	33	94
(%)	1992	66.0	33.9	5.2	22.5	5.1	9.5	1.7	4.7
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	2093	1213	188	699	206	280	44	182
(%)	3189	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4	5.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1828	1096	171	525	182	238	36	305
(%)	2909	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2	10.5
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	1818	1516	156	392	250	210	55	242
(%)	3051	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8	7.9

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （5）人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	718	767	134	585	469	142	56	95
(%)	1992	36.0	38.5	6.7	29.4	23.5	7.1	2.8	4.8
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1102	1274	174	924	845	228	89	214
(%)	3189	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8	6.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	912	1095	181	809	766	179	87	316
(%)	2909	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0	10.9
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	707	1355	190	865	992	192	78	267
(%)	3051	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6	8.8

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （6）生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1348	733	93	116	281	158	32	101
(%)	1992	67.7	36.8	4.7	5.8	14.1	7.9	1.6	5.1
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	2245	1121	176	169	493	240	59	213
(%)	3189	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9	6.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1970	995	183	124	481	168	42	307
(%)	2909	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4	10.6
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	2095	1221	151	86	538	156	41	271
(%)	3051	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3	8.9

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （7）どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	439	1225	183	283	543	125	55	93
(%)	1992	22.0	61.5	9.2	14.2	27.3	6.3	2.8	4.7
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	691	1865	279	490	925	231	58	213
(%)	3189	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8	6.7
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	583	1642	255	394	852	173	62	326
(%)	2909	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1	11.2
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	434	1908	263	404	1117	153	52	266
(%)	3051	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7	8.7

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （8）可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	438	1331	176	123	366	193	75	94
(%)	1992	22.0	66.8	8.8	6.2	18.4	9.7	3.8	4.7
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	730	2036	316	183	616	320	111	191
(%)	3189	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5	6.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	649	1854	262	126	551	240	97	318
(%)	2909	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3	10.9
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	572	2109	280	129	624	230	127	261
(%)	3051	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2	8.6

【本人調査】　問10. 生きがい構成要素取得の場 （9）役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	753	1276	234	166	231	96	79	89
(%)	1992	37.8	64.1	11.7	8.3	11.6	4.8	4.0	4.5
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1248	1922	370	313	421	173	136	174
(%)	3189	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3	5.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1077	1789	328	217	383	144	111	256
(%)	2909	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8	8.8
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	962	2079	346	254	471	132	106	219
(%)	3051	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5	7.2

【本人調査】　問11. （1）配偶者は自分のことを応援してくれる

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	738	699	92	7	40
(%)	1576	46.8	44.4	5.8	0.4	2.5
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	－	－	－	－	－
(%)	2597	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	－	－	－	－	－
(%)	2477	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	－	－	－	－	－
(%)	2737	－	－	－	－	－

【本人調査】　問11. （2）自分は配偶者の良き理解者である

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	515	798	211	13	39
(%)	1576	32.7	50.6	13.4	0.8	2.5
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	839	1439	255	12	52
(%)	2597	32.3	55.4	9.8	0.5	2.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	863	1318	239	4	53
(%)	2477	34.8	53.2	9.6	0.2	2.1
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	934	1414	225	6	158
(%)	2737	34.1	51.7	8.2	0.2	5.8

【本人調査】　問11．(3)配偶者と価値観・考え方が似ている

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	210	671	563	89	43
(%)	1576	13.3	42.6	35.7	5.6	2.7
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	321	1089	974	148	65
(%)	2597	12.4	41.9	37.5	5.7	2.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	301	1044	944	127	61
(%)	2477	12.2	42.1	38.1	5.1	2.5
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	－	－	－	－	－
(%)	2737	－	－	－	－	－

【本人調査】　問11．(4)よく一緒に出かける

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	485	633	364	55	39
(%)	1576	30.8	40.2	23.1	3.5	2.5
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	889	971	593	77	67
(%)	2597	34.2	37.4	22.8	3.0	2.6
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	776	984	584	70	63
(%)	2477	31.3	39.7	23.6	2.8	2.5
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	704	1030	767	71	165
(%)	2737	25.7	37.6	28.0	2.6	6.0

【本人調査】　問11．(5)会話がある

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	510	774	233	21	38
(%)	1576	32.4	49.1	14.8	1.3	2.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	756	1289	452	34	66
(%)	2597	29.1	49.6	17.4	1.3	2.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	678	1308	413	22	56
(%)	2477	27.4	52.8	16.7	0.9	2.3
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	675	1412	459	24	167
(%)	2737	24.7	51.6	16.8	0.9	6.1

【本人調査】　問11．(6)配偶者は自分を自由にさせてくれる

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	531	826	159	12	48
(%)	1576	33.7	52.4	10.1	0.8	3.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	－	－	－	－	－
(%)	2597	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	－	－	－	－	－
(%)	2477	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	－	－	－	－	－
(%)	2737	－	－	－	－	－

【本人調査】　問11．(7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	非該当	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	103	179	364	519	352	59
(%)	1576	6.5	11.4	23.1	32.9	22.3	3.7
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	－	－	－	－	－	－
(%)	2597	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	－	－	－	－	－	－
(%)	2477	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	－	－	－	－	－	－
(%)	2737	－	－	－	－	－	－

【本人調査】　問11．(8)配偶者は金銭的にうるさい

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	67	260	845	357	47
(%)	1576	4.3	16.5	53.6	22.7	3.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	－	－	－	－	－
(%)	2597	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	－	－	－	－	－
(%)	2477	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	－	－	－	－	－
(%)	2737	－	－	－	－	－

【本人調査】　問11．(9)配偶者は自分によりかかりすぎる

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	42	325	878	287	44
(%)	1576	2.7	20.6	55.7	18.2	2.8
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	136	646	1545	204	66
(%)	2597	5.2	24.9	59.5	7.9	2.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	－	－	－	－	－
(%)	2477	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	161	779	1478	156	163
(%)	2737	5.9	28.5	54.0	5.7	6.0

【本人調査】　問11．(10)配偶者にもっと家事をして欲しい

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1576	73	268	678	511	46
(%)	1576	4.6	17.0	43.0	32.4	2.9
≪第3回調査（平成13年）≫	2597	－	－	－	－	－
(%)	2597	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2477	－	－	－	－	－
(%)	2477	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2737	－	－	－	－	－
(%)	2737	－	－	－	－	－

【本人調査】　問12．(1)子育てはうまくいっている、うまくいった

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1220	163	658	148	11	240
(%)	1220	13.4	53.9	12.1	0.9	19.7
≪第3回調査（平成13年）≫	1933	－	－	－	－	－
(%)	1933	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	1745	－	－	－	－	－
(%)	1745	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	1887	－	－	－	－	－
(%)	1887	－	－	－	－	－

【本人調査】　問12．(2)子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている。

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1220	211	504	240	22	243
(%)	1220	17.3	41.3	19.7	1.8	19.9
≪第3回調査（平成13年）≫	1933	－	－	－	－	－
(%)	1933	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	1745	－	－	－	－	－
(%)	1745	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	1887	－	－	－	－	－
(%)	1887	－	－	－	－	－

【本人調査】　問13．定年経験の有無、定年・退職年齢

	総数	まだ定年前	定年前に退職した	定年退職した	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1992	1281	177	454	80
(%)	1992	64.3	8.9	22.8	4.0
≪第3回調査（平成13年）≫	3189	1920	226	1032	11
(%)	3189	60.2	7.1	32.4	0.3
≪第2回調査（平成8年）≫	2909	1832	184	860	33
(%)	2909	63.0	6.3	29.6	1.1
≪第1回調査（平成3年）≫	3051	1778	198	877	198
(%)	3051	58.3	6.5	28.7	6.5

【本人調査】　※問13．定年経験の有無、定年・退職年齢（「定年前」の定年）

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均（歳）
≪今回調査（平成18年）≫	1281	1	0	68	1046	86	5	3	72	60.2
(%)	1281	0.1	0.0	5.3	81.7	6.7	0.4	0.2	5.6	60.2
≪第3回調査（平成13年）≫	1920	5	11	125	1476	81	11	1	210	59.9
(%)	1920	0.3	0.6	6.5	76.9	4.2	0.6	0.1	10.9	59.9
≪第2回調査（平成8年）≫	1832	5	5	136	1382	62	4	3	235	59.9
(%)	1832	0.3	0.3	7.4	75.4	3.4	0.2	0.2	12.8	59.9
≪第1回調査（平成3年）≫	1778	0	1	299	1320	79	0	0	79	59.6
(%)	1778	0.0	0.1	16.8	74.2	4.4	0.0	0.0	4.4	59.6

【本人調査】　※問13．定年経験の有無、定年・退職年齢（「定年前に退職」の退職年齢）

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均（歳）
≪今回調査（平成18年）≫	177	29	33	98	14	2	1	0	0	53.7
(%)	177	16.4	18.6	55.4	7.9	1.1	0.6	0.0	0.0	53.7
≪第3回調査（平成13年）≫	226	16	54	120	25	4	0	0	7	55.6
(%)	226	7.1	23.9	53.1	11.1	1.8	0.0	0.0	3.1	55.6
≪第2回調査（平成8年）≫	184	8	42	89	34	9	1	0	1	56.5
(%)	184	4.3	22.8	48.4	18.5	4.9	0.5	0.0	0.5	56.5
≪第1回調査（平成3年）≫	198	0	52	102	31	2	0	0	11	56.3
(%)	198	0.0	26.3	51.5	15.7	1.0	0.0	0.0	5.6	56.3

【本人調査】　※問13．定年経験の有無、定年・退職年齢（「定年退職」の定年）

	該当数	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均（歳）
≪今回調査（平成18年）≫	454	1	2	53	360	33	5	0	0	60.1
(%)	454	0.2	0.4	11.7	79.3	7.3	1.1	0.0	0.0	60.1
≪第3回調査（平成13年）≫	1032	1	16	181	725	69	6	0	34	59.8
(%)	1032	0.1	1.6	17.5	70.3	6.7	0.6	0.0	3.3	59.8
≪第2回調査（平成8年）≫	860	1	5	210	557	74	7	0	6	59.7
(%)	860	0.1	0.6	24.4	64.8	8.6	0.8	0.0	0.7	59.7
≪第1回調査（平成3年）≫	877	0	20	367	423	56	0	0	11	58.7
(%)	877	0.0	2.3	41.8	48.2	6.4	0.0	0.0	1.3	58.7

【本人調査】　問14(1)．定年後の経済基盤として重視するもの（現役）

	該当数	公的年金	企業年金	退職金	生命保険の保険金や個人年金	預貯金の取りくずし	就労による収入	子ども等からの経済的支援	その他	わからない・考えたことがない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1281	982	639	585	285	345	430	9	30	33	14
(%)	1281	76.7	49.9	45.7	22.2	26.9	33.6	0.7	2.3	2.6	1.1
≪第3回調査（平成13年）≫	1920	1385	1007	793	385	491	582	17	37	68	23
(%)	1920	72.1	52.4	41.3	20.1	25.6	30.3	0.9	1.9	3.5	1.2
≪第2回調査（平成8年）≫	1832	1426	979	708	470	321	573	12	44	72	23
(%)	1832	77.8	53.4	38.6	25.7	17.5	31.3	0.7	2.4	3.9	1.3
≪第1回調査（平成3年）≫	1778	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1778	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【本人調査】　問14(2)．定年までの勤務希望（現役）

	該当数	定年まで勤めたい	定年前に退職したい	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1281	1043	219	19
(%)	1281	81.4	17.1	1.5
≪第3回調査（平成13年）≫	1920	1506	357	57
(%)	1920	78.4	18.6	3.0
≪第2回調査（平成8年）≫	1832	1465	264	103
(%)	1832	80.0	14.4	5.6
≪第1回調査（平成3年）≫	1778	1440	303	35
(%)	1778	81.0	17.0	2.0

【本人調査】　※問14(2). 定年までの勤務希望(退職までの希望年数)(現役)

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)＊0年含む
≪今回調査(平成18年)≫	219	81	54	45	11	5	0	23	6.1
(%)	219	37.0	24.7	20.5	5.0	2.3	0.0	10.5	6.1
≪第3回調査(平成13年)≫	357	125	93	78	15	5	0	41	6.1
(%)	357	35.0	26.1	21.8	4.2	1.4	0.0	11.5	6.1
≪第2回調査(平成8年)≫	264	97	81	45	13	2	5	21	5.6
(%)	264	36.7	30.7	17.0	4.9	0.8	1.9	8.0	5.6
≪第1回調査(平成3年)≫	303	94	94	55	12	3	0	45	5.8
(%)	303	31.0	31.0	18.2	4.0	1.0	0.0	14.9	5.8

【本人調査】　問14(3). 退職後の就業希望(現役)

	該当数	退職とともに職業生活から引退したい	できれば仕事を継続したい	定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい	退職後は別の企業に再就職したい	退職後は自分で事業や商売を始めたい(自由業を含む)	退職後は家業を手伝いたい	退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	その他	わからない・考えたことがない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1281	327	452	98	100	100	16	81	20	76	11
(%)	1281	25.5	35.3	7.7	7.8	7.8	1.2	6.3	1.6	5.9	0.9
≪第3回調査(平成13年)≫	1920	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1920	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	1832	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1832	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	1778	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1778	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【本人調査】　※問14(3). 勤務継続の希望(現役)

	該当数	満額年金受給時まで	元気なうちはいつまでも	(　)歳まで(計)	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	年齢無回答	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	452	127	295	16	0	1	0	4	11	0	0	0	14
(%)	452	28.1	65.3	3.5	0.0	0.2	0.0	0.9	2.4	0.0	0.0	0.0	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【本人調査】　問14(4). 過去5年間に経験したライフイベント(現役)

	総数	子どもや孫の誕生	子どもの成人・就職	子どもや孫との別居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族の入院	配偶者の死	その他の家族の死	昇進・昇格	出向・転籍	災害等による資産の減少・経済的困難	自宅の購入・建て替え	親の介護	親との新たな同居
≪今回調査(平成18年)≫	1281	269	271	97	127	149	107	367	14	289	467	144	17	244	147	37
(%)	1281	21.0	21.2	7.6	9.9	11.6	8.4	28.6	1.1	22.6	36.5	11.2	1.3	19.0	11.5	2.9
≪第3回調査(平成13年)≫	1920	343	410	126	240	241	173	515	9	423	658	273	25	366	－	－
(%)	1920	17.9	21.4	6.6	12.5	12.6	9.0	26.8	0.5	22.0	34.3	14.2	1.3	19.1	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	1832	346	419	111	232	265	179	410	12	340	557	229	43	337	－	－
(%)	1832	18.9	22.9	6.1	12.7	14.5	9.8	22.4	0.7	18.6	30.4	12.5	2.3	18.4	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	1778	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1778	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

	いずれもない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	151	8
(%)	11.8	0.6
≪第3回調査(平成13年)≫	191	77
(%)	9.9	4.0
≪第2回調査(平成8年)≫	179	79
(%)	9.8	4.3
≪第1回調査(平成3年)≫	－	－
(%)	－	－

【本人調査】　問15(1). 退職前の職種(OB)

	該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	631	22	355	129	14	50	6	30	25
(%)	631	3.5	56.3	20.4	2.2	7.9	1.0	4.8	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	1258	50	663	260	32	161	11	50	31
(%)	1258	4.0	52.7	20.7	2.5	12.8	0.9	4.0	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	1044	48	573	174	14	132	12	33	58
(%)	1044	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2	5.6
≪第1回調査(平成3年)≫	1075	39	606	173	13	157	5	19	63
(%)	1075	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8	5.9

【本人調査】　問15(2). 退職前の勤務先の企業規模(OB)

	該当数	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	631	66	55	80	76	331	23
(%)	631	10.5	8.7	12.7	12.0	52.5	3.6
≪第3回調査(平成13年)≫	1258	88	81	103	99	856	31
(%)	1258	7.0	6.4	8.2	7.9	68.0	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	1044	55	76	91	110	661	51
(%)	1044	5.3	7.3	8.7	10.5	63.3	4.9
≪第1回調査(平成3年)≫	1075	60	81	103	130	665	36
(%)	1075	5.6	7.5	9.6	12.1	61.9	3.3

【本人調査】　問15(3). 退職後の就業の有無・形態(OB)

	該当数	退職とともに職業生活から引退した	退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた	退職後は出向先に移籍した	退職後は別の企業に再就職した	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝うようになった	退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	631	170	114	69	185	16	2	9	51	15
(%)	631	26.9	18.1	10.9	29.3	2.5	0.3	1.4	8.1	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	1258	402	208	155	300	42	13	31	80	27
(%)	1258	32.0	16.5	12.3	23.8	3.3	1.0	2.5	6.4	2.1
≪第2回調査(平成8年)≫	1044	290	182	108	272	42	20	22	60	48
(%)	1044	27.8	17.4	10.3	26.1	4.0	1.9	2.1	5.7	4.6
≪第1回調査(平成3年)≫	1075	237	220	113	328	37	19	13	34	74
(%)	1075	22.0	20.5	10.5	30.5	3.4	1.8	1.2	3.2	6.9

【本人調査】　問15(4). 定年後の生活問題(OB)

	該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	その他の家族の入院や死	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	親との新たな同居	生活のはりあいや生きがいがなくなった	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減って困った	世の中の情報化の進展についていけず困った	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました
≪今回調査(平成18年)≫	631	182	17	192	72	30	74	32	17	13	57	56	121	41	11	76
(%)	631	28.8	2.7	30.4	11.4	4.8	11.7	5.1	2.7	2.1	9.0	8.9	19.2	6.5	1.7	12.0
≪第3回調査(平成13年)≫	1258	386	40	414	140	44	−	115	22	−	121	100	213	75	24	146
(%)	1258	30.7	3.2	32.9	11.1	3.5	−	9.1	1.7	−	9.6	7.9	16.9	6.0	1.9	11.6
≪第2回調査(平成8年)≫	1044	247	28	341	103	40	−	86	17	−	80	86	148	43	16	100
(%)	1044	23.7	2.7	32.7	9.9	3.8	−	8.2	1.6	−	7.7	8.2	14.2	4.1	1.5	9.6
≪第1回調査(平成3年)≫	1075	258	26	313	−	44	−	82	21	−	75	115	174	−	25	106
(%)	1075	24.0	2.4	29.1	−	4.1	−	7.6	2.0	−	7.0	10.7	16.2	−	2.3	9.9

	地域社会にとけこめなかった	その他	特に問題はなかった	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	21	7	159	32
(%)	3.3	1.1	25.2	5.1
≪第3回調査(平成13年)≫	60	39	351	56
(%)	4.8	3.1	27.9	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	43	10	296	65
(%)	4.1	1.0	28.4	6.2
≪第1回調査(平成3年)≫	39	14	357	61
(%)	3.6	1.3	33.2	5.7

【本人調査】　問16(1). 定年退職へ向けて必要な個人的対応

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人との交流を深める	会社以外の活動の場をつくっておく	その他	特に何も必要ない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	1562	1158	925	235	714	401	273	389	5	11	23
(%)	1992	78.4	58.1	46.4	11.8	35.8	20.1	13.7	19.5	0.3	0.6	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	2012	1520	945	406	524	299	170	367	5	7	59
(%)	3189	63.1	47.7	29.6	12.7	16.4	9.4	5.3	11.5	0.2	0.2	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	1800	1297	895	340	498	257	173	291	2	15	73
(%)	2909	61.9	44.6	30.8	11.7	17.1	8.8	5.9	10.0	0.1	0.5	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	1929	1518	1002	414	409	256	182	305	6	15	46
(%)	3051	63.2	49.8	32.8	13.6	13.4	8.4	6.0	10.0	0.2	0.5	1.5

【本人調査】　問16(1)付問. 定年退職へ向けて準備している(していた)こと

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人との交流を深める	会社以外の活動の場をつくっておく	その他	特に何も必要ない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	1315	1024	784	175	803	644	325	299	19	90	51
(%)	1992	66.0	51.4	39.4	8.8	40.3	32.3	16.3	15.0	1.0	4.5	2.6
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	1969	1527	1189	379	978	874	425	366	39	183	94
(%)	3189	61.7	47.9	37.3	11.9	30.7	27.4	13.3	11.5	1.2	5.7	2.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	1957	1536	1265	367	1102	964	487	436	22	130	86
(%)	2909	67.3	52.8	43.5	12.6	37.9	33.1	16.7	15.0	0.8	4.5	3.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	1891	1621	1297	411	929	933	496	419	27	184	148
(%)	3051	62.0	53.1	42.5	13.5	30.4	30.6	16.3	13.7	0.9	6.0	4.9

【本人調査】　問16(2). 定年退職へ向けて必要な企業の対応

	総数	退職準備教育や退職相談を充実させる	企業年金の充実など社員の経済的基盤充実に力を入れる	労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	希望者には定年年齢を延長させる	定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	退職に向けたセミナーの充実	その他	特に何も必要ない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	678	1026	505	452	887	972	329	231	509	20	79	33
(%)	1992	34.0	51.5	25.4	22.7	44.5	48.8	16.5	11.6	25.6	1.0	4.0	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	747	1339	447	547	858	1015	302	208	−	29	133	88
(%)	3189	23.4	42.0	14.0	17.2	26.9	31.8	9.5	6.5	−	0.9	4.2	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	747	1342	457	500	728	827	258	169	−	11	76	149
(%)	2909	25.7	46.1	15.7	17.2	25.0	28.4	8.9	5.8	−	0.4	2.6	5.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	687	1617	622	464	681	911	285	170	−	13	51	119
(%)	3051	22.5	53.0	20.4	15.2	22.3	29.9	9.3	5.6	−	0.4	1.7	3.9

【本人調査】　問16(3). 定年退職へ向けて必要な社会的対応

	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンOBが出入りできる交流の場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	その他	特に何も必要ない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	1150	1178	408	741	559	462	41	60	36
(%)	1992	57.7	59.1	20.5	37.2	28.1	23.2	2.1	3.0	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	1592	1516	313	790	638	481	35	98	76
(%)	3189	49.9	47.5	9.8	24.8	20.0	15.1	1.1	3.1	2.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	1514	1275	387	761	595	393	20	59	142
(%)	2909	52.0	43.8	13.3	26.2	20.5	13.5	0.7	2.0	4.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	1554	1457	497	734	567	547	11	33	117
(%)	3051	50.9	47.8	16.3	24.1	18.6	17.9	0.4	1.1	3.8

【本人調査】　問16(4). 定年に関する意見・提案

	総数	回答あり	回答なし
≪今回調査(平成18年)≫	1992	264	1728
(%)	1992	13.3	86.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	401	2788
(%)	3189	12.6	87.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	0	2909
(%)	2909	0.0	100.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	0	3051
(%)	3051	0.0	100.0

【フェイスシート】

【フェイスシート】　F1. 性別・年齢(性別)

	総数	男	女	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	1482	496	14
(%)	1992	74.4	24.9	0.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	2372	776	41
(%)	3189	74.4	24.3	1.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	2296	547	66
(%)	2909	78.9	18.8	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	2440	578	33
(%)	3051	80.0	18.9	1.1

【フェイスシート】　F1. 性別・年齢(年齢)

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪今回調査(平成18年)≫	1992	0	252	219	243	235	345	218	285	143	0	52	54.0
(%)	1992	0.0	12.7	11.0	12.2	11.8	17.3	10.9	14.3	7.2	0.0	2.6	54.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	0	341	331	358	419	448	407	556	248	0	81	54.9
(%)	3189	0.0	10.7	10.4	11.2	13.1	14.0	12.8	17.4	7.8	0.0	2.5	54.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	0	262	336	348	314	405	399	521	214	0	110	55.2
(%)	2909	0.0	9.0	11.6	12.0	10.8	13.9	13.7	17.9	7.4	0.0	3.8	55.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	0	265	426	362	360	425	439	472	230	0	72	54.6
(%)	3051	0.0	8.7	14.0	11.9	11.8	13.9	14.4	15.5	7.5	0.0	2.4	54.6

【フェイスシート】　F2. 未既婚

	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	267	1576	57	74	18
(%)	1992	13.4	79.1	2.9	3.7	0.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	370	2597	70	105	47
(%)	3189	11.6	81.4	2.2	3.3	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	248	2477	43	99	42
(%)	2909	8.5	85.1	1.5	3.4	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	176	2737	41	65	32
(%)	3051	5.8	89.7	1.3	2.1	1.0

【フェイスシート】　F3. 世帯構成

	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分)と未婚の子	自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦	自分たち夫婦(または自分)と親	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	194	525	762	74	384	30	23
(%)	1992	9.7	26.4	38.3	3.7	19.3	1.5	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	281	759	1226	143	564	72	144
(%)	3189	8.8	23.8	38.4	4.5	17.7	2.3	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	191	701	1136	148	461	171	101
(%)	2909	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	174	780	1282	194	411	84	126
(%)	3051	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1

【フェイスシート】　F4. 子供の有無

	総数	子どもがいる	子どもはいない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	1387	365	240
(%)	1992	69.6	18.3	12.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	－	－	－
(%)	3189	－	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	－	－	－
(%)	2909	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	－	－	－
(%)	3051	－	－	－

【フェイスシート】　※F4. 子供の人数

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	1387	254	848	257	25	3	0	0	2.0
(%)	1387	18.3	61.1	18.5	1.8	0.2	0.0	0.0	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【フェイスシート】　※F4. 子供の年齢(第一子)

	該当者	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	平均(歳)
≪今回調査(平成18年)≫	1387	160	277	327	434	168	7	0	14	25.7
(%)	1387	11.5	20.0	23.6	31.3	12.1	0.5	0.0	1.0	25.7
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. 子供の年齢(末子)

	該当者	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	平均(歳)
≪今回調査(平成18年)≫	1133	183	240	319	325	54	1	0	11	22.9
(%)	1133	16.2	21.2	28.2	28.7	4.8	0.1	0.0	1.0	22.9
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. ・子供の就業状況 (1)正規従業員のお子さまの人数

	該当者	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	955	246	367	295	45	2	0	1.2
(%)	955	25.8	38.4	30.9	4.7	0.2	0.0	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. ・子供の就業状況 (2)派遣社員・スタッフなどのお子さまの人数

	該当者	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	955	771	159	23	2	0	0	0.2
(%)	955	80.7	16.6	2.4	0.2	0.0	0.0	0.2
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. ・子供の就業状況 (3)未就業のお子さまの人数(学生は除く)

	該当者	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	955	837	109	8	0	1	0	0.1
(%)	955	87.6	11.4	0.8	0.0	0.1	0.0	0.1
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. ・子供の就業状況 (4)学生のお子さまの人数

	該当者	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	955	697	182	64	12	0	0	0.4
(%)	955	73.0	19.1	6.7	1.3	0.0	0.0	0.4
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. ・子供の結婚状況 (1)有配偶の子ども

	該当者	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	855	335	232	247	36	5	0	1.0
(%)	855	39.2	27.1	28.9	4.2	0.6	0.0	1.0
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　※F4. ・子供の結婚状況 (2)無配偶の子ども

	該当者	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
≪今回調査(平成18年)≫	855	360	255	184	53	2	1	1.0
(%)	855	42.1	29.8	21.5	6.2	0.2	0.1	1.0
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　F5. 居住地(都道府県)

	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	110	764	302	236	132	208	240
(%)	1992	5.5	38.4	15.2	11.8	6.6	10.4	12.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	248	1322	484	574	236	252	73
(%)	3189	7.8	41.5	15.2	18.0	7.4	7.9	2.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	195	796	825	580	221	176	116
(%)	2909	6.7	27.4	28.4	19.9	7.6	6.1	4.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	271	1131	436	589	316	234	74
(%)	3051	8.9	37.1	14.3	19.3	10.4	7.7	2.4

【フェイスシート】　F5. 居住地(市町村)

	総数	東京23区・政令指定都市	その他の市	郡部	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	513	1118	73	288
(%)	1992	25.8	56.1	3.7	14.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	879	1942	256	112
(%)	3189	27.6	60.9	8.0	3.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	804	1661	274	170
(%)	2909	27.6	57.1	9.4	5.8
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	865	1780	300	106
(%)	3051	28.4	58.3	9.8	3.5

【フェイスシート】　F6. 居住年数

	総数	5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上～30年未満	30年以上	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	177	203	373	309	752	178
(%)	1992	8.9	10.2	18.7	15.5	37.8	8.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	328	350	584	675	1198	54
(%)	3189	10.3	11.0	18.3	21.2	37.6	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	304	244	660	636	968	97
(%)	2909	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	347	313	818	548	992	33
(%)	3051	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1

【フェイスシート】　F7. 住居形態

	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	1237	314	44	46	167	16	168
(%)	1992	62.1	15.8	2.2	2.3	8.4	0.8	8.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	2125	471	123	113	201	12	144
(%)	3189	66.6	14.8	3.9	3.5	6.3	0.4	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	2057	338	100	102	187	30	95
(%)	2909	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	2210	283	140	114	229	27	48
(%)	3051	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

【フェイスシート】　F7付問. 住宅ローンの有無

	総数	払っている	払っていない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	619	1174	199
(%)	1992	31.1	58.9	10.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	1019	1962	208
(%)	3189	32.0	61.5	6.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	－	－	－
(%)	2909	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	1041	1373	79
(%)	3051	34.1	45.0	2.6

【フェイスシート】　※F7付問. 住宅ローンの有無(残り支払年数)

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)＊0年含む
≪今回調査(平成18年)≫	619	65	80	98	103	228	0	45	16.2
(%)	619	10.5	12.9	15.8	16.6	36.8	0.0	7.3	16.2
≪第3回調査(平成13年)≫	1019	96	164	213	152	333	0	61	15.4
(%)	1019	9.4	16.1	20.9	14.9	32.7	0.0	6.0	15.4
≪第2回調査(平成8年)≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	1041	154	209	203	176	255	7	37	12.8
(%)	1041	14.8	20.1	19.5	16.9	24.5	0.7	3.6	12.8

【フェイスシート】　F8. 最終学歴

	総数	小学校・高等小学校・新制中学校	旧制中学校・高等女学校・実業学校・新制高等学校	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	大学・大学院	専門学校・専修学校	その他	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	120.0	608.0	132.0	803.0	149.0	4.0	176.0
(%)	1992	6.0	30.5	6.6	40.3	7.5	0.2	8.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	287.0	1162.0	164.0	1276.0	138.0	10.0	152.0
(%)	3189	9.0	36.4	5.1	40.0	4.3	0.3	4.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	346.0	1193.0	170.0	952.0	103.0	44.0	101.0
(%)	2909	11.9	41.0	5.8	32.7	3.5	1.5	3.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	449.0	1336.0	222.0	843.0	116.0	23.0	62.0
(%)	3051	14.7	43.8	7.3	27.6	3.8	0.8	2.0

【フェイスシート】　F9. 年収

	総数	200万円未満	200万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	500万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上～1000万円未満	1000万円以上～1500万円未満	1500万円以上	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	38	104	174	197	223	373	323	298	60	202
(%)	1992	1.9	5.2	8.7	9.9	11.2	18.7	16.2	15.0	3.0	10.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	88	195	305	337	322	610	471	569	105	187
(%)	3189	2.8	6.1	9.6	10.6	10.1	19.1	14.8	17.8	3.3	5.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	42	144	273	277	297	605	466	555	121	129
(%)	2909	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	3051	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【フェイスシート】　F10. 夫婦の収入源の構成比 （1）公的年金

	該当者	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪今回調査(平成18年)≫	574	72	30	38	51	52	68	63	71	52	36	41	4.9
(%)	574	12.5	5.2	6.6	8.9	9.1	11.8	11.0	12.4	9.1	6.3	7.1	4.9
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　F10. 夫婦の収入源の構成比 （2）企業年金

	該当者	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪今回調査(平成18年)≫	574	182	117	119	74	49	24	5	3	0	1	0	1.7
(%)	574	31.7	20.4	20.7	12.9	8.5	4.2	0.9	0.5	0.0	0.2	0.0	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　F10. 夫婦の収入源の構成比 （3）給与

	該当者	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪今回調査(平成18年)≫	574	284	22	28	36	22	44	25	27	18	26	42	2.8
(%)	574	49.5	3.8	4.9	6.3	3.8	7.7	4.4	4.7	3.1	4.5	7.3	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　F10. 夫婦の収入源の構成比 （4）不動産収入・利息・配当金

	該当者	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪今回調査(平成18年)≫	574	490	37	21	10	8	5	2	1	0	0	0	0.3
(%)	574	85.4	6.4	3.7	1.7	1.4	0.9	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　F10. 夫婦の収入源の構成比 （5）その他

	該当者	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪今回調査(平成18年)≫	574	504	39	10	14	2	3	1	0	0	1	0	0.2
(%)	574	87.8	6.8	1.7	2.4	0.3	0.5	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
≪第3回調査(平成13年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第2回調査(平成8年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
(%)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−

【フェイスシート】　F11. 現在の経済的な暮らし向き

	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても苦しい	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1992	72	271	887	396	97	269
(%)	1992	3.6	13.6	44.5	19.9	4.9	13.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	202	1733	−	984	94	176
(%)	3189	6.3	54.3	−	30.9	2.9	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	−	−	−	−	−	−
(%)	2909	−	−	−	−	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	−	−	−	−	−	−
(%)	3051	−	−	−	−	−	−

調査についての自由回答

	総数	回答あり	回答なし
≪今回調査(平成18年)≫	1992	160	1832
(%)	1992	8.0	92.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	397	2792
(%)	3189	12.4	87.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	−	−
(%)	2909	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	−	−
(%)	3051	−	−

別の意見聴取に応じてもよい方

	総数	回答あり	回答なし
≪今回調査(平成18年)≫	1992	226	1766
(%)	1992	11.3	88.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3189	573	2616
(%)	3189	18.0	82.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2909	−	−
(%)	2909	−	−
≪第1回調査(平成3年)≫	3051	−	−
(%)	3051	−	−

【配偶者調査】

【配偶者調査】　問1．現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター（高齢者事業団）	無職	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	275	357	43	14	2	713	44	71
(%)	1519	18.1	23.5	2.8	0.9	0.1	46.9	2.9	4.7
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	358	597	113	57	5	1025	172	198
(%)	2525	14.2	23.6	4.5	2.3	0.2	40.6	6.8	7.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	386	543	99	75	12	889	239	187
(%)	2430	15.9	22.3	4.1	3.1	0.5	36.6	9.8	7.7
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	358	551	130	111	2	1353	－	68
(%)	2573	13.9	21.4	5.1	4.3	0.1	52.6	－	2.6

【配偶者調査】　※問1．現在の就業形態（退職後経過年数）

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均（年）＊0年含む
≪今回調査（平成18年）≫	713	147	124	106	56	232	5	43	16.1
(%)	713	20.6	17.4	14.9	7.9	32.5	0.7	6.0	16.1
≪第3回調査（平成13年）≫	1025	225	174	134	74	264	3	151	14.7
(%)	1025	22.0	17.0	13.1	7.2	25.8	0.3	14.7	14.7
≪第2回調査（平成8年）≫	889	178	136	133	62	237	5	138	15.0
(%)	889	20.0	15.3	15.0	7.0	26.7	0.6	15.5	15.0
≪第1回調査（平成3年）≫	1353	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1353	－	－	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問2．社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	216	215	195	846	47
(%)	1519	14.2	14.2	12.8	55.7	3.1
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	376	307	321	1261	260
(%)	2525	14.9	12.2	12.7	49.9	10.3
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	283	437	398	1360	95
(%)	2573	11.0	17.0	15.5	52.9	3.7

【配偶者調査】　問2付問1．社会活動参加分野

	該当数	地域の生活環境を守る活動	地域のイベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	431	147	124	96	118	21	19	70	34	29	5	37	1
(%)	431	34.1	28.8	22.3	27.4	4.9	4.4	16.2	7.9	6.7	1.2	8.6	0.2
≪第3回調査（平成13年）≫	683	212	149	166	105	27	61	160	41	31	26	48	5
(%)	683	31.0	21.8	24.3	15.4	4.0	8.9	23.4	6.0	4.5	3.8	7.0	0.7
≪第2回調査（平成8年）≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	720	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	720	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問2付問2．社会活動参加理由

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	431	211	93	63	141	89	120	11	77	4	30	7
(%)	431	49.0	21.6	14.6	32.7	20.6	27.8	2.6	17.9	0.9	7.0	1.6
≪第3回調査（平成13年）≫	683	353	168	121	201	164	145	12	123	6	48	4
(%)	683	51.7	24.6	17.7	29.4	24.0	21.2	1.8	18.0	0.9	7.0	0.6
≪第2回調査（平成8年）≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	720	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	720	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問2付問3．社会活動不参加理由

	該当数	時間がない	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあった活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がない、関心がない	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1041	502	93	213	184	13	188	75	303	184	58	27
(%)	1041	48.2	8.9	20.5	17.7	1.2	18.1	7.2	29.1	17.7	5.6	2.6
≪第3回調査（平成13年）≫	1582	718	112	283	320	22	278	144	445	183	91	51
(%)	1582	45.4	7.1	17.9	20.2	1.4	17.6	9.1	28.1	11.6	5.8	3.2
≪第2回調査（平成8年）≫	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	1758	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	1758	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問2付問4．社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1041	29	543	167	278	24
(%)	1041	2.8	52.2	16.0	26.7	2.3
≪第3回調査（平成13年）≫	1582	79	867	183	427	26
(%)	1582	5.0	54.8	11.6	27.0	1.6
≪第2回調査（平成8年）≫	－	－	－	－	－	－
(%)	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	1758	－	－	－	－	－
(%)	1758	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （1）健康

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	144	829	244	243	37	22
(%)	1519	9.5	54.6	16.1	16.0	2.4	1.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （2）時間的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	194	569	333	333	67	23
(%)	1519	12.8	37.5	21.9	21.9	4.4	1.5
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （3）経済的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	104	682	418	235	58	22
(%)	1519	6.8	44.9	27.5	15.5	3.8	1.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （4）精神的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	108	662	416	247	51	35
(%)	1519	7.1	43.6	27.4	16.3	3.4	2.3
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （5）家族の理解・愛情

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	347	840	226	64	11	31
(%)	1519	22.8	55.3	14.9	4.2	0.7	2.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （6）友人・仲間

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	240	844	290	106	13	26
(%)	1519	15.8	55.6	19.1	7.0	0.9	1.7
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （7）熱中できる趣味

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	198	541	387	279	87	27
(%)	1519	13.0	35.6	25.5	18.4	5.7	1.8
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （8）仕事のはりあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	84	482	573	141	121	118
(%)	1519	5.5	31.7	37.7	9.3	8.0	7.8
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （9）社会的地位

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	40	286	722	197	193	81
(%)	1519	2.6	18.8	47.5	13.0	12.7	5.3
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （10）自然とのふれあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	92	510	492	309	87	29
(%)	1519	6.1	33.6	32.4	20.3	5.7	1.9
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （11）近隣との交流

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	66	558	476	310	87	22
(%)	1519	4.3	36.7	31.3	20.4	5.7	1.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問3. 生活充足感 （12）社会の役に立つこと

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	31	272	623	397	157	39
(%)	1519	2.0	17.9	41.0	26.1	10.3	2.6
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問4. 生きがいの意味

	総数	生活の活力やはりあい	生活のリズムやメリハリ	心の安らぎや気晴らし	生きる喜びや満足感	人生観や価値観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	他人や社会の役に立っていると感じること	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	483	165	449	642	96	348	242	263	163	15	19
(%)	1519	31.8	10.9	29.6	42.3	6.3	22.9	15.9	17.3	10.7	1.0	1.3
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	657	242	673	1015	167	454	535	656	341	21	45
(%)	2525	26.0	9.6	26.7	40.2	6.6	18.0	21.2	26.0	13.5	0.8	1.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	632	212	686	949	149	438	503	632	381	12	40
(%)	2430	26.0	8.7	28.2	39.1	6.1	18.0	20.7	26.0	15.7	0.5	1.6
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	934	209	814	1079	155	434	679	－	413	7	49
(%)	2573	36.3	8.1	31.6	41.9	6.0	16.9	26.4	－	16.1	0.3	1.9

【配偶者調査】　問4付問. 生きがいの有無

	総数	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	893	112	146	334	34
(%)	1519	58.8	7.4	9.6	22.0	2.2
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1804	130	179	360	52
(%)	2525	71.4	5.1	7.1	14.3	2.1
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1982	107	96	206	39
(%)	2430	81.6	4.4	4.0	8.5	1.6
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	1670	203	344	285	71
(%)	2573	64.9	7.9	13.4	11.1	2.8

【配偶者調査】　問5. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人との交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままにすごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	256	576	148	53	80	230	432	864	391	221	201	235	13	18
(%)	1519	16.9	37.9	9.7	3.5	5.3	15.1	28.4	56.9	25.7	14.5	13.2	15.5	0.9	1.2
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	454	1066	227	135	130	467	748	1416	651	412	275	410	40	50
(%)	2525	18.0	42.2	9.0	5.3	5.1	18.5	29.6	56.1	25.8	16.3	10.9	16.2	1.6	2.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	442	950	171	96	144	377	589	1096	562	388	179	328	14	8
(%)	2430	18.2	39.1	7.0	4.0	5.9	15.5	24.2	45.1	23.1	16.0	7.4	13.5	0.6	0.3
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（1）生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	1187	357	125	372	71	76	15	32
(%)	1519	78.1	23.5	8.2	24.5	4.7	5.0	1.0	2.1
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1930	605	243	855	136	167	26	111
(%)	2525	76.4	24.0	9.6	33.9	5.4	6.6	1.0	4.4
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1872	620	235	695	134	129	10	106
(%)	2430	77.0	25.5	9.7	28.6	5.5	5.3	0.4	4.4
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	1959	678	313	671	143	152	18	106
(%)	2573	76.1	26.4	12.2	26.1	5.6	5.9	0.7	4.1

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（2）生活のどの場で、リズムやメリハリがつきますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	905	508	168	255	131	81	24	51
(%)	1519	59.6	33.4	11.1	16.8	8.6	5.3	1.6	3.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1404	849	299	563	215	183	43	186
(%)	2525	55.6	33.6	11.8	22.3	8.5	7.2	1.7	7.4
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1359	770	310	485	219	159	37	213
(%)	2430	55.9	31.7	12.8	20.0	9.0	6.5	1.5	8.8
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（3）心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	1162	48	78	633	48	177	21	32
(%)	1519	76.5	3.2	5.1	41.7	3.2	11.7	1.4	2.1
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1885	113	138	1234	65	286	27	140
(%)	2525	74.7	4.5	5.5	48.9	2.6	11.3	1.1	5.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1824	116	177	1029	98	225	20	138
(%)	2430	75.1	4.8	7.3	42.3	4.0	9.3	0.8	5.7
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	1959	164	242	1051	113	286	12	119
(%)	2573	76.1	6.4	9.4	40.8	4.4	11.1	0.5	4.6

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（4）どの場で喜びや満足感を感じることが多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	1152	252	109	352	64	152	27	46
(%)	1519	75.8	16.6	7.2	23.2	4.2	10.0	1.8	3.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1849	466	178	689	152	267	41	181
(%)	2525	73.2	18.5	7.0	27.3	6.0	10.6	1.6	7.2
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1786	440	199	546	137	229	29	195
(%)	2430	73.5	18.1	8.2	22.5	5.6	9.4	1.2	8.0
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	1791	513	253	495	143	232	55	226
(%)	2573	69.6	19.9	9.8	19.2	5.6	9.0	2.1	8.8

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（5）人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	815	279	114	502	291	133	32	50
(%)	1519	53.7	18.4	7.5	33.0	19.2	8.8	2.1	3.3
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1257	427	214	892	539	231	53	221
(%)	2525	49.8	16.9	8.5	35.3	21.3	9.1	2.1	8.8
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1175	386	264	864	469	185	59	202
(%)	2430	48.4	15.9	10.9	35.6	19.3	7.6	2.4	8.3
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	1089	440	326	854	629	197	55	217
(%)	2573	42.3	17.1	12.7	33.2	24.4	7.7	2.1	8.4

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（6）生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	1182	258	112	91	212	138	26	51
(%)	1519	77.8	17.0	7.4	6.0	14.0	9.1	1.7	3.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	1823	430	165	171	406	211	27	266
(%)	2525	72.2	17.0	6.5	6.8	16.1	8.4	1.1	10.5
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	1830	441	190	142	344	199	30	200
(%)	2430	75.3	18.1	7.8	5.8	14.2	8.2	1.2	8.2
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	1974	436	223	124	428	176	30	211
(%)	2573	76.7	16.9	8.7	4.8	16.6	6.8	1.2	8.2

【配偶者調査】　問6. 生きがい構成要素取得の場　（7）どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	587	499	218	253	350	138	53	42
(%)	1519	38.6	32.9	14.4	16.7	23.0	9.1	3.5	2.8
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	864	779	358	474	625	246	97	254
(%)	2525	34.2	30.9	14.2	18.8	24.8	9.7	3.8	10.1
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	797	720	423	478	612	221	61	226
(%)	2430	32.8	29.6	17.4	19.7	25.2	9.1	2.5	9.3
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	656	744	524	479	786	223	66	242
(%)	2573	25.5	28.9	20.4	18.6	30.5	8.7	2.6	9.4

【配偶者調査】　問6．生きがい構成要素取得の場　(8)可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	621	552	193	123	224	190	85	50
(%)	1519	40.9	36.3	12.7	8.1	14.7	12.5	5.6	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	1008	872	358	202	405	289	143	223
(%)	2525	39.9	34.5	14.2	8.0	16.0	11.4	5.7	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	970	830	415	152	378	289	131	219
(%)	2430	39.9	34.2	17.1	6.3	15.6	11.9	5.4	9.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	986	853	439	182	402	295	178	237
(%)	2573	38.3	33.2	17.1	7.1	15.6	11.5	6.9	9.2

【配偶者調査】　問6．生きがい構成要素取得の場　(9)役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	884	515	230	168	140	105	63	37
(%)	1519	58.2	33.9	15.1	11.1	9.2	6.9	4.1	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	1564	795	401	306	214	175	104	152
(%)	2525	61.9	31.5	15.9	12.1	8.5	6.9	4.1	6.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	1511	760	423	218	218	149	93	165
(%)	2430	62.2	31.3	17.4	9.0	9.0	6.1	3.8	6.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	1460	813	487	270	236	147	121	186
(%)	2573	56.7	31.6	18.9	10.5	9.2	5.7	4.7	7.2

【配偶者調査】　問7．(1)配偶者は自分のことを応援してくれる

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	532	762	174	27	24
(%)	1519	35.0	50.2	11.5	1.8	1.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問7．(2)自分は配偶者の良き理解者である

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	445	802	219	27	26
(%)	1519	29.3	52.8	14.4	1.8	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	631	1271	508	50	65
(%)	2525	25.0	50.3	20.1	2.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	675	1294	381	23	57
(%)	2430	27.8	53.3	15.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	843	1257	359	30	84
(%)	2573	32.8	48.9	14.0	1.2	3.3

【配偶者調査】　問7．(3)配偶者と価値観・考え方が似ている

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	204	631	531	118	35
(%)	1519	13.4	41.5	35.0	7.8	2.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	312	1018	895	231	69
(%)	2525	12.4	40.3	35.4	9.1	2.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	303	1033	849	174	71
(%)	2430	12.5	42.5	34.9	7.2	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問7．(4)よく一緒に出かける

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	442	598	376	75	28
(%)	1519	29.1	39.4	24.8	4.9	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	822	914	605	114	70
(%)	2525	32.6	36.2	24.0	4.5	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	747	945	587	77	74
(%)	2430	30.7	38.9	24.2	3.2	3.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	815	870	686	103	99
(%)	2573	31.7	33.8	26.7	4.0	3.8

【配偶者調査】　問7．(5)会話がある

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	439	756	261	32	31
(%)	1519	28.9	49.8	17.2	2.1	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	701	1212	479	69	64
(%)	2525	27.8	48.0	19.0	2.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	721	1169	433	37	70
(%)	2430	29.7	48.1	17.8	1.5	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	758	1162	513	42	98
(%)	2573	29.5	45.2	19.9	1.6	3.8

【配偶者調査】　問7．(6)配偶者は自分を自由にさせてくれる

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	559	778	138	18	26
(%)	1519	36.8	51.2	9.1	1.2	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問7．(7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	非該当	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	85	192	370	534	287	51
(%)	1519	5.6	12.6	24.4	35.2	18.9	3.4
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問7．(8)配偶者は金銭的にうるさい

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	66	189	812	422	30
(%)	1519	4.3	12.4	53.5	27.8	2.0
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問7．(9)配偶者は自分によりかかりすぎる

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	51	240	819	384	25
(%)	1519	3.4	15.8	53.9	25.3	1.6
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	166	538	1393	353	75
(%)	2525	6.6	21.3	55.2	14.0	3.0
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	177	591	1375	328	102
(%)	2573	6.9	23.0	53.4	12.7	4.0

【配偶者調査】　問7．(10)配偶者にもっと家事をして欲しい

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	1519	134	469	635	253	28
(%)	1519	8.8	30.9	41.8	16.7	1.8
≪第3回調査（平成13年）≫	2525	－	－	－	－	－
(%)	2525	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	2430	－	－	－	－	－
(%)	2430	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	2573	－	－	－	－	－
(%)	2573	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問8．(1)子育てはうまくいっている、うまくいった

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうではない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	985	173	559	150	7	96
(%)	985	17.6	56.8	15.2	0.7	9.7
≪第3回調査（平成13年）≫	1633	－	－	－	－	－
(%)	1633	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	1619	－	－	－	－	－
(%)	1619	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	1717	－	－	－	－	－
(%)	1717	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問8．(2)子どもが幼いころによく世話をした、よく世話をしている。

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうではない	まったく違う	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	985	415	389	78	5	98
(%)	985	42.1	39.5	7.9	0.5	9.9
≪第3回調査（平成13年）≫	1633	－	－	－	－	－
(%)	1633	－	－	－	－	－
≪第2回調査（平成8年）≫	1619	－	－	－	－	－
(%)	1619	－	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	1717	－	－	－	－	－
(%)	1717	－	－	－	－	－

【配偶者調査】　問9(1)．定年後の生活設計と夫婦の話し合い(OB)

	該当数	よくあった	たまにあった	まったくなかった	無回答
≪今回調査（平成18年）≫	507	78	285	101	43
(%)	507	15.4	56.2	19.9	8.5
≪第3回調査（平成13年）≫	1012	158	597	170	87
(%)	1012	15.6	59.0	16.8	8.6
≪第2回調査（平成8年）≫	891	－	－	－	－
(%)	891	－	－	－	－
≪第1回調査（平成3年）≫	893	203	452	109	129
(%)	893	22.7	50.6	12.2	14.4

【配偶者調査】　問9(2). 配偶者の定年後の生活問題(OB)

	該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	その他の家族の入院や死	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	親との新たな同居	生活のはりあいや生きがいがなくなった	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減って困った	世の中の情報化の進展についていけず困った	社会から取り残されてしまった
≪今回調査(平成18年)≫	507	146	17	214	90	0	65	20	13	12	42	19	33	39	9
(%)	507	28.8	3.4	42.2	17.8	0.0	12.8	3.9	2.6	2.4	8.3	3.7	6.5	7.7	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	1012	240	29	376	118	15	−	59	24	−	90	56	73	22	11
(%)	1012	23.7	2.9	37.2	11.7	1.5	−	5.8	2.4	−	8.9	5.5	7.2	2.2	1.1
≪第2回調査(平成8年)≫	891	205	22	290	66	−	−	42	21	−	47	54	58	19	8
(%)	891	23.0	2.5	32.5	7.4	−	−	4.7	2.4	−	5.3	6.1	6.5	2.1	0.9
≪第1回調査(平成3年)≫	893	180	27	314	−	−	−	55	18	−	47	70	79	−	16
(%)	893	20.2	3.0	35.2	−	−	−	6.2	2.0	−	5.3	7.8	8.8	−	1.8

	該当数	時間をもてあました	地域社会にとけこめなかった	その他	特に問題はなかった	無回答
≪今回調査(平成18年)≫		61	24	5	113	45
(%)		12.0	4.7	1.0	22.3	8.9
≪第3回調査(平成13年)≫		126	54	14	311	77
(%)		12.5	5.3	1.4	30.7	7.6
≪第2回調査(平成8年)≫		114	36	7	243	161
(%)		12.8	4.0	0.8	27.3	18.1
≪第1回調査(平成3年)≫		94	37	10	283	120
(%)		10.5	4.1	1.1	31.7	13.4

【配偶者調査】　問10. 性別・年齢(性別)

	総数	男	女	無回答
≪今回調査(平成18年)≫	1519	224	1286	9
(%)	1519	14.7	84.7	0.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	333	2145	47
(%)	2525	13.2	85.0	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	241	2145	44
(%)	2430	9.9	88.3	1.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	271	2299	3
(%)	2573	10.5	89.4	0.1

【配偶者調査】　問11. 性別・年齢(年齢)

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪今回調査(平成18年)≫	1519	82	150	192	187	204	251	215	156	56	14	12	52.3
(%)	1519	5.4	9.9	12.6	12.3	13.4	16.5	14.2	10.3	3.7	0.9	0.8	52.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2525	104	238	275	292	391	370	411	259	102	22	61	53.0
(%)	2525	4.1	9.4	10.9	11.6	15.5	14.7	16.3	10.3	4.0	0.9	2.4	53.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2430	115	219	268	348	327	396	384	256	73	14	30	52.6
(%)	2430	4.7	9.0	11.0	14.3	13.5	16.3	15.8	10.5	3.0	0.6	1.2	52.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2573	103	261	375	319	372	397	390	249	56	7	44	51.8
(%)	2573	4.0	10.1	14.6	12.4	14.5	15.4	15.2	9.7	2.2	0.3	1.7	51.8

Ⅲ. 調査票質問項目一覧表

本人調査

今回調査			第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)		回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問1 現在の就業形態		1 正規の社員・従業員 2 派遣・嘱託・パートタイマーなど 3 自営業・自由業・家族従業員 4 内職 5 シルバー人材センター(高齢者事業団) 6 無職 ⇒ (最後に職を離れてから＿＿＿年) 7 その他	F12	1 2 3 4 5 6 7	問21	1 2 3 4 5 6 7	問22	1 2 3 4 5 6
問2 現在の職種等	(1)現在の職種	1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他	F13 (1)	1 2 3 4 5 6 7	問22 (1)	1 2 3 4 5 6 7	問23 (1)	1 2 3 4 5 6 7
	(2)勤務先の従業員数	1 1～29人 2 30～99人 3 100～299人 4 300～999人 5 1000人以上	(2)	1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5
	(3)現在の1週間の勤務日数	現在の1週間の勤務日数を実数で記入。	(3)	同左	(3)	同左	(3)	同左
	(4)現在の1日の勤務時間	現在の1日の勤務時間を実数で記入。	(4)	同左	(4)	同左	(4)	同左
問3 現在の就業状況についての満足度	(1)仕事の内容 (2)就業形態 (3)職場での地位の高さ (4)賃金 (5)業績評価の公平さ (6)福利厚生 (7)職場の人間関係・雰囲気 (8)全体として	1 とても満足している 2 やや満足している 3 どちらともいえない 4 やや不満である 5 とても不満である	問23 (1) 付問 (2) (3) (4) (5) (6) (7)	同左	問22 (1) (5) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	同左		
問4 自由時間の有無		1 十分にある 2 まあまあ 3 不十分である 4 まったくない	問5	1 2 3 4	問4	1 2 3 4	問4	1 2 3 4
付問	自由時間の過ごし方	1 仕事仲間とのプライベートなつきあい 2 仕事に関する勉強や残務整理 3 テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など 4 ひとりで趣味・スポーツ・学習など 5 仲間と趣味・スポーツなど 6 パソコン通信やインターネットなど 7 個人的な友人・仲間とのつきあい 8 行楽・ドライブなど 9 庭いじりや家事など家庭内のこと 10 家庭との団らんや家庭サービス 11 近隣の人とのつきあいや地域の用事 12 その他 13 特に何もしない	付問	1 2 3 5 6 7 8 9 10 11 12 15 16	付問	1 2 3 5 6 7 8 9 10 11 12 15 16	付問	1 2 3 5 6 7 8 9 10 11 14 15
問5 社会活動参加状況		1 定期的に参加している 2 ときどき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない	問3	1 2 3 4			問15	1 2 3 4
付問1	社会活動参加分野	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや"村おこし"の活動 3 趣味・ｽﾎﾟｰﾂや学習ｸﾞﾙｰﾌﾟのﾘｰﾀﾞｰとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11			付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
付問2	社会活動参加理由	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勧めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10			付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
付問3	社会活動不参加理由	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味がない、関心がない 10 その他	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10			付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
付問4	社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない	付問4	1 2 3 4			付問4	1 2 3 4
問6 生活充足感	(1)健康 (2)時間的ゆとり (3)経済的ゆとり (4)精神的ゆとり (5)家族の理解・愛情 (6)友人・仲間 (7)熱中できる趣味 (8)仕事のはりあい (9)社会的地位 (10)自然とのふれあい (11)近隣との交流 (12)社会の役に立つこと	1 十分に満たされている 2 まあ満たされている 3 どちらともいえない 4 やや欠けている 5 まったく欠けている	問4 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	同左	問3 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	同左	問2 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	同左
問7 性格	(1)人との関係やつながりを大切にする (2)自分の世界や個性を大切にする (3)いつも目標に向かってつき進む (4)無理をせずマイペースで進む (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている (6)自分には他人にない優れたところがある (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする (8)一つのことにじっくり取り組む (9)指導者的立場に立とうとする (10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く (12)上下の立場や関係を尊重する (13)どんなところでも結構楽しみを見出す	1 よくあてはまる 2 少しあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない	問8 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	同左	問7 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	同左	問18 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11)	同左

今回調査				第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容（略記）			回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問8　生きがいの意味			1　生活の活力やはりあい 2　生活のリズムやメリハリ 3　心の安らぎや気晴らし 4　生きる喜びや満足感 5　人生観や価値観の形成 6　生きる目標や目的 7　自分自身の向上 8　自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じ… 9　他人や社会の役に立っていると感じること 10　その他	問9	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問11	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問11	1 2 6 3 8 4 5 7 9
	付問	生きがいの有無	1　持っている 2　前は持っていたが、今は持っていない 3　持っていない 4　わからない	付問	1 2 3 4	付問	1 2 3 4	付問	1 2 3 4
問9　生きがいの内容			1　仕事 2　趣味 3　スポーツ 4　学習活動 5　社会活動 6　自然とのふれあい 7　配偶者・結婚生活 8　子ども・孫・親などの家族・家庭 9　友人など家族以外の人との交流 10　自分自身の健康づくり 11　ひとりで気ままにすごすこと 12　自分自身の内面の充実 13　その他	問10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問12	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13		
問10 生きがい構成要素取得の場	（1）生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは （2）生活のどの場でリズムやメリハリがつきますか （3）心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ… （4）生活のどの場で喜びや満足感を感じる… （5）あなたの人生観や価値観に影響を与えている… （6）生活の目標や目的はどこにあると感じますか （7）どの場での生活が自分自身を向上させている… （8）自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた… （9）自分が役に立っていると感じたり、評価を得て…	1　家庭 2　仕事・会社 3　地域・近隣 4　個人的友人 5　世間・社会 6　その他 7　どこにもない	問6　（1） （2） （3） （4） （5） （6） （7） （8） （9）	同左	問5　（1） （2） （3） （4） （5） （6） （7） （8） （9）	同左	問10　（1） （2） （3） （4） （5） （6） （7） （9） （10）	同左
問11 夫婦関係の現状	（1）配偶者は自分のことを応援してくれる （2）自分は配偶者のよき理解者である （3）配偶者と価値観・考え方が似ている （4）よく一緒に出かける （5）会話がある （6）配偶者は自分を自由にさせてくれる （7）配偶者は自分の親を大切にしてくれない （8）配偶者は金銭的にうるさい （9）配偶者は自分によりかかりすぎる （10）配偶者にもっと家事をして欲しい	1　まったくそのとおり 2　まあそのとおり 3　あまりそうでない 4　まったく違う 5　非該当（(7)のみ）	問13 （2） （4） （7） （6） （10）	同左	問9 （2） （4） （7） （6）	同左	問21 （2） （5） （4） （8）	同左
問12 子どもとの関係について	（1）子育てはうまくいっている、うまくいった （2）子どもが幼いころによく世話をした、よく世話を…	1　まったくそのとおり 2　まあそのとおり 3　あまりそうでない 4　まったく違う							
問13 定年経験の有無、定年・退職年齢		1　まだ定年前⇒定年は（　　）才 2　定年前に退職した⇒退職は（　　）才のとき 3　定年退職した⇒定年は（　　）才のとき	問19	1 2 3	問23	1 2 3	問24	1 2 3
問14 定年前（現役）の方対する質問	（1）定年後の経済基盤として重視するもの	1　公的年金 2　企業年金 3　退職金 4　生命保険の保険金や個人年金 5　預貯金の取りくずし 6　就労による収入 7　子ども等からの経済的支援 8　その他 9　わからない・考えたことがない	問20　（2）	1 2 3 4 5 6 7 8 9	問24　（2）	1 2 3 4 5 6 7 8 9		
	（2）定年までの勤務希望	1　定年まで勤めたい 2　定年前に退職したい　⇒　（あと　　年くらいで）	（5）	1 2	（5）	1 2	問25　（4）	1 2
	（3）退職後の就業希望	1　退職とともに職業生活から引退したい 2　できれば仕事を継続したい（a.満額年金受給時… 3　定年後も出向や再雇用制度等を利用して… 4　退職後は別の企業に再就職したい 5　退職後は自分で事業や商売を始めたい（自… 6　退職後は家業を手伝いたい 7　退職後はシルバー人材センターなどで簡単な… 8　その他 9　わからない・考えたことがない	（6）	1 2・3 4 5 6 7 8 9	（6）	1 2・3 4 5 6 7 8 9	（5）	1 2・3 4 5 6 7 8 9
	（4）過去5年間に経験したライフイベント	1　子どもや孫の誕生 2　子どもの成人・就職 3　子どもや孫との別居 4　子どもの結婚 5　自分自身の入院 6　配偶者の入院 7　その他の家族の入院 8　配偶者の死 9　その他の家族の死 10　昇進・昇格 11　出向・転籍 12　災害等による資産の減少・経済的困難 13　自宅の購入・建て替え 14　親の介護 15　親との新たな同居 16　いずれもない	F9	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	F10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14		
問15 定年退職または定年前退職を経験した方（OB）に対する質問	（1）退職前の職種	1　専門技術職（研究職・技師等） 2　管理職（役員・課長以上の管理職） 3　事務職（一般事務・営業・経理事務等） 4　販売職（店員・セールス等） 5　技能職 6　サービス職（添乗員・ホテルマン等） 7　その他	問21　（1）	1 2 3 4 5 6 7	問25　（1）	1 2 3 4 5 6 7	問26　（1）	1 2 3 4 5 6 7
	（2）退職前の勤務先の企業規模	1　1～29人 2　30～99人 3　100～299人 4　300～999人 5　1000人以上	（2）	1 2 3 4 5	（2）	1 2 3 4 5	（2）	1 2 3 4 5
	（3）退職後の就業の有無	1　退職とともに職業生活から引退した 2　退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた 3　退職後は出向先に移籍した 4　退職後は別の企業に再就職した 5　退職後は自分で事業や商売を始めた（自由… 6　退職後は家業を手伝うようになった 7　退職後はシルバー人材センターで仕事するよ… 8　その他	（4）	1 2 3 4 5 6 7 8	（4）	1 2 3 4 5 6 7 8	（3）	1 2 3 4 5 6 7 8

今回調査				第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容(略記)			回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
	(4)定年後の生活問題		1 経済的に苦しくなった	(8)	1	(8)	1	(6)	1
			2 住宅問題で困った		2		2		2
			3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた		3		3		3
			4 配偶者や親の介護が必要になった		4		4		
			5 配偶者に先立たれた		5		5		4
			6 その他の家族の入院や死						
			7 再就職のことで困った		6		6		5
			8 家族との人間関係が悪くなった		7		7		6
			9 親との新たな同居						
			10 生活のはりや生きがいがなくなった		8		8		7
			11 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした		9		9		8
			12 今までの人的交流や情報量が減って困った		10		10		9
			13 世の中の情報化の進展についていけず困った		11		11		
			14 社会から取り残されてしまった		12		12		10
			15 時間をもてあました		13		13		11
			16 地域社会にとけこめなかった		14		14		12
			17 その他		15		15		13
			18 特に問題はなかった		16		16		14
問16 定年退職に向けて必要な対応	(1)個人的対応		1 健康の維持・増進を心がける	問22 (1)	1	問27 (1)	1	問27 (1)	1
			2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる		2		2		2
			3 生涯楽しめる趣味などを持つ		3		3		3
			4 定年後も活かせる専門的技術を身につける		4		4		4
			5 夫婦・家族の関係を大切にする		5		5		5
			6 友人や仲間との交流を深める		6		6		6
			7 近隣や地域の人との交流を深める		7		7		7
			8 会社以外の活動の場をつくっておく		8		8		8
			9 その他		9		9		9
			10 特に何も必要ない		10		10		10
		付問 実際に準備している(した)こと	1 健康の維持・増進を心がける	付問	1	付問	1	付問	1
			2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる		2		2		2
			3 生涯楽しめる趣味などを持つ		3		3		3
			4 定年後も活かせる専門的技術を身につける		4		4		4
			5 夫婦・家族の関係を大切にする		5		5		5
			6 友人や仲間との交流を深める		6		6		6
			7 近隣や地域の人との交流を深める		7		7		7
			8 会社以外の活動の場をつくっておく		8		8		8
			9 その他		9		9		9
			10 特に何も必要ない		10		10		10
	(2)企業の対応		1 退職準備教育や退職相談を充実させる	(2)	1	(2)	1	(2)	1
			2 企業年金の充実や持家取得の援助など…		2		2		2
			3 労働時間短縮などで、社員の個人的生活に…		3		3		3
			4 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる		4		4		4
			5 希望者には定年年齢を延長させる		5		5		5
			6 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する		6		6		6
			7 ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動…		7		7		7
			8 定年前の"ならし運転"のための休暇制度を設ける		8		8		8
			9 退職に向けたセミナーの充実						
			10 その他		9		9		9
			11 特に何も必要ない		10		10		10
	(3)社会的対応		1 できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用…	(3)	1	(3)	1	(3)	1
			2 定年退職者の能力を活かす場を増やす		2		2		2
			3 サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の…		3		3		3
			4 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を…		4		4		4
			5 中高年者の能力再開発の研修機会や施設…		5		5		5
			6 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に…		6		6		6
			7 その他		7		7		7
			8 特に何も必要ない		8		8		8
	(4)自由記述欄		定年退職・定年後の生活に関する意見・提案を自由に記述。	(4)	同左	(4)	同左	(4)	同左
フェイスシート項目									
F1 性別・年齢	性別		1 男	F1 同左	1	F1 同左	1	F1 同左	1
			2 女		2		2		2
	年齢		年齢を実数で記入	同左	同左	同左	同左	同左	同左
F2 未既婚			1 未婚	F5	1	F5	1	F5	1
			2 既婚(配偶者あり)		2		2		2
			3 既婚(離別)		3		3		3
			4 既婚(死別)		4		4		4
F3 世帯構成			1 ひとり暮らし	F6	1	F6	1	F6	1
			2 自分たち夫婦だけ		2		2		2
			3 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子		3		3		3
			4 自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほ…		4		4		4
			5 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や…		5		5		5
			6 その他		6		6		6
F4 子どもの有無	(1)子どもがいる (2)子どもはいない		子どもの人数 ( )人 ・第一子( )歳 ・末子 ( )歳						
		付問 ①子どもの就業形態	1 正規従業員 ( )人						
			2 派遣社員・スタッフなど ( )人						
			3 未就業(学生は除く) ( )人						
			4 学生 ( )人						
		②子どもの結婚状況	1 有配偶 ( )人						
			2 無配偶 ( )人						
F5 居住地	都道府県		都道府県名を記入	F2 同左	同左	F2 同左	同左	F2 同左	同左
	市区町村		市区町村名を記入	同左	同左	同左	同左	同左	同左
F6 居住年数			1 5年未満	F3	1	F3	1	F3	1
			2 5年以上～10年未満		2		2		2
			3 10年以上～20年未満		3		3		3
			4 20年以上～30年未満		4		4		4
			5 30年以上		5		5		5
F7 住居形態			1 持ち家(一戸建て)	F7	1	F8	1	F7	1
			2 持ち家(分譲マンション等)		2		2		2
			3 社宅・会社の寮		3		3		3
			4 公社・公団・公営の賃貸住宅		4		4		4
			5 民間の借家・マンション・アパート		5		5		5
			6 その他		6		6		6
	付問	住宅ローンの有無	1 払っている(残りはあと ＿＿＿年)	付問	1			付問	1
			2 払っていない		2				2
F8 最終学歴			1 小学校・高等小学校・新制中学校	F4	1	F4	1	F4	1
			2 旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校…		2		2		2
			3 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大		3		3		3
			4 大学・大学院		4		4		4
			5 専門学校・専修学校		5		5		5
			6 その他		6		6		6
F9 世帯年収			1 200万円未満	F10	1	F11	1		
			2 200万円以上～300万円未満		2		2		
			3 300万円以上～400万円未満		3		3		
			4 400万円以上～500万円未満		4		4		
			5 500万円以上～600万円未満		5		5		
			6 600万円以上～800万円未満		6		6		
			7 800万円以上～1000万円未満		7		7		
			8 1000万円以上～1500万円未満		8		8		
			9 1500万円以上		9		9		
F10 主な収入源			1 公的年金 ( )割	F10付問1	2				
			2 企業年金 ( )割		2				
			3 給与 ( )割		1				
			4 不動産収入・利息・配当金 ( )割		3・4				
			5 その他 ( )割		5				

今回調査		第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容（略記）	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
F11　現在の経済的な暮らし向き	1　とても楽だ 2　少し楽だ 3　普通 4　少し苦しい 5　とても苦しい	F11	1 2 3 4				
調査全体についての感想・意見（自由記述）	調査全体についての感想・意見を自由に記入。	同左	同左	同左	同左	同左	同左
別の意見聴取に応じてもよい方	別の意見聴取に応じてもよい方は氏名・住所・電話番…	同左	同左	同左	同左	同左	同左

配偶者調査

今回調査				第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容（略記）			回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問1	現在の就業形態		1 正規の社員・従業員 2 派遣・嘱託・パートタイマーなど 3 自営業・自由業・家族従業員 4 内職 5 シルバー人材センター（高齢者事業団） 6 無職　⇒（最後に職を離れてから＿＿＿年） 7 その他	問15	1 2 3 4 5 6 7	問12	1 2 3 4 5 6 7	問14	1 2 3 4 5 6
問2	社会活動参加状況		1 定期的に参加している 2 ときどき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない	問3	1 2 3 4			問7	1 2 3 4
	付問1	社会活動参加分野	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・ｽﾎﾟｰﾂや学習ｸﾞﾙｰﾌﾟのﾘｰﾀﾞｰとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11				
	付問2	社会活動参加理由	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勧めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
	付問3	社会活動不参加理由	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きかけがつかめない 9 興味がない、関心がない 10 その他	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
	付問4	社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない	付問4	1 2 3 4				
問3	生活充足感	（1）健康 （2）時間的ゆとり （3）経済的ゆとり （4）精神的ゆとり （5）家族の理解・愛情 （6）友人・仲間 （7）熟中できる趣味 （8）仕事のはりあい （9）社会的地位 （10）自然とのふれあい （11）近隣との交流 （12）社会の役に立つこと	1 十分に満たされている 2 まあ満たされている 3 どちらともいえない 4 やや欠けている 5 まったく欠けている						
問4	生きがいの意味		1 生活の活力やはりあい 2 生活のリズムやメリハリ 3 心の安らぎや気晴らし 4 生きる喜びや満足感 5 人生観や価値観の形成 6 生きる目標や目的 7 自分自身の向上 8 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと… 9 他人や社会の役に立っていると感じること 10 その他	問5	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問6	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問9	1 2 6 3 8 4 5 7 9
	付問	生きがいの有無	1 持っている 2 前は持っていたが、今は持っていない 3 持っていない 4 わからない	付問	1 2 3 4	付問	1 2 3 4	付問	1 2 3 4
問5	生きがいの内容		1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人との交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままにすごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問6	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問7	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13		
問6	生きがい構成要素取得の場	（1）生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは… （2）生活のどの場でリズムやメリハリがつきますか （3）心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ… （4）生活のどの場で喜びや満足感を感じる… （5）あなたの人生観や価値観に影響を与えている… （6）生活の目標や目的はどこにあると感じますか （7）どの場での生活が自分自身を向上させている… （8）自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた… （9）自分が役に立っていると感じたり、評価を得て…	1 家庭 2 仕事・会社 3 地域・近隣 4 個人的友人 5 世間・社会 6 その他 7 どこにもない	問4 （1） （2） （3） （4） （5） （6） （7） （8） （9） 同左	問5 （1） （2） （3） （4） （5） （6） （7） （8） （9） 同左	問4 （1） （2） （3） （4） （6） （7） （9） （10） 同左	
問7	夫婦関係の現状	（1）配偶者は自分のことを応援してくれる （2）自分は配偶者の良き理解者である （3）配偶者と価値観・考え方が似ている （4）よく一緒に出かける （5）会話がある （6）配偶者は自分を自由にさせてくれる （7）配偶者は自分の親を大切にしてくれない （8）配偶者は金銭的にうるさい （9）配偶者は私によりかかりすぎる （10）配偶者にもっと家事をして欲しい	1 まったくそのとおり 2 まあそのとおり 3 あまりそうでない 4 まったく違う 5 非該当（(7)のみ）	問7 （2） （4） （7） （6） （10） 同左	問3 （2） （4） （7） （6） 同左	問10 （2） （5） （4） （8） 同左	

今回調査				第3回調査		第2回調査		第1回調査	
質問番号・質問内容（略記）		回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問8 子どもとの関係について	（1）子育てはうまくいっている、うまくいった （2）子どもが幼いころによく世話をした、よく世話を…	1 2 3 4	まったくそのとおり まあそのとおり あまりそうでない まったく違う						
問9 配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した方に対する質問	（1）定年後の生活設計に関する夫婦の話し合い	1 2 3	よくあった たまにあった まったくなかった	問13 （1）	1 2 3			問12 （1）	1 2 3
	（2）配偶者の定年後の生活問題	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	経済的に苦しくなった 住宅問題で困った 自分や配偶者の健康や体力が衰えた 配偶者や親の介護が必要になった 配偶者に先立たれた その他の家族の入院や死 再就職のことで困った 家族との人間関係が悪くなった 親との新たな同居 生活のはりや生きがいがなくなった 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした 今までの人的交流や情報量が減って困った 世の中の情報化の進展についていけず困った 社会から取り残されてしまった 時間をもてあました 地域社会にとけこめなかった その他 特に問題はなかった	（2）	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	問10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	（2）	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
問10 性別		1 2	男性 女性	問14	1 2	問11	1 2	問13	1 2
問11 年齢		年齢を実数で記入		問14	同左	問11	同左	問13	同左